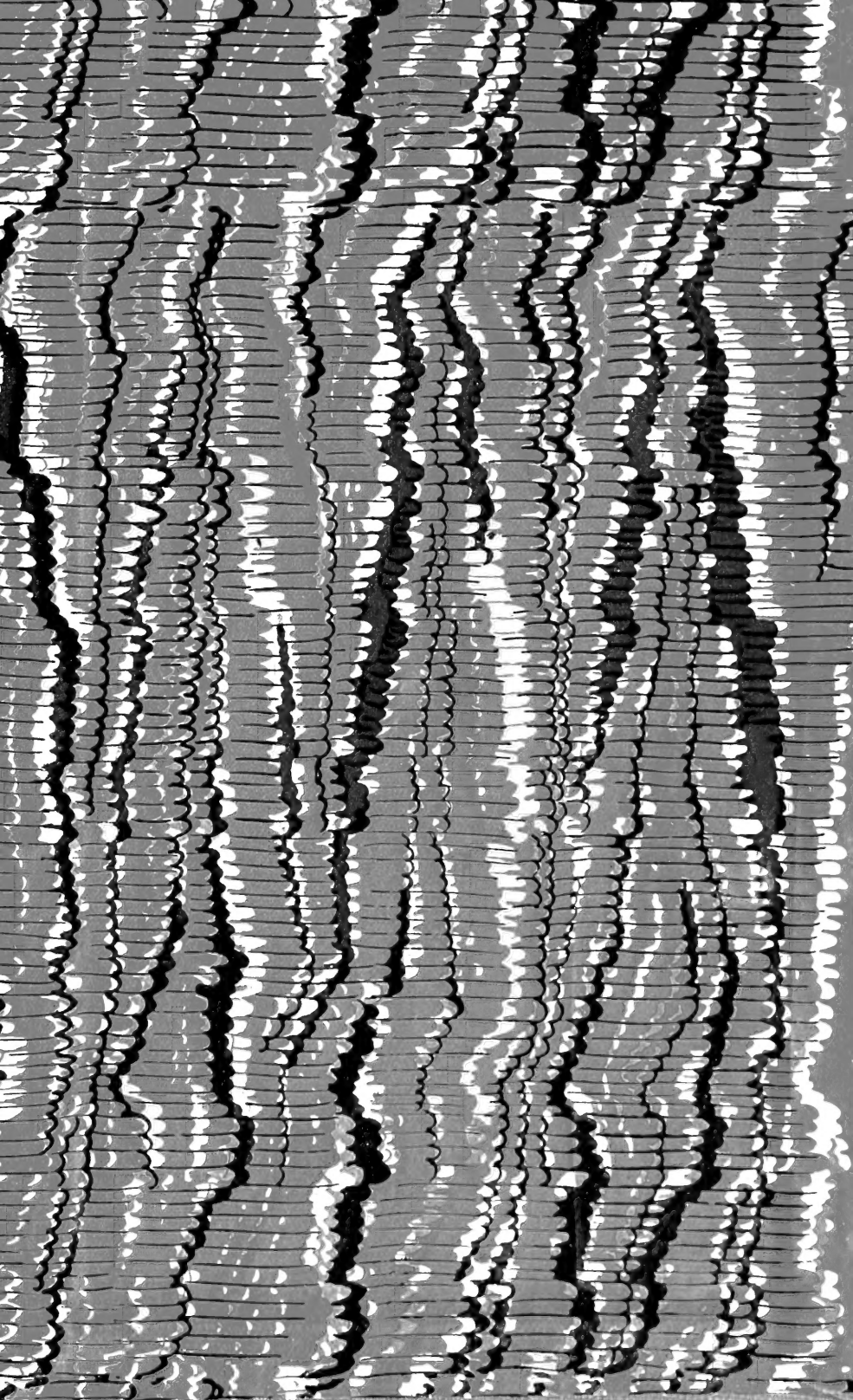
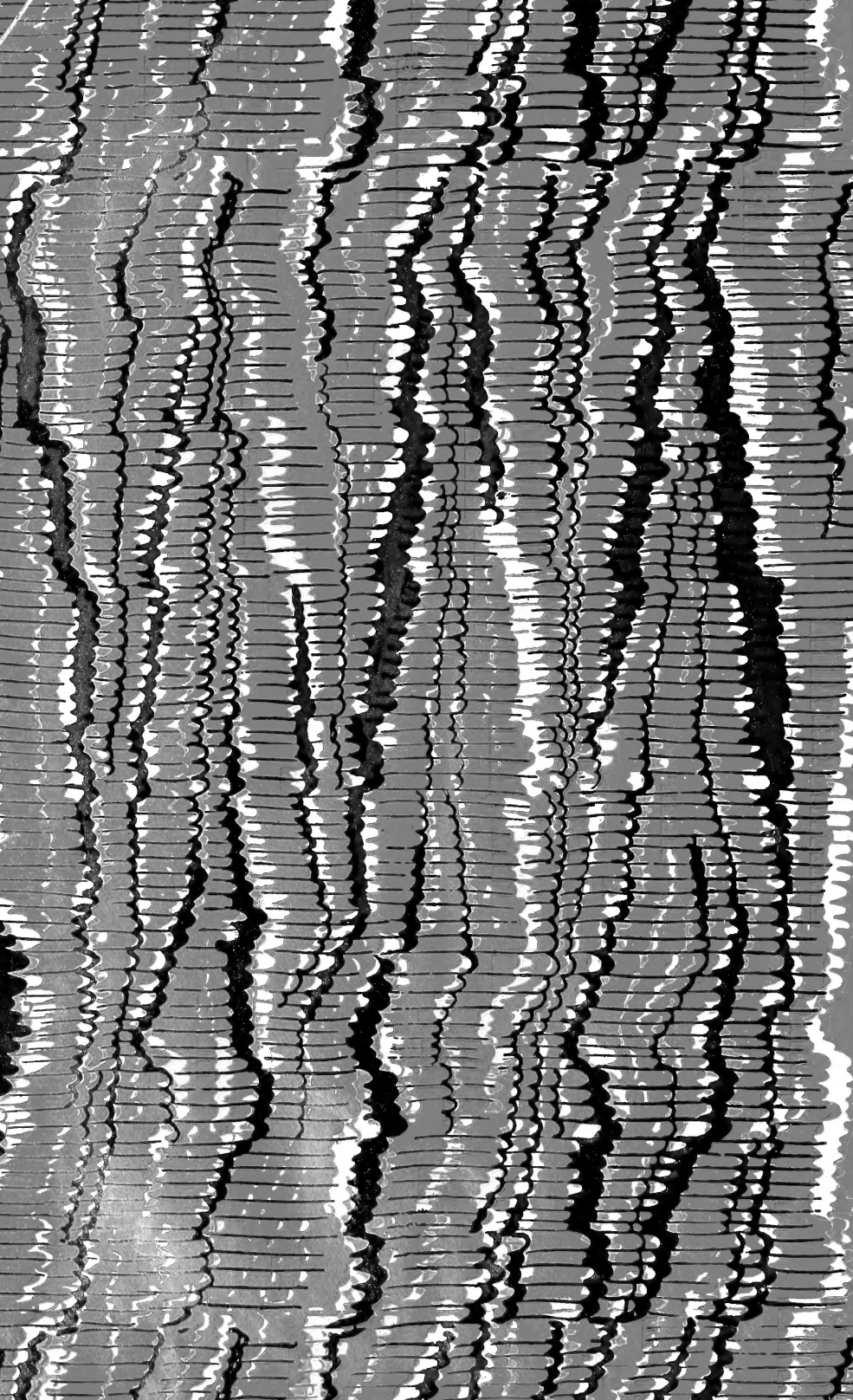


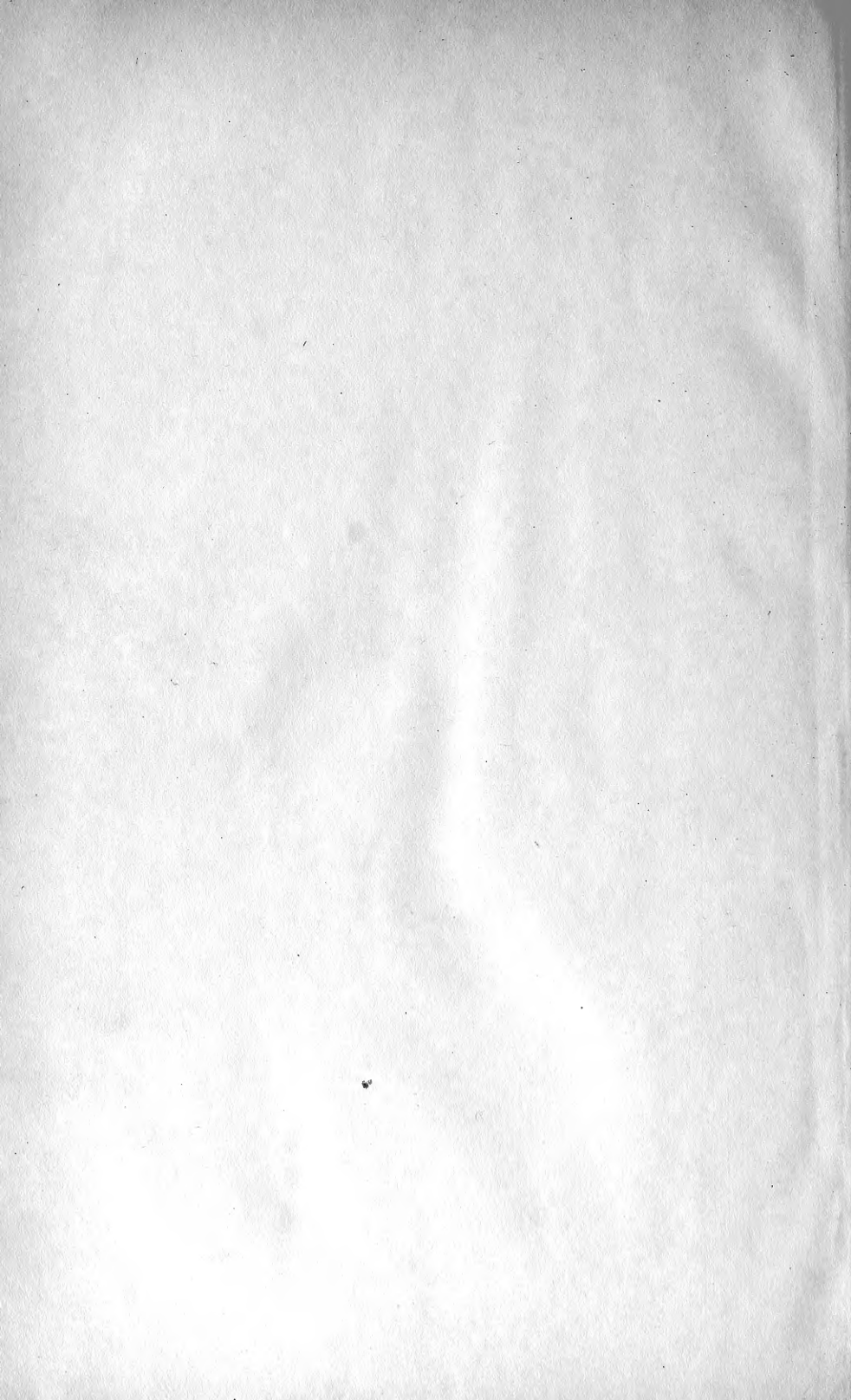
SMITHSONIAN INSTITUTION LIBRARIES

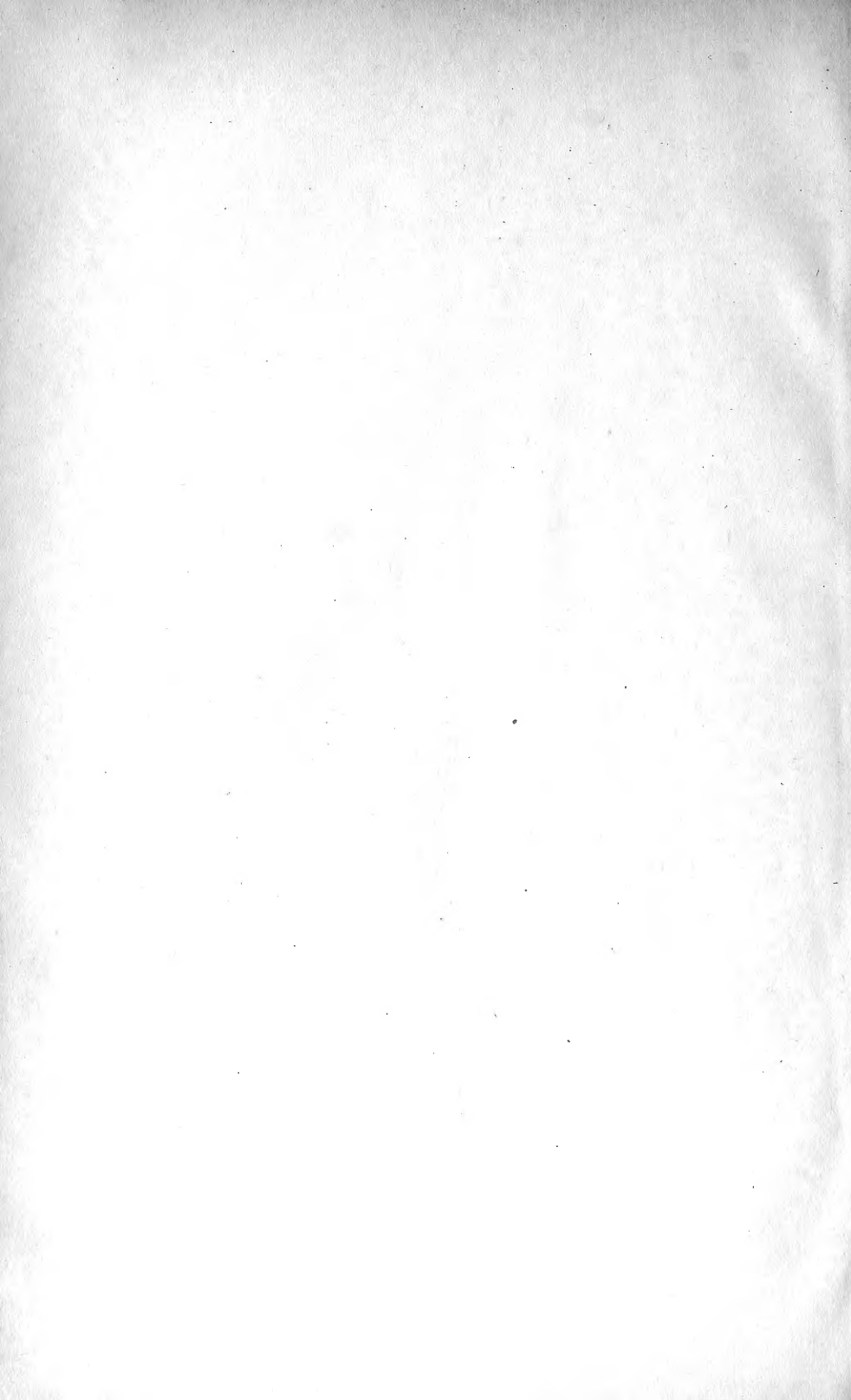


3 9088 00987 1229









Tori, Tokyo

鳥

vol. 1 no. 1.

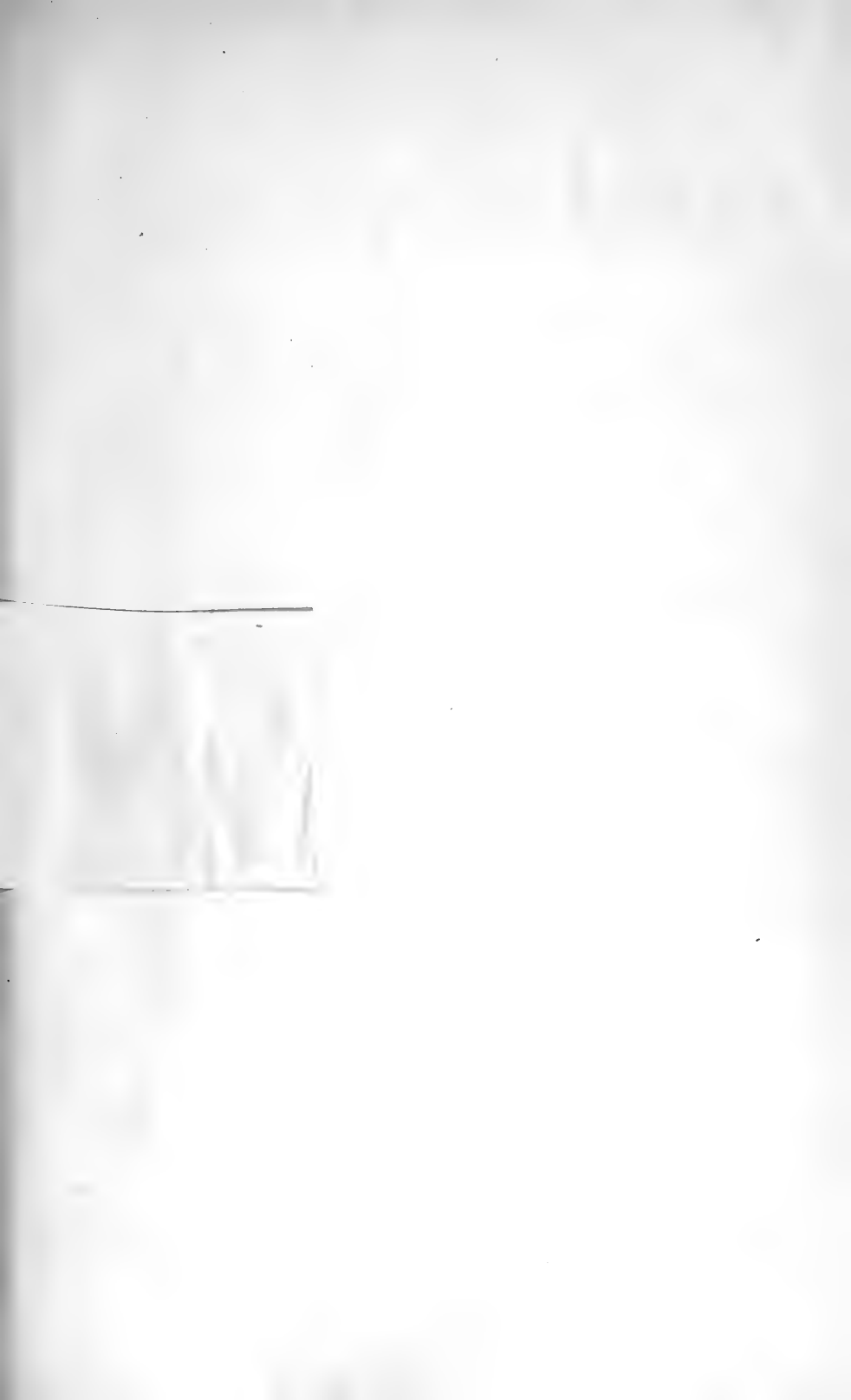
第
一
號



大正四年五月發行

日本鳥學會

From N. Kuroda
Fukuyoshicho,
Akasaka, Tokyo



鳥 第 一 號 目 次

れんかく (アートタイプ原色版口繪)

子爵

松平頼孝氏原圖
小林重三氏筆

黒田家鴨場冬ノ溜池(寫眞版口繪)

黒田長禮氏原圖

本邦鳥類ノ研究ニ就イテ

理學博士

飯島魁

「鳥ノ記念日」ニ就テ

理學博士

渡瀬庄三郎

羽田鴨場ニテ獲タル鴨ノ總數ト各種「渡リ」ノ統計

黒田長禮

雉ニ關スル諺ト說話

文學士

橘純一

いかもの飼 (其一)

理學士

鷹司信輔

音樂ノ無イ野原

理學士

石井重美

尾羽ノ如ク思ハル、羽

理學士

黒田長禮

雜 纂

ふぞむしくるノ新産地ニ就テ(松平頼孝)

鳥ノ羽毛ノ用途(内田清之助)

雀ト鳥(波江)

元吉)

相思鳥ノ營巢 鷹司信輔)

秋田ニ於ケル鳥類ノ方言(仁部富之助)

雌雄兩性ノ

鶏(黒田長禮)

滿洲雁信(脇山三彌)

印度ノ白鷺飼 鷹司信輔)

東京附近ニテ繁殖ス

ル鳥類(黒田長禮)

一三鳥類ノ習性觀察其一(仁部富之助)

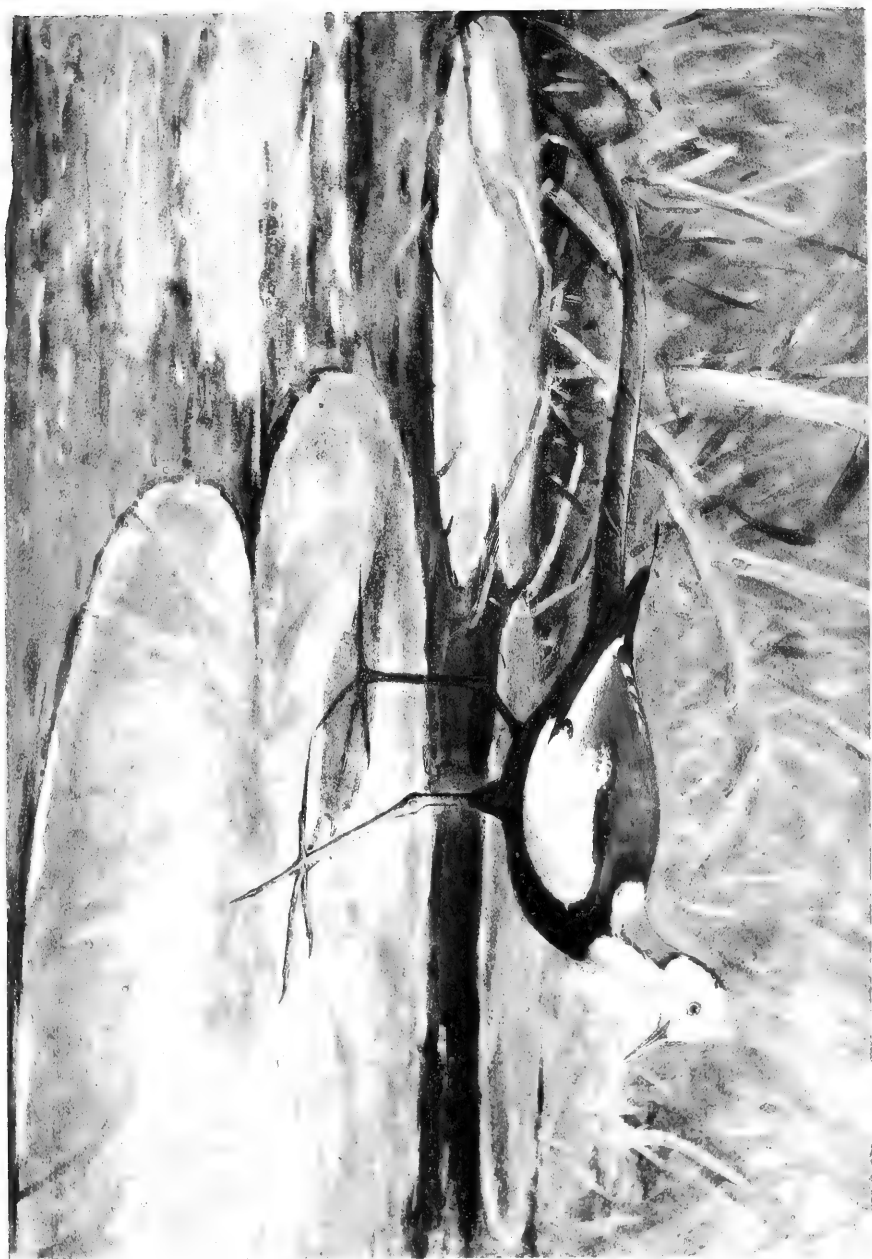
雜 報

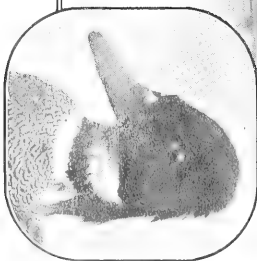
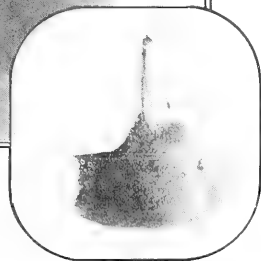
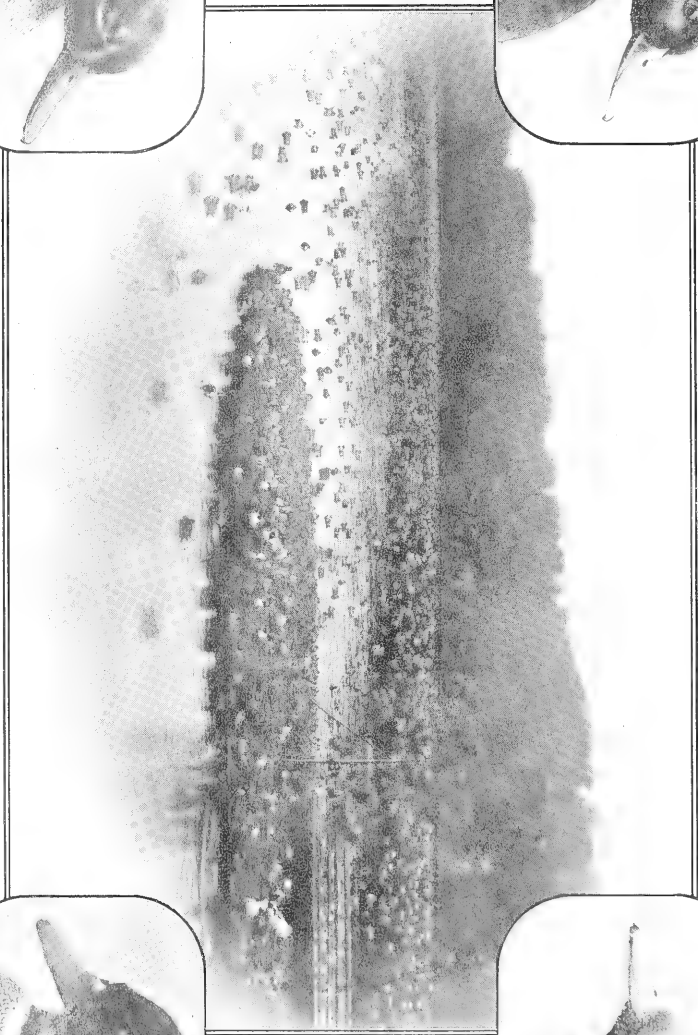
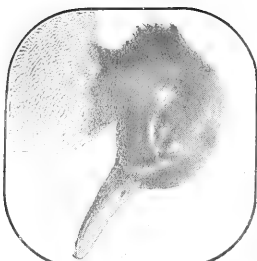
四 件 會 則

れんかく(連角)

(口給解説)

れんかくハ臺灣ニ産スル秧鶏ニ類スル極メテ優美ナル水鳥ニシテ、英名 *Indian quana* 學名 *Hydrophasianus chiriquis* (Scopoli) ト云フ。此鳥ノ最特殊ナル點ハ、圖ニ見ルガ如ク翼ノ折角(腕關節)ニ前方ニ向ヒ極メテ堅キ距ノ如キ棘ヲ有スル事ニテ、斯ノ如キハ鳥類中木種ノ他ニハ僅ニ一二ノ種類ニノミ見得ル所トス。常ニ水邊ニ棲息シ舉動甚ダ活潑ニシテ、巧ニ浮草ノ上ヲ渡リ歩ク事圖示セルガ如シ、其他或ハ水底ヲ潜行シ、或ハ方目ノ如ク自在ニ游泳ス。其營食ハ水棲ノ小動物又ハ草實等ナレバ籠鳥トスルニハ河海老ヲ以テ容易ニ飼ヒ付クル事ヲ得ト云フ。肉ハ其味美ニシテ鵠ニ似タリ。飛翔ハアマリ巧ナラズシテ首ヲ縮メ尾ヲ後方ニ延バシ其狀鷺ノ飛翔ニ類ス。危險ニ遭遇スルモ飛去ル事ナク、多クハ水草中ニ身ヲ潜メ又ハ水底ニ潜入シテ之ヲ避ク、故ニ此種ヲ獵獲セントスルハ極メテ至難ナリト云フ。巢ハ平巢ニシテ蘆其他ノ水草ヲ材トシ、水草ノ莖ニ懸ケ又ハ浮巢トス。一腹ノ卵ハ四乃至七個、綠色乃至おりーぶ褐色ヲ呈ス。産卵期ハ七八月ノ候ニテ好ンデ連多キ所ニ營巢ス、鳴聲大ニシテ遠隔ノ地ヨリ識別シ得ベク、恰モ猫ノ鳴聲ニ彷彿ス。臺灣島ノ外支那南部・印度・馬來・比律賓・錫倫等ノ諸地ニモ之ヲ産ス。口給ニ掲ゲシハ臺灣産ノ標本ヨリ寫生セルモノナリ





(照本文本) 景光ノ池留場鴨家田黒

もがこ下左もがりどひ下右もがま左上もかがなな上右
リナ類種ルネ來集ヲ多最ニ場鴨同モレ何



鳥 第 一 號 大 正 四 年 五 月 日 本 鳥 學 會 發 行

本邦鳥類ノ研究ニ就キテ

理學博士 飯 島 魁

今回日本鳥學會カラシテ雜誌「鳥」ヲ發刊スル事ニナツタノハ斯學普及ノ上ニ大ニ効果アル事ト慶賀ニ堪ヘザル次第デアル、此際予ハ一言希望スル所ヲ述ベテ以テ本誌創刊ノ祝詞ニ代ヘ度イト思フ

我國ノ鳥類ニ就テハ古來幾多ノ本草學者ノ研究セル所アリ、其著述モ二三ニ止マラヌノデアツテ隨分細密ナ觀察モ行ハレタノデアルガ然シ眞ニ科學的ニ研究セラレタノハ彼ノ有名ナルしーほるぎ氏ノ日本動物篇中ニテむみんく及しゆれーける二氏ニヨツテ發表セラレタルモノヲ嚆矢トスルノデアル、次デぶらきすこん・らいや・しーほーむ及すたいねけるノ諸氏ニヨツテ主トシテ開拓セラル、所アリ、尙引續キ幾多ノ本邦諸學者ノ有益ナル研究アリテ以テ今日ニ至ツタ次第デアル

扱以上諸學者ノ業績ヲ見ルニ、何レモ分類學ニ關スルモノノミデアツテ從テ本邦鳥類ノ此方面ノ知識ハ稍満足ナル程度ニ進ンデ居ルト云フ事が出來ル、然シ乍ラ分類學以外、殊ニ生態ノ研究ハ如何ニト云フニ此方面ハ今迄殆ンド閑却サレテ居タト云フベキ有様デアル、然シ此事實ハ獨リ本邦ニノミ特殊ナ譯デハナク何レノ國ニ於テモ斯學發達ノ跡ヲ尋ヌルニ、先ヅ基礎的知識タル分類學ノ方面ガ開拓セラレ、次デ生態學・應用鳥學ト云フ順ニ進ンデ行クノデアツテ即我國ノ狀態ハ目下其過渡時代ニアルノデアル、右ノ次第故今後我國ノ鳥學ハ是非共此生態學的方面並ニ應用的方面ニ向テ大ニ發展ノ必要ヲ認ムルノデアル

サテ鳥類生態方面ノ研究ト云フモノハ多クハ机上若クハ實驗室内ニ於ケルヨリハ反ツテ日常野外ノ觀察ニヨツテ貴重ナル結果ヲ得ラレルノデアル、即地方在住ノ同好者諸君ガ此問題ノ解決ニ向テ最適當ナル位置ニア

ルモノト云フベキデアル、故ニ諸君が専ラ右ニ述タルが如キ注意ヲ以テ研究ニ從事セラルル其業績ヲ本誌ナリ或ハ其他ノ雜誌上ニ發表セラル、様ニシタナラバ例ヘ其レガ斷片的ノモノデアルニシテモ斯様ナ材料が蓄積シテ次第ニ本邦鳥學ノ缺陷タル生態學の方面ニ光明ヲ與フルニ至ル事ト信ズル、今試ニ右述タルが如キ研究事項ノ二三ヲ思ヒ付イタマ、ヲ舉グレバ

第一、候鳥ノ去來ニ關スル觀察 燕ハ春季北ヨリ來リ秋季南ニ去ルト云フ事ハ何人モ知悉スル所デアルガ、其以上ノ詳細ノ點ニ至ツテハ不明ノ事實ガ少クナイ、即此等ノ候鳥ノ去來ノ時日・時間・方向・數・天候・溫度ノ關係等ノ研究スベキ事項ハ無數ニアル

第二、繁殖ニ關スル觀察 之ハ邦產鳥類各種ノ産卵・營巢ノ狀況・時期・卵ノ形狀・育兒ノ狀態等觀察者ニ取リテ最趣味多キ事項ニ富ンデ居ル、且此種ノ研究ハ單ニ純正鳥學上有益ナルノミナラズ鳥類ノ保護増殖ヲ計ル上ニ於テ是非共知悉シ置カザルベカラザル事デ應用鳥學上必要ナル研究デアル

第三、分布ニ關スル調査 鳥類各種ノ世界の分布狀態ノ研究モ元ヨリ重要ナ事デアルガ、是等ハ鳥學專攻ノ士ノ研究ニ俟ツベキモ、是ニ向テ有益ナル材料トナルベキ地方的分布ノ調査ガ是非必要デアル此種ノ調査ハ同時ニ鳥類「渡リ」ノ研究ニ對シテモ有益ナル材料ヲ供給スルノデアル、地方的分布ノ調査ノ第一ニ着手スベキハ其地方例ハ一縣若クハ一郡ニ於ケル正確ナル鳥類目錄ノ編纂デアル、從來本邦ノ或地方ノ如キハ比較的ヨク此種ノ調査ガ出來テ居ルガ四國九州ノ如キハ今以テ充分調査ガ行届イテ居ナイノデアル第四、鳥類食性ノ調査 各種鳥類ノ食物ノ如何ヲ知ル事ハ應用鳥學上最緊要ナ事デアツテ此種ノ研究ハ近來歐米諸國ニ於テハ盛行ハル、ガ我國ノ鳥類ニ就キテハ其調査尙極メテ不完全デアル是等ハ春夏育兒ノ時節ニ於テ親鳥ノ哺育ノ行動ヲ觀察シ又ハ鳥類標本製作ノ際其ノ内容ヲ調査スル等僅カノ注意ニヨツテ種々有益ナル成績ガ得ラレルノデアル、以上ノ外尙各地方ニ於ケル鳥類ノ方言又ハ鳥類ニ關スル傳説口碑蒐集等ノ事モ直接鳥學ニ關係スル所ハ少キモ甚趣味アル事デアルシ且往々是等ノ材料カラシテ學術的資料ガ發見セラル、事アルニヨリ注意ヲ要スル次第デアル

以上述タルハ僅ニ二三ノ例ニ過ギナイガ要之斯ノ種ノ方面ノ調査ハ最地方在住ノ同好者ノ力ニ俟ツ事多ク且是等ノ調査成績ガ漸次蓄積スルニ至ラバ是ニヨツテ前ニ述タ所ノ本邦鳥學上ノ不完全ナル方面ガ次第ニ開拓セラル、ニ至ルデアラウト信ズル

『鳥ノ記念日』ニ就テ

理學博士 渡瀬庄三郎

此度鳥學ニ關シタ新雜誌ヲ發行スルニ就イテハ、何カ余ニモ一言セヨトノ事デアルガ、聊カ祝詞ニ代フルニ、余ガ嘗テ見テ誠ニ面白イト思ツタ一事、即チ米國ノ小學校ノ當事者ト、同國農務省內ニ於ケル鳥獸調査局ノ學者トガ、連合シテ計畫シタ鳥ニ關スル知識普及ノ一方法ノ話ヲシテ見様ト思フ

既ニ、讀者諸君ノ中ニハ御承知ノ方モアルデアラウト思フガ、コノ四五十年以來米國ニ於ケル小學校ノ年中行事ノ中ニ五月ノ初旬ニ當ツテ “Arbor Day” 即チ「植林記念日」ト云フガ設ケラレ、コノ日ニ於テ國中ノ就學兒童ヲシテ樹ヲ植エサセル事ニナツテ居ル。

又英領かなだニ於テモ毎年五月第一金曜日ヲ以テ、就學兒童ノ植林ノ記念日トシテ居ルガ、何レモ、ソノ成績ニハ大ニ見ル可キモノガアル、ソレト同ジ様ニ “Bird Day” 即チ「鳥ノ記念日」ト云フモノヲ設ケ、コノ日一日丈ケハ全ク鳥ノ爲メニ費シ兒童ヲシテ

同情友愛ノ精神ヲ以テ鳥類ニ親ムコトヲ勸メ、且ツヨク之ヲ保護繁殖セシムルノ必要ヲ語ルコトニシテ居ル

一體何處ノ國ニ於テモ、段々ト新地ヲ開拓シタリ、或ハ森林ヲ伐リ開イタリ、或ハ沼池ノ排水ヲシタリ、大規模ノ製造場ヲ多ク造ツタリ、交通ノ便ヲヨクシタリスルト、野生ノ鳥類ニ不安ノ念ヲ増サシメ、或ハソノ棲所ヲモ失ハシムルニ至ルガ爲メニ、其國固有ノ鳥ガ滅ツテ仕舞フト云フコトハ、ヨク人々ノ知ツテ居ル所ノモノデアル、ソレニ加フルニ鳥ノ羽毛ヲ婦人ノ裝飾ニスル習俗ガアルトカ、又ハ多クノ鳥ヲ捕ヘテ之ヲ食用ニ供スルトカ、又ハ少年ガ徒ラニ鳥ノ卵ヲ集メテ弄ブトカ、其他種々ノ手段ヲモツテ鳥ニ迫害ヲ加ヘルタメニ、多クノ種類ノ鳥ハ人間ノ増加ト共ニ年々滅滅シテ行クガ、鳥ノナイ自然界ハ實ニ殺風景沒趣味デアル。加之鳥類ノ減少ト相俟ツテ恐ル可キハ虫害ノ益々激シクナツテ來ル事デ、天然自然ノ理法、原因結果ノ關係上必然ノ出來事トハ云ヘ、吾人ハ決シテ袖手傍觀シテ居ルベキデハナイノデアル

夫レヲ防ガンガタメニ、法律ヲ以テイロク、ト鳥類保護ノ策モ講ゼラレテ居ルガ、併シカ、ル法律ト云フモノハ、兎角形式ニ流



教室内ニ於ケル鳥類記念ノ光景

レ易イモノデアツテ、之ヲ勵行シテ完全ノ結果ヲ收ムルト云フコトハ中々ムヅカシイノデアル特ニ監視ノ困難ナル郊外・原野・森林ト云フ様ナ處デ行ハレル犯罪デアルカラ、單ニ法文ヲ楮ニ取ツタリ、稀ニ巡視スル事ノ出來ル警察吏ニ信賴シテ居タノミデハ安心ガ出來ヌ。ソレデアルカラシテ一般ノ人民ノ鳥ニ對スル態度觀念ト云フモノヲ改メテ、鳥類愛護ノ精神ヲ涵養スルトイフコトハ非常ニ必要ナ事デアツテ、此ノ精神ガ缺乏シテ居テハ、百ノ法律ガアツテモ益スル處ハ少ナイ

夫故ニ是非トモコノ自然界ニ於ケル鳥ノ價值トイフモノヲ認メ之ヲ愛護スルノ良風習ヲ學校ト云フ機關ヲ通ジテ兒童ニ教ヘ、兒童ノ腦裏ニ深キ印象ヲ刻シテオクトイフコトハ、最モ當ヲ得タ一ツノ方法ト思ハル、ノデアル

丁度一年ノ中ノアル特別ノ日ヲキメテ、幼ナイ生徒ニ樹ヲ植エサセ、ソノ木ガ年々成長スルノヲ見ルニツケテモ、殖林事業ノ必要ナ事ヲ感ジサセル如ク、「鳥ノ記念日」ニ於テハ、其地方々々ノ鳥ニ關シタ事ヲ生徒ニ教ヘ、又生徒自身等ニモミヅカラ田野或ハ森林ニ行ツテ鳥ノ舉動習性ニ注意スルノ習慣ヲ獎勵シ、何故ニ鳥類ト云フ其法律ノ精神ノアル處ヲヨク納得サセルト云フ點ニアルノデ、鳥類

モノハ、法律迄モ設ケテ之ヲ保護シナケレバナラヌカト云フ、



鳥紀念日ノ作業(鳥工巢箱ノ製造)

愛護ノ趣味傾向ヲ年少時期ノ頃カラ養フノニアルノデアル
 ソレテ此兒童ニ實行サセル鳥ノ研究ト云フコトハ、級ニヨツテ多少異ナ
 ルガ、イロ／＼ノ方法ニヨリ、又イロ／＼ノ目的ニ向ツテ之ヲ行フ事ガ
 出來ルノデアルガ、第一ハ生徒ヲシテ自然物ヲ精確ニ觀察スルトイフ稽
 古ヲサセルコト、或ハ又鳥ヲ對象トシテ夫レニ就イテ作文ヲヤラセルト
 カ、或ハ畫ヲカ、セルトカ、或ハ生態ノ面白キ點ニ注目サセルトカ、或
 ハ大家ノ書イタ鳥ノ有名ナ記事トカ詩トカ云フモノヲ讀マセルトカ、又
 鳥類ノ食スル昆蟲ノ種類ヲ舉ゲ農家ヤ森林業者ニ取ツテ何故ニ鳥ガ必要
 ナルカト云フコトヲ理得サセル、即チ鳥ト人生トノ關係ヲ論ジテ、如何
 ナル種類ガ人間ニ有益デアリ、如何ナル種類ガ人間ニ有害デアルカト云
 フコトヲ示シ、ソノ有害ナモノハ如何ニシテ之ヲ避ケ、有益ナルモノハ
 如何ニシテ之ヲ保護スルカト云フコトヲ教ヘルノデアル
 マタ其鳥ノ觀察ハ一年ヲ通ジテ行フ必要ガアル、新シイ鳥ガ來レバ何時
 頃之ガ來タカ、又イツ頃去ツタカト云フコトヲ、細々ト手帳ニ記載サセ
 ル、又普通ノ鳥ハソノ大小色彩鳴聲等ニヨリテ、直チニソノ種類ヲ識別
 ノ出來ル様ニ教ヘル、又學校ニ通學スル小供ニハ、ドウ云フ鳥ガ自分ノ
 屋敷ノ木ニ來ルカト云フコトヲヨク觀察サセル、加之人工的ニ造ツタ巢
 ヲ木ニ打ち附ケテ、ソコニ安心シテ卵ヲ生マセル様ニ獎勵サセル、又鳥
 ハミナ水浴ヲ好ムモノデアルカラ何處カ適當ノ場所ニ池ヲ掘ツテヤルカ

又ハ用器ヲ供ヘテソシテ水ヲ盛り置クモ可ナリ、ソシテ其學校ニハソノ地方一般ノ地圖ヲコシラヘテ、ドウ云フ木ガドウ云フ處ニアルト云フコトヲカキ込ミ、ドノ木ニハドンナ鳥ガ巢ヲクツタト云フコトモ記入シテ年々ソノ増率ヲ比較シテ見ル、ソシテ年ニ一回舉行スル「鳥ノ記念日」ニハ其一年間ニヤツタ仕事ヲ總括シテ人々ニキカセ、標品、繪畫等ヲ陳列シテ相互ノ樂ト益トヲ謀ルノデアル

斯クノ如クシテ養ヒ得タ趣味ハ、自然ニ放任シテ置イタ蠻人的ノモノトハ雪泥ノ相違デ、コノ經驗ハ兒童ノ一生ヲ通ジテ利益ト樂トノ泉源トナリ、他日如何ナル職業ヲ撰ムニシテモ、幼時自然界ニ接シテ享受シタ感化ハ、終生忘ル、コトハナイノデアル、余ハ國情ヲ異ニシタ我國ノ如キニ於テモ、鳥ト人間トノ關係ニ於テ異ナル處ハナイカラ、何等カノ形式ニ於テ鳥類愛護ノ道ガ、第二ノ國民ノ間ニ普ク講ゼラレン事ヲ希望シテヤマヌノデアル

本邦ニ産スル鳥類ノ總種數

我國ハ鳥類分布上カラ云ツテ舊北區ト東洋區ノ二大區分ニ跨リ南北ニ甚シク延長セルガ爲メ、其所産鳥類ノ種類ハ極メテ豊富デアツテ、且南ト北トデハ著シクふあうなノ有様ガ異ツテ居ル。最近迄ニ知ラレタ邦産鳥類ノ總種數ハ滿州ヲ除キ六百五十餘種ニ達シ、其内譯ハ次ノ如クデアル。

舊日本即チ本州、四國、九州、北海道、千島、沖繩四百九十種、臺灣三百種（内舊日本ト共通ノモノ百七十餘種）朝鮮二百九十五種（内舊日本ト共通ノモノ二百五十餘種）樺太島百八十二種（内舊日本ト共通ノモノ百七十五種）因ニ ぶらきすさんぶらいあー兩氏ノ日本産鳥類目錄（千八百八十年）ニハ三百二十五種ヲ舉ゲ、飯島博士日本ノ鳥目錄（千八百九十一年）ニハ四百二十一種ヲ掲ゲテアル是等ノ目錄中ニハ現今ノ殖民地ノ分ハ含マレテ居ナイ事ハ勿論デアル

羽田鴨場ニテ獲タル鴨類ノ總數ト各種「渡リ」ノ統

計ニ就キテ

(口繪第二圖版及附表參照)

黒 田 長 禮

去ル明治三十九年十月ヨリ大正三年四月迄ニ府下荏原郡羽田村字鈴木新田ナル予ノ鴨場ニ於テ、捕獲シタル鴨類ハ總計一萬七千六百九十五羽ニ達セリ。而シテ三十九年十月ヨリ四十年四月迄ニ獲タルモノ最大數ニテ三千〇七十九羽、四十四年十月ヨリ四十五年四月迄ニ獲タルモノ最小數ニテ一千二百七十一羽ナリ。今是等八ヶ年間ニ於ケル捕獲總數ヲ曲線ヲ以テ表ハセバ次頁表Iノ如キモノヲ得、此表ニヨレバ曲線ハ一年置キニ上下スルヲ見ル、而シテ其畫ケル線ハ常ニ電光形ナリ。最高數(曲線ノ上點)ハ次第二下リ從テ最低數(曲線ノ下點)モ亦降ル、此現象ハ鴨類ノ渡リ來ル數少キヲ意味スルニ非ラズシテ恐ラク附近ノ人家増築及ビ京濱電車ノ經營セル運動場其他ガ惡影響ヲ及ボスニ基因スベシ。當鴨場ハ三十三年ヨリ予ガ家ノ所有トナリシモ三十八年四月迄ニ獲タル數ハ調査不充分ノ爲メ全ク之レヲ除キタリ。サレド予ノ記憶ノミニ因ルモ毎年獵期間ニ少ナクトモ三千羽ヲ捕獲シ得タリ、此際ニモ恐ラク電光形ノ曲線ヲ表ハシタルナルベク二年置キニ上下スル現象ハ即チ二年置キニ鴨群ノ渡來數ノ増減ヲ示スモノナリト考ヘテ誤リ少カルベシト信ズ

八ヶ年間ニ捕獲シタル鴨類ハ十四種ナリ今捕獲數ノ多キモノヨリ掲グレバ次ノ如シ

- | | | | | | | |
|----|---|---|---|-------|-------|-------|
| 1. | を | な | が | も | 七〇六七羽 | |
| 2. | こ | が | も | 三六四四羽 | | |
| 3. | ま | が | も | 三〇〇四羽 | | |
| 4. | ひ | ぎ | り | が | も | 二二一七羽 |

羽田嶋場ニ於ケルハケ年間嶋類捕獲統計表

I

II

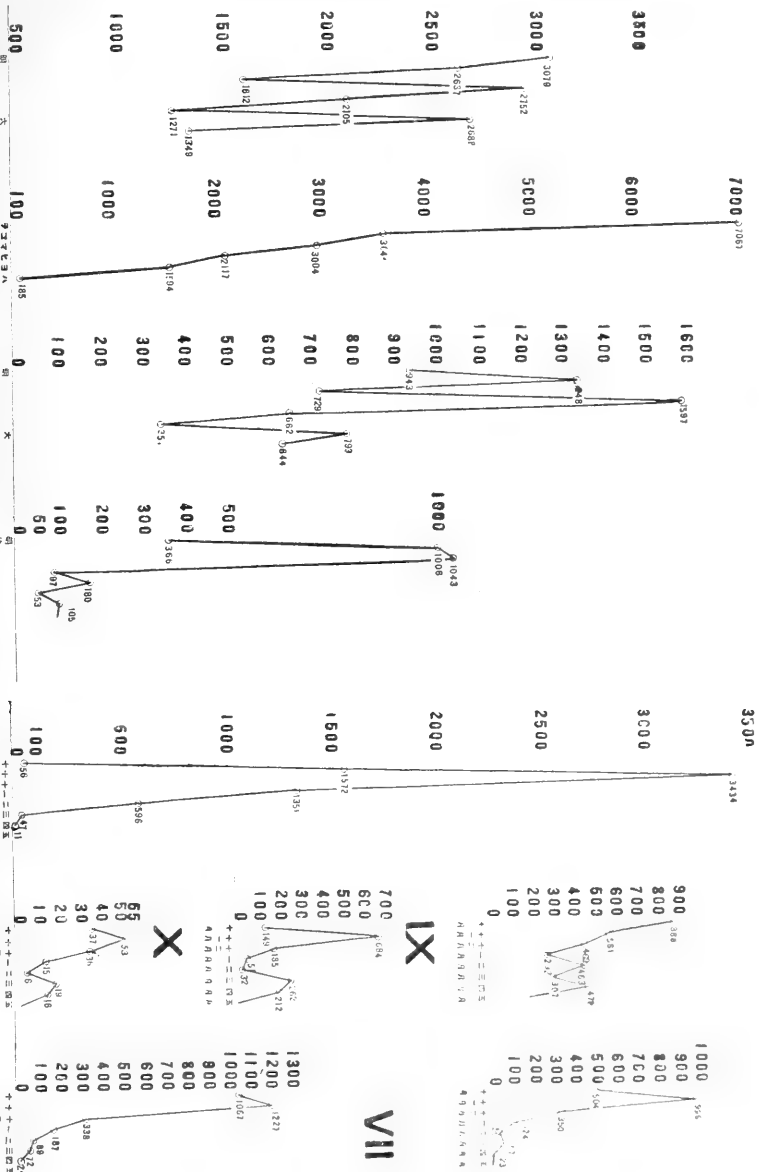
III

IV

V

VI

VIII



① 三日月座 ② 三日月座 ③ 三日月座 ④ 三日月座 ⑤ 三日月座 ⑥ 三日月座 ⑦ 三日月座 ⑧ 三日月座
 ⑨ 三日月座 ⑩ 三日月座 ⑪ 三日月座 ⑫ 三日月座 ⑬ 三日月座 ⑭ 三日月座 ⑮ 三日月座 ⑯ 三日月座
 ⑰ 三日月座 ⑱ 三日月座 ⑲ 三日月座 ⑳ 三日月座 ㉑ 三日月座 ㉒ 三日月座 ㉓ 三日月座 ㉔ 三日月座
 ㉕ 三日月座 ㉖ 三日月座 ㉗ 三日月座 ㉘ 三日月座 ㉙ 三日月座 ㉚ 三日月座 ㉛ 三日月座 ㉜ 三日月座
 ㉝ 三日月座 ㉞ 三日月座 ㉟ 三日月座 ㊱ 三日月座 ㊲ 三日月座 ㊳ 三日月座 ㊴ 三日月座 ㊵ 三日月座
 ㊶ 三日月座 ㊷ 三日月座 ㊸ 三日月座 ㊹ 三日月座 ㊺ 三日月座 ㊻ 三日月座 ㊼ 三日月座 ㊽ 三日月座
 ㊾ 三日月座 ㊿ 三日月座

5.	よ	し	が	も	一五九四羽			
6.	は	し	び	ろ	が	も	一八五羽	
7.	か	る	が	も	三二羽			
8.	き	ん	く	ろ	は	じ	ろ	二一羽
9.	こ	も	ゑ	が	も	一六羽		
10.	ほ	し	は	じ	ろ	五羽		
11.	し	ま	あ	じ	五羽			
12.	を	か	よ	し	が	も	三羽	
13.	す	ゝ	が	も	二羽			
14.	あ	め	り	か	ひ	ご	り	一羽

右ノ内百羽未滿ノモノヲ除ケバ僅ニ六種ニ過ギズ是等ノ捕獲數ヲ曲線ニテ表ハセバIIノ如キモノヲ得。最大數ノをなががもト最小數ノはしびろがもトハ實ニ六千八百八十二ノ大差ヲ見ル。且ツ又こがもヨリひごりがも迄ノ數ニ比較的大差ナキヲ以テ曲線ハ其ダシキカーブヲ示サズ。鴨場ハ殆んどをなががもニテ成立ツモノト見テ差支ヘナシ

最モ多ク渡來スルをなががもノ八ケ年間ニ於ケル捕獲總數ハIIIノ如キ曲線ヲ示ス。此線ハIニ甚ダ酷似スレドモ三十九年十月ヨリ四十年四月迄ノ數がこがもヨリ少キニヨリテノミ異ルナリ。其他ハIノ如ク二年置キニ上下ス。故ニ本種ノ捕獲總數ハ鴨類全體ノ數ノ場合ト殆んど同一ナリト見做スコトヲ得ベシ

明治四十二年十月ヨリ四十三年四月迄ニ獲タル總數ハ比較的良好ナルニヨリ此場合ヲ例トシテ月々鴨類ノ捕獲數ヲ曲線ニテ表ハセバIVノ如キモノヲ得。此曲線ノ上下スルモ亦をなががもノ數ニ基因シ十月ハ主トシテこがも・まがも及ビひごりがもノ時期ニテ十一月ヨリをなががもノ數著シク増加シ十二月ハ最大數ヲ示シ、一月ハ一般鴨類ノ捕獲數甚ダシク減ズ、是ヨリ次第ニ減ズルヲ普通

トスレドモ此年ハ二月ニ入りテ少シク良好トナリ三月ハ最モ惡シク（毎年一般ニ三月ハ不獵ナリ）四月ニ入りテ又々稍々良ロシコハこがもよしがも等ガ比較的捕獲セラル、ニアリ五月ニモ猶ホ三四種ノ鴨ハ北方ヘ去ルベシテ留ルアリ 例年一月中ハ留リ鴨池ノコト）内ニ見ラル、數ハ決シテ少ナカラズサレド捕獲數ハ著シク減ズルヲ常トス

次ニ八ヶ年間ニ於ケル各種鴨類ノ月々捕獲數ニ就テ細説セントス。此統計ハ甚ダ重要ニ且ツ面白キ結果ヲ見出スコトヲ得 即チ各種類ノ「渡リ」ノ狀態ヲ比較的明カニ知ラシムルヲ以テナリ

先ヅをながもノ場合ヲ見ルニVノ如キ曲線ヲ表ハス。十月中旬ヨリ僅カニ渡來シ、群ハ十一月中旬ヨリ來ル、十二月ハ最モ多ク一月ハ鴨池内ニハ十二月ト大差ナク一萬以上ヲ認メ得レドモ捕獲數ハ減ジテ十一月ヨリモ少シ。二月ニ入りテ一層少ナク三月ニ至レバ著シク減ジ四月ニハ殆ンド之レヲ見ザルニ至リ捕獲シタル年トセザトル年トアリ五月ニハ全ク北方ヘ去ル。故ニ曲線ハ變化少ナク殆ンド二等邊三角形ヲ呈ス

次ニこがもVIノ場合ヲ見ルニ早キモノハ九月初旬ニ渡來シ十月ニハ幼鳥多キ爲メト比較的他種ノ少ナキトニヨリテ捕獲數最モ多シ（一般ニ幼鳥ハ捕獲シ易ク成鳥ハ困難ナリ）十一月十二月ハ最モ多キ月ナレドモをながもノ大群ニ壓セラレテ捕獲數ハ却テ降ル一月モ同様ニシテ下リ二月ハ他種ノ比較的少ナキニヨリテ捕獲數ハ少シク昇リ三月ハ一般ニ惡シク四月ニ入りテヨリ充分成鳥トナリシモノ可ナリ捕獲セラル、五月ニ入りテヨリモ猶ホ百羽位ハ留マリ下旬ニ近クナリテヨリ全ク北方ヘ去ル。本種ハかるがもヲ除キテハ羽田ニ滞在スル月數最モ長ク九月ヨリ五月ニ至ルモノトス。故ニ本種ノ捕獲數ノ曲線ハVIノ如キ上下甚ダシキモノヲ示ス

まがもVIIノ場合ヲ見ルニ九月中旬ヨリ少シク渡來シ十月ヨリ増加シ十一月ニハ最モ多ク（捕獲數モ觀察數モ共ニ同ジ）十二月ニ入りテ著シク減ジ夫レヨリ次第二減ジ四月ニハ少數ノモノノミ留リ五月ニハ全ク之レヲ見ズ。故ニ曲線ハVIIノ如キモノヲ示ス。

次ニひざりがもVIIIノ場合ニテハ十月初旬ヨリ渡來シ十一月最モ多ク十二月ヨリ著シク減ジ始メ三月ニ入りテ再ビ渡來スル小群アリ四月ヨリ又減ジ五月始メ迄留マル曲線ハ夫故VIIIノ如キモノヲ示ス。

よしがもIXハひざりがもノ場合ニ酷似スレドモ三四月ニ増加スル程度比較的多キコトニヨリテノミ異ル。故ニ曲線ハ前種ノトキヨリ複雑トナリIXノ如キモノヲ表ハス

はしびろがもハ十月中旬頃ヨリ來ルモ多カラズ曲線ハXノ如キモノヲ示シ十一十二兩月稍々多ク一月ヨリ減ジ二月ハ甚ダ稀レニシテ三四月ニ再び加増ヲ示シ五月初旬迄留ルモノモアリ

以上ニテ各曲線ノ解説ヲ終リタルガ猶ホ少シク追加ヲ試ムベシ。我が鴨場ハ前述ノ如クをなががもガ主トナレルニヨリ本種ノ「渡リ」ノ狀態ニ關シテハ恐ラク東京附近ニ於ケル無二ノ報告タルヲ信ジテ疑ハズ。サレド他種特ニをなががもノ爲メニ壓セラル、如キモノニアリテハ、捕獲數ソノモノガ直チニ「渡リ」ヲ明カニ示ストハ斷言スルヲ得ズ、故ニ余ハ觀察數ヲモ考ヘ之レヲモ附加シテ上記ノ説明ヲナシタリ。然シ之レ猶ホ満足スルニ足ラズ。又他ノ少數ノミ捕獲シタル種類ニテハ寧ロ不完全ナリト云フベシ

凡テ鴨場ハ新設セルモノ必ズシモ舊設ノモノニ劣ラズ。新設ノ始メニアリテハ主トシテこがもノ群渡來スルヲ普通トス。赤坂福吉町ノ舊鴨場ニアリテハ最も盛ナルトキハこがもノミ一日ニ五百羽ヲ得タルコトアリ一年ニハ少ナクトモ五千羽ヲ獲タル記録アリ、サレド此場合ニハ他種ハ稀有ニ屬セリ。かるがもノ大群來襲シテヨリこがもハ著シク減ジ一日ノ捕獲數憐ムベキ程ニ減ジタリ之レかるがもハ捕獲シ難キニヨル。以上ノ如キ例アルニヨリ是等ノ統計ニヨリテ捕獲少數ノ種類ノ「渡リ」ヲ明カニ知ラントスルハ寧ロ不可能ニ屬スルコト、云フベシ

春の野の茂き草葉の妻戀にこびたつ雉のほろゝこそ鳴く

古今集

秋の夜もやゝ更けにけり山鳥のをろのはつ尾にかゝる月影

續後撰集



雉ニ關スル諺ト說話

文學士 橘 純

雉ニ關スル諺ハ少クナイ。古イ所デ「古事記」ニ

雉子之頓使

トイフ諺ガ見エテ居ル。カウイフ上代ノ諺ニハ必ズ一條ノ說話ガ附會シテアルノガ常デ、古事記ノ此ノ諺ノ所ニハ、カウイフ說話ガ述ベテアル

天孫瓊々杵ノ尊降臨以前、高天原ニ於ケル天照大神以下ノ神々ガ、材幹アル神ヲ選ンデ、瑞穗國ノ大國主命ニ使セシメ、國土獻上ノ事ヲ說カシメタ。所ガ當時出雲ニ在ツテ瑞穗國ニ君臨シテ居ツタ大國主命ノ威勢ハ大シタモノデ、高天原朝廷カラノ使臣ハ、大國主命ニ阿附シテ復命ヲシナイ、ソコデ高天原デハ特ニ武勇ノ神ナル天稚日子ヲ選ンデ、再度ノ使トシテ差遣シタ。然ルニ天稚日子モ、大國主命ノ娘下照姬トイフ美人ノ婚ニナリ濟シテ、八年ニナル



マデ復命ヲシナカツタ。高天原デハ一向ニ安否ノ知レヌ所カラ「鳴女」トイフ雉子ヲ遣シテ天稚日子ヲ詰責サセタ。仰テ受ケタ雉子ハ早速出雲ヘ下ツテ、天稚日子ノ家ノ木ニトマツテ、滔々懸河ノ辯ヲ振ツテ天稚日子ヲ詰責シタ。然シ天稚日子ニハ、雉子ノ言フ事ガ分ラナイノデ、ウルサイ雉デアルト腹ヲ立テ、コレヲ射殺シテシマツタ。高天原デハ神々ガ待テド暮ラセド雉ガ歸ツテ來ナイ。故於今諺曰「雉之頓使ニ本是也」ト書イテアル

サテ、此ノ諺ノ意味ハドウデアルカトイフト、本居宣長翁ノ説デハ頓使ノ頓ハ、純一トカ單一トカ譯スベキ意味デ、即チ副使ヲ添ヘヌ單獨ノ使チイフノデ、後世大事ノ使者ニ、單獨ノ使者ヲ差遣スル輕卒ヲ誡メタ諺デアルト解釋シテキル。然シ此ノ解釋ハ明ニ間違デアル。頓トイフ語ノ意味ハ翁ノ解釋通り、純一ノ意デ一方ニ偏シタ事ヲ意味スルガ頓使ト熟語ニナツタ上ノ意味ハ、行ツタギリノ使、鐵砲玉ノ御使トイフ意味デアル。此ノ雉ノ使命ハ直接出雲朝廷ヘノ使デハ無ク、謂ハゞ天稚日子ノ様子ヲ内偵スルノデアツテ、固ヨリ正使副使ト正式ノ使者ヲ差立ツベキ場合デハ無イ。ソレニ翁ノ言フ如キ意味デハ一向雉トイフ事ガ利イテキナイ

然ラバ何故雉ニ此ノ話ヲ附會シタカトイフニ雉ハ上古ニ於テハ、多辯者ノ代表者デアツタカラデアル。多辯者ガ却ツテ要領ヲ得ナイ。使ヲサセテモ復命モロクニ出來ヌトイフ多辯家ノ缺點ヲ指摘シ、多辯ヲ誡メタ諺デアル

雉ノ一般的特徴ハ、其ノ羽色ノ美シイ事ト、鳴聲ノ鋭イ事トデアル。殊ニ其ノ鳴聲ハ上古ノ人ノ注意ヲ惹イタモノラシイ。即チ上ニ述べタ雉ノ名モ「鳴女」トアルシ、同ジ古事記ノ中ニ天稚日子誅セラレテ、其ノ葬式ノ行ハレル事ヲ書イタ條ニハ、雉ガ哭女トイフ役ヲ勤メタ事ガ書イテアル。ソレニ所謂三人寄レバ姦シトイフ女性ニ仕立テ、アルノニモ多少ノ意味ガアルカト思フ。又大國主命ノ歌ニモ「サ野ツ鳥雉子ハトヨム。庭ツ鳥雞ハ鳴ク」トイフ對句ガアル。雞ノ聲ニ對シテハ、尋常ニ「鳴ク」トイフ語ヲ用ヰテアルノニ、雉ニハ「トヨム」即チ耳ガガーンミナル程ニ鳴キ立テルト歌ツテアル。萬葉集ニ出テ居ル家持ノ歌

春の野にあさる雉子の妻戀に己がかりかを人にしれつゝ

ニナルト、雉子ヲ、多辯ノ爲ニ身ヲ滅ス愚カナモノニ見立テタ意味ガ一層明瞭ニナツテ居ル。此ノ意味ガ更ニ露骨ニ表白セラレテ

居ルノハ

物いはじ父は長柄の橋柱雉も鳴かずば射られざらまし

トイフ歌デアル。此ノ歌ハ作者モ時代モ明ラカデナイガ、恐クハ平安朝時代ニ既ニ行ハレタモノデアラウ。コレハ後世其ノ下ノ句
ダケヲトツテ

雉も鳴かずば打たれまい

トイフ諺ニナツタ。此ノ歌ニテ、矢張上古ノ諺ニ於ケルト同様面白イ說話ガ附會サレテ居ル、

昔攝津國長柄川ニ橋ヲ架ケル時、人柱ヲ立テナケレバ、イクラ架ケテモ保タナイトイフ神ノ託宣ガアツタ。ソコデ何人ヲ人柱ニ立
ツベキカトイフ議ガアツタ時、長柄ノ里ノ岩氏いはしノ長者トイフ者ガアツテ、ソレニハ日ヲ期シテ其ノ川ノ渡ニ通りカ、ツタ人ノ中、
袴ニ綴つぎノアル者ヲトツテ人柱ニシタヲヨカラウト提言シタ。然ルニアル事ノ行違カラ、其ノ當日岩氏自身ガ袴ニ綴ノアルノナ心附
カズニ長柄川ノホトリニ通り掛ツタノデ、遂ニ人柱ニ立テラレテシマツタ。サテ此ノ岩氏ニ一人ノ娘ガアツテ容顔美麗、里人ハ照
日ノ前ト呼ブ程デアツタ。ソレヲ聞キ傳ヘタ河内ノ男ガ懇望シテ嫁ニ迎ヘタガ、照日ノ前ハ全クノ嘔デ、一言モ話サナイ。コレニハ
男モ愛相ヲ盡カシテ、遂ニ又攝州長柄ヘト送り返ス事ニナツタ。デ男ハ照日ノ前ヲ連レテ長柄ヘト志ス道スガラ河内ノ禁野いんや（此所
ハ今ノ交野郡ノ地デ桓武天皇御遊獵以來禁獵地トナツタノデアル）ヲ通ルト折柄雉ガ鳴イタノデ、男ハ覘ヒ寄ツテ、美事ニ之ヲ射
テ落シタ。其ノ時女ハ始メテ口ヲ開イテ「物言ハジ……………」ノ歌ヲ詠ンデ、サテハ嘔デハナカツタノカト、男ハ大ニ喜ン
デ、スグ女ヲ連レテ引返シ、階老同穴ノ契愈々濃カデアツタ。トイフノガ此ノ傳説ノ概略デアル。即チ餘計ナ差出口ヲシタ爲ニ身
ヲ滅シタ岩氏長者ト、娘トヲ對照サセタノデアル
ソレカラ源平盛衰記、太平記ナドニ

雉ノカクレ

或ハ「雉子ノ草隠レ」トイフ諺ガ出テ居ルガ、此ノ方ハ、雉子ノ鳴聲カラ離レテ、雉子ノ舉動ノ間拔ケナ方面ニツイテ言ツタ諺デ

アル。カウイフ風ニ、古イ諺ヤ說話ニ於テハ、雉ハ饒舌ナ、間拔ケナ（いさゝか）剽輕者トシテ取扱ハレテ居ル。コレハ上古ニ於テ、此ノ鳥ガ、人間ニ親マレ可愛ガラレタカラデアラウ。恐ク、當時雉ハ、人家近キ野ニ出レバ、幾羽トナクヤカマシク鳴イテ居タノデアラウ。ソシテ、時ニハ隠レソコネテ子ドモニ手捕ニサレルヤウナ事モアツタノデアラウ
コレ程澤山ニ居タ雉モ、年經ルニ從ツテ追々少クナツテ、平安朝時代ニハ、鷹狩ノ主要ナ目的物トシテ珍重セラル、ニ至ツタ。『大鏡』醍醐天皇ノ紫野ノ行幸ノ條ニ

サテ山グチ入ラセ給ヒシ程ニ、シラセウトイヒシ御鷹ノ、鳥ヲトリナガラ、御輿ノ鳳ノ上ニ飛ビ參リテ侍ヒシ、ヤウく日ハ山ノ端ニ入り方ニ、光ノイミジウサシテ、山ノ紅葉錦ヲ張リタルヤウナルニ、鷹ノ色ハイト白クテ、雉ハ紺青（こんじやう）ノヤウニテ、羽ウチヒロゲテ居テ候ヒシ程ハ、マコトニ雪少シウチ散リテ、折節トリ集メテ、サル事ヤハ候ヒシトヨ

トアル。初メニ「鳥ヲトリナガラ」トアツテ、次ニ「雉ハ紺青ノヤウニテ」トアルヲ見テモ鷹狩ニ於テ鳥トイヘバ雉ヲ意味スル程デアツタ事ガ分ル、ソレニ大鏡ノ此ノ條ハ、如何ニモ美シイ文デアアルカラ、特ニ本文ヲ引イタノデアアル
雉子モカク珍重セラレルヤウニナツテカラハ、贈答品トシテ用井ラレタ。伊勢物語ニ

昔太政大臣ト聞ユルオハシケリ。仕ウ奉ル男、九月（なかつ）バカリニ、梅ノ造リ枝ニ、雉ヲツケテ奉ルトテ

我ガタノム君ガタメニト折ル花ハ時シモ分カヌモノニゾアリケル云云

トアル。「トキシモ分カヌ」ノ句ニ雉トイフ語ヲ隠シテアルノデ、風流ナ進物ニ一層ノ興ヲ添ヘタノデアアル
段々雉ノ値打ガ上ツテ來ルニツレ、其ノ肉モ非常ナ御馳走トセラレルヤウニナツタ事ハ勿論デ、古事談ニ

徳大寺（藤原實能）大饗、宇治左府（藤原賴長）向ハシメ給ヒシ時、法ノ如ク食ハシメ給フ云々。事畢ルノ後雉ノ足ノ食ヒヤウ別足ノ食ヒヤウ見習ハントテ人々群レ寄り見ケレバ、繼日ヨリハ上ヲ少シ分ケテ切りタリケルヲ、カバマリタル方ヲ、一口食ハシメ給ヒタリケリ

トアル。此ノ文ノ意味ハヨク分ラナイガ、兎ニ角、平安朝時代ノ末ニハ、既ニ雉ノ食ヒ方ニ故實カアツタ事ガ分ル。

カウイフ風ニ雉子ガ貴イモノニナツテ來タトイフ事ガ、此ノ時代以後ニ出來タ說話ニモ現ハレテ井ル。即チ室町時代ニ出來タラシイト稱セラレル桃太郎ノ話デハ、雉ハ既ニ吳下ノ舊阿蒙デナイ。一廉ノ立役ヲ勤メテ井ル。思フニ、雉ガ犬ヤ猿ナドイフ當時ノ子供ノ玩ビ物ト一絡ニ、此ノ新シイ說話中ノ人物トシテ當場スルヲ得タ事ハ、上古ニ於ケル童幼トノ親ミノ餘榮デアルガ、其ノ勤メル役ガ好クナツタ事ハ會々以テ童幼トノ親ミノ減ジタ事ヲ證スルモノト言ツテヨカラウ

此ノ結論ハ、鎌倉室町時代ニ出來タ源平盛衰記ヤ太平記ニ見エテ居ル「雉子ノ隠レ」トイフ諺ニハ、上古ニ於ケルト同様雉子ヲ道化役者トシテ扱ウテ居ル事ト矛盾スルヤウデアルガ、サウデナイ。諺トイフモノハ非常ニ久シイ生命ヲ持ツテ井ルモノデアル。雉子ノ隠レトイフ諺ハ、現ニ今日「頭隠シテ尻隠サズ」トイフ形ニ生レ變ツテ、而モ、全ク昔ナガラノ生命ヲ保ツテ居ル。ソレ故盛衰記ヤ太平記ニ於テモ、諺ノ上デハ上古ノ傳統ヲ承ケテ、カク雉ヲ安ク扱ツテ井ルノデアル。又他ノ一面カラ説明スルト、鎌倉時代以後ハ田舎ノ武士共ガ京都鎌倉等ノ都會ニ集ルヤウニナツタ爲、田舎ノ諺ガ都會ニ輸入セラレテ、文學上ニ現ハル、ニ至ツタワシテ田舎ノ事情ハ上古ノ都會附近ノ事情ト略似タモノデアラウカラ、隨ツテ其ノ諺モ上古ノ諺ト一致スル所ガアルノカモ知レン。然シ予ハ諺トイフモノ、性質上カラ考ヘテ、前ノ説明ガ正シイト信ズル

い か も の 飼 (一)

理 學 士 鷹 司 信 輔

鶯・駒・雲雀、サテハ金絲雀・十姉妹・鸚鵡・九官等普通ノ飼鳥ノ如キ其飼方ハ讀者諸君ノ熟知スル所デ有ルカラ、余ハ其他ノ餘リ世間ニテ多ク飼養セラレザル鳥類ノ飼方ヲ少シ述ベテ見様ト思フ。勿論之ハ自身ノ經驗ト云フノデハナイ、不幸ニシテ自分ハ未ダ夫レ丈ノ事ヲナス餘裕ト機會トヲ有セヌ、然シ讀者ノ内ニハ之ヲ試ミ得ラル、方々モ有ランカト、試ニ先ヅ先人ノ經驗ヲ記スル事ニシタ

一、翡翠科 Alcedinidae

本科ノ鳥學の特徴ノ詳シキ事ハ他ノ鳥學ノ書物ニ譲ル事トシテ、此處デハ單ニ大キナ長イ丈夫ナ嘴ヲ有スル鳥デ、一般ニ尾ハ短ク（或ル屬ノ物ハ中央ノ二枚ノ尾羽ガ甚シク延ビテ居ル）足ハ小サク極テ纖弱デ有ルト丈ケヲ述テ置ク。しやーぶ氏ハ此ノ科ヲサラニ川翡翠亞科（*Alcedininae*）ト山翡翠亞科（*Hylodinae*）ノ二ニ分ケタ。川翡翠亞科ノ鳥ハ嘴ガ細長クテ平タク嘴峰ガ著シク尖起シテ居ル、ソシテ魚類ヲ主ナル食物トシテ居ル。又山翡翠亞科ノ鳥ハ嘴ガ厚ク嘴峰ハ尖起スル事ナク或ハ丸ク或ハ平ク或ハ少シ中低ニナツテ居ル、主トシテ昆蟲・蠕蟲・或ハ爬蟲・兩棲類ノ如キ物ヲ食シ時ニハ力弱キ鼠・鷄鳥等ヲスラ捕食スル事ガ有ル。夫レ故飼鳥トシテハ前者ヨリ後者ノ方ガ容易ニ飼育スル事ガ出來ル物デ有ル

イ、かわせみ 學名 *Alcedo bengalensis* Gm. 英名 *Kingfisher*

上部ハ瑠璃色デ下部ハ褐色ノ雀位ノ大サデ水邊ニ來リ水中ノ小動物ヲ捕食スル最普通ノ鳥デ有ル親鳥ハ人ヲ恐ル、事甚シク餌付ク事ハ十中八九ハ難カシイ物デ有ル、夫レ故兒飼ニ依ルヲ可トナス、其ノ理由ハ猶以後ニ述ブル所ニテ一層明トナルデ有ラウ。先ヅ鳥親ノ飼ヒ付クニ成効シタ一例ヲ上グレバ、アル英國ノ婦人ガ翼ヲ怪我シタ一羽ノかわせみヲ捕ヘテ夫レヲ紅雀等ヲ入レタ追込ニ放シタ無論翼ヲ害シテ居ル故止リ木ニ飛ビ移ル事ガ出來ナイノデ芝土ノ一塊ト小サナ切株ヲ一個止ル爲メニ籠ノ中ヘ入レテ置イタ。かわせみハ初メノ間ハ之レバカリニ止ツテ居タガ間モ無ク翼ノ怪我ガ直ルト止木ニモ止ル様ニナツタ、シカシ何レカト云ヘバ、前者ノ方ヲ好ンデ居ツタ又此他ニ籠ノ中ヘ大キナ陶器ノ盤ヲ一個入レテ置イテ其ノ中ヘ日ニ三四回一回ニ六七尾ノ小魚ヲ放シタ。サテ

かわせみハ斯ノ如クシテ間モ無ク甚ダ馴染デ魚ヲ盤ニ放サウトスルトスグニ來テ盤ノ縁ニ止ツテ餌ヲ取ル様ニナツタ。餌トシテ與フル魚ノ種類ハ色々ナ川魚デ皆良ク食ツタガ、就中一番小サナ白楊魚ヲ好イタ様デ有ツタ。此鳥ハ此ノ餌デ至ツテ健康ニ少シモ身ノ籠中ニ在ル事ヲ知ラザルガ如キ狀態デアツタガ或日誰カバ面白半分ニ一度ニ十三尾モ魚ヲ食シタノデ、之ガ爲ニ消化不良ニ陥テ終ニ斃死シテシマツタ。之レハ野ニ居ル時ハ此分量ノ二倍程ノ魚デモ容易ニ消化スル事ガ出來ルノデ有ルガ、何ヲ云フニモ籠ノ中デハ運動ガ野生ノ時程充分ニ出來ヌ爲ニ不消化ニ陥タ物ト思ハレル又べくし。たいん氏ニ依レバ此鳥ハ無論中々餌付カナイ物デアルガ

只一ツ餌付イタ例ヲ知ツテ居ルト云フ事デアル。其法ハ鳥ガひく返セヌ程ノ大サノ水盤ノ中ヘ死シテ魚ヲ投ジテ置イタガ其ノかわせみハ常ニ止リ木ヨリ飛ビ下ル事ナク枝ヲ傳ツテ降ツテ餌ヲ取ツタト云フテ居ル、又成鳥ハ初ノ中ハ人ノ見テ居ル前デハ決シテ餌ヲ食フ物デナイト云フテ居ル。氏ノ説ニヨルト追込ヨリハ大形ノ籠ニ水盤ト止木ト、止ル爲ノ土地トヲ入レタ物ガ良イヲシテ餌ハ小魚・蛙・蚯蚓ヲ初メニ與ヘテ夫レカラ牛肉ニ馴ラスガ可イト云フ事デアル。次ニ兒飼ノ法ヲ述ブレバ先ヅ第一ニじょせふ、ひると云フ人ノ説ク所ニ依レバ兒ハ川岸ノ堤ニ穴ヲ掘タ巢ノ中ニ居ル、巢ハ二三尺ノ深サデ兒ハ一ノ巢ニ五六羽居ル。兒ハ餘リ成長シタモノデハ不可デ有ル丁度巢立ノ一週間程前ノ物ガ良イ、ソレデ無イト老鳥ハ人ヲ恐レテロヲ開カヌ物デ有ル。サテ兒ヲ取ルヤ直ニ小サナ籠ニ乾イタ土ヲ厚ク敷イテ獨デ飛ベ又餌ガ食ヘル迄置イテ置クノデ有ル。斯ク下ヘ土ヲ敷ク事ハ排泄物ノ掃除ニ便利ナ爲デ有ル。夫レカラ初メハ川魚(如何ナル魚デモ良イ)ヲ良ク骨ヲ取ツテ細ク切ツテ與ヘ、成長スルニ從ツテ料理モ粗糲ニシテ良イ。ヤガテ獨デ自分ノ所置ガ出來ル様ニナルト此ノ小サナ籠ヨリ出シテ追込ミナリ大形ノ籠ニナリ移スノデ成ル可ク他ノ種ノ鳥ト雜ヘヌガ良イソシテ餌モ前記ノ物ノ間ニ牛肉ヲ加ヘ、カツ餌皿ヨリ取ル様ニ慣ラスノデ有ル、スルト間モ無ク鳥ハ餌皿ヨリ容易ニ餌ヲ食フ様ニナル。カクシテ餌付タ鳥ノ餌ハ牛肉ニ魚肉ト糞ヌキ卵ノ少量ヲ混ジタ物ガ良イ、シカシ中ニハ牛肉ヲ好デ魚肉ヲ欲シナイ者モ有ル。又籠ノ中ヘハ斷ズ水盤ヲ置ク必要ハ無イ、毎日鳥ガ一度水浴ヲシタラスグ出シタ方ガ良シイ、餘リ長ク入レ置クト鳥體ヲ濕シ過ギテ病ヲ起ス虞ガ有ル。猶、時々餌ニ變化アラシムル爲蚯蚓ヲ蛙ノ手ニ入ツタ機會ニ之ヲ與フル様ニシタ方ガ良イ。前ニモ述べタ如ク他ノ種ノ鳥ニ對シテハ同居サス事ハ好マシカラヌ事デ有ルガ、かわせみ同志ハ極テ平和デ有ルカラ兒飼ノ鳥ハ人ニ良ク馴親ミ飼主ノ手ヨリ容易ニ餌ヲ食フ物デ有ル。若シ生魚ヲ與フル時ハ先ヅ頭ヲカミクダキ次ニ之ヲ空中ニナゲ上ゲ落ルノヲ受ケテ食フ物デ有ル次ニてんぶる氏ノ經驗ヲ舉グレバ氏ハ一羽ノ兒飼ノ鳥ヲ普通ノ黑鳥籠^{アラツクバード}(高サ十八吋幅十六吋、奥行十二吋位ノ四角ナ籠)ニ入レテ九ヶ月間飼ツテ置イタガ如何ナルハヅミカノ籠棧ノ間ニ首ヲ挾ンデ縊レ死デシマツタ、其ノ生テ居ル間ハ毎日二十尾ノ鰻魚ヲ飼主ノ手カラ直接ニ食フ様ニ與ヘタ。(即チ餌器ニ入レテ夫ヲ食ハス事ヲセズニ)丁度此様ナ狹イ籠デハ適度ノ分量ト見ヘテ死ヌ迄極テ健康デ有ツタ。餌ハ鰻魚ニ限り、若シ無イ時ハ鰻魚ト同ジ位ノ大サニ牛肉ヲ切ツテ夫ヲ一度水ニ濕シテ與ヘタ。籠ノ底ニハ

ヨク鋸屑ヲ敷キ一方ノ隅ニ深キ水盤ニ水ヲ滿シテ入レテ置イタ其ノ後猶數回追込ミヤ籠デかわせミヲ飼ツタ事が有ル例ヘバ最近ニ飼ツタ鳥ノ如キハ至極馴レタ兒飼ノ鳥デ夫レヲ戶外ニ有ル追込ニ入レ、追込ノ前面ニ長サ四呎幅十八吋深サ五吋ノ亞鉛^{トタン}ノたんくヲ作り底ニ砂礫ヲ敷キ其ノ中ヘ鰻ヲ放ツタ。猶其ノたんくノ上ヘ一呎程ノ高サニ枝ヲ出シテ其處ニ止ツテ魚ヲ取ル様ニシタ、シカシ鳥ハ其ノ止リ木ニ止ラズニ四呎程ノ高サニ在ル止リ木ニ止リ夫レカラ飛ビ下リテたんくノ中ノ魚ヲ捕ツタ。其ノ捕リ方ハ暫ク魚ヲ狙ラツテ居ツテ夫レカラ矢ヲ射ル如ク眞逆ニ飛ビ下ツテ魚ヲ捕ラヘルノデ有ル、其ノ爲ニ遂ニハ嘴ヲ折ツテ死デシマツタ。(此事ハべつくしめたいん氏ノ觀察ト異ル所デ有ル)其處デ氏ハ結論シテ水狗ハ籠デモ追込デモ飼フ事が出來ル。籠ノ場合ニハ必ラズ手飼ニシテ餌ノ分量ハ一日二十乃至二十五尾ノ鰻魚ガ適當デ有ル、追込デハ前記ヨリ猶深イたんくガ必用デ有ル、而シテ一日ノ鰻ノ數ハ籠時ヨリ多キヲ良シトスルガ何レカト云ヘバ氏ハ籠デ小量ノ餌デ飼フ方が成効スト考ヘルト云フテ居ル。猶牛肉ノ代ニ大形ノ魚類ノ肉ヲ小サク切テ與ヘテモ良カラウト附言シテ居ル(我國ニテ試ルナラ鱸ヤ死ダ生ノ魚肉ニ付ケ——田舎ニ於テハ上記ノ如ク生餌ノ品ヲ一定セズ水棲動物ノ手ニ入ツタ時生タ物ヲ與ヘレバ良イ、貝類モ肉丈ナラ良イト思フ——追込ノたんくハ深サヲ一尺程ニシ五寸位ノ廣サニ極軟ナ泥ヲ敷キ其ノ上ニ薄ク砂ヲ覆ヒ夫レニ魚ヲ放シタラ嘴ヲ折ル事ヲ何ウカ防グルト思フ)又ろんごんノ動物園デハ涉水鳥ノ追込ノ中デ水狗ヲ飼ヒ八呎程ノ高サノ所ニ小サナ亞鉛ノ桶ヲ網ニ懸ゲ、飼手が時ヲ定メテ二三疋ノ鰻魚ヲ其ノ内ニ放スト水狗ハ直ニ飛ビ來ツテ之ヲ食フ、此ノ場合ニハ器ガ小ナル爲器ニ飛ビ込ム事が出來ズ器ノ縁ニ止ツテ魚ヲ捉ル丈デ有ルカラ嘴ヲ折ル恐レガ無イ、シカシ初メ小サナ餌壺ヲ見出サセル事が甚ダ困難ナ事デ、見出ス迄ニ餓死ヌ物ガ有リハセンカトノ恐レガ有ル

ろ、山 翡翠 類

此類ハ川翡翠類ヨリハ一般ニ大形デ我國ノ産デハあかせうびん (*Halcyon colerata*) ト云フ嘴ノ赤イ體ノ紅褐色ノ鳥ガ先ヅ普通ノ方デ有ル其ノ他やませみ (*Ceryle guttata*) ト云フ冠毛ノ有ル全身黑白ノ斑ニナツテ居ル物モ居ル。此等ハ飼付ケハかわせみの如クシ餌付イタ時ハ新イ生ノ死魚肉ヲ切タ物ヤ蚯蚓ヤ小形ノ蛙蜥蜴ノ如キ物ヲ與フレバ良イ又濠洲ノわらいかわせみ (*Dacrydium*) ヤ聖木狗 (*Halcyon sancta*) ノ如キ陸上生活ヲナス物ハ牛肉ニ蚯蚓粉蟲 (*tribolium*) 鰻鼠小魚大キナ昆蟲等ヲ副食物トシテ與フレバ良イ故

陸棲（水邊ニ居ラザル物）ノ鳥ノ方が同ジかわせみ類ノ内デモ又一層飼ヒ易イ鳥デ有ル。本類モ爭ヲ好ム故單獨或ハ一對丈デ飼フ可キ鳥デ有ル（未完）

音 樂 ノ 無 イ 野 原

理 學 士 石 井 重 美

夏ノ夜ノ明方、靜カナ山ノ家ノ窓近ク、狹霧ノ立籠メタ林ノ中ニ、可愛氣ナ喉ヲ膨ラセテ、*ミーン・ミツビ・ミーン・ミツビ*ト快イ朝ノ歌ヲウタツテ居ルノハ、ほゞじろデアル。カノ *Michèle* ガ “Voix allées, voix de feu, émanations d’une vie intense, d’une vie voyageuse, mobile, qui donne au laboureur fixé sur le sillon des pensées plus serviles et le rêve de la liberté” ト云ツタ *Chantour en plein air* デアル。彼等ノ歌ハ音樂ニシテ、同時ニ又立派ナ詩デアル。ソレ等ノ歌ニハ、ソレハ特徴ノアルイロ／＼ノ情調ガ含メラレテ居ル。詩ヲ以テ一種ノ情調ヤ音樂ヲ表ハソウトスル今ノ世ノ詩人ハ、此ノ天分ノ豊カナ自然ノ歌手ニ學フ所ガナクテハナラス。自分ハ、曾テ、或ル暖ク晴レタ春ノ日ニ、南ノ國ノ山奥デ聞イタ事ノアル、綠色ニ萌エ出タ樹ノ若芽ヲ啄ミツ、鳴イテ居タ、如何ニモ南國ノ春トイフ明ルイ情調ニ適ハシイ、可憐ナましこノ聲ヲ忘レル事が出来ナイト共ニ、又、北國ノ冬ノ真夜中ニ、人跡ノ絶エタ湖畔ノ荒屋ニ旅寢シテ、何處ヲ見渡シテモ只眞白イ雪ノ上ニ、磨ギ澄シタ鏡ノヤウナ大キナ月ノ光カ、物凄イ程鮮ヤカニ照リ渡ツテ居ルノヲ眺メテ居タ時、突然、ソノ月ノ掛ツテ居ル方向ノ裏山ノ空林ノ中カラ、何物ヲモ壓シテ了ハフトスル、太イ、恐ロシイ、魔物ノヤウナ *ふくろう*（しまふくろうカ）ノ聲ノ響イテ來タ瞬間ノ感想ヲモ忘レル事ハ出来ヌ

鳥ハ、單ニ、其ノ鳴聲ガ愛スベキデアル許リデハナイ。歌ハウタツテモ歌ハナクテモ、美シイ色ノ羽毛ヲ持ツタ鳥ガ澤山ニアル。例ヘバかはせみきびたききくいたぎましこれんじやくやいろつぐみナドハ、皆ナ、目覺ル許リノ美シイ色ヲ持ツテ居ル。又其ノ輕快ナ舉動ヤ、特殊ノ形態ナドカラ云ツテモ、愛スベキ者ガ澤山アル

一般ニ、鳥ヲ好愛スル者ハ、ソレヲ狹イ籠ノ中へ入レテ飼ツテ見ネバ、氣ガ濟マヌヤウデアル。然シ、自分ナドノ見ル處デハ、鳥（之ハ單ニ鳥ニノミ限ツタ事デハナイガ）ハ、矢張り、野山ニ、自然ノマ、ニ、氣儘方題ニ活キテ居ルノヲ見ルノガ一番面白イ。籠ノ中ニ入レタノデハ、色モ、澤モ、聲モ、總ベテ活キ／＼シタ處ガ無クナツテ了フヤウニ思ハレル。況シテ、一時ノ座興的ニ、人ノ名ヲ呼バセテ見タリ、或ハ他ノモノ、聲ヲ眞似サセタリシテ喜ンデ居ル處ナドヲ見ルト、思ハズ耳ヲ蔽ヒタクナル。尤モ、其ノ道ニ専門ナ愛鳥家ニナルト、四季折々ノ細密ナ注意ヤ、音色ノ出サセ方ナドニ就テノ苦心ノ中ニ、云ヒ知レヌ興趣ヲ見出スモノデアルカモ知レヌガ、ソレハ恰度、所謂芝居ノ見巧者ガ、徒ラニ古イ歴史の因襲ヤ型ナドノ、枝葉ニ亘ツタ微點ニノミ眼ヲ注イテ、大切ナ演劇ノ精神ヤ一般的ノ情調ニ風馬牛デアルノト同様ニ、少クトモ自分等ノ立場カラ見レバ、眞ニ愛鳥ノ精神ニ叶ツタモノデハナイ。鳥ハ、矢張り、朗カニ晴レタ林ノ中デ鳴イテコソ快クモアリ、又秋雨ノ烟ツタ湖上ヲ飛ンデコソ淋シクモ見ユルノデアル

野山ニ自生シテ居ル鳥ノ數ハ、年々減ジテ行クヤウデアル。食鳥トシテ捕獲サル、鳥ノ數丈デモ、驚クベキ多數ニ上ツテ居ル。自分ハ先年、靜岡地方デ、食用ノ爲ニ極メテ多數ノいかるガ捕ヘラル、事ヲ見タ。此ノ他猶ホ、イロ／＼ノ目的ノ爲ニ捕ヘラル、モノ多ク、又、單ニ、せるふい／＼し、き／＼おし／＼の爲ニ傷害セラレル者モ少ナクナイコトデアラウ。斯ノ如クニシテ、吾々ノ愛スベキ天然ノ樂手ハ、年々ニ其ノ數ヲ減ジ、而シテ其ノ跡ニハ、音樂ノ無イカラビタ野原ヤ、煙ノ臭ト器械ノ音ノミスル、ガサガサシタ町ガ残ツテ行ク

或種類ノ鳥ハ、農業其ノ他ノ産業ニ有害デアルトイフ理由ノ下ニ、其ノ捕獲・殲滅ヲ獎勵サレル場合ガアル。然シナガラ、鳥類ノ習性ハ中々複雑ナモノデ、表面餘程有害デアルヤウニ見エル者デモ、ソノ實ソレ程有害デバナク、又、一方デ多少有害ナコトヲシテモ、他方デソレ以上有益ナ仕事ヲシテ居ルヤウナ場合ガ可ナリニアルラシク思ハレル。今、一例ヲ舉ゲテ見ルト、亞米利加ニ居ルまし／＼ノ一種ニ、*Carpodacus mexicanus frontalis* ト呼ブ鳥ガアル。此ノ鳥ハ、古來、其ノ地方ノ果樹園ニ非常ナ慘害ヲ與ヘルモノトシテ厭ハレテ居タガ、合衆國農商務省ノ F. E. L. Peal 氏ガ近時行ツタ精細ナ調査ノ結果ニ據ルト、之レハ、決シテ從來信ゼラレ

テ居タ程厭フベキ鳥デハナク、寧ロ種々ナ點ニ於テ有益ナ仕事ヲシテ居タノデアル。況ンヤソノ美シイ羽毛ノアルチャ。又可憐ナ美聲ヲ有スルチャ。ピール氏ハ幸ニコノ點ヲ指摘スルコトヲ忘レナカツタ。即チ彼ハソノ報告書ノ中ニ下ノヤウニ云ツテ居ル。

“.....the bird's claim to favorable consideration must rest upon its valuable services as a consumer of weed seed and upon its esthetic value. It is trim and pretty, has a sweet song, and in many ways is a pleasing adjunct of rural life.”

野鳥ノ減少ヲ悲シミ、其ノ瀕獲ヲ嘆クノハ、ヒトリ吾々許リデハナイ。イツゾヤ、Einus トイフ人ノ「英吉利ノ鳥」トイフ小サナ本ヲ見タラ、ソレニモ矢張り同ジ様ナコトガ書イテアツタ

其ノ思想文字ノ典雅ト光明トヲ以テ、十九世紀ノ世界文壇ニ英名ヲ馳セタ Matthew Arnold ノ詩ニ、下ノヤウナ一節ガアル。

‘Most men in a brazen prison live,

Where in the sun's hot eye,

With heads bent o'er their toil, they languidly

Their lives to some unmeaning task-work give,

Dreaming of nought beyond their prison wall.

And as, year after year,

Fresh products of their barren labour fall

From their tired hands, and rest

Never yet comes more near,

Gloom settles slowly down o'er their breast,

And while they try to stearn

The waves of mournful thoughts by which they are prest,

Death in their prison reaches them,

Unfreed, having seen nothing, still unblest.”

吾々ハ思フ潜メテ、靜カニ此ノ賢者ノ言葉ニ耳ヲ傾ケネバナラス。凡ソ無自覺ナ活動程世ノ中ニ無意味ナモノハナイ。而モ、ソノ

無自覺ナ活動ガ今ハ至ル處ニ蔓延シテ居ル。而シテ忽チ長カラヌ生命ノ終焉ガ近ヅク。吾々ハ、餘リニ多く、色彩ノ濃厚ナ現代生命論者ノ説ニ迷ヒ入ツテハナラヌ。極端ナ生命論者ノ辿リ着ク境地ハ、疑モナク第二ノ幻影消滅デアル。而シテ最後ニ殘ルモノハ何時デモ更ニ一層大キナ、不可思議ナ、神秘ナ自然デア

生命ハ愛養シ度イ。然シナガラ決シテ之ヲ亂使シ盲用シ度クハナイ。生命ヲ愛養シ慈育スル爲ニハ、吾々ドウシテモ自然ニ歸ラナクレバナラヌ。自然ハ實ニ吾々ノ故郷デアリ、又天國デア

『吾々ハ人間ヲ愛セザルニアラズ、

然シナガラ更ニ一層多く天然ヲ愛ス』

ト云ツタばいろんノ語モ、亦此ノ邊ノ消息ヲ傳ヘテ居ルノデア

野鳥ハ、實ニ、吾々が自然ノ伴侶ナルモノ、中、最モ美シク且ツ最モ愛スベキモノ、一ツデアル。自分ハ此ノ意味ニ於テ、絶對的ニ野鳥ノ濫獲ヲ慎ムト共ニ、一方其ノ保護繁殖ヲカムル事ヲ望ム者デア

尾羽ノ如ク思ハル、羽

黒田長禮

鳥類ノ尾ハ尾羽ト尾筒トヨリ成リ、前者ハ普通強直ナル長羽ニシテ一般鳥類ハ十二枚ナレドモ少キハ十枚ヨリ多キハ二十四枚以上ニ達ス。左右常ニ對ヲナスヲ以テ偶數ナリ。後者ハ尾羽ノ基部ヲ被覆スル柔軟ナル小羽ニシテ上尾筒ト下尾筒トアリ。以上記シタル如ク兩者ハ全然タル區別ヲ有スルモ種類ニヨリテハ外見上何ゾレナルカタ定メ難キ場合比較的多ク、屢誤認セラル、コト尠カラズ。因テ左ニ是等ノ特殊ノモノニ就キ述ベントス

鷺科ノ鳥類ハ尾羽甚ダ短カクシテ兩翼ニテ覆ハル、ヲ常トス。且ツ繁殖時季ノモノハ背ヨリ多數ノ所謂簀毛密生シ延長シテちうさぎだいさぎノ如キハ全ク尾羽ノ如キ外觀ヲ呈ス。鴨亞科ニ屬スルよしがもノ雄ハ生殖時季ニアリテハ、三列風切延長シテ鎌狀ヲ呈シ、之レ又尾羽及ビ初列風切ヲ蔽ヒテ尾羽ノ如ク見ユ。次ニ秧鷄科ニ屬スルモノハ尾羽短カク上尾筒能ク發達シテ之レヲ覆フ。鶴科ノたんちやうノ尾羽ハ黑色ナリト思フモノ甚ダ多キガ如キモコハ誤リニシテ實ハ三列風切ニヨリ尾羽ヲ覆ヘルナリ。眞ノ尾羽ハ短カクシテ純白ナリ。なべづるまなづる等ノ場合皆同様ナリ

外國產鳥類中ニハ好適ノ例アリ。例ヘバ米國產ノ鷺一種ニテ *Herodias egretta* ト稱スルモノハ我がだいさぎノ場合ト同様ニシテ美麗ニ延長セル背及ビ腰ノ羽毛ハ全ク尾羽ノ如ク見ユ。次ニ *Porphyrus* ニ屬スル *Porphyrus erythrogastrus* 常ニ長キ針金ノ如キ觀ヲナス。コレ兩瓣ヲ缺如スルニヨル。次頁ノ圖ハ *P. minor* (*Lesser Bird of Paradise*) ノ標本ヲ撮影セルモノニシテ尾羽ト脇部ノ羽毛トヲ特ニ示セルモノナリ。次ニ中央亞米利加ニ產スル *Thytoma rufum* 中ノ *Thytoma rufum* (英名ニテ *Quezal*) ハ當ニ羽毛ノ色彩最美ナルノミナラズ上尾筒ハ甚ダシク延長シ特ニ中央ノ一對ハ尾羽ノ四倍以上ニ達ス、全ク尾羽ノ代



鷺科ノ鳥類ハ尾羽甚ダ短カクシテ兩翼ニテ覆ハル、ヲ常トス。且ツ繁殖時季ノモノハ背ヨリ多數ノ所謂簀毛密生シ延長シテちうさぎだいさぎノ如キハ全ク尾羽ノ如キ外觀ヲ呈ス。鴨亞科ニ屬スルよしがもノ雄ハ生殖時季ニアリテハ、三列風切延長シテ鎌狀ヲ呈シ、之レ又尾羽及ビ初列風切ヲ蔽ヒテ尾羽ノ如ク見ユ。次ニ秧鷄科ニ屬スルモノハ尾羽短カク上尾筒能ク發達シテ之レヲ覆フ。鶴科ノたんちやうノ尾羽ハ黑色ナリト思フモノ甚ダ多キガ如キモコハ誤リニシテ實ハ三列風切ニヨリ尾羽ヲ覆ヘルナリ。眞ノ尾羽ハ短カクシテ純白ナリ。なべづるまなづる等ノ場合皆同様ナリ

常ニ長キ針金ノ如キ觀ヲナス。コレ兩瓣ヲ缺如スルニヨル。次頁ノ圖ハ *P. minor* (*Lesser Bird of Paradise*) ノ標本ヲ撮影セルモノニシテ尾羽ト脇部ノ羽毛トヲ特ニ示セルモノナリ。次ニ中央亞米利加ニ產スル *Thytoma rufum* 中ノ *Thytoma rufum* (英名ニテ *Quezal*) ハ當ニ羽毛ノ色彩最美ナルノミナラズ上尾筒ハ甚ダシク延長シ特ニ中央ノ一對ハ尾羽ノ四倍以上ニ達ス、全ク尾羽ノ代

シテ腰及ビ上尾筒少シク延長シテ全ク尾羽ヲ覆ヘリ。にいぎにあ産ノ極樂鳥ノ類ニテ *Paradisus* 屬ノモノ四種アリ何ヅンモ脇部ノ羽著シク延長シ尾羽ヨリモ長ク垂下シテ甚ダ美シ。尾羽ハ單ニ栗色ヲ呈スルノミ只中央ノ二枚ハ本屬ニアリテハ

用トナリタル如ク思ハル、而シテ眞ノ尾羽ハ中央ノ六枚ノミ黒色ニシテ他ハ白色ナリ、本種ハ又雨覆羽モ著シク延長セリ。吾人ニ最モヨク知ラル

、鳥類ニシテ而

カモ上尾筒ガ尾

羽ノ如ク思ハル

、モノアリ即チ

孔雀ハ其好例ナ

リ。じやば及ビ

印度支那地方産

ノまぐじやく

(*Pavo muticus*) 及

ビ印度産ノほう

わうじやく (*P.*

cristatus) ニアリ

テハ一見尾羽ノ

如ク見ユル部ハ

凡テ上尾筒ノ延

長セルモノニテ

以上ハ數種ノ場合ニ就テ實例ヲ述べタルガ之ヲ羽毛ノ種類ニヨリテ區別セバ



種一の鳥樂極
す示むと羽脇と羽尾

其先端ニ燦斑アリ。眞ノ尾筒ヲ見ントセバ此上尾羽ヲ扇形ニ開キ直立セシメタル時裏面ヨリ觀察セバ容易ニ認ムル事ヲ得。或ハ又六月末ニ上尾筒脱落スルニヨリ其時期ニモ黒色ノ尾羽ヲ實見スルコト難カラズ。次頁ノ圖ハ上尾筒ノ中央ノモノ外側ノモノ及ビ眞ノ尾羽ヲ示ス。

- 一、上尾筒ノ延長セル場合
- 二、腰羽及び上尾筒ノ延長セル場合
- 三、背及び腰ノ羽毛延長セル場合
- 四、脇羽ノ延長セル場合
- 五、三列風切ノ延長セル場合

右ノ内上尾筒ノ延長セル場合最多シ

因ニ左ニ余ノ飼養セルまくじやくノ上尾筒ガ羽衣脱更ノ爲メ脱落スル現象ヲ調査シタル結果ヲ附記スベシ。本種ノ上尾筒ハ毎年六月下旬ニ脱落シ始ム。去ル大正二年ニアリテハ六月二十八日より始マリ八月六日ニテ全部脱落シ終リメ左表ニ示セル如ク殆ンド日々數枚乃至十數枚以上脱落セ

[illegible]

同	七月十六日	三	七月二十二日	二	八月四日	計 百五十六枚
同	十七日	三	二十三日	〇	同日	
同	十八日	四	二十四日	〇	同日	
同	十九日	二	二十五日	一	六日	
同	二十日	一	三十六日	二	計	
同	二十一日	〇	同	〇	計	
		〇 同 二十七日—八、三				

右ノ表ニヨレバ上尾筒ノ數ハ百五十六枚ニシテ脱落シタル日數ハ二十七日ナリ故ニ約一ヶ月ヲ要スルコトヲ知ル。一日ノ脱落數ハ平均六枚弱ナリ

上尾筒及ビ尾羽ノ測定左ノ如シ、(但シ一呎以下ノモノヲ除ク)(前頁ノ圖參照)

- | | | |
|---------------|---------|----------------------|
| 1. 最長ノ上尾筒 | 四呎六吋 | 先端ニ燦點ノミヲ有スルモノ即チ中央ノモノ |
| 2. 普通ノ上尾筒 | 三呎二・七五吋 | |
| 3. 稍短キ上尾筒 | 一呎四・三八吋 | |
| 4. 外側ニ近キ上尾筒 | 二呎 | 燦點ト少シク變形セル部分トヲ有スルモノ |
| 5. 一層外側ニ近キ上尾筒 | 二呎八・二五吋 | 燦點ヲ全ク缺ケル大形ノモノ |
| 6. 最外側ノ上尾筒 | 一呎九・六三吋 | 燦點ヲ全ク缺ケル小形ノモノ |
| 7. 中央ノ尾羽 | 一呎一一吋 | |
| 8. 外側ノ尾羽 | 一呎五七吋 | |



ゑぞむしくひ

Phylloscopus tenuiipes Sw

ノ新產地ニ就テ

本種ノ形態 頭頂ハ黒褐色ニシテ眉班ハ擬白色其前方ハ汚黃色ヲ帶ブ脊面ハ一般橄欖褐色ニシテ光澤ヲ有セズ

初刻風切第一羽ハ短小ニシテ第二羽ハ第七羽ヨリモ長キ事凡〇、五ミリメートル、第四羽微ニ他羽ヨリモ長シ。翼ノ主要部ハ暗色ヲ呈シ、各羽縁ハ脊ト色ヲ同フス。雨覆部ニ二條ノ白褐色ノ帶ヲ有ス

腰・上尾筒ハ赤味ヲ帶ビ、尾羽ハ翼ト同ジク、體ノ下面ハ一般ニ灰白色ニシテ脇ハ淡褐色、腋羽及下雨覆ハ黃白色ナリ

上嘴及下嘴先端ハ暗褐色ニ跖蹠及趾ハ淡肉色ナリ

本種ノ分布 あむーるらんぎ・朝鮮・本邦北部ニ産シ支那南部・びるま等ニ到ル

從來本邦ニ於テハ北海道ニノミ産シゑぞむしくひノ名ヲ附セラレシモノナリ。然ルニ予ハ屢信州ヨリ四、六月ノ候本種ヲ得タリ此、*P. tenuiipes* ガ夏期ニ於テ本島中部ニ發見セラレシハ面白キ事實ニシテ或ハ此地方ニ於テ營巢産卵スルモノナランカ。然レドモ未ダ採集家ハ此巢及卵ヲ發見セズ。又猶充分ナル探究ヲナサバ夏期ニ於テ此種ヲ發見スル必ズ信濃ニハ限ラレザルベシ此信濃産ノ標本ハ内田學士ニ一見ヲ乞ヒタル後其一個ヲはるてるこ氏ニ送附セリ、同氏ハ夏期ニ於ケル新分布地ヲ知ルヲ得タリトシテ左ノ書面ヲ送ラレタリ

The Viscount R. Matsudaira

Tokyo

Dear Sir

The *Phylloscopus* is certainly not *Ph. borealis* but *Ph. tenuiipes* Swinh.

Your bird is dated *June*. If this date is correct it would prove, that *Ph. tenuiipes* occurs in summer in Japan and therefore would most likely breed there. It would be very interesting if you would investigate this question and let me know about it.

Hitherto we know *for certain* only the Eastern parts of Siberia and Manchuria as the breeding home of *Ph. tenuiipes*, but it has only been surmised that it also nests in Japan and Korea.

Ph. tenellipes is however, not rare on migration in various parts of Japan, as it winters in S. China, Burma, etc, etc.

Believe me

Yours truly

Ernst J. O. Hartort.

夏期ニ於ケルモノ、羽衣ハ冬期ニ於ケルモノ、羽衣ヨリモ稍濃色ナリ

P. Tenellipes ノ標本測定左ノ如シ

標本番號	產地	採集年月	喙峰長 10mm	翼長	尾羽	跗蹠	雌雄
142	北海道石狩札幌	8/2 1895	10mm	67	56	18	♂
1670	信濃南安曇郡温村	20/4 1912	11	67	57	19	♂
3491	同田村	7/6 1910	11	66	55	19	♂
1872	同田村	23/6 1912	10	63	51	18	♂
3398	同温川村	18/5 1910	10	63	51	18	♀
1873	同田村	28/5 1910	10	66	53	18	♀
3396	同田村	6/6 1910	10	66	57	19	♂

鳥ノ羽毛ノ用途

鳥類ノ羽毛ハ大體二ツノ用途ニ使用セラレル、一ハ婦人帽ノ飾リデアツテ、是ニハ翼及尾羽ガ主トシテ用井ラレ其他駝鳥ノ羽毛ダトカ白鷺ノ簀毛ダトカ特殊ナモノガ使用セラレル。他ノ一ハ蒲團枕「クツシヨン」等ノ綿ノ代リニ使用セラレ又ハ色々ノ織物ノ中ニ混織セラレル此用途ニハ上述ノ部分以外ノ羽毛ガ使用セラレ特ニ海鳥ノ綿毛ガ最上等品トシテアル。斯様な色々ノ用途ノ爲メ鳥類ガ年々捕殺サレル數ハ莫大ナモノデアツテ、近年世界各國共著シク鳥類ノ減少ヲ來シタ重ナル一原因ト認メテヨイ特ニ白鷺ノ如キハ其簀毛ガ飾羽トシテ最貴重ナルガ爲メ一匁五六圓ヲ値ス一亂獲最甚シク之ガ爲メ此鳥ガ絶滅シタ地方ガ二三ニ止マラス有様デアアル（次頁ノ圖ハ白鷺簀毛ノ採集ト其應用トヲ示ス）

斯様な次第デアルカラ近年歐米諸國ハ何レモ鳥類ノ保護増殖ニ力ヲ盡シ北米合衆國ノ「おーじのほん」會ノ如キハ之ガ爲メアユラル手段ヲ回ラシテアル。又英國政府ハ此問題ニ關シ萬國協約ヲ作ルノ必要ヲ認メ、近々萬國會議ヲ開催セントシテ既ニ我國ニモ其賛同ヲ申込デ來タノデアツタガ、歐洲戰爭ノ突發ニヨツテ目下立消トナツテアル

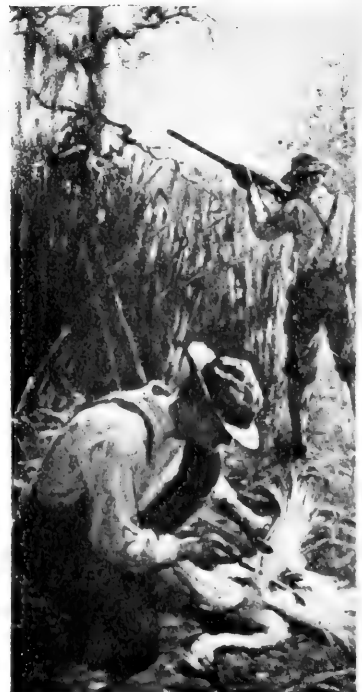
（松平頼孝）

扱次ニ我國ノ狀態ハドウ云フ風デアルカト云ニ從來此問題ニ就テハ別ニ何等ノ注意モ拂ハレズニヲツタ爲メニ歐米諸國デハ適當ナ供給地ト心得多數ノ注文ヲ發シ之ガ爲メ可憐ナ小鳥ガ如何ニ多ク犠牲ニ供セラレタカハ次ノ輸出額ヲ見レバ分ル通デアル

剥製鳥輸出額

年次	香港	英吉利	佛蘭西	獨逸	北米	其他	計
明治三十八年	八〇七一	—	六三三三	—	八九〇六	七八八〇	八七〇九
同三十九年	八三三三	—	九〇四〇	—	五〇三三	二六八三	一五九七三
同四十年	二七四四	五三六	二〇五二〇	二〇五五	八八五四	一〇二四	一四三六四
同四十一年	一三九四	二九	八六二五	一三七五	二七九	三七〇	一〇〇五

金額ハ右ノ如クデアルガ其數量ハ幾何カト云フニ、之ハ明ニ知



リ難イガ次ノ相場(明治四十年頃)カラ推シテ考ヘテ見レバ如何ニ莫大ナ數デアルカラ想像シ得ルデアラウ

ツグミ 三錢三厘 シロハラ 三錢三厘 アカハラ 三錢三厘
 カケス 六錢五厘 トラツグミ 十五錢 モズ 八厘
 スズメ六厘五毛 カハラヒワ 六厘五毛 アトリ 六厘五毛
 ヒヨドリ 一錢 ムクドリ 一錢 ウソ 一錢五厘 セキレ
 イ 三錢 レンジャク 二錢 キツツキ 三錢 キジ、ヤマドリ
 リ雄 三十五錢 雌 八錢 オシドリ雄 三十八錢 雌 十
 錢 アジサシ 三十五錢 カモメ 十五錢

明治四十一年以來ノ統計ハ今明デナイガ然シ幸ニシテ此以後ハ餘程減少シテ居ル様デアル、其理由ハ歐米ノ需要地ニ於テ鳥類

保護ハ萬國のニヤル必要ナル事ガ追々分ツテ來タ爲メニ單
自國ノ鳥類ノ捕獲ヲ禁止セルノミナラズ他國ヨリ輸入スル事ヲ
モ禁止シタ結果デアラウ

何ニシテモ僅々年額十數萬圓位ノ金ノ爲メニ諸種ノ有益ナル鳥
類ヲ年々莫大ナ數、殺シテ居ツタノハ如何ニモ愚劣ナ事デア
爾傳手ニ大分古イ統計デアルガ本邦ノ羽毛(前ニ述々綿代用並ニ
織物用)ノ輸出額ヲ次ニ掲ゲヤウ、尤モ此内ニハ大分家鴨ヤ鶏ノ
羽毛等ガ入ツテ居ル事ヲ注意スル必要ガアル

年次	數量	價格
明治三十年	四六七三二一 _斤	一三三二八 _円
同 三十一年	五四二一五一	一三五九三六
同 三十二年	五〇五七六八	一六〇五九七
同 三十三年	五九三三九一	一八四一六二
同 三十四年	三八五六五六	九二三〇二
同 三十五年	三六五〇三〇	八一七七一
同 三十六年	五六八九四三	七六四九九
同 三十七年	四七五九二四	九六一八一

(内田清之助)

雀ト鳥

雀ハ忠々鳥ハ孝々、忠ト孝トハ吾人ノ大本修身齊家ノ經典ナリ。
故ニ往昔ハ市街村落到ル所ニ其鳴聲ヲ聞シガ其忠ト鳴キ孝ト叫
ブ兩鳥類モ近來ハ害鳥トシテ或ハ公園ニ追撃セラレ或ハ懸賞シ
テ其繁殖産卵ヲ驅防スルニ至ル、從ツテ鳥ハ雀ニ比スレバ其繁
殖力劣レルヲ以テ一層著シク其數ヲ減ズルニ至ル

鳥ノ利害ニ就テハ其種類ト地方ニ依リ其ノ情況モ大ヒニ異ナル
ヲ以テ尙充分ニ研究スル餘地アルヲ信ズ。例ヘバ寒鳥ノ稻株ニ
潜伏セル螟蟲ヲ啄ミ(此事實ハ嘗テ中川久知氏九州ニ於テ發見
セラレシ所ナルガ、本年一月老生モ泉州路ヲ電車ニテ通過スル
際數羽ノ鳥頻リニ稻株ヲ啄ムヲ目撃セリ、唯距離ノ遠キタメ鳥
ノ種類ヲ識別スル能ハザリシヲ遺憾トス)夏秋ノ候蟬類ヲ捕食
シ或ハ路上ニ放棄セル肉片、斃死セル小動物ノ殘骸ヲ掃除シ又
森林中ノ蠹蟲ヲ啄食スル等ハ吾人ノ生活上間接ニ裨益アル二三
ノ實例ナレ共此等ノ利益ハ普通人ノ注意ヲ惹起セズ、鳥ノ果樹
園ヲ害シ、養魚池ニ稚魚ヲ盜ミ或ハ天蠶飼育林ニ蠶兒ヲ捕食ス
ルハ人目ニ觸レ易クシテ且直接個人ニ害ヲ與フルヲ以テ他ノ利
益ハ湮滅セラル、ニ至ル

雀ニ就テハ本年二月ノ理學界ニ大澤積水氏ノ高説アリ、老生モ同感ニテ吾人ガ雀ヲ利用スベキ春夏ノ繁殖時期ニ際シ其巢並ニ卵ヲ奪フハ不經濟ニシテ、動物愛護ノ點ヨリ視ルモ實ニ慘酷ト云フベシ。併シ秋收期ニ於ケル雀ノ害ノ甚大ナルハ老生モ嘗テ西備地方ニテ之ヲ聞キ且之ヲ驅除スル期節ハ何時ガ適當ナル歟ヲ質問セラレシコトアリ、大澤氏ハ絶對ニ之ヲ驅除セザル主義ナル哉否ヤ驅除ニ就テハ論及セラレズ、老生ノ其當時ニ於ケル答案ヲ左ニ陳テ其是非ヲ諸彦ニ質サントス

雀ノ害ヲ除去セント欲セバ雀ノ繁殖ヲ防止スルニ如カズト雖、積水氏モ記サレシ如ク春ヨリ初夏ニ雀ノ雛ヲ哺育スル爲ニ昆蟲類ヲ捕殺スル數ハ無量ニテ隨テ田圃庭園ニ於ケル害蟲ヲ冥々ノ中ニ驅除スル上ニ裨益アル事勿論ニテ、其巢ヲ屠リ卵ヲ奪フコトハ不得策ニシテ自然ノ配劑ニ悖戾スル如シ故ニ老生モ春夏ノ候ニ充分繁殖セシメ初秋ニ至リ霞羅・無雙羅・吹矢等ヲ用ヒ無免許ニテ捕殺スルコトヲ許可セバ一舉兩得ナラント思惟ス、今本誌ノ發刊ニ際シ孝々ト叫ブ曉烏ヤ忠々ト鳴ク雀ノ聲ニ臥床ヲ離レシ昔ヲ追念シ烏雀ノ驅除ノ利害及驅除ノ期節ヲ問ハントス

(波江元吉)

想思鳥 *Troglodytes lugens* ノ營巢

想思鳥ハ古ヨリ其羽色ト囀鳴ノ優レルニヨリ原產地ノ支那ハ勿論歐洲ニテモ我國ニテモ籠鳥トシテ愛養セラレタ鳥デ我國ニ於テハ徳川時代ニ既ニ追込ニテ其子ヲ引イタ例ノ有ル鳥デアル、然シ從來其營巢育雛ノ模様ヲ充分ニ書イタ物ガナカツタガ近頃じよーけーろー氏ガ *Agricultural Magazine* ニ此事ヲ出シタカラ此處ニ一寸譯出シテ見様ト思フ。頃ハ八月下旬雄鳥ハ先ヅ營巢ノ必要ヲ感じ出セシ物ニヤ適當ナル場所ヲ求メテ追込ノ内ヲ飛廻リ初メタ併シ雌ハ未ダ一向無頓着デ有ツタ、ヤガテ雄ハ追込ミノ壁ニ付ケテ置イタひーす(一種權木ノ名)ノ枝ノ束ニシタ物ノ一ツニ巢ヲ定メ全然棄テ以テ杯狀ノ巢ヲ作ツタ其ノ巢ハ時々雄ガ抱卵ノ眞似ヲシニスル外一週間程ハ全ク使用セラレズニ其ノ儘ニナツテテ放置シ有ツタヤガテ八月ノ二十八日ニ雌ガ第一ノ卵ヲ産ミ落シタ夫レカラ第二、第三ト卵ヲ産デ巢ニ付キ九月ノ九日ニ第一ノ鶯ガ出デ同ジキ十一日ニ最後ノ物ガ出デタ、シカシ此等ノ鶯ハ其ノ日ノ内ニ巢カラ投出サレテシマツタカラシテハ生イ立タナカツタ。抱卵中ハ雄ハ雌ガ巢ヲ離ナル、時ニハスグ入ツテ代ニ卵ヲ抱テ居ツタ雄ハ雌ノ抱テ居ル時ニモ常

秋田縣ニ於ケル鳥類ノ方言

ニ其ノ傍ニ在ツテ下體ノ羽ヲ立テ何時ニテモ雌ニ代ツテ、抱卵スル用意ヲシテ居ツタ雌ハ巢ヲ放棄スルトスグ塹ニカゝツタガ雄ハソウデ無カツタ相デ有ル。因ニ籠鳥家ノるす氏ノ言ニ依レバ一腹ノ卵ノ數ハ二―四個デ稀ニ夫レ以上ノ事ガ有ル。卵ノ色ハ淡青或ハ淡綠色デ濃赤褐色、淡赤褐色或ハ暗色ノ斑點ガ有ル。孵化日數ハ十二日デ鶯ハ全ク裸デ頭ガ甚シク大デ目ハ閉ジテ居ル頭部脊部ノ羽ノ生ズ可キ所ニハ細班ガ有ル、其後灰色ノ羽ガ生ジ十乃至十二週間デ完全ナ親鳥トナル。灰色ノ羽ヲ有スル時代ニ巢立チ其ノ後モ長ク親ヨリ養フテ貰ツテ居ル。産卵期ハ四月ヨリ九月迄ノ間デ追込ニ於テハ年ニ一回デ有ルト云フ事デ有ル。余ノ追込ニテハ昨年植込ミノつゝぢノ根方ニかるかやノ根ヤしゆろノ毛等デ一寸シタ巢ヲ八月頃ニ作ツタガ、他ノ鳥ニ妨ガラレテ夫レヨリ進行ハシナカツタ。夫レ故本年ハ妨ゲニナル様ナ鳥ノ居ラザル追込ニ放チタルニ本月(三月)ノ初頃ヨリしゆろ植込ノ木ノ葉ヲ拾ツテ地面ヨリ二尺バカリニ在ルかなりやノ巢ニ運デ居ル、但シ未ダ本氣ニ營巢ニハカゝラナイガ或ハ昨年ヨリ面白イ結果ガ得ラル、カモ知レヌト思フ (鷹司信輔)

予ハ鳥類ノ方言ヲ輯集スルニ當リ次ノ注意ヲ拂ヒタリ。成可ク土著ノ人ニシテ比較的無學者ニ尋ヌルコト、方言ハ其鳥ノ如何ナル特徴ヲ指スモノナルカ、可成多クノ人々ニ質シ其方言ノ普通のモノナルヤ、其方言ハ一種ノ鳥ニ名ヅケタルモノナリヤ類似ノ鳥ノ總稱ナルヤ等ニ注意セリ。之レ方言ハ多ク鳥ノ形態羽色、鳴キ聲、習性等ニ因キテ名ヅケタルモノナレバ、其地方ノ方言ニ精通セル人ニアラザレバ其意味ヲトルコト困難ナレバナリ。又比較的無學者ニ質セルハ、假令バ方言からひや則チ河原ひわチかはらひわト聞カセラレ、方言もんず則チ賜チもずト答ヘラル等ノ恐アルガ故ナリ。而シテ以上ノ注意ニ依リ今日迄知リタルモノ、内、其確カナリト信ジタルモノハ次ノ如シ

注意 文中(鹿)ハ鹿角郡ノ一部、(仙)ハ仙北郡ノ一部、(南)ハ南秋田郡ノ一部、(由)ハ由利郡ノ一部ノ方言ナルコトヲ示ス。又六號活字ハ方言ノ意義ナリ。

種 名 方 言

カイ ツ ブ リ べいはい(仙)

ホ シ ゴ 井 ふうせい(仙)

チ シ ド リ うしがも又ハをしがも(仙)

カ ル ガ モ でろかも(仙)泥鴨

ク ロ ガ モ たかほ又ハたがも(仙)田鴨

コ カ リ ガ ネ(?) よもぎ(仙)羽色ニ依ル

ノ ス リ くそぎ(仙、山)羽色、馬のくそさひ

(仙)無能ナル故ニ、まのくそだか(鹿)羽色

キ ジ さこきじ(仙)里雉、やまどりノ方言ニ對シ

テ

ヤ マ ド リ きじ(仙)

ちよぎち(仙)鳴聲ニ依ル

ウ ズ ラ かんかん(鹿)かんかほ(仙)何レモ鳴聲

ニ依ル

バ ン(?) かはきじ又はかきじ(仙)河雉

ナ ベ ツ ル(?) なべ(仙)

コ チ ド リ あまつば雨燕、かはしぎ、かなぎ(仙)共

ニ河鵜ノ意歟、はましごり(山)濱千鳥歟

ケ リ きり(仙)鳴聲ニ依リテ歟

タ シ ギ のしぎ(仙)

ヤ マ シ ギ ほご(仙)

カ モ メ かごめ(山)

キ ジ バ ト やまほ(山、仙)

ヒ ヨ ド リ はなすの花吸ヒ、しこごり(仙)

ホ ト 、 ギ ズ おやふこごり(仙)親不孝鳥、ほちよか

けたか、ほちよかけごり(一般ニ)鳴聲

ニ依ル

ク ワ ク コ ウ かつこごり(仙)

カ ハ セ ミ ひす又ハひび(鹿)、ざつこごり(又ハざ

つこごりさんぞ(仙)雜魚漁リ、又さんぞハ

三藏ト人名化シタルモノ

ア カ セ ウ ビ ン てろまん又ハきよろまん(山、仙)鳴聲、あ

まふりごり(仙)此鳥鳴ケバ雨降ルトノ傳説

アリ

フ ク ロ ウ のれつけ(鹿)鳴聲ノのれつけはト聞ユ

ル爲ナリト

ミ 、 ズ ク みみづこ又ハめめづこ(鹿)

ケ ラ 類 總 稱 けらつづぎ

ア カ ゲ ラ あかこしまき 赤腰卷ノ意、あかめだり赤

前垂ノ意(共ニ仙)

コ　　ゲ　　ラ

きねづみ(仙)木鼠

セグロセキレイ

かなすづめ(鹿)みなくちぎりこ(仙)田ノ

水口ナドニ多ク居ル故ニ、えしたゞぎ(由)

石叩キ

タ　ヒ　バリ

つゞひばり(仙)土雲雀

オ　ホ　ル　リ

るり(仙)

サンクワウテウ

おながさんこう(南)尾長三光

ツ　　グ　　ミ

ちようま(由)

トラツグミ

やぢつぐ(仙)

クロツグミ

ちんごつぐノ訛リ、こつけ(鹿)つぐ(仙)

コ　マ　ド　リ

こま(仙)

ノ　　ゴ　　マ

のぎあか(仙、稀ニ)くさぐま(仙)

オ　ホ　ヨ　シ　キ　リ

けゑけゑつ(仙)からがらじ(仙、由)共ニ

鳴聲ニ依ル

コ　ヨ　シ　キ　リ

つんつんがら、からがらじ又ハよしきり

(同)

モズ、チゴモズ、アカモズ總稱

たかもんず又ハたかもず(仙)もずたか

(由、鹿)

ゴジウガラ

こけはしり(仙)

ハシブトガラス

ふみがらす(仙)

ハシボソガラス

ほそがらす(仙)

カ　　ケ　　ス

だけがらす(鹿)緑鳥、あくびぎり(仙、稀ニ)木通鳥

ム　ク　ド　リ

でろもんず(仙)泥鰌、もくぎり(由)

コムクドリ

さくらもんず(仙)櫻鵒

シ　　メ

まめさんこう(仙)まめトハ小ノ意歟、又さんこうト呼アハ三光鳥ノ鳴聲ニ似タル爲ナル

シ　　メ

由、中三光(南)ひめ(鹿)

イ　　カ　　ル

大三光(南)しめニ對シテ

マ　　ヒ　　ワ

ひやこ(仙)

カ　ハ　ラ　ヒ　ワ

ぎびや、あをしこ又ハあをしぎりこ

カ　ハ　ラ　ヒ　ワ

(仙)からひや(鹿)あなしとこ及ビあなしと

カ　ハ　ラ　ヒ　ワ

リコハ青鴉ノ訛リナラン

ニウナイス、メ

由すづめ(仙)之ニ對シすづめナ里すづめト

ニウナイス、メ

謂フ

ホ　　、　　ジ　　ロ

ほじろ(仙)

ホ　　、　　ジ　　ロ

かしら又ハかしわ(仙)

カ　シ　ラ　ダ　カ

(仁部富之助)

雌雄兩性ノ鶏

去ル三月十一日外見上雄トモ雌トモ定メ難キ鶏ヲ持チ來ル者アリ、ソノ者ノ言ニヨレバ約三歳ナリト云ヘリ。此鶏ニ就テ檢スルニ外見ハ白色矮鶏ちやぎニ酷似スレドモ大形ナルコト、嘴・脚・趾



雌雄兩性ノ鶏

巨大ナルコト等ニヨリテ純粹ノ矮鶏ニアラズシテ他ノモノトノ雜種ナルコトヲ認メ得、而シテ肉冠及ビ肉垂（肉髯）ノ形狀並ビニ右脚ニ達セル距ノ如キハ全ク一般ノ雄ノ性質ヲ現ハセリ。然ルニ頸羽ハ雌ト同ジクシテ雄ノ如ク簍狀ニ延長セズ。腰



中臍向ノ左ノ附屬丸ノハサツ方下ニアル線ハ輸精管ナリ
右ノ狀體ハ卵管ナリ方下ニアル線ハ卵管ナリ

信輔氏ト共ニ翌十二日之レヲ解剖ニ附シタリ。此結果ハ面白キコトニハ外部ノ觀察ト同様ナルコトナリ。即チ雄性器タル睪丸右ニ一個ト雌性器タル卵巢左ニ一個（但シ二個ノ如ク曲ル）ト

及ビ上尾筒モ亦雌ト同ジク短カシ。左脚ニハ甚ダ小ナル距ヲ備フルノミ（矮鶏ノ雌ナレバ普通ノ大サ）以上ハ外見ノミニ就テ述ベタルガ（上圖參照）次ニ内部ノ生殖器ヲ檢スバ余ハ臍司

ヲ見タリ共ニ可ナリ發達シキタリ（前頁下圖參照）茲ニ又注意スベキハ翠丸ノアル方ノ脚ニハ前記ノ如ク能ク發達セル距ヲ有シ之レニ反シ卵巢ノアル側ノ脚ニハ距ノ發達遙カニ劣レルコトナリ。是レニヨリテ見レバ斯克ノ如キ二次的器官ノ發達如何ハ性ニヨリテ定マルモノト云フコトヲ得ベキカ（黒田長禮）

滿洲雁信

ひしくひ　滿洲ノ本邦人ハ一般ニ是ヲがんと稱ス毎年三月中旬ノ頃ヨリ南方ヨリ渡リ來ル其棲所ハ人家ニ遠キ海又ハ大ナル川若クハ沼澤ニシテ天明ヲ待チテ畑地ニ上リ來リテ散居ス其一群ノ數ハ往々百羽内外ナルコトアレドモ普通ハ二三十羽ノ群ニシテ落花生高粱等ヲ求メ食ス而シテ其腹ニ充ツルニ及ベバ附近ノ水田又ハ川沼等ニ到リテ水ヲ飲ミ且ツ暫時休憩ス此際ニハ集リテ大群ヲ爲シ數百羽ニ及ブコトアリ已ニシテ再ビ畑地ニ上リテ餌食ヲ求メ日暮ニ及ビテ海又ハ沼澤ノ棲所ニ歸リ睡眠スルモノナリ翌朝又畑地ニ來リテ食ヲ求ムルコト前ノ如シ四月中旬ニ及ベバ北方ニ渡リ去リテ隻影ヲ止メズ九月中旬ヨリ又南下シ來リ十月中旬マデノ間ニ山畑ニ之ヲ見ル秋期ハ春期ニ比スレバ一

般ニ山地ヲ求メテ餌食ヲ漁ルモノ、如シ今年ハ貔子窩附近ニ於テ頗多ク獵獲セラル

まが　之ハ數年前マデハ殆ンド見ザリシ所ナルモ大正三年三月末ヨリ四月上旬マデノ間ニ渡來セリ同年秋期ニハ全ク之ヲ見ズ又今年モ未ダ是ヲ見ザルナリ昨春ノミ何故ニ特ニ渡來セシカ理由明カナラズ前ノひしくひト同ジク畑地ニ來リテ落花生高粱豆等ヲ食ヒ飽ケバ水ヲ求メテ沼澤等ニ到リ水ヲ飲ミタル後多クハ砂原ニ休憩ス一群ノ數及常習等ひしくひト同ジ

茲ニ水ヲ飲ムトセシコト當ヲ得ザルベキモ獵客ノ言ヲ其マ、ニ假用シタルナリ、が　ん及ひしくひヲ獵獲スルニハ極メテほろトナリタル支那人ノ服ヲ着シ銃器ヲ適宜ニ包ミ隠シテ荷棒目籠等ニヨリ農夫ノ假裝ヲ爲シ馬糞ヲ拾ヒ草根ノ土塊ヲ叩ク等支那農夫ノ態ヲ巧ミニ粧ヒ漸次雁群ニ近接シ着彈距離ニ達シ得ルニハ深キ注意ト老熟シタル經驗トニアラザレバ不可能ナリ斯クシテ散彈一發ニ三羽ヲ仆シ得ルコトハ必シモ誇リト爲スニ足フズの　が　ん　無論雁ノ類屬ニ非ザルモ茲ニ附記ス在滿本邦人ハ決シテの　が　んと稱セズ七面鳥又ハ山七面鳥ト稱ス蓋シ柔カニシテ美味ナルコト禽中ノ第一ニシテ七面鳥ノ味ト同ジキニヨリテ名ヅクト云フ或ハ大サノ似タルニヨリテ名ヅケタルカ冬期ニハ各

那人ニヨリテ拾ハレタルモノモ尠カラズ(脇山三彌)

印度ノ白鷺飼

地ノ山畑ニ散居シ穀物ヲ拾ヒ草ノ芽及發芽セル麥ヲ食フ旅順附近特有ノはりがねひば(せらぎねら)ハ此鳥ノ胃囊中ニ存セザルコト無シトイフモ可ナリ此鳥晝間ハ大ニ活動スレドモ夜ハ山地ノ一定ノ棲所ニ歸リテ睡リ其棲所ハ決シテ變更スルモノニアラズ百羽以上群ヲ爲スコトアリト傳フレドモ最モ普通ハ二三十羽以內或ハコレヨリモ少ナキ群ヲ爲ス雄ノ老成セルモノハ頸ニ甕然トシテ簔毛ヲ生ズ容姿駝鳥ノ如ク頸ヲ舉ゲテ調歩ス足ノ裸出部ハ甚粗大ニシテ三趾地ヲ踏ミ前胸闊大ニシテ翼ノ前角胸ヲ超ヘテ前ニ出テ容姿甚ダ揚ラズ大ナルモノハ體量二貫數百匁ニ達シ専ラ肉用トシテ獵客ヲ悅バセシモ近來剝製トシテ裝飾ニ供スルコト流行シ其形態比較的醜ナルニ拘ラズ各所ノ應接室ニ屢之ヲ見ル此鳥眼ハ甚銳敏ナルモ耳ハ頗鈍ナルガ如ク或人ハ聾ナルベシト云ヘリ是レ近キ所ニテ發砲スルモノノ姿ヲ見ルコト無ケレバ飛去ラザルコトアレバナリ今年一月以來頗多ク獵獲セラル先年マデ青島ノ林中ニ巢ヲ構ヘシト云フ然レドモ關東州内ニハ未ダ巢ヲ見ズ今年獵獲ノ多キハ戰亂ノ爲ニ青島ヨリ遁來リシナラント云フモノアルモ其實ハ當年非常ノ寒氣ナリシ爲ナルベシ元來寒冷到ラザレバ此鳥ヲ見ザルナリ今年ハ酷烈ナル寒氣ノ爲身體ノ自由ヲ失ヒタルモノ多ク生擒セラレ又凍死セルモノハ支

白鷺ノ簔毛ハ我國ニ於テモ簔毛一匁ハ金一匁ニ當ルト迄云ハレテ鷹匠ノ良イ收入トナツテ居ツタ歐米ニ於テモ婦人ノ帽子飾トシテ珍重セラレ非常ニ多量ニ用井ラルルニ依リ從ツテ獵獲トナリ殆ド絶滅セントシタカラ彼ノおーづぼん曾ノ如キハ二三年前ニ有志ヲ募ツテ據金ヲナシ米國ノ所々ニ地面ヲ購入シ禁獵地トナシテ番人ヲ置イテ生キ殘ツタ鳥ノ保護ヲナシ其繁殖ヲハカル等大變ナ騷ギナシテ居ル又英國デモ其絶滅ヲ防ガント演說會ヲ開イタリ印刷物ヲ配布シタリシテ居ル其ノ時ニ當ツテ印度ノらかな州ノちやんご湖畔ノばート云フ寒村デハ漁師共ガ三十年程前ヨリ白鷺ヲ飼ツテ其ノ簔毛ヲ採ツテ商人ニ賣ル事ヲ副業トシテ居ル其人數ハ約二百人位デ今日デハ一千羽位ノ鷺ヲ飼ツテ居ル相デアル鳥屋ハ蔭デカコツタ柵デ長サ二十尺幅及ビ高サ八尺ノ物デ屋根ハ無イ我國等デモ子飼ノ鳥ハ放飼ニ出來ル物ダガ晝ノ内ハ良ク外ヘ遊ビニ出ルソシテ夫レガ爲ニ人ヤ食肉鳥ニ取ラレタリ逐レテ歸路ヲ迷タリシテ鳥ヲ失フ事ガ屢々有ルガ此處

デハ別ニ外ヘ行カヌ事ヲ見ルト風切デモ切テ有ルノデ有ラウ餌ハ生ノ小魚デ之ヲ飽食サセテ居ル。鳥ハ人ニ良ク馴レテ飼養主ニ其ノ身ヲ自由ニサセテ居ル。産卵期ハ三月ヨリ九月ノ終リ迄ノ間不規則ニ續ク物デ少クトモ年ニ二腹ハ子ヲ引ク物デ屢々四乃至五回ノ多數ニ上ル事ガ有ル幼鳥ガ成長シ切ル迄ニハ一年カ、ル物デアル土人ハ鳥ニ害ニナラヌ様ニ簍毛ヲ拔キ見タ所デハ飼ハ人ノ勞力ノ外何物モ價セヌ様デアル此ノ仕事ハ此地ニ於テハ充分ナ利益ガ有ルト云フ事デ有ル我國ニテモ容易ニ小魚等ノ得ラル、地方ニテ試ミテハ如何ニヤ(鷹司信輔)

東京附近ニテ繁殖スル鳥類

四月ヨリ六月ハ一般ノ鳥類ノ繁殖ノ時期デアル。東京附近デ何種位ヒノ鳥ガ營巢シ産卵スルカト云フコトヲ知ルノモ亦一寸面白イコト、思フ。調べテ見ルト割合ニ多ク先ヅ二十八種ハ確カデアアル是等ノ鳥類ノ種名ト營巢スル地名トヲ列記シ、其他巢ノ形狀、材料、卵ノ數産卵ノ月等ヲモ附記シテ研究者ノ參考ニ資セント思フ。

一、かいつぶり 營巢地 井之頭池 羽田 手賀沼(多シ)

巢ハ湖又ハ池上ニ營ム所謂鳩ノ浮巢デアル。又ハ竹ナドノ折レ込シダ先端ニモ造ル。形ハ藻塊デ水藻類ヲ用ヒル。卵ハ一巢中ニ二三乃至六個大サハ 1.65×1.04 吋アリ。帶緑白色デアルガ抱卵ヲ始メルト直ニ暗褐色トナル。四月又ハ五月初旬ニ營巢スル。

二、うみう 營巢地 羽田(多シ)

東京附近ニテ營巢スルモノハ主ニ樹上デアル巢ハ樹枝雜草ヲ用ヒテ圓形ナ粗大ノモノデアル。卵ハ三乃至四個大サハ 1.35×1.04 吋アリ。帶蒼白色デ卵殻ハ白瑩質デ兩極ハ細イ。十二月ヨリ五月迄ニ三回營巢スル。

三、しらさぎ(いんぎ) 營巢地 羽田(少シ) 千葉縣大巖寺(多シ)

巢ハ一般ニ樹上デアルガ地方ニヨルト叢林又ハ地上ニ造ル。形ハ先ヅ圓形デ材料ハ樹枝、葎莖、禾本類、草根等ヲ用ヒル。卵ハ四乃至六個、大サハ 1.75×1.25 吋アリ。卵形デ綠蒼色デアル。五六月ノ頃巢ヲ營ム。

四、ちうさぎ 營巢地 大巖寺(多カラズ)

前種ト殆ンド同様主トシテ樹上ニ營巢卵ハ四個、大サハ 1.05×1.44 吋、色ハ前種ト同ジ六七月ヨリ八月迄産卵。

五、ごるさぎ

営巢地 羽田(多シ) 東京市内 大巖寺

巢ハ樹上デ扁形デアル。材料ハ樹枝、竹枝、葭葉其他、

卵ハ三乃至六個、大サ 2.60×1.71 吋卵、形デ淡緑蒼色、

四月ヨリ七月迄二三回大繁殖ス。

六、みのごる

営巢地 羽田(極メテ少シ) 武州金澤

(少シ)

巢ハ前種ト同様、羽ハ三乃至五個、大サ 1.63×1.21 色彩

モ前種ト同ジ。五月ヨリ八月ニ營巢。

七、よしごる

営巢地 羽田(可ナリ多シ) 六郷川岸

鶴見川岸 大巖寺(多シ)

巢ハ葭林又ハ小笹ニ造リ扁形デアル。葭葉又ハ笹葉ヲ用

ヒル。卵ハ四乃至六個、大サ 1.30×0.93 吋アリ、球形ニ

近ク帶蒼白色、六七月頃産卵。

八、かるがも

営巢地 羽田(可ナリ多シ) 六郷川岸

巢ハ水邊ノ叢中デ雌ノ胸羽ト綿羽ト禾本類トヲ用ヒ卵ハ

八乃至十三個普通十個デ大サ 2.13×1.53 吋アリ。角白色、

四月ヨリ六月ニ産羽スル。本種ノミハ東京附近ニテ巢ヲ

營ム鴨デアル。

九、こび

営巢地 東京市内(多シ) 鶴見 武州金

澤

巢ハ樹上材料ハ樹枝ヲ用ヒル。卵ハ二乃至四個、大サハ

2.21×1.70 吋、主トシテ五月頃産卵スル。

一〇、きじ

営巢地 府下北豊島郡(?) 東京市内

(?) 千葉縣(可ナリ多シ)

地面ノ凹所ニ産卵、枯草、根、葉及ビ苔ノ類ヲ用ヒル。

卵ハ五乃至十二個、大サ 1.54×1.33 吋アリ。淡橄欖灰色

又ハ淡煉瓦褐色デ四月ヨリ七月迄ニ産卵。

一一、ひくひな

営巢地 羽田(多カラズ) 鶴見川岸

水邊ノ叢中又ハ小松ノ低キ枝上ニ營巢シ、枯草又ハ燈心

草等ヲ用ヒル。卵ハ四乃至六個大サ 1.30×0.81 吋アリ、

帶淡紅白色デ赤褐色ノ斑及ビ汚點ガアル。六月ヨリ八月

ニ産スル。

一二、こばん

営巢地 羽田(可ナリ多シ) 手賀沼沿

岸

巢ハはますけ類等ノ水棲植物林又ハ稀ニ低キ枝上、枯

葭葉其他ヲ用ヒ卵ハ六乃至一〇個、大サ 1.63×1.25 吋、

灰軟皮色デ大小數多ノ栗色ノ斑ヲ散在スル。六月頃産卵。

一三、かはせみ

営巢地 羽田(多カラズ) 赤坂區内

巢ハ主トシテ河ノ土手ニ掘ツタ穴デ魚骨又ハ蛇類ノ脱皮ヲ用ヒル。卵ハ五乃至七個、大サハ 0.85×0.75 吋、光澤アル白色デ四五月カラ六月頃産卵スル。

一四、あをばづく 營巢地 赤坂區内

巢ハ樹ノ洞、地面ヨリ八間位ノ高サ、枯葉又ハ木屑ヲ用ヒル。卵ハ三個、大サ 1.5×1.5 吋アリ。純白色デ多少光澤ガアル。六月ニ産卵スル。

一五、ひばり 營巢地 羽田 鶴見 大師河原

巢ハ畑内ノ凹所ニ禾本類又ハ藁ノ類ニテ造ル。卵ハ三乃至五個、大サ 0.65×0.65 吋、暗灰色又ハ橄欖灰色デ淡紫色又ハ暗栗褐色ノ斑ガアル。五月頃産卵。

一六、おほよしきり 營巢地 羽田(多シ) 鶴見川岸 六郷

川岸 武州金澤

巢ハ橢圓ノ一端ヲ切ツタ様ナ形デ葎林又ハ笹林ニ造ル。生ヘテイル葎莖ヲ二三本又ハ四五本位ヲ用ヒテソノ中間邊ニ巢ヲ營ミ材料ハ葎葉、草莖及ビちがやノ穂等ヲ用ヒル其巧妙ナコトハえなかな。巢ニ次グデアラウ。卵ハ四乃至五個、大サハ 0.69×0.63 吋アリ。緑灰色デ褐色及ビ黒褐色ノ斑點ガアル。五六月頃産卵。

一七、こよしきり 營巢地 羽田(少シ)

巢ハ禾本ノ叢中デ地面ヨリ一乃至二呎位ノ高サニ造ル材料ハちがやノ穂、草莖及ビ禾本ノ類ヲ用ヒル。卵ハ四乃至六個、大サ 0.63×0.51 吋アリ。黄褐色デ暗色及ビ褐色ノ斑點ガアル。六月頃産卵。

一八、せつか 營巢地 羽田(可ナリ多シ) 鶴見川岸

武州金澤

巢ハ禾本ノ叢中デ地面ヨリ一呎ノ高サニ造ル。材料ハ枯葉、細根、纖維、毛及ビ小枝ヲ用ヒル。卵ハ四乃至五個、大サ 0.63×0.51 吋アリ。淡蒼色又ハ白色デ褐色ノ斑ガアルカ又ハ全ク斑點ナク淡紅色ノモノアル。四月頃以後ニ産卵。

一九、つばめ 營巢地 東京 羽田 横濱等

巢ハ屋根ノ檐等ニ泥、藁ノ小量及ビ羽類ヲ以テ造ル。卵ハ四乃至六個、大サ 0.75×0.55 吋アリ。白色デ紫灰ト暗赤色ノ斑點ガアル。五月ヨリ六七月ニ産卵。

二〇、こしあかつばめ 營巢地 東京(麹町外務省ノ壁ニ多シ)

巢ハ前種ト同様ノ場所ニ造ルケレドモ形ハれこゝろニ形即チ德利形デアル材料モ殆ンド同様卵ハ四乃至六個デ白色デアル。六月頃産卵。

二二、もす 營巢地 羽田(可ナリ多シ)

本種ハ本邦北部ニテ繁殖スルノガ普通デアアルノニ羽田村デハ必ズ年々産卵スル當地デハ全ク留鳥ノ有様ニナツテイルノハ面白イ例ト思フ。巢ハ灌木又ハ笹林デ地面カラ四呎位ノ高サニ造ル。材料ハ小枝、禾本及ビ鴨類ノ羽毛ヲ用ヒル。卵ハ四乃至六個、大サ 0.9×0.70 吋アリ。淡緑灰色デ莖色ト褐色トノ斑ガアル。三月中旬カラ七月上旬ニ産卵。

二三、しじうから 營巢地 東京市内(麴町、赤坂區等)

巢ハさるすべり等ノ樹洞、壁ノ穴、空ノ植木鉢等ニ造ル。材料ハ苔類、禾本ノ類及ビ羽毛ヲ用ヒル。卵ハ六個、大サ 0.68×0.53 吋アリ。帶白色デ帶赤色ノ小斑ガアル。五月頃産卵。

二四、はしづごからす 營巢地 東京市内(多シ)

巢ハ高キ樹上デ樹枝、羽、毛、及ビしゆるノ毛等ニテ粗大ナルモノヲ造ル。卵ハ四乃至五個、大サ 1.70×1.30 吋アリ。帶綠色デ褐色ノ斑ガアル。五六月頃産卵。

二五、はしほそがらす 營巢地 羽田(少シ) 東京市内 武

州金澤(多シ)

巢ハ樹上若シクハ岩上デ材料ハ前種ト同ジ。卵ハ四乃至六個、大サ 1.72×1.09 吋アリ。淡蒼綠色又ハ帶橄欖色デ紫灰色ト褐色トノ斑點ガアル。四五月頃産卵。

二五、むくぎり 營巢地 東京市内 本牧(横濱)

巢ハ樹洞、家屋又ハ海岸ニ面セル軟土ノ絶壁(本牧ノ如キ)ニ藁及ビ羽等ニテ造ル。卵ハ三乃至七個、大サ 1.15×0.78 吋アリ。淡蒼色デ稀ニ褐色ノ斑ガアル。五月頃産卵。

二六、こかはらひは 營巢地 羽田(餘リ多カラズ)

巢ハ松樹ニ比較的低キ所ニ造ル。材料ハ禾本類、苔、細根等デ卵ハ三乃至五個デアアル。五、六月頃産卵。

二七、すゞめ 營巢地 東京 羽田 本牧 横濱等

巢ハ屋根。樹洞、壁穴等ニ普通ニ造ルガ又海岸ニ面セル絶壁ニモ營ム。材料ハ禾本類、藁、羽、苔ヲ用ヒル。卵ハ四乃至六個、大サ 0.73×0.53 吋アリ。灰白色デ灰色ト帶黑色トノ斑ガアル。四月ヨリ七月ニ産卵。

二八、ほほじろ 營巢地 羽田 六郷川岸

巢ハ梨林、竹林、又ハ地面ノ四所ニ禾本類毛類等デ造ル。卵ハ四乃至五個、莖白色デ暗褐色ト暗色トノ不規則ナ線ガアル。四月ヨリ六月頃ニ産卵。(黒田長禮)

ル十一月上旬ニ至ルマデ、其期間ハ八ヶ月ノ長キニ亘ルヲ見ル。而シテ四月上旬ニハ年ニヨリ尙地上ニ積雪ヲ有スルコトアリ又十一月上旬頃ハ既ニ屢降雪ニ遭遇スルコト勿論ナリ

きじば、習性ニツキ地方人ノ談 (一)きじば、三回則チ

春、夏、秋三季ノ土用毎ニ産卵ス。(二)鳩ハ視聽鋭敏ナルト巢ノ構造簡易ナル爲巢ヲ發見スルコト困難ナレドモ、雛ヲ有スル場合ハ、親鳥ノ一羽ハ、時々巢ノ上方ヲ飛ビ來リテ巢ヲ見下ス習性アルガ故ニ、附近ニ巢ノアル事ヲ確メタル場合ニハ、コノ舉動ニ注意スレバ比較的容易ニ巢ヲ發見シ得ベシ。(三)雛ノ巢

ニアル時ハ二羽共、同方向ニ向ヒ居ルコトナク必ズ二羽ガ頭ト尻トヲ反對ニ向ヒテ並ブ。コレ雛ハ催便ノ時ニ尻ヲ左右ニ動かシテ巢ノ間隙ヲ探リ、夫ヨリ用ヲ便ズルモノナレバ斯ク並ブ方都合ヨキ爲ナルベク、コレ雛ノ糞ハ軟カニシテ他ノ鳥ノ如ク親鳥ハ其糞ヲ喰イテ巢外ニ放棄スルコト能ハザルガ故ニ、巢ノ清潔ヲ保ツ必要上自然斯ノ如キ習性ヲ生ジタルモノナルベシ。

(四)鳩ノ雛ヲ養フ時ハ他ノ鳥ノ如ク餌ヲ一つヅ、銜へ來リテ雛ニ給スル事ナク、先多量ノ餌ヲ嚙囊中ニ收メタル後巢ニ入り、雛ヲ抱温シ、餌ハ雛ノ要求ニ應ジ嚙囊ヨリ反吐シテ口移シニ與フ。コレはミノ雛ハ極テ羸弱ニシテ或期間ハ親鳥ノ抱温ヲ要ス

ルタメナルベク、從ツテ人が稚雛ヲ養フ時モ口ニテ餌ヲ嚙ミ碎キ能ク唾液ヲ混ジタルモノヲ與へザルベカラズ云々。以上ハ悉ク事實ナルヤ否ヤヲ知ラザルモ、茲ニ掲ゲテ、參考ニ供ス

うぐいす *Cettia cantans* (T. & S.)

囀鳴期 うぐいすハ春季生殖期ニ入レバ恰モ「ほけきよう」ト言フガ如キ優美ナル鳴聲ヲ發シ、同時ニ山地ニ移ルコトハ遍ク人ノ知ル所ナリ。今秋田縣下ニ於ケルコノ法華經ノ初鳴期ニツキ「秋田氣象年報」ノ動物季節表ニヨレバ、地方ニヨリ、又年ニヨリ多少ノ遲速アレドモ、最モ早キハ三月中旬ニシテ四月上旬頃ニ至リ普通トナルガ如シ。又一地方ニ於ケル累年ノ初鳴期ニツキ予ガ、仙北郡花館村ニ於テ觀察セルモノ及、參考トシテ氣象年報中ヨリ由利郡象潟ノモノヲ摘録スレバ

花 館		象 潟	
年 度	月 日	年 度	月 日
明治三六	四、一七	明治三三	三、下
四一	四、一六	三三	四、四
四二	四、一七	三三	四、一八
四三	四、一八	三四	三、三
四四	四、一八	三五	四、六
四五	四、二二	三六	四、二〇

ニシテ寡雪温暖ナル象潟地方ニアリテハ各年ノ差大ニ反之多雪ニシテ春暖遅キ花館地方ニアリテハ年々ノ差比較的小ナリ。而

産卵育雛期　うぐひすノ産卵育雛ニツキ從來調査セルハ僅ニ二十例ニ過ギズ今之ヲ季節及巢中ノ内容ニヨリテ區別スレバ

雛ヲ藏スル巢ノ員數	一	上旬	五月	上旬	計
	一	中旬			
卵ヲ藏スル巢ノ員數	一	下旬	六月	上旬	
	一	中旬			
	一	下旬	七月	上旬	
	一	中旬			
	一	下旬	八月	上旬	
	一	中旬			
	一	下旬	九月	上旬	
	一	中旬			
	一	下旬	十月	上旬	
	一	中旬			
	一	下旬	十一月	上旬	
	一	中旬			
	一	下旬	十二月	上旬	
	一	中旬			
六	四				

ニシテ之ニヨレバ六月上旬ノ雛ヲ有スル四巢ハコレヲ當然五月
中ニ産卵セルモノト見做ヲ得ルガ故ニ、依之秋田地方ニ於ケル
うぐひすノ生殖期間ハ大體五月ヨリ八月マデトシテ大過ナカル
ベク、同時ニ大體年二回産卵育雛スルガ如キヲ知り得ベシ。而
シテ當地方人ノ談ニヨレバ、うぐひすハ年三回産卵育雛スルモ

一巢ノ卵數　一巢ノ產卵數ニツキ卵數又ハ雛ノ數ヨリ推算シテ
次ノ八例ヲ知ル

集ノ員數	四顆
二	五顆
四	六顆
二	顆
八	計

因是觀之うぐひすノ一巢産卵ノ範圍ハ四顆乃至六顆ニシテ、就中五顆ナル場合最多キヲ知ル

卵ノ重量及大サ　うぐひすノ卵ハ暗赤色無斑ニシテ可憐ナリ、
今測定セル一巢ノ卵重及大サトテ示セバ

卵番號	一	二	三	四
重	一、六四	一、七三	一、七五	一、七六
長	一、七八	一、七五	一、七六	一、八六
短徑	一三、二	一三、七	一四、〇	一三、四

雜報

●●●●● 營巢及其材料 巢ハ峡谷ノ灌木枝上ニ營巢、就中笹ノ叢中ニ生ズル矮樹ニ多ク巢ハ地面上ヨリ一尺内外ヨリ四尺位マデノ高サニアリ。巢ノ形狀ハ略球形ニシテ、入口ハ横ニ向クヲ常トス。構巢材料ハ、外部ニハ草莖、重ニすゝきノ枯葉ヲ綴チ合セ、笹ノ葉ハ一巢三四葉ヲ混ズルニ過ギズ。又内部ニハ軟カキ雜草ヲ敷ク。而シテすゝきノ葉ハ葉身長大、且ツ比較的強剛ナルニ、コレヲ巧ミニ窟折シテ巢ノ材料ニ供スルヲ見レバ、其努力ノ大ナルニ驚カザル可カラズ。玆ニ注意スベキハ、構巢ノ材料ニツキ、從來ノ記錄ニ徴スルニ、うぐひすノ巢ノ材料ハ必ズ笹又ハ竹ノ葉ニ限ルトセラル、モノアレドモ、予ノ實見セル四五例中ニハ深キ熊笹中ヨリ發見セルモノニシテ、四圍ノ事情ハ笹ノ葉ヲ利用スルコト、最モ便利ナル可シト思ハル、巢ニテモ、矢張り前記ノ如クナリシハ、コレ營巢地ニ於ケル種々ノ事情ニ依リ、如此差異ヲ生ズルモノナルベシ(未完)(仁部富之助)

笠着れば一重へだたる雲雀かな 也有
森一つ笠に着て鳴くうつらかな 露川



□第一回鳥學の探檢 會則第四條第四項ニ依リ今回新古領地南洋諸島ノ鳥學的探檢ヲ試ムル事ニ決定シ去月會員寺岡直氏ヲ同地方ニ派遣シ既ニこらく島ニ無事到着セル由本會宛報知アリタリ、南洋諸島ハ海鳥類ニ富ムハ勿論熱帶產陸鳥類ニモ豊富ナルヲ以テ珍奇ノ種類尠カラズ特ニ寺岡氏ハ嘗テおゝすん氏ノ採集家トシテ鳥類標本採集ニハ獨特ノ手腕ヲ有スルヲ以テ其採集品ハ活目シテ俟ツベキモノアルヲ信ズ、滞在期限ハ三ヶ月乃至五ヶ月ノ豫定ニシテ採集品全部到着ノ上ハ各専門家ニ囑シ研究濟次第逐次本誌上ニ報告セラルベシ、今回ノ探檢事業ニ關シテハ、會員小林友三氏ハ本會ニ對シ多大ノ援助ヲ與ヘラレタリ、玆ニ記シテ其好意ヲ感謝ス

□地方會員諸君ニ御依頼 本誌巻頭、飯島博士論說中ニ見ルガ如ク本邦ノ鳥類ニ就キテハ分類學的研究ハ既ニ内外諸學者ノ研究稍行屆キ居ルモ生態的方面ニ至リテハ其研究極メテ不完全ナ

ルヲ免レズ而シテ此種ノ研究ハ地方在住ノ同好諸君ノ努力ニ俟ツニ非レバ到底完成シ難キ性質ノ者ナレバ地方會員諸君ハ如何ナル斷片的記事ニテモ實験調査セラレシ所ヲ本誌ニ寄セラレン事希望ニ堪エズ

□會則第六條ニ就テ 同條乙種會員ニ關スル項ハ少シク不明瞭ナル爲メ屢會員諸君ノ質問ニ接スルガ其意味ハ次ノ如ク御承知アリ度シ

乙種會員ニハ本誌及ビ動物學雜誌ニ掲載セル鳥類ニ關スル別刷ヲ配布スルノ外本會ヨリ其年度内ニ發行セル臨時出版物ハ定價一圓迄ハ無代配布シ其以上ハ定價ノ三割引ヲ申受ク例ヘバ本年内ニ臨時出版物トシテ「世界ノ千鳥ト鵲」定價二圓五十錢（假定）ノミヲ刊行セルモノトセバ乙種會員ハ $(350-100) \times 0.7 = 105$ 即一圓〇五錢ニテ右書籍ヲ購讀スル事ヲ得、尙本會ノ臨時出版物ハ本會ヨリ發行スルノ價值アリト認メタル著作物ヲ得タル時初メテ發行スルモノナル故一年數冊ヲ出ス事アルベク又一年間全ク發行セザル場合ナキヲ保セズ、後者ノ如キ場合ニハ乙種會員ノ其年度内ノ無代配布（金一圓）並ニ割引（三割）ノ權利ハ次年度ニ加算スルモノトス、或ハ既刊書籍中ニ希望ノモノアレバ其購讀費中ニ計算スルモ可ナリ、例ヘバ本年入會ノ會員ニシテ

本年度内ニ臨時出版物ナキトキ本年末ニ於テ「海產保護鳥類圖說」定價四十錢並ニ「世界ノ鴨」定價七十五錢ヲ購讀セントセバ

$\{(75+40)-100\} \times 0.7 = 10.5$ 即十錢五厘ヲ本會ニ拂込マルレバ可ナリ

□編輯ニ關スル一切ノ用件ハ凡テ青山原宿百七十内田清之助宛

□會務ニ關スル用件ハ理科大學動物學教室内日本鳥學會宛

□會計ニ關スル用件ハ理科大學動物學教室應司信輔宛

日本鳥學會規則

第一條 本會ハ日本鳥學會ト稱ス

第二條 本會ノ事務所ハ東京帝國大學理科大学動物學教室ニ置ク

第三條 本會ノ目的左ノ如シ

一鳥類ニ趣味ヲ有スルモノ懇親ヲ計ルコト

一鳥類ニ關スル學術ノ進歩ヲ促スコト

一鳥類愛護ノ思想ヲ普及セシメ鳥類ノ保護増殖ヲ計ル

コト

第四條

本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ評議會ノ決議ヲ經テ隨時種々ノ事業ヲナス

一 當分春秋二期ニ雜誌「鳥」ヲ出版スルコト

一 臨時出版物ヲ刊行スルコト

一 毎年春秋二回會合シ鳥類ニ關スル講演談話ヲナシ同時ニ鳥類ニ關スル圖書標本其他ノ展覽會ヲ催スコト

一 鳥學の探檢ヲ舉行スルコト

第五條

本會々員ヲ分エテ甲種會員ト乙種會員ノ二トス

一 甲種會員ハ會費トシテ一ケ年金貳圓四拾錢ヲ納ムルコト

一 乙種會員ハ會費トシテ一ケ年金壹圓貳拾錢ヲ納ムルコト

第六條

甲種會員ニハ雜誌鳥臨時出版物及ビ動物學雜誌ニ掲載セル鳥類ニ關スル論文ノ別刷ヲ配布ス

乙種會員ニハ雜誌鳥及ビ動物學雜誌ニ掲載セル鳥類ニ關スル論文ノ別刷ヲ配布ス臨時出版物ハ各年定價一圓ヲ限り無代配布ス其他ハ定價ノ三割引ヲ以テ購讀スルヲ得

第七條

本會ニ入會セント欲スルモノハ住所・氏名・職業ヲ記載

シ本會ニ申込ムベシ但甲種會員ノ入・退會ハ評議會ノ決議ニヨル

第八條

本會ニ會頭壹名、幹事壹名ヲ置ク

第九條

本會評議會ハ會頭・幹事及ビ會員ノ互選ニヨル評議員（甲種會員）ヲ以テ組織ス

大正四年一月

東京理科大學動物學教室内

日本鳥學會

役員

會 頭 理學博士 飯 島 魁

幹 事 內 田 清 之 助

評議員 理學博士 飯 塚 啓

應 司 信 輔

波 江 元 吉

黑 田 長 禮

子 爵 松 平 賴 孝

投稿及質問規定

- (一) 雜報欄記載ノ趣旨ニ依リ廣ク各地方會員ノ投稿ヲ歡迎ス
- (二) 既掲原稿ハ返戻セズ、但シ挿畫ニ使用セル寫眞及ビ圖畫ハ希望ニヨリ返戻スベシ
- (三) 原稿ハ紙ノ表丈ヲ使用シ一行、二十五字詰ニ認メラレタシ、假字ハ片假字ヲ用井動物名及外國語ハ平假字トス
- (四) 挿畫ハ寫眞以外ノモノハ墨汁ニテ認メラレタシ
- (五) 原稿ハ東京青山原宿七十、内田清之助宛郵送セラレタシ
- (六) 本會ハ鳥類ニ關スル質疑ニ應答ス、質問ノ事項ハ返信料封入日本鳥學會宛郵送セラレタシ
- (七) 質問解答ハ一般讀者ニ有益ナリト認ムルモノハ本誌ニ掲載スルモ其他ハ質疑者ニ直接解答スルモノトス

大正四年五月廿三日印刷

大正四年五月廿六日發行

定價金貳拾五錢

東京市日本橋區兜町二番地

編輯兼
發行者 木下憲

東京市日本橋區兜町二番地

印刷人 神谷岩次郎

東京市日本橋區兜町二番地

禁轉載

印刷所 東京印刷株式會社

發行所

東京理化大學
動物學教室內

日本鳥學會

振替口座東京六五九九番

東京日本橋
區通三丁目

丸善書店

發賣所

東京神田區
表神保町

東京堂書店

廣告料 一頁 金三圓 半頁 金二圓

廣告申込所 東京理科大学動物學教室內日本鳥學會

■ 本邦鳥學の基

東京帝國大學理科
大學教授理學博士
東京帝國大學農科
大學講師獸醫學士

飯島魁先生校閱
内田清之助先生著

四六二倍美本
原色版二十四枚
寫真版廿二枚
插畫數十餘個

日本鳥類圖說

■本書ニハ本邦所産鳥類全部五百餘種ヲ網羅シ、精密ナル寫生圖ヲ附シ一々其
形態・原產地・分布・習性等ヲ詳説ス

■總論ノ部ニハ鳥學研究上必要ナル事項ハ凡テ之ヲ解説シ、本邦鳥學研究上ノ
參考文書ハ細大ヲ論セズ委ク之ヲ解題ス

■本書ニ掲グル圖ハ原色版十四枚、寫真版二十二枚、挿畫數十個凡テ理科大學所
藏ノ標本ヨリ動物畫ノ大家横山慶次郎氏ノ寫生セルモノニ係ル

■ 基礎的著作 ■

特 徵

■ 本書ニハ各類各種悉ク索引表ヲ附セルヲ以テ、例ヘ素人ト雖恰カモ辭書ヲ引
クガ如ク容易ニ鳥類ノ名稱ヲ檢索シ得ベシ

■ 卷末保護鳥類一覽ヲ附セルヲ以テ本書ハ一面ニ於テ現行法ニ規定セル二百餘
種類ノ保護鳥一切ヲ含メル完全ナル「保護鳥圖譜」ト謂フベシ

■ 圖版ノ精巧、印刷裝釘ノ善美トハ應接間・書齋ノ裝飾トシテモ最適セリ

日本鳥類圖說

定 價
及
郵 稅

上卷定價五圓
下卷定價五圓
合本定價十圓

上卷 郵稅各 內地十六錢
下卷 郵稅各 臺樺卅五錢
合本 郵稅 內地廿四錢
臺樺四十五錢

■ 印圖裝用 ■
■ 刷版幀紙 ■
■ 鮮精優精 ■
■ 麗巧雅撰 ■

■ 日本鳥類圖說續篇

朝鮮・臺灣之部

九月上旬頃發行

振替東京五五三番

店 發 兌

日本鳥學會臨時刊行物目錄

内田清之助君著

第一篇 鵜類圖說

賣切レ

内田清之助君著

第二篇 海産保護鳥類圖說

原色版三枚
定價金四拾
郵税金四
附錢錢

黒田長禮君著

第三篇 世界の鴨

原色版一枚寫眞版五枚
定價金七十五
郵税金四
附錢錢

黒田長禮君著

第四篇 世界の雁と鵞

原色版四枚寫眞版五枚
定價金貳
郵税金八
附錢圓

黒田長禮君著

第五篇 世界の千鳥と鶺鴒

近刊

所 捌 賣

日 本 橋 區 通 三 丁 目
神 田 表 神 保 町
丸 東 善 京 堂 書 店



鳥

第
二
號

大正四年十二月發行

日本鳥學會

鳥 第 二 號 目 次

南洋産鳥類ノ二新亞種(原色版口給)……………理 學 士 横 山 慶 次 郎 氏 原 圖

本會採集南洋諸島産鳥類目錄……………理 學 士 黑 田 司 長 禮 輔

南洋諸島産鳥類ノ二新亞種ニ就テ……………理 學 士 黑 田 司 長 禮 輔

新古領南洋諸島産鳥類目錄及分布表……………理 學 士 黑 田 司 長 禮 輔

信濃ニ於テ捕獲セル稀ナル三種ノ鳥類ニ就テ……………子 爵 松 平 頼 孝

からすノ水浴ニ就テ……………子 爵 松 平 頼 孝

神奈川縣ノ鳥類採集……………子 爵 松 平 頼 孝

雜 纂

錦鶏ノ飼育(理學博士飯塚啓) 一三鳥類ノ習性觀察(終リ)(仁部富之助) 鳥卵ノ斑紋

異常ノ三例(理學士黒田長禮) 鳥ノ飛翔高度(理學士寺尾新) 鴉ノ事トモ(理學士秋

山重美) 盛京通志所載禽名(脇山三彌) 歐洲戰亂ト鳥(理學士鷹司信輔) 神奈川

縣ニ於ケル鳥類ノ方言(初山徳太郎)

質 疑 應 答 保護鳥類ニ關スル件四件 (獸醫學士内田清之助)

雜 報 (九件)

南洋產鳥類ノ二新亞種 (口繪解説)

横山慶次郎筆

圖示セルハ今回本會ノ南洋諸島採集鳥類標本中ニ發見セラレタル二新亞種ニシテ、上方左ハ食巢燕ノ一種ニテ *Collocalia fuciphaga rukensis* Kuroda ト命名セラレシモノ、下方ノモノハやませうびンノ一種ニシテ採集者寺岡氏ノ名譽ノ爲メ *Halcyon chloris keraokai* Kuroda ト命名セラレシモノナリ。前者ハるつく島ニ産シ洞穴内ニ棲息シ多ク黄昏ニ出デテ飛翔スト云フ。後者ハペルー群島ニノミ産シ土人ノ言ニ依レバ鼠ヲ捕食スト云フ。詳細ハ本文黒田氏ノ論文「南洋諸島產鳥類二新亞種ニ就テ」ヲ參照セラレタシ。又上方右ハ南洋產食巢燕ノ一種ニシテ新亞種ニ最近縁セル *Collocalia fuciphaga vanicorensis* (Quoy & Gaim.) ナリ比較ノ爲メ今回ノ採集品中ヨリ特ニ圖示セリ。

(vacu)ナリ出翅ノ爲メ今回ノ羽果品中エリ計ニ圖示ナリ。

ノ一蘇ニシテ豫亞蘇ニ最近縁サル *Collocasis trichoptera ashiadensis* (Yonai) 鳥賊ニ豫亞蘇ニ縁テモ參照サレタシ。又土式ハハ南羊毒食巢燕ニ対シハ鼠モ餌食スイ云テ。箱縣ハ本文黒田丑ノ論文「南羊毒食巢燕」ニ出テテ飛騨スイ云テ。對香ハハ一箱島ニハシ垂シ土人ハ言サレシチハナリ。南羊ハハ一島ニ垂シ師穴内ニ對息シタリ。黄ニシテ羽果香寺岡丑ノ各書ノ爲メ *Hafodon ophioris petroski* Kawaya イ命谷 *zie* Kawaya イ命谷サレシチハナリ。又ハハ一蘇ニ豫亞蘇ニシテ土式ハハ食巢燕ノ一蘇ニテ *Collocasis trichoptera ashiadensis* 圖示サルハ今回本會ノ南羊毒食巢燕對本中ニ発見サレタ

南羊毒食巢燕ノ二豫亞蘇 (口齋報)

青山塾大頭筆

1

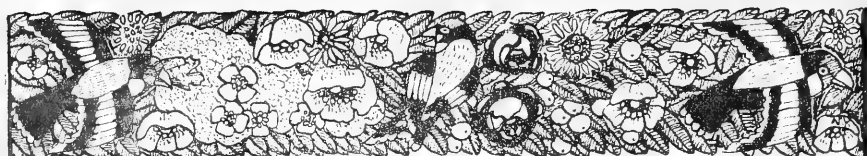
2

3

二分一實物大



1. *Collocalia fuciphaga rukensis* Kuroda.
2. *Collocalia fuciphaga vanikorensis* (Quoy & Gaim.).
3. *Haleyon chloris teraokai* Kuroda.



鳥 第二號 大正四年十一月 日本鳥學會發行

本會採集南洋諸島產鳥類目錄

理學士 鷹 司 信 輔

理學士 黑 田 長 禮

本會ハ曩ニ第一回鳥學的探檢トシテ會員寺岡直氏ヲ新占領地南洋諸島ニ派遣シタルコトハ已ニ諸君ノ知ラルル處ナリ。而シテ同氏ノ持ち歸リシ標品ハ吾々兩名ニ於テ分擔シテ調査スルヲ得タリ。採集品ハ全部ニテ二百十五個ノ多キニ達シ四十八種類アリ。其内燕雀目ニ屬スル鳥類ハ鷹司ノ研究セルモノニシテ燕雀目以外ノモノハ主トシテ黑田ノ調査同定セル處ナリ。而シテ各種ニ附記セシ簡單ナル習性ノ記載ハ凡テ採集者寺岡氏ノ談話ニ依ル。

今回ノ採集巡路及日程概略下記ノ如シ。

大正四年三月五日加賀丸ニテ横須賀發

同 十四 日	しらつく島着	同 十六 日	同 島發
同 二十 日	午前三時赤道通過		
同 二十五 日	英領ふひーじー島着	同 二十七日	同 島發
四月 一 日	午後六時赤道通過		
同 三 日	やるゝ島着	同 五 日	同 島發
同 六 日	くさい着	同 日	同 所發
同 九 日	ほなべ島着	二十日間採集	
同 三十 日	南海丸ニテほなべ島發		
五月 二 日	しらつく島着	十日間採集	
同 十二 日	鹿兒島丸ニテしらつく島發		
同 十七 日	やつぶ島着	同 十八 日	同 島發
同 十九 日	べる一群島着	十八日間採集	
六月 七 日	加賀丸ニテべる一群島發		
同 日	あんがゝる島着	同 八 日	同 島發
同 日	べる一群島着(歸航)	同 九 日	べる一群島發

六月十日 やつぶ着

同 十四日 さらつく島着 十七日間採集

七月二日 加賀丸ニテさらつく發

同 五日 さいばん島着 同 日 同 島發

同 八日 小笠原島着 同 日 同 島發

同 十日 横須賀歸着

終ニ臨ミ會員小林友三、寺岡直兩氏ノ今回ノ採集ニ對スル尠カラザル好意ヲ鳴謝ス。

CICONIIFORMES

STEGANOPODES

PHAËTHONTIDÆ

(1). *Phaëthon candidus* Temm. しらなれつないてう

Ponapé: 1♀, Apr. 28; Pelew Is.: 3♂s, May 27-June 2, 1♀, May 28.

ぼなべ、ペルー一兩群島ニ多シ、高空ヲ飛翔スル性アリ。

SULIDÆ

(2). *Sula sula* (Linn.) りうきうかつなどり

Marianne Is.: 1♂, June 6.

さいばん島ノ附近ニテ船中ニテ捕獲ス。

PHALACROCORACIDÆ

(3). *Phalacrocorax melanoleucus* (Vieill.)

Pelew Is.: 1♂ imm., May 25.

二羽ヲ見タルノミ。

ARDEÆ

ARDEIDÆ

(4). *Demigretta jugularis* (Wagl.) くろさぎ

D. jugularis grayi (Gray) 所謂しろくろさぎ

Ruk or Truk: 1♀, March 15; Ponapé: 1♀, Ag. 28; Pelew Is.: 1♂, May 22, 1♀, May, 23. (*D. jugularis*)

Ponapé: 1♂, Ap. 28, 2♀s, Ap. 26, 24. (*D. j. grayi*)

くろさぎハ甚ダ多シ群ヲナスモノ少クしろくろさぎハ群集スルモノ前者ヨリ寧ロ多シ

(5). *Nycticorax caldonicus* (Gm.)

Pelew Is.: 1♂ ad., May 28, 3♀s (ad.), May 25, 26, 28, 3♀s (juv.), May, 25, 26, 27.

ペルー一群島ノミニテ多クナ見タリ。

(6). *Ardetta sinensis* (Gm.) よしごゐ

Ruk: 1♂, March 15, 1♀, May 10; Pelew Is.: 1♂, May 26.

餘リ多カラズ。

GALLIFORMES

GALLI

MEGAPODIIDÆ

- (7). *Megapodius laperousii* Temm. つかつくり

Pelew Is.: 1♀ad., May 30.

餘り多カラズ。

GRUIFORMES

RALLIDÆ

- (8). *Porphyrio pelewensis* Hartl. & Finsch.

Pelew Is.: 1♂, June 1, 2♀s, May 30, June 1.

土人ニヨレバ朝夕半畑ニ出ルモノ多シト云フ、見タルモノハ餘り多カラズ。

CHARADRIIFORMES

LIMICOLÆ

CHARADRIIDÆ

CHARADRIINÆ

- (9). *Charadrius fulvus* Gm. むなぐろ

Ponapé: 5♂s, Ap. 14-27.

甚ダ多シ草原ニ群棲ス。

- (10). *Streptopelia interpres* (L.) きょうじよしぎ

Ponapé: 1♀?, Ap. 14.

餘り多カラズ期節ニヨリ多シ。

TRINGINÆ

- (11). *Tringoides hypoleucus* (L.) いそしぎ

Pelew Is.: 1♂, May 23.

少シ。

LARI

LARIDÆ

STERNINÆ

- (12). *Anous stolidus* (Linn.) くろあじさし

Ponapé: 1♂, and 2♀s, Ap. 21; Ruk: 1♀, May 5.

甚ダ多シまんぐろ一ぶノ上ヲ群飛ス。

- (13). *Micranous leucocapillus* (Gould)

Pelew Is.: 1♂ and 1♀, May 23

くろあじさしト同様多シ。

- (14). *Gygis candida* Gm. しろあじさし

Gygis alba kittlitzi Hartert.

Ruk : 2♂s, May 4, June 23, 2♀s, June 23 : Pelew Is.: 1♂, May 23, 1♀, May 29.

多シ。

(15). *Sterna bergii* Licht., subsp.

Ponapé : 1♀, Apr. 26.

餘リ多カラザルが如シ。

(16). *Sterna melanauchen* Temm. ぬりぐろあじさし

Ruk : 1♂ ad., June 28, 1♂ juv., May 4 ; Ponapé : 1♀ juv., Ap. 24.

海上ヲ飛行スルモノ多シ。

COLUMBÆ
COLUMBIDÆ
PERISTERINÆ

(17). *Calanas pelewensis* Finsch.

Pelew Is.: 1♂

極メテ少シ

(18). *Phlogœnas erythroptera* (Gm.)

Ruk : 1♂, May 8, 1♀, June 20, 1♂ juv., May 9. 1♀ juv., May. 7.

極メテ少キ方ナリ。

TRETONINÆ

(19). *Globicera oceanica* (Less.)

Carpophaga oceanica (Less.)

Ruk : 2♂s and 2♀s, May 6 ; Pelew Is.: 1♂, May 30, 6♀s May 22-June 2.

非常ニ多シ、ぶれつどふーどノ實ナドヲ食フ。

(20). *Ptilopus pelewensis* (Hartl. & Finsch)

Pelew Is.: 3♂s (ad.), May 25-June 1, 1♀ ad., May 27, 2♂s (imm.), May 27.

非常ニ多シ。

(21). *Ptilopus ponapensis* Finsch

Ponapé : 2♂s. Ap. 24, 2 ; Ruk : 4♂s, May 5-7.

非常ニ多シ。

CUCULIFORMES

CUCULI
CUCULIDÆ

(22). *Urodynamis taitiensis* (Sparrrn)

Ruk : 1♂, May 6.

少シ、二羽見タルノミ。

PSITTACI
TRICHOGLOSSIDÆ

(23.) *Eos rubiginosus* (Bp.)

Ponapé: 3♂s, Ap. 20, 4♀s, Ap. 17-25, sex?, Ap. 17.

ぼなぺニハ非常ニ多シ、主トシテやしノ木ニ棲ル

CORACIIFORMES

CORACIÆ

ALCEDINIDÆ

(24.) *Halcyon chloris teraokai* Kuroda.

Pelew Is.: 3♂s, May 26, 29, June 2, 2♀s, May 23, 26.

べる一群島ニ主産ス、甚ダ多シ、土人ニヨレバ本種ハ鼠ヲ食フト云フ。

(25.) *Halcyon reichenbachii* (Hartl.)

Ponapé: 2♂s (ad.), Ap. 22, 1ad. (sex?), Ap. 18, 3♂s (imm.), Ap. 18-26, 3♀s (imm.), Ap. 15-22.

多シ。

(26.) *Halcyon pelewensis* Wigglesw.

Pelew Is.: 1♀imm., May 25.

極メテ少シ。

(27.) *Halcyon sanctus* (Vig. & Horsf.)

Southern Pacific Ocean: 1♂imm, and 1♀imm., March 19.

船中ニテ捕獲ス、東經百六十二度南緯二度ノ地點。

CYPSELI

CYPSELIDÆ

CHÆTURINÆ

(28.) *Collocalia fuciphaga vanikorensis* (Quoy & Gaim.)

Cypselus inquietus Kittl.

Ponapé: 2♂s, Ap. 17, 1♀, Ap. 24; [Ruk: (sex?), June 28.]

ぼなぺニテハ晝間(晴天ノトキ)飛翔スルモノ多シ、るつくニテハ岩洞内ニアリ本亞種ト異ル點アリ。

(29.) *Collocalia fuciphaga rukensis* Kuroda.

Ruk: 1♀, June 23, 1♀? (young), June 28.

夕方ハかはほり類ト共ニ多ク飛翔ス、幼鳥ハ洞内ニテ捕フ。

(30.) *Collocalia francica* (Gm.)

C. germani Oust.

Pelew Is.: 1♂, June 1.

日中多ク飛行ス。

PASSERIFORMES

MUSCICAPIDÆ

(31). *Metabolus rugensis* (Hombr. & Jacq.)

Ruk : 4♂s (ad.), May 4-9, 1♀ad., May 9, 1♀?, May 9, 1♂imm., March 14, 1♀imm., May 4.

可ナリ多シ、老鳥ノ雌ハ殆ド黑色ナリ。

(32). *Myiagra erythrops* Hartl. & Finsch

Pelew Is.: 3♂s, May 28-31, 3♀s, May 28-31.

多シ。

(33). *Myiagra oceanica* Jacq. & Pucher.

Ruk : 1♂, May 4, 4♀s, March 14, May 4-5.

多シ。

(34). *Myiagra pluto* Finsch.

Ponapé : 5♂s, Ap. 20-23, 3♀s, Ap. 19-24, 1♀?, Ap. 22, sex ?, Ap. 19.

多シ。

(35). *Rhipidura kubaryi* Finsch

Ponapé : 3♂s, Ap. 18-23, 3♀s, Ap. 20-22.

多シ。

(36). *Rhipidura lepida* Hartl.

Pelew Is.: 1♂, May 30, 1♀, May 29.

餘リ多カラズ。

TURDIDÆ

SYLVIINÆ

(37). *Acrocephalus syrinx* (Kittl.)

Ponapé : 3♂s, Ap. 19-25, 2♀s, Ap. 15, 19 ; Ruk : 1♂, May 5.

中々多シ。

(38). *Psamathia annæ* Hartl.

Pelew Is.: 2♂s, May 23, 27.

少シ、うぐひすノ如キ鳴聲ヲ發ス。

CAMPEPHAGIDÆ

(39). *Lalage monacha* (Hartl. & Finsch)

Campephaga monacha Hartl. & Finsch

Pelew Is.: 3♂s, May 29-31, 4♀s, May 22-30.

餘リ多カラズ。

LANIIDÆ

PRIONOPINÆ

(40). *Pinarolestes tenebrosus* (Hartl.)

Rhæctes tenebrosus Hartl.

Pelew Is.: 3♀s, May 30-June 1, sex ?, June 1.

餘リ多カラズ。

STURNIDÆ

- (41). *Aplonis kittlitzii* (Finsch & Hartl.)

Ponapé: 5♂s, Ap. 10-25, 4♀s, Ap. 15-25; Ruk: 1♂ juv., May 10; Pelew Is.: 1♀,

May 26.

各島ニ甚ダ多シ。

MELIPHAGIDÆ

- (42). *Myzomela rubrata* (Less.) みつすひ

Ponapé: 10♂s, Ap. 15-25, 1♀, Ap. 19; Ruk: 3♂s, March 14, May 10; Pelew Is.:

2♂s, May 22, 27.

各島ニ非常ニ多シ、花ナキ樹ニモ棲ルモノ少カラズ。

ZOSTEROPIDÆ

- (43). *Zosterops semperi* Hartl.

Ponapé: 1♂, Ap. 10; Pelew Is.: 1♂, June 1.

多シ。

- (44). *Zosterops owstoni* Hartert

Ruk: 1♂ and 1♀, May 10.

多シ。

- (45). *Zosterops ponapensis* Finsch

Ponapé: 2♂s, Ap. 15, 27, 3♀s, Ap. 15-20.

多シ。

- (46). *Zosterops finschii* (Hartl.)

Tephros finschii Hartl.

Pelew Is.: 1♀, May 27.

極メテ少シ。

- (47). *Zosterops cinerea* Kittl.

Kusaie: 1♀, Ap. 7.

多シ。

PLOCEIDÆ

- (48). *Erythrura trichroa* (Kittl.)

Ponapé: 5♂s, Ap. 15-26, 4♀s, Ap. 15-23.

非常ニ多シ、はこべニ似タル短キ草ノ實ヲ食フ。

南洋諸島産鳥類ノ二新亞種ニ就テ

理學士 黒田 長 禮

On two new Forms of Birds from the Pacific
Islands. By N. Kuroda

寺岡氏が今回南洋新占領地ニ於テ多數ノ標本ヲ獲テ歸ラレシコトハ前項記載ノ如クナルガ其内余ガ研究シタルやませうびん及ビころかりあ兩屬ノ内ヨリ左ノ二新亞種ヲ出スコトヲ得タリ。次ニ之ガ記載ヲナス。

HALCYON CHLORIS TERAOKAI, n. subsp.

(Pl. III. fig. 3.)

Pelew Is.: 2♂s (ad.), May 29, June 2; 1♀ (ad.), May 26; 1♂ (imm.), May 26; 1♀? (ad.), May 23.

Ad. (type of subspecies). Closely resembles *H. Chloris* (Bodd.), but easily distinguishable from it by much longer wing, tail and tarsus, but especially the longer wing. Bill also longer, and body somewhat larger.

General colour of mantle, upper back and scapulars bright bluish green, instead of bright green; lower back, rump and upper tail-coverts bright cobalt-blue; lesser and median wing-coverts also cobalt-blue; larger wing-coverts as well as the external aspect of quills deep ultramarine; the remaining parts of quills blackish; tail-feathers ultramarine-blue, except the inner webs of lateral feathers on the inner margin which is blackish; crown of head dark-bluish green, somewhat lighter on the eyebrow; a concealed spot of white on the occiput; a large loreal spot of white; base of forehead with some white feathers showing a mottled appearance; black in the lore and around eye; lower edge of eyelid white; above the eye a few white feathers; ear-coverts black, slightly washed with bluish green in the anterior and lower parts; sides of neck and a broad collar round the hind neck white, separated from crown by a narrow collar of black washed with green in the centre; cheeks and under surface of body pure white, including under wing-coverts and axillaries; some of the lower primary-coverts black at tip and in outer web; a dull bluish green patch on sides of upper breast; upper and lower mandibles black, except a large part of the latter, which part is of a fleshy white colour; feet dark brown in the dried up state. Total length about 236mm., culmen 55mm., wing 117mm., tail 78mm., tarsus 15mm.

The type specimen from Pelew Id.: May 23, 1915, collected by Mr. N. Teraoka. It is preserved in my collection.

Other specimens measure:—

Loc.	T. l.	Culm.	Wing	Tail	Tar.	Sex
Pelew Is.	233mm.	53mm.	112mm.	73.5mm.	15mm.	♂ ad.
„	232 „	51 „	108 „	71 „	15 „	♂ ad.
„	235 „	56 „	111.5 „	73.5 „	15 „	♀ ad.
„	230 „	55 „	113 „	72.5 „	15 „	♂ imm.

The female and immature birds are more greenish than male, especially on the crown, back and tail.

An immature (but not very young) specimen shows faint dusky bars on the upper breast and cheeks, and also on the sides of the broad white collar which is tinged with buff; a loreal spot also buffy white and spotted with blackish green; buffy white feathers on base of forehead.

Some points of individual variation were noticed. The white feathers at base of forehead are almost obsolete in two specimens (♂ ad. and ♀ ad.), but in others (♂ ad., ? ♀ ad., and imm.) they are very distinct. The dull bluish green patch on the sides of upper breast is obsolete in three specimens including an immature one, but is distinct in two other specimens as in *H. sordidus* Gould.

Probably the form above described represents that which was assumed the young of *H. saurophagus* by Sharpe (Cat. B. Brit. Mus. Vol. XVII., p. 249). His words are as follows:

“In the Hamburg Museum is a specimen from Pelew Islands, which is apparently the young of *H. saurophagus*, and is exactly like *H. chloris*, but has the wing 4.7 inches, and a large amount of white on the lores and base of forehead. I consider this to be the young of the present species with some hesitation, as it completely lacks the pale edgings to the wing-coverts which are characteristic of the immature individuals of these green Kingfishers.”

成鳥(亞種ノ基型) *H. chloris* (Bodd.) ニ酷似スレモ翼・尾及ビ跗蹠特ニ翼ノ簡程長キコトニヨリ容易ニ區別スルヲ得。嘴モ亦長ク且ツ體ノ全長モ多少長シ。

體ノ上面ハ一般ニ翁、上背及ビ肩羽ハ何ゾレモ光綠色ナラズシテ光青綠色ナリ。下背、腰及ビ上尾筒ハ光リアルこぼるこ青色、中小兩雨覆モ亦こぼるこ青色ニテ大雨覆並ビニ風切羽ノ外縁ハ深紺青色、風切羽ノ他ノ部分ハ帶黑色、尾羽ノ中央二枚並ビニ側羽ノ大部分ハ深紺青色ニシテ側羽ノ内瓣ノ内縁ハ帶黑色、頭頂ハ青綠色ニシテ眉線ノ部分ハ多少淡青色ナリ。後頭ニハ匿レタル白斑アリ。嘴ノ基部ニハ一個ノ大白斑アリ。額ノ基部ニハ或白色羽ヲ混ジ一見斑點狀ヲ呈ス。眼先キ及ビ眼ノ周圍ハ黑色、眼瞼ノ下縁ハ白色、眼ノ上部ニハ二三ノ白羽アリ。耳羽ハ黑色ニシテソノ前部及ビ下部ニハ少シク青綠色ヲ帶ブ。頸側及ビ後頸ニ存スル廣キから一ハ白色ニシテ頭頂トハ他ノ狭キ黑色ノから一ニヨリテ分タル面シテ此から一ノ中部ニハ綠色ヲ帶ブ。頬及ビ體ノ下面並ビニ下雨覆

及ビ腋羽ハ凡テ純白色、下部初列雨覆ノ或モノハソノ先端ト外瓣トノミ黑色ナリ。上胸ノ兩側ニハ暗青綠色ノ大斑アリ。嘴ハ全部黑色ナラズシテ上嘴ト下嘴ノ先端トノミ黑色ニテ下嘴ノ基部ハ大部分肉白色、脚趾ハ暗褐色ナリ。但シ乾燥セル色彩ナリ。全長凡ソ二三六、嘴峯五五、翼一一七、跗蹠一五耗アリ。

基型標本ハペー一群島ニテ大正四年五月廿三日寺岡直氏ノ採集セルモノナリ。他ノ標本ノ測定表ハ英文中ニ記載ノ通りニ付キ略ス。

雌及ビ幼期ノモノハ雄ヨリモー體ニ綠色ニ富ム、特ニ頭頂、背及ビ尾ニ於テ然リ。

幼期ノ一標本(非常ニ若キモノニ非ラス)ニアリテハ上胸、頬及ビ廣キ白色からーノ兩側ニ微カナル暗色ノ横線アリ。白色からーニハ少シクばふ色ヲ帶ブ。嘴ノ基部ニモばふ色ヲ帶ベル白色斑アリソノ内ニ黒綠色ノ斑點ヲ存ス。額ノ基部ニモばふ白色ノ羽毛ヲ混ズ。

個體ニヨリテ多少ノ差異アリ。即チ額ノ基部ニ於ケル白羽ハ二個ノ標本(成鳥ノ雄ト雌)ニアリテハ殆ンド消失シ他ノモノ(成鳥ノ雄、雌? 及ビ幼期)ニアリテハ甚ダ著シ。上胸ノ兩側ニ於ケル暗青綠色ノ大斑モ三個ノ標本(幼期ノモノヲ含ム)ハ之レヲ欠如シ、他ノ二標本ニアリテハ *H. sordidus* Gould ノ如ク明ナリ。

余ガ新亞種ノ基型標本ハ恐ラクしやーぶ氏(英國博物館鳥類目錄第拾七卷、二四九頁參照)ガ *H. saurophagus* ノ幼鳥ト假定セルモノト同一ノ種類ナリト考ヘラル而シテ同氏ハ次ノ如ク記述セリ。

はんばーぐ博物館所藏ノペー一群島ニテ獲ラレシ一標本ハ明ニ *H. saurophagus* ノ幼鳥ナリ。サレド確ニ *H. chloris* ト同様ナリ。然シ翼ハ長クシテ四。七吋(一一九・五耗)ニ達シ眼先キ及ビ額ノ基部ニ白色ノ部分多シ。是等綠色せうびん類ノ幼期ノ特性トシテ雨覆ノ各羽縁ハ淡色ナルベキニ此標本ハ然ラズシテ之レヲ欠如セリ。故ニ余(しやーぶ氏)ハ多少ノ疑ヒヲ存スレトモ本種(*H. saurophagus*)ノ幼鳥ナリト考フルモノナリ。

COLLOCALIA FUCIPHAGA RUKENSIS, n. subsp.

(pl. III. fig. 1.)

Ruk: 1♀, June 23: 1♀? (young), June 28.

Ad. (type of subspecies). Similar to *Collocalia fuciphaga vanikorensis* (Quoy & Gaimard), but upper surface dark smoky brown with greenish and slightly vinaceous tinge; under surface much darker brownish, the chin and throat being especially dark smoky brown; feathers of breast and abdomen margined with dusky; under tail-coverts without pale base; crown of head decidedly dark metallic green; feathers in front of eye very dark brown, almost blackish, their base being light brown instead of pure white; cheek, ear-covert and side of head are exactly alike in colour to chin & throat; wing-coverts and the larger upper and under tail-coverts with metallic green gloss; quills and tail-feathers of a somewhat dark

purplish tinge; bill and feet blackish. Total length about 120, exposed culmen 4, wing 112, tail 54, tarsus. 9mm.

The type specimen from Ruk or Truk Is.: ♀ ad., June 23, 1915, collected by Mr. N. Teraoka and preserved in my own collection.

Also a young bird was obtained in Ruk by the same collector. Upper surface from base of forehead to end of tail uniform blackish with greenish metallic gloss, without any purplish or vinaceous tinge; below like the type specimen, but much darker, under tail-coverts having pale bases.

The total length in this new form is somewhat greater than in *C. fuciphaga vanikorensis*, but the measurements of other parts completely agree with those of that subspecies. The plumage colour is almost completely like that of *C. leucophaea* (Peale), but the wing is much shorter, not reaching. 128mm. (5inches).

A doubtful specimen was collected in a cave together with the above mentioned young bird. This only example is of exactly the same coloration as *C. fuciphaga vanikorensis*, but both wing and tail are much longer, reaching 119.5mm. and 56mm. respectively in length. This bird represents without doubt a form different from the new *C. fuciphaga rukensis*. I am inclined to consider it to represent a local race of the Edible-nest swiftlet (*C. fuciphaga fuciphaga* Thunberg).

成鳥(亞種ノ基型) *C. fuciphaga vanikorensis* (Quoy & Gaim.) ニ酷似スレモ上面ハ暗煙褐色ニシテ少シク葡萄綠色ヲ帶ブ下面ハ一層暗褐色ニシテ特ニ腮及ビ喉ハ暗煙褐色ナリ。胸及ビ腹ノ羽毛ハ各縁暗色ナリ。下尾筒ノ基部ニ淡色部ナシ。頭頂ハ著シク暗金屬綠色ナリ。眼光キノ羽毛ハ甚ダ濃キ暗褐色ニシテ殆ンド黑色ニ近クソノ各羽ノ基部モ亦白色ナラズシテ淡褐色ナリ。頬耳羽及ビ頭側ハ腮及ビ喉ト全ク同色ナリ。兩覆羽並ビニ上下尾筒ノ大形羽ハ金屬綠色光ヲ帶ブ。風切羽及ビ尾羽ハ多少暗帶紫色ヲ帶ブ。嘴及ビ脚趾ハ帶黑色ナリ。全長凡ソ一二〇、露出セル嘴峰四、翼一二、尾五四、跗蹠九耗アリ。

基型標本ハ成鳥ノ雌ニシテ大正四年六月廿三日かろりん群島中ノるつく(一名こらつく)島ニテ寺岡直氏ノ採集セルモノナリ。

幼鳥一個モ同島ニテ採集セラル。上面ハ額ノ基部ヨリ尾端迄一樣ナル帶黑色且ツ金屬綠色光アリテ少シモ紫色又ハ葡萄色ヲ帶ビズ。下面ハ基型標本ノ同様ナレモ一層暗色ナリ。下尾筒ノ基部ニハ淡色部アリ。

此新亞種ノ全長ハ *C. fuciphaga vanikorensis* ヨリモ多少長キモ他ノ諸部分ノ測定ハ全ク後者ノ標本ノ場合ト一致ス羽毛ノ色ハ *C. leucophaea* (Peale) ト殆ド同様ナレモ翼ハ著シク短ク一二八耗ニ達セズ。

同島ニテ上記ノ新亞種ノ幼鳥ト共ニ岩洞中ヨリ採集セラレタル他ノ疑ハシキ一標本アリ。此標本ハ *C. fuciphaga vanikorensis* ト全ク同色ナリ、サレド翼ハ甚ダ長ク一一九・五耗ニ達シ尾モ亦五六耗アリ。此鳥ハ疑ヒナク *C. fuciphaga rukensis* トハ異ル種類ナリ。余ハ恐ラク *C. fuciphaga fuciphaga* (Thunberg) ノ地方的變種ナルベシト考ヘラル。他日多クノ標本ヲ見タル節改メテ報告スベシ。

新占領南洋諸島産鳥類目録及ビ分布表

理學士 鷹 司 信 輔

理學士 黒 田 長 禮

新占領南洋諸島産鳥類ノ研究報告トシテハ Hombron & Jacquinot (1859) ナ始
メトシ Pelew 及ビ Mackenzie group ニ關スル Hartlaub (1868, 1872) アリ。Finsch
(1880) ハ Ruk ノ鳥類ヲ研究シ Marianne 群島ニ關シテハ Reichenow (1885)
March (1893), Oustalet (1895-96), Hartert (1898) 等アリ。ソノ他 Wigglesworth
(1891) Hartert (1897-1900) 及ビ Nehr Korn (1899) ハ主トシテ Caroline 群島ノ鳥類
ニ就テ研究セリ。今回ノ占領後ニアリテハ會員堀井榮吉氏ノ第一回採集物、藤
田理學士ノ第二回採集物並ビニ會員寺岡直氏ノ最近第三回採集物等アリ是等ヲ
基礎トシ之レニ上記諸報告ヲ參照シ以テ編シタルモノ即チ此目録ナリ。但シ
Marshall 群島ノ鳥類ニ關スル文献少キ爲メ此目録ヨリハ全ク除クコト、シ
Guam ニノミ産スル鳥類モ之レヲ削除シタリ。

	Mari- anne	Mack- enzie	Yap	Ngoli	Ruk	Ponape	Kusaie	Pelew
PROCELLARIIFORMES								
TUBINARES								
PROCELLARIIDÆ								
DIOMEDEINÆ								
1. Diomedea nigripes Aud.	×							
PROCELLARIINÆ								
2. Puffinus obscurus (Gm.)	×				×	×		×
3. Puffinus dichrous H. & F.								×
4. Puffinus lenebrosus Pelz.	×							
CICONIIFORMES								
STEGANOPODES								
PHAETHONTIDÆ								
5. Phaethon rubricauda (Bodd.)					×			
6. Phaethon candidus Temm.	×				×	×	×	×
SULIDÆ								
7. Sula sula (L.)	×				×			×
8. Sula piscator (L.)	×							×
PHALACROCORACIDÆ								
9. Phalacrocorax melanoleucus (V.)								×
FREGATIDÆ								
10. Fregata aquila (L.)					×			

	Mar.	Mack.	Yap	Ngoli	Ruk	Ponap.	Kus.	Pelew
11. <i>Fregata ariel</i> (Gould.)	×	×						
ARDEÆ								
ARDEIDÆ								
12. <i>Demiegretta jugularis</i> (Wagl.)	×							
<i>Demiegretta jugularis grayi</i> (Gray)}								
13. <i>Nycticorax nycticorax</i> (L.)		×	×	×	×	×	×	×
14. <i>Nycticorax caledonicus</i> (Gm.)					×			×
15. <i>Gorsachius goisagi</i> (T.)								×
16. <i>Ardetta sinenses</i> (Gm.)		×	×		×			×
ANSERIFORMES								
ANSERES								
ANATIDÆ								
FULIGULINÆ								
17. <i>Fuligula cristata</i> (Leach)	×							×
ANATINÆ								
18. <i>Anas superciliosa</i> Gm.								×
19. <i>Anas oustaleti</i> Salvad.	×							
FALCONIFORMES								
ACCIPITRES								
FALCONIDÆ								
ACCIPITRINÆ								
20. <i>Astur sharpei</i> Oust.	×							
21. <i>Accipiter nisoides</i> Blyth.	×							
FALCONINÆ								
22. <i>Falco peregrinus</i> Tunst.			×					
GALLIFORMES								
GALLI								
MEGAPODIIDÆ								
23. <i>Megapodius laperousii</i> Temm.	×							×
PHASIANIDÆ								
24. [<i>Gallus bankiva</i> Temm.]						?		×
GRUIFORMES								
RALLIDÆ								
25. <i>Rallina fasciata</i> Raffl.								×
26. <i>Rallus pectoralis</i> Less.								×
27. <i>Poliolimnas cinereus</i> (Vicill.)					×			×
28. <i>Porphyrio pelewensis</i> Hartl. & Finsch							×	×
CHARADRIIFORMES								
LIMICOLÆ								
CHARADRIIDÆ								
CHARADRIINÆ								
29. <i>Squatarola helvetica</i> (Linn.)	×				×			

	Mar.	Mek.	Yap	Ngoli	Ruk	Ponap.	Kus.	Pelew
30. <i>Charadrius fulvus</i> Gm.					x	x		x
31. <i>Ochthodromus geoffroyi</i> (Wagl.)								x
32. <i>Ochthodromus mongolicus</i> (Pall.)	x				x			
33. <i>Ægialitis cantianus</i> (Lath.)								x
34. <i>Strepsilas interpres</i> (L.)					x	x		x
TRINGINÆ								
35. <i>Numenius tahitiensis</i> (Gm.)	x							
36. <i>Numenius phaeopus variegatus</i> (Scop.)	x	x		x	x			x
37. <i>Limosa rufa uropygialis</i> Gould.	x				x			
38. <i>Heteractitis incanus</i> (Gm.)			x		x	x	x	
39. <i>Tringoides hypoleucus</i> (L.)	x							x
40. <i>Limonites minuta</i> (Leisl.)								x
41. <i>Heteropygia acuminata</i> (Horsf.)	x				x			x
LARI								
LARIDÆ								
LARINÆ								
42. <i>Larus vagæ</i> Palmèn	x							
STERNINÆ								
43. <i>Anous stolidus</i> (L.)					x	x	x	x
44. <i>Anous melanogenys</i> (Gm.)					x			
45. <i>Micranous leucocapillus</i> (Gould)	x				x		x	x
46. <i>Gygis candida</i> Gm.	x		x		x	x	x	x
47. <i>Sterna bergii</i> Licht., subsp.					x	x		
48. <i>Sterna longipennis</i> Nordm.								x
49. <i>Sterna anæstheta</i> Scop.								x
50. <i>Sterna fuliginosa</i> Gm.						x		
51. <i>Sterna lunata</i> Peale					x			x
52. <i>Sterna melanauchen</i> Temm.		x			x			x
COLUMBÆ								
CLUMBIDÆ								
PERISTERINÆ								
53. <i>Caloenas pelewensis</i> Finsch								x
54. <i>Phlogoenas canifrons</i> Hartl. & Finsch								x
55. <i>Phlogoenas erythroptera</i> (Gm.)					x	x		
56. <i>Phlogoenas kubaryi</i> Finsch					x	x		
57. <i>Phlogoenas pampusan</i> (Q & J.)	x	x						
58. <i>Phlogoenas yapensis</i> Hartl. & Finsch		x	x					
59. [<i>Turtur dussumieri</i> (Temm.)]	x							
TRERONINÆ								
60. <i>Globicera oceanica</i> (Less.)					x	x		x
61. <i>Ptilopus pelewensis</i> (Hartl. & Finsch)								x
62. <i>Ptilopus ponapensis</i> Finsch								
63. <i>Ptilopus hemsheimi</i> Finsch					x	x		
64. <i>Ptilopus roseicapillus</i> (Less.)	x						x	

	Mar.	Mack.	Yap	Ngoli	Ruk	Ponap.	Kus.	Pelew
CUCULIFORMES								
CUCULI								
CUCULIDÆ								
65. <i>Cuculus canorus</i> L.								×
66. <i>Cuculus striatus</i> Gray								×
67. <i>Urodynamis taitiensis</i> (Sparrm)					×	×		
PSITTACI								
TRICHOGLOSSIDÆ								
68. <i>Eos rubiginosus</i> (Bp.)						×		
CORACIIFORMES								
CORACIÆ								
ALCEDINIDÆ								
69. <i>Halcyon albicillus</i> (Cuv.)	×		×					?
70. <i>Halcyon chloris teraokai</i> Kuroda								×
71. <i>Halcyon cinnamominus</i> Swins.	×					?		
72. <i>Halcyon reichenbachii</i> (Hartl.)						×		?
73. <i>Halcyon pelewensis</i> Wigglesw.								×
74. <i>Halcyon sanctus</i> (Vig. & Horsf.)								×
STRIGES								
STRIGIDÆ								
75. <i>Ninox podargina</i> (Finsch & Hartl.)								×
76. <i>Asio accipitrinus</i> (Pall.)	×					×		
CAPRIMULGI								
CAPRIMULGIDÆ								
77. <i>Caprimulgus phalaena</i> Hartl. & Finsch								×
CYPSELI								
CYPSELIDÆ								
CHÆTURINÆ								
78. <i>Collocalia fuciphaga vanikorensis</i> (Quoy & Gaim.)					?	×	×	×
79. <i>Collocalia fuciphaga rukensis</i> Kuroda					×			
80. <i>Collocalia fuciphaga tachyptera</i> Oberh.	×							
81. <i>Collocalia francica</i> (Gm.)								×
PASSERIFORMES								
MUSCICAPIDÆ								
82. <i>Metaoqlus rugensis</i> H. & J.								×
83. <i>Monarches godeffroyi</i> Hartl.			×		×			×
84. <i>Myiagra erythrops</i> Hartl. & Finsch								×
85. <i>Myiagra oceanica</i> Jacq. & Pucher.					×			×
86. <i>Myiagra pluto</i> Finsch					×	×		×
87. <i>Rhipidura atrigularis</i> Reich.	×							
88. <i>Rhipidura saipanensis</i> Hartl.	×							

	Mar.	Mack.	Yap	Noli	Ruk	Ponap.	Kus.	Pelew
89. Rhipidura kubaryi Finsch						×		
90. Rhipidura lepida Hartl.								×
91. Rhipidura torrida Wall								×
92. Rhipidura versicolor Hartl. & Finsch		×						
TURDIDÆ								
TURDINÆ								
93. Turdus obscurus Gm.								×
SYLVIINÆ								
94. Acrocephalus syrinx (Kittl.)	×				×	×		×
95. Acrocephalus lusciniæ (Q. & G.)	×							
96. Psamathia annæ Hartl.								×
CAMPEPHAGIDÆ								
97. Edoliisoma nesiotes (Hartl.)		×	×					
98. Lalage monacha (H. & F.)								×
99. Lalage insperata Finsch						×		
ARTAMIDÆ								
100. Artamus pelewensis Finsch								×
LANIIDÆ								
PRIONOPINÆ								
101. Pinarolestes tenebrosus (Hartl.)								×
CORVIDÆ								
102. Corvus kubaryi Reichenow	×							
STURNIDÆ								
103. Aplonis pelzelni Finsch						×		
104. Aplonis kittlitzi (Finsch & Hartl.)	×		×		×	×	×	×
105. Calornis corvina Kittl.							×	
MFLIPHAGIDÆ								
106. Myzomela rubrata (Less.)	×		×		×	×		×
107. Myzomela chermesina Gray						×		
108. Cleptornis marchei Oust.	×							
ZOSTEROPIDÆ								
109. Zosterops conspicillata (Kittl.)	×							
110. Zosterops cinerea Kittl.							×	
111. Zosterops hypolais Hartl. & Finsch		×						
112. Zosterops oleaginea Hartl. & Finsch		×						
113. Zosterops ponapensis Finsch						×		
114. Zosterops semperi Hartl.	×					×		×
115. Zosterops owstoni Hartert					×			
116. Zosterops finschii (Hartl.)								×
117. Zosterops ruki (Hartl.)					×			
PLOCEIDÆ								
118. Erythrura trichroa (Kittl.)					×	×	×	

信濃ニ於テ捕獲セル稀ナル三種ノ鳥類ニ就テ

子 爵 松 平 頼 孝

ハマヒバリ *Otocorys alpestris* L

通常ヒバリト異リ頭上左右ニ耳狀ヲ爲セル羽總アリテ起立ス、額、眼先及上胸部黑色ニシテ額ノ黑色部ハ前額ヨリ來レル黃白色ノ眉班上方ヲ走りテ後頭部ニ於テ共ニ耳狀冠羽ヲ形成ス。

咽喉ハ黃白色、耳羽ハ咽喉ト同色ナルモ各羽先端ハ褐色ナリ、頭上ヨリ上背ハ概ネ帶灰紫褐色ニシテ後頸ニ不分明ナル暗褐色ノ一帯アリ、他ノ背面ニ於ケル各羽ハ褐色班ヲ有ス、小雨覆ノ先端ニ小白斑アリ、雨覆(大)中)腰及胸側ノ羽毛ハ上背ト殆ンド同色ナリ然レドモ胸側ニハ濃キ同色ノ縦班アル事雨覆部ニ同ジ。風切ノ各羽ハ黑褐色ヲ主トシ、羽緣ハ白色ナリ、(初列風切第一羽ハ其外瓣、第二羽ハ外瓣ノ先端白色ナリ)。尾羽ハ黑色ヲ主トスルモ中央尾羽ハ其緣腰部ト色ヲ均フシ最外側及之ニ隣レル内方ノモノハ外瓣ノミ白色ヲ以テ彩ラル。上胸以下ノ下面及腋羽下雨覆ハ白色、嘴ハ灰黑色、脚ハ黑色ナリ、後趾ノ爪ハ長シ(以上雄)。

雌モ雄ト大差ナク概ネ淡色ニシテ額眼先及頬ノ各羽先端ニハ黃白色ノ細キ緣ヲ見ル。冠毛ハ短カク背面ハ淡ク且暗色ニ、下尾筒ノ末端ニハ淡褐色ノ斑點アリ。

年 月	雌	雄	喙 峰	翼 長	尾 羽	趾 長
4219 信濃南安曇郡	II/1915	♂	11 ^{3/4}	114 ^{3/4}	84 ^{3/4}	23 ^{3/4}
4250 " "	" "	♀	11 ^{1/2}	101 ^{1/2}	75 ^{1/2}	23 ^{1/2}
2750 露 西 亞	IV/1910	♂	10 ^{1/2}	115 ^{1/2}	85 ^{1/2}	23 ^{1/2}
2808 米 國 北 部	V/1896	♀	10 ^{1/2}	105 ^{1/2}	74 ^{1/2}	22 ^{1/2}

本種ハ本邦ニテハ極メテ稀品ニ屬シ嘗テ北海道或ハ千島ニテ捕獲セラレシ事アルモ内地ニ於テ採集セラレシハ此標品ヲ以テ嚆矢ト

スベク梓川上流ノ河原ニ於テ發見セラレタルモノナリ。

本種ノ分布 北米及亞細亞、歐洲北部ニ亘ル。

マキノセンニウ *Loonstella lanceolata* (Temm.) 眉斑ハ稍黃白色ヲ呈

シ上面ハ一般ニ橄欖褐色ニシテ判然セル褐色縦斑一面ニ散在ス。翼ハ主トシテ淡褐色ニ、外瓣ハ背ト同色ナリト雖モ後刻風切ノミハ其縁ヲ除クノ外背面ノ縦斑ト同色ナル褐色ヲ呈セリ。上尾筒ハ殆ンド背羽ト均シク、尾羽ニ不鮮明ナル横斑アリ。下面ハ黃白色ニシテ咽喉下部ノ兩側・胸・胸側及腹側ニ至ル迄細キ黑褐色ノ縦斑アリ而シテ胸側ハ橄欖褐色ナレドモ上面ヨリ淡色ナリ、腹側及下尾筒ハ橄欖色ヲ帶タル黃褐色ニシテ、猶下尾筒ニハ黑褐色ノ軸斑ヲ有ス。腋羽及下部兩覆ハ黃白色ナリ、尾羽ハ十二枚ニシテ兩側ニ至ルニ從ヒ短小ナリ。

(雄 雌) リ
此種ハ東京附近ニ於テモ採集セラレタル事アル種類ニシテ信濃ノ國ニ於テハ是以テ二回目トス。カムチャツカ、西比利亞及北部日本ニ繁殖シ南部支那、印度、ビルマ等ニ越冬ス。

番 號	産 地	年 月	雌 雄	喙 峰	翼 長	尾 羽	跗 蹠
1773	千島エトロフ	VII/1907	♀	11. <small>ミメ</small>	58. <small>ミメ</small>	52. <small>ミメ</small>	17. <small>ミメ</small>
1774	ルベツ	" "	♂	10.5 "	56. "	54. "	17. "
1775	" "	" "	♀	12. "	59. "	55. "	18. "
4253	信濃南安曇郡	IX/1915	♂	11. "	55. "	52. "	17. "

ツメナガホージロ

Calcarius lapponicus L.

頭上ノ地色ハ黒色ナルモ細キ黃褐色ノ羽縁アリ、顯著ナル黃白色ノ長キ眉斑ハ頭側

ニ至リ後頸ノ栗色部ノ前方耳部後方ニ一ノ白色斑ヲ有ス。而シテ耳羽・腮・咽喉及全胸ハ黒色ヲ呈スルモ各羽末端ハ淡キ黃白色ヲ縁トセリ、然レドモ胸部ノミ諸部ニ比シテ黒色者シク現ハル。後頸ハ栗色ナルモ各羽縁ハ淡キ黃褐色ニシテ背以下ノ部分ハ黒褐色ヲ主トシ、廣キ羽縁ハ其色黃褐色或ハ赤褐色ヲ呈セリ。翼ノ主要部モ背ト同ジク黒褐色ナルモ外縁ハ上尾筒ト共ニ赤褐色ニシテ先端ハ白色ヲ呈セリ、風切羽及尾羽ハ淡黃褐色ヲ以テ細ク縁取ラル、然レドモ初列風切第一羽ノ全外瓣ハ淡キ黃白色ヲ呈ス、尾羽兩側ノ二對ハ純白ナラズシテ黃褐色ヲ帶ベル白色ナリ。下面胸以下ハ白色ニンテ胸側及腹側ニハ黒色ノ縦斑ヲ有セリ、腋下及下面雨覆ハ純白ナリ、嘴ハ先端黒ク其他ハ黃色ニシテ、脚ハ黒色ナリ。

本種ハ歐洲・亞細亞・亞米利加等ノ北部ニ生殖スル種類ニシテ、本邦ニ於テハ千島・樺太ニ産スルモ本島ニテハ稀ニ見ル訪鳥ニ屬ス、村田莊次郎氏ノ樺太ニ獲タル標品ニ札幌博物館ニテハ和名ヲユキヒバリト命名セリ、蓋シ後趾ノ爪雲雀ノ如ク長キヲ以テ斯克名附ラレシモノナルベシ。

此標品モ亦信濃ニ於テ捕獲セラレシモノニシテ白馬山麓ニ單獨ニ出現セシモノナリ。

番	號	産	地	年	月	雌	雄	喙	峰	翼	長	尾	羽	趾	蹠
	4248.	信濃	南安曇郡	I	1915	♀	♂	11.	ニメ	92.	ニメ	68.	ニメ	24.	ニメ
	3272.	清國	北京	IV	1909	♀	♂	11.	ニメ	93.	ニメ	70.	ニメ	22.	ニメ
	2180.	樺太	北名好	XI	1912	♀	♂	10.	ニメ	95.	ニメ	74.	ニメ	23.	ニメ

以上ノ三種ハ最近ノ信濃産標品ニシテ予ノ標本室ヲ飾リタルモノナリ。信濃國ハ時々稀ラシキ鳥類ヲ産スル地方ナルガ其理由ハ他ナシ此地方ニ永住セル熱心ナル高山鼎二氏ナル採集家ノ努力ノ結果ナリ。

本邦高山地方ニ住居セラル、諸君ニシテ充分ナル注意ヲ以テ採集ヲ試ミラル、時ハ斯克稀有ナル鳥類ノ產出獨リ信濃地方ニ限ラレ

ザルベシ。

從來予ノ標本室ニ蒐集スル鳥類ニシテ信濃ニ新産地ヲ得タル數種ニ就テハ先ニ内田學士ニ依テ動物學雜誌ニ報告セラレシ事アルモ爰ニ其名稱ヲ列記スル事トスベシ。

- | | | | |
|---------------------------------------|--------|---|------------|
| 1. <i>Accentor montanus</i> (Pull.) | ヤマヒバリ | 2. <i>Muscicapa parva hyperythra</i> (Cul.) | ヤマジロセウキ |
| 3. <i>Phylloscopus tenuifrons</i> Sw. | エゾムシクヒ | 4. <i>Loxia rubifasciata</i> Bp. & Schl. | アカスズメカ(新稱) |
| 5. <i>Loxia leucoptera</i> Gm. | ナキイヌカ | 6. <i>Emberiza leucocephala</i> Gm. | シラガホホジロ |
| 7. <i>Emberiza rutila</i> Pull. | シメノジロ | 8. <i>Bulweria bulweri</i> (Jard. & Selous) | ブナドリ |

からすノ水浴ニ就テ

仁 部 富 之 助
丹 波 富 治

秋田地方ニ棲息スル鳥類ノ中からす、すゞめ、むくぐり、もず、うぐひす等ハ屢々水浴ヲ行フヲ見ル。而シテすゞめ及ビからすハ普通ノ鳥ナレバ、其水浴モ古來周知ノ事實ニシテ、格別珍ラシキ習性ニアラザルモ、余等ハ大正三年秋ヨリ同年迄コレニ關シ稍精密ナル觀察ヲ遂ゲタレバ、茲ニ其大要ヲ記シ併セテからすノ水浴時ニ於ケル氣象狀態ニツキ少シク述ブ可シ。尙茲ニからすト稱スルハはしづみからす *Corvus macrorhynchus japonensis* Bp. 及ビはしづみからす *C. Corone orientalis* Everzm. ノ二種ヲ指ス。此兩種ハ冬季前者ハ六七分、後者ハ三四分ノ割合ニ群棲スレドモ兩種ノ間ハ極メテ親密ニシテ曾テ爭鬭スルガ如キコトアルヲ見ズ。

一、觀察地及からすノ水浴

觀察ハ主トシテ仙北郡大曲町ト、同郡大川西根村トノ境ヲ流ル、御物川の一部、其支流毬子川ト合スル點ヲ中心トシ、毬子川岸及ビ花館村附近ヲ範圍トス。コレ該地ハ年々晩夏ノ候繁殖ヲ了リテヨリ翌春繁殖期ニ入ルマデノ間ハ市街地ナル該地方ニ越冬ノタメ常ニ數百又ハ千ヲ以テ算フベキ多數ノからす群集棲息スルヲ以テ、此種ノ觀察ニ最モ都合ヨキ場所ナレバナリ。

次ニからすノ水浴スル場所ハ流レヲ有スル河川ノ淺キ瀬或ハ水清ク淺キ小流等ナレドモ極メテ稀ニ水ノ全ク流動セザル池塘ノ汀ニテナスコトアリ。又からすノ水浴スル時ノ動作ハ先ヅ陸地ヨリ徐ロニ水中適宜ノ深サ(脚ヲ没スル位ノ)ニ迄歩行シ先ヅ頭ヲ水中ニ突キ入レ、頭部ヨリ背部ニ水ヲ浴ビ或ハ兩翼ヲ以テ水ヲ搔キテ水ヲ翼ト體トノ中間ヲ下方ヨリ背部ニ逆流セシム。而シテ一羽ノ水浴時間ハ概ネ一二分間乃至數分間ニシテ浴シ了レバ直ニ水ヲ離レ身體ヲ震ヒテ水ヲ振り落シ後亂レタル羽毛ヲ繕フ。又水浴スルニハ通常ハ數羽若シクハ數十羽打揃ヒテ行フモノナレドモ往々只一羽ノコトアリ。

二、水浴ノ季節

からすノ水浴ト季節トノ關係ニツキ、余等ハ秋ヨリ春マデノ間則チ越冬期間ニハ甚ダ頻繁ニ水浴スルモ反之春ヨリ秋迄則チ繁殖期ニハ極メテ稀ニシテ就中五月乃至八月ノ四ヶ月間ハ殆ンド全ク實見セル事ナシ。今大正三年秋ヨリ同四年春迄ノ觀察ニ從來觀察ノ都度同誌ニ認メ置キシ處ヲ加ヘコレヲ月別トシ、同時ニ各月ノ氣壓及氣溫ヲ表示スレバ第一表ノ如シ

第 一 表

月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	年 平 均
日水 數浴	一九	二〇	一一	一	〇	〇	〇	〇	四	七	五	一八	
氣平 溫均	(一) 二二・八	(一) 二二・七	(一) 八一	(一) 一七・七	(一) 二二・八	(一) 七五・五	(一) 二二・四	(一) 二二・一	(一) 八・九	(一) 二二・一	(一) 三・四	(一) 八・七	二〇・五
氣平 壓均	(十) 一一・二	(十) 一七・七	(十) 一一・三	(一) 一一・一	(一) 一五・二	(一) 三・七	(一) 三・九	(一) 三・〇	(一) 一・〇	(十) 一一・三	(十) 一一・九	(十) 一・四	七・六

備考 氣溫ハ攝氏、氣壓ハ單位耗、氣壓及氣溫ハ年平均トノ較差ヲ以テ示ス。秋田測候所ニ於テ明治十九年ヨリ同三十八年ニ至ル二十ヶ年間ノ平均ナリ。

然ルニ他ノ鳥類ノ水浴期ニツキテハむぐりハ六七月、もずハ七八月ノ候ニ觀察シ又飼鳥ノ或種ハ週年水浴セシムル必要アルガ故ニからずノ水浴モ秋冬春ニ限ラレ夏季ニ全ク水浴セザルモノト言ヒ得ザル可ク、從ツテ前述ノ結果ハ余等ガ觀察ノ透徹セザルタメニヨルベキカ、何レニシテモ本文記載ノ觀察例ハ最モ頻繁ニ水浴スル時期ナルコト爭フベカラズ。

三、水 浴 ノ 時 刻

からずノ水浴時刻ハ晝間ニ限ルコト勿論ニシテ、日中ナラバ午前ト午後トノ區別ナク其日ニヨリ早朝ニ或ハ薄暮ニ或ハ又終日絶エ間ナク浴スコトアリ。左ニ水浴時ノ狀況ヲ明カニセンガタメ觀察日誌中ヨリ數例ヲ摘録スベシ。

大正三年九月十七日 午前四時、御物川毬子川落合。川原ニハ約一千羽ノからず群集休息シ、内水浴シツ、アルモノ僅ニ三羽。

十一月十二日 午前十一時、花館村字上野幅三尺バカリノ水流急ナル小流ニテ二羽ノ鳥同時ニ水浴シ三分バカリニシテ止ム。

十二月六日 御物川岸、落合ヨリ遙カ上流ノ中洲。此日ハ日出時ヨリ日ノ全ク没スルマデ、一二羽宛ノからす代りく來リテ水浴ス。

大正四年二月九日 午前五時、塲所同前。三四十羽ノからす同時ニ盛ンニ浴ス。

一月三十日 午後四時半頃。陸地積雪ノ上ニ數十羽ノからす群集シ、其内ヨリ數羽宛川水ノタメ岸深ク其目的ヲ達シ得ザルヲ以テ

遂ニ雪上ニ盛ンニ雪ヲ浴シ初ム。

一月三十一日 午前七時、花館村橋本堰。午前七時只一羽ノからす水浴シツ、アリ。當時寒氣凜烈ノタメニ兩翼動モスレバ凍リ着

キ充分飛翔シ得ズ、因ニ此朝ノ最低氣溫ハ零下一六、九度又午前九時ノ氣溫ハ零下九、四度ナリ。此日ハ午後一時ニ再ビ水浴ヲ見ル。

第二表 變化緩漫ナル時期ニ於ケル水浴日ノ氣象表

水浴ヲ見タル日			平均氣壓		午後二時氣溫	風向	風速	晴		水浴	翌日	翌々	備考
前日	水浴日	翌日					前日	水浴日	翌日				
九月六日	〇、六	七、二	三、〇	南	二、七	晴	晴	雨	晴	雨	八日午前八時ヨリ雨降ル。 十三日午後二時ヨリ少時雨トナル。		
一二日	三、五	七、九	二、六	同	二、八	晴	晴	少雨	晴	少雨			
二五日	二、三	七、七	二、〇	同	二、四	晴	晴	少雨	晴	少雨			
二八日	五、一	七、二	二、四	不定	二、八	雨	少雨	晴	晴	少雨			
全月平均	(一)	(一)	七、〇	南東	四、二	雨	少雨	晴	晴	少雨			
十月一日	四、〇	七、五	一、八	南	二、四	少雨	晴	雨	晴	雨	十四日午後〇時ヨリ同三時マデ雨。		
一五日	〇、五	七、五	一、七	同	三、一	雨	晴	晴	晴	雨			
一六日	四、二	七、九	一、六	同	二、九	晴	晴	晴	晴	雨			
一七日	〇、五	七、〇	二、〇	同	二、五	晴	晴	晴	晴	雨	十八日午前十時降雨。 廿六日ノ夜雷雨アリ。		
二六日	二、八	七、四	一、九	東	三、八	晴	晴	晴	晴	雨			
二八日	〇、九	七、四	一、六	南	二、四	半雨	晴	晴	晴	雨			
全月平均	(十)	(十)	七、二	南東	四、三	半雨	晴	晴	晴	雨			
十一月四日	八、六	七、六	二、七	南	五、八	晴	晴	半晴	半晴	雨	午後四時微雨五日夜雨		
一二日	〇、九	七、九	一、五	同	三、〇	少雨	晴	晴	晴	雨			
一四日	四、九	七、四	二、五	同	四、三	晴	晴	晴	晴	雨			
全月平均	(十)	(十)	七、五	同	四、三	晴	晴	晴	晴	雨			
三月三日	(一)	八、四	七、二	東	五、〇	雨	少雨	晴	晴	雨			
全月平均	(十)	五、二	七、三	同	五、二	晴	晴	半晴	半晴	雨	廿日夜半ヨリ暴風雨トナル。		
一九日	四、〇	七、五	二、三	北	二、九	晴	晴	半晴	半晴	雨			
三〇日	五、二	七、七	二、九	不定	二、九	晴	晴	半晴	半晴	雨			
全月平均	(十)	七、六	二、八	南東	五、九	雨	少雨	晴	晴	雨			

四日	七日	一〇日	一三日	一四日	一八日	全月平均
(+)	(-)	(-)	(+)	(+)	(+)	
七、二	一、七	三、一	〇、八	三、〇	〇、七	
七五、三	七四、六	七三、九	七三、二	七九、二	七〇、〇	
(+)	(-)	(-)	(-)	(+)	(-)	
二、八	一、〇	〇、六	三、〇	二、九	七、二	
一、八	五、六	〇、九	一、〇	一、二	一、七	
南	北	西	南	東	南	
六、六	四、七	九、二	二、八	一、〇	四、九	
晴	晴	少雲	雨	少雲	雨	
晴	晴	晴	雨	少雲	雨	
晴	雨	雨	雨	雨	雨	
五日正午ヨリ強風午後四時ヨリ雪トナル。	八日午前十時ヨリ降雨。	十四日時々降雨。				

備考

(一)氣壓、風向、風力ハ秋田測候所ノ觀測ニシテ其他ハ凡テ在花館村陸羽支場ノ觀測ナリ而シテ氣壓中前日及翌日ハ水浴セル日トノ差ヲ以テ示ス。又晴雨ハ晝間一耗以上ノ降水アル日ヲ雨雪ノ日トス。

四、水浴時ニ於ケル氣象狀態

からすハ如何ナル必要ノタメニ水浴スルヤ予等ハコレニ關スル文献ノ多クヲ知ラズ。只「和漢三才圖會」ニ鴉浴風 又

按夏日鴉浴近レ雨每試然凡將レ雨氣鬱蒸故浴翅者矣 農政全書以爲ニ風之候者未審

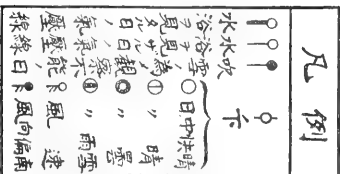
其他俗間ニ唱フル處及ビ新聞雜誌ニ一地ノ天氣占ヒトシテ示スモノハ何レモ前文ト略ボ同一ナリ。又雀ニツキテモ之ト同一ノ俗説アリ。

上文ハからす水浴ノ原因ヲ悉ク説明シ盡シタリトハ信ゼザレドモ依之からすノ水浴ト氣象トハ其内ニ密接ノ關係ノ存在スルコトヲ知り得ベシ。依テ水浴ト氣象トノ關係ニツキ少シク述ブ可シ。

(い)氣溫 からすハ炎暑燒クガ如キ夏ノ日ニ水浴スルコト少ナク却テ近寒肌ヲ裂クガ如キ冬ノ日ニ多キヲ以テ、からすハ銷夏ノタ

メ水浴スルモノニアラザルヲ知ル可シ。次ギニ第二表ニツキ各月ノ平均氣溫ト水浴ヲ見タル日ノ氣溫トヲ比較スレバ、其結果ハ恰モ比較的溫暖ノ日ニ水浴スルカノ如ク、更ニ平均氣溫ノ最モ低キ十二月乃至二月ニ至ル三ヶ月間ニ月平均氣溫ヨリ水浴ヲ見タル日ノ氣溫ノ高キヲ示ス場合ヲ見ルニ十二月ハ十七日中九日、一月ハ廿日ノ内七日、二月ハ十七日ノ内十二日ニシテ、コレ又幾分高

天候變化頻繁ナル時期ニ於ケル水浴日ノ氣象表



溫ノ場合多シ。然ルニ前記水浴ハ時刻ノ條下ニ述ベタル如クからすハ極度ノ低溫ノ日モ尙且ツ平然トシテ水浴スルヲ見レバ氣溫ト水浴トハ直接密接ノ關係アリトハ想ハレズ。若シ假リニ若干ノ關聯アリトスルモコレ恐ラク低氣壓來襲ニ際シ多ク溫暖ナル偏南風流行スルタメ其日ハ比較的高溫ヲ示スタメナル可シ。

(ろ)氣壓 第一表一ケ年間ニ於ケル各月平均氣壓ノ高低ト水浴觀察ノ日數及ビ第二表月平均ト水浴日トノ關係ヲ通覽スレバ、からすハ氣壓ノ高キ場合ニ水浴スルモノ、如クナレドモ、更ニ前記引用書並ビニ俗間ニ唱傳スル處及ビ余等ノ經驗上ヨリ偏南風吹キテ蒸シ熱ク催雨ノ徵アル天候ニ際シ水浴ス。而シ如此氣象狀態ハ氣壓ノ著シキ下降ヲ示シツ、アル場合ニ多シ。果シテ然リトセバ却テからすハ氣壓下降ニ際シ水浴スルコト、ナル可ク。要之からすハ平均氣壓ノ高低ト深キ關係ヲ有セズシテ高壓ヨリ低氣壓ニ移動シツ、アル時ニ水浴スルモノ、如ク、實際ニ於テ第二表水浴日ト前後兩日ノ氣壓ノ差ハ之ヲ證明スルノミナラス、第三表ニヨリ氣壓ノ昇降ト水浴ト有無トノ相關係數ヲ算出スルニ其結果ハ

氣 壓	水 浴 ス	水 浴 セズ
氣壓上昇ヲ示セル日	7	23
氣壓下降ヲ示セル日	38	3

備考 一日中ノ氣壓變化三種以內ノ日ハ計算ヨリ除ク

(一〇、九五三トナリ明カニ氣壓ノ下降ト水浴トハ密接ノ關係ヲ有スルコトヲ知ル可シ。而シテ其相關係數ハ完全係數ニ達セザルハコレ等ガ觀察ニハ若干ノ誤リアルベキコト、尙一ツハ水浴原因ノ全部ガ單ニコノ氣壓傾斜ノミニ限ラザルタメナル可シ。

(ハ)風向 風ノ方向ト氣壓トノ關係ハ第三表ニ示ス如ク、偏南風ノ日ハ氣壓下降ノ日ナリ。而シテ氣壓ノ下降トからすノ水浴トハ密接ノ關係アルコト前述ノ如シトセバ、風向モ之ト隨伴の關係ナカルベカラズ。今コノ關係ヲ知ランガタメ第二表ニ就テ見ルニ水浴日數二十二回中偏南風ノ日十六回(七三%)又第三表ニアリテハ同ジク五十六回中三十八回(六八%)ヲ算シ明カニ風向ト水浴ト關

係アルコトヲ證セリ。唯其關係ハ氣壓ノ場合ニ於ケル如ク能ク一致セザルハ畢竟風向ハ一日ノ方向ヲ以テ示セルガ故ニからすノ水浴セル時刻ニ實際偏南ノ風ナリシトスルモ、一日ノ平均方向ハ偏南ヲ指サバル日アルガタメナルベシ。依テ更ニ第三表中一日平均偏南風ナリシ日數四十日ノミニツキ水浴ヲ見タル日數ヲ見ルニ、三十七日ニシテ其残りノ三日モ何レモ水浴條件ヲ具有セル日ナレド恐ラク實際水浴セルモ予等ノ觀察ニ漏レタルモノナルベシ。

(に)晴雨 からすノ水浴ヲ見タル日ノ天氣ハ第二表ニテハ二十二回ノ觀察中降雨中ニ水浴シタルハ一日(五%)、同ジク曇天又ハ半曇ノ日ト共ニ四日(一八%)残り十六日(七七%)ハ何レモ晴天ノ日ニシテ、又第三表ハ最モ降雨日數ノ多キ季節ナレド、水浴日數五十六日晝間雨雪ノ日ハ十三日(三三%)ニシテ何レノ場合ニモ降雨ナキ日ニ多ク水浴スルコトヲ知ルベシ。尙表中ノ天氣ハ午前九時ヨリ午後五時マデノ降水量一糎以上ヲ降水日トシタレドモ、からすノ水浴時ハ一日中ノ或短時間内ナレバ實際水浴時ニ雨雪中ナルコトハ更ニ稀少トナルベシ。

其他風速日照等ノ氣象現象ト水浴トハ若干ノ相關アルベキモ、右ハ氣溫、風向等ト共ニ直接水浴ノ原因ニアラズシテ寧ロ氣壓ノ變化ニ供フ副現象ト見ルベキモノナルベシ。

以上述ブルガ如クからすノ水浴ハ、氣壓ノ下降シツ、アル靜穩ナル日ニ多キヲ知り得ベク、亦すぐめノ水浴ト氣象狀態トノ關係モ之ト同一ノ結果ヲ得タリ。但シ水浴ト氣象狀態トノ關係ヲ說カントスルニハ水浴時ノ觀測ヲ以テス可ク一日ノ平均ニテハ到底不完全ナルヲ免レザル可シ。

四、水浴ニヨリ天氣豫察ノ能否

からすハ氣象ノ變化ニ感應シテ水浴スルガ故ニ之ニヨリ若干時後ノ天氣ヲ豫知シ得ベシトノ說ハ曩ニ述べタル如ク余等ノ經驗ヨリスルモ全々無稽ノ妄說トナスコト能ハザルニ似タリ。唯其豫察シ得ベキ時間及適中ノ割合ニ至リテハ、氣象的變化ガからすニ感應スル程度ノ強弱ト、水浴ヲ爲シ得ル時間ニ自ラ範圍アルコト等ノ理由ヨリ、コレヲ今日各地ノ氣象測候所ヨリ發スル天氣豫報ト同一標準ヲ以テ律スベキ性質ノモノニアラザルハ云フマデモナク、殊ニ冬季低氣壓ノ頻々トシテ來襲スル際ノ如キハ全ク不可能ニ

屬ス。然レドモ今若シ第二表ニ掲ゲタルガ如キ、天氣ノ變化緩漫ナル時期ニ於テハ、水浴ヲ見タル時刻ヨリ半日乃至二日後ノ降雨ヲ豫知シ就中九、十、二ヶ月ハ一〇〇%ノ適中ヲ示セリ。要スルニ此種動物ノ舉動ニヨリ一地方ノ天氣ヲ豫祭スルコトハ、古來各地ニ行ハレタル處ニシテコレニハ若干ノ據ル處アリト言フヲ得ベク、又實用上ノ價值ハ暫ク別トシテ吾人ハ動物習性觀察ノ見地ヨリ多大ノ興味ヲ覺ユルモノナリ。

神奈川縣下ノ鳥類採集

子爵 松 平 賴 孝

大正三年二月ヨリ時々中絶シテ十二月迄ニ至ル迄神奈川縣下ニ於ケル採集ノ結果ヲ左ニ報告センニ採集地ハ神奈川縣下ノ一部ニシテ酒匂ヨリ眞鶴ニ至ル沿海茅ヶ崎ヨリ江ノ島ヲ經テ七島^{ナジマ}ニ至ル相模沿岸及其附近ノ山地ヲ主トセリ。

二月頃ハすなめりノ群酒匂眞鶴沿岸近ク來訪スル爲ナルヤ鷗類夥シク酒匂川口ニハゆりかもめ、うみねこ、かもめ、みのびかもめ等ヲ見ルモ大形種おほせぐろかもめ、しろかもめ等ハ比較的少シ。眞鶴附近ニハ之ニ反シ大形種多ク小形ナル鷗類甚ダ稀ナリ。わしかもめハ其生活區域他種ノ如クナラズ酒匂松濤園前ノぶり網附近ヨリ一直線ノ海上ニ限ラレ數十ノ群ヲ見受ルモ小田原及二ノ宮方面ノ海上ニハ殆ンド見ルヲ得ザリキ。すなめりニ附隨シ來ル大群ノ鷗ハ主ニゆりかもめニシテ漁師ハ之ヲあかし又ハマگریト呼ベリ蓋シすなめりニ纏フノ意カ。

之ニ次ギみのびかもめ多クシテうみねこかもめ稍少ク大形種ハ尤少シ數回ノすなめり群ニ出合モ何時モ同ジ結果ナリキ。

大形種ハ酒匂附近ノ海上ニ來ル事遅ク毎朝午前八時頃ナラデハ見受ルヲ得ズ一日末明酒匂ヨリ舟ニ乗ジ午前七時前眞鶴三ツ岩ニ到着ス岩上ニ多數ノ大形ナル鷗ヲ見ルしろかもめ、せぐろかもめ、おほせぐろかもめ、はじろかもめ等ヲ捕獲セリ此等ノ鷗ハ附近ニ於テ比較的安全ナル此海上ノ岩頭ニ來テ常ニ安眠スルモノナルベシ。捕獲セルおほせぐろかもめ(初列風切第三羽内瓣白斑ヲ有ス

ルモノ)二十七个ノ内せぐろかもめ(初列風切第三羽内瓣白斑ヲ有セザルモノ)ハ僅ニ三個アリシノミ。(此兩種ハ少シク疑ワシキモノニシテ確實ニ區別スル事ノ可否ニ付テハ猶研究ノ餘地アラン然レドモ背部ノ濃淡ハ年齢ニ依ルモノナラント信ズ)前年度伊豆沿岸ニ大形ナル鷗類採集セシ結果モ同ジカリキ。はじろかもめモ稀ナルモ注意シテしろかもめ群中ノ小形ナルモノヲ射撃セバ得ルニ難カラズ。

二月二十七日はやぶさ、かむむりうみすぐめヲ獲(真鶴三ツ岩)後者ハ附近ニ數羽ノ同種類アルモ雌雄宛一所ニアツテ通常海雀ノ如ク群棲セズ雌雄何レカヲ射獲セラル、ヤ他ノ一羽ハ暫ク潛行シテ再ビ海上ニ浮ビ出ズルヤ只チニ其附近ヲ低ク飛廻リ可隣ナル鳴聲ヲ發シツ、其友ヲ呼ビ在ラザルヲ知ルヤ一直線ノ飛行ヲ爲シ行所ヲ知ラシメズ。此ノ採集ハ二月二十四日ニ始メ三月五日ニ終リ歸京セリ酒匂川口ニすなむぐりつばめノ數羽飛ブテ見タリ。

三月二十日ヨリ四月十日迄江ノ島沿海ヲ採集スう、あび、しのりかも等普通種ノミ。鵜ハひめう、かわう最多クかわうハ此時期ニ充分ナル生殖羽ヲ有セリうみうハ此海面ニ甚ダ稀ニシテ片瀬川口ニ一羽ヲ獲タルノミ。四月十日ぶり群江ノ島ヲ去ル三哩ノ沖ニ現バルおほみづなぎざり之ヲ追フテ來ルニ出合フ幸ニ十數羽ヲ捕獲セリあび類ハ此頃ヨリ次第ニ相模灣ヲ去ル。

後六月江ノ島沿岸ノ鳥類觀察ヲ試ム二十二日姥島ニ始メテめりけんきあししぎヲ見ル他ニひめう一羽うみねこ四羽ヲ見タリうみねこハ皆老鳥ナリ産卵期ニ後レタルモノナランカ。七月江ノ島附近ウ島ト稱スル岩上ニきあししぎ數十羽ヲ見タルモ鷗類ハ一羽モ見ルヲ得ザリキ。

八月七日ヨリ採集ヲ始ムうみねこ幼鳥黑色ナルモノ(當年子)七八羽ヲ見ルきあししぎハ小數ニシテ鵜沼海岸ニ於テきやうじやう、さうねん、むなぐろ等各一羽宛ノ合シタル一團ヲ見ルしろざりハ四五羽宛何時モ見受タリ。酒匂ニ於テモ江ノ島沿岸ニ於ケルガ如クうみねこ幼鳥ノ飛ブテ見ル酒匂上流ニおほぢゆん、こぢゆん、きあししぎ等ヲ見ル河口ノ砂原ニおほめだいちざりヲ捕獲ス。

九月二十五日鵜沼海岸ニさうねんノ大群渡來ス之ニ次ギみゆびしぎ渡リ來レリテ其他ノ種類ハ以上ノ群中ニ點在スルノミ。此日あじさし及こがもヲ見ル。二十六日きやうじやうしぎノ小群ヲ見受ク二十七日ニ至ル迄多數ヲ捕獲セリ採集物中こばしちざり、お

じろこうねん(以上鵜ヶ沼)

おほめだいちぎり(酒匂)ノ如キハ稀ナル種類ニシテ予ノ標本室ニ於ケル珍客タリ。おほじやく、ちうちやく、だいぜん、おほそりはししぎ等ノ大形種ハ餘リ多カラズ。同月三十日頃ニハ一時みゆびしぎ及こうねんノ群ヲ見ザリキ。

十月四日少數ナルこうねん、しろちぎり群ヲ見タリめだいちぎりノ一群渡リ來ル。同月十四日まがも渡ル獵家ノ待チ兼メル同月十五日ニハ此海岸ニ一ノこうねんナク只黑色ノうみねこ(幼鳥)得意氣ニ飛翔スルノミ。十月二十五日大形ノ鵜酒匂ニ渡リ來ルしのがも、なきはじろ、きんくろはじろ等ヲ獲タリ。二十七日わしかもめ三羽ヲ捕獲ス當時未ダ此三羽ノ外ニ大形ナルかもめナシ二羽老鳥(尾羽ノ末端産卵ノ爲ニ摩損セシ蹟ヲ止ム)一ハ幼鳥ナルモ當年子ニハ非ザリキ。

是ヨリ日々他種ノ鵜類渡リ來リ次第ニ其數ヲ加へおほせぐろかもめ、せぐろかもめ、しろかもめ、がもめ、ゆりかもめ等ヲ見ルニ至ル。みゆびかもめハ鵜族中最後ノ渡來者ニシテ嘗テ北海道ニ産卵スル鵜類ノ調査ヲ村田氏ニ依頼セシ時他ノ種族ハ同島ニ産卵ハモ獨リみゆびかもめノミハ樺太ニ於テ産卵スルモノナリト報ゼラル。渡來ノ順次或ハ産卵地ノ遠近ニ依テ然ルカ。

十一月十七日くろぎり、うみあいさ、びろうぎきんくろ、あび、おほはむ、あかゑりかいづり等ヲ江ノ島ニ獲

四月廿日うみすぐめ渡リ來ル。まだらうみすぐめモ此頃ヨリ其多クテ海面ニ見ル。四月廿一日通常つばめノ幼鳥二羽ヲ片瀬川附近ニ得タリ歸リ後レタルモノナランカ。第一回神奈川縣下ニ於ケル採集ハ之ヲ以テ終リトナス。

爰ニ附記スベキハあひ類ニシテ屢々海上獵ヲ試ミシモ酒匂方面ニハ其一羽ヲモ見ルヲ得ザリシ一事ナリ。

猶左ニ採集セル全部ノ鳥類ニ就テ目錄ヲ添ヘン。

- | | | | |
|--|----------|--|-----------|
| 1. <i>Colymbus septentrionalis</i> L. | アビ | 2. <i>Colymbus arcticus</i> L. | オホハム |
| 3. <i>Colymbus pacificus</i> (Laftr) | シロエリオホハム | 4. <i>Podiceps holboellii</i> (Reinlt) | アカエリカイヅヅリ |
| 5. <i>Puffinus leucomelas</i> (Temn) | オビズナキフリ | 6. <i>Phalacrocorax carbo</i> (L) | ウミウ |
| 7. <i>Phalacrocorax capillatus</i> (T & S) | カワウ | 8. <i>Phalacrocorax pelagicus</i> (Pallas) | ヒメウ |

9. <i>Nycticorax nycticorax</i> (L.)	ゴキサギ	10. <i>Putorius amurensis</i> (Schlenk)	サ、ゴイ
11. <i>Anas boschas</i> I.	マガモ	12. <i>Nettion crecca</i> L.	マガモ
13. <i>Fuligula fuligula</i> I.	キンクロハジロ	14. <i>Fuligula marila</i> I.	スバガモ
15. <i>Cosmonetta historionica</i> (L.)	ミノリガモ	16. <i>Oidemia fusca stejnegeri</i> (Ridgw.)	ビロウドキンクロ
17. <i>Oidemia americana</i> S. & R.	クロガモ	18. <i>Mergus serrator</i> I.	ウミアイサ
19. <i>Milvus ater melanotis</i> (T. & S.)	トビ	20. <i>Falco peregrinus pelel</i> (Ridgw.)	オ、ハヤブサ
21. <i>Pandion halietus</i> (L.)	ミサゴ	22. <i>Phasianus versicolor</i> (Vieill)	キジ
23. <i>Phasianus scintillans</i> Gould	ヤブドリ	24. <i>Coturnix japonica</i> T. & S.	ウヅラ
25. <i>Stopsilas interpres</i> (L.)	キヤウヂヤウシギ	26. <i>Syntriorola helvetica</i> (L.)	ダクゼン
27. <i>Charadrius fulvus</i> Gm.	ムナヅロ	28. <i>Charadrius morinellus</i> L.	コバシチドリ
29. " <i>placidus</i> Gray	イカルチドリ	30. " <i>minor</i> W. & M.	コチドリ
31. " <i>geoffroyi</i> Wagler	オホメダイチドリ	32. " <i>mongolicus</i> Pallas	メダイチドリ
33. " <i>cantianus</i> Lath.	シロチドリ	34. <i>Nemienis argyatus lineatus</i> (Cuvier)	ダクシヤクシギ
35. " <i>phaeopus variegatus</i> (Scop.)	チウシヤクシギ	36. <i>Limosa rufa trogyialis</i> (Gould)	オハソリハシシギ
37. <i>Totanus hypoleucus</i> (L.)	イソシギ	38. " <i>incanus</i> (Gm)	キアシシギ
39. " <i>incanus brevipes</i> (Vieill.)	メリケンキウシシギ	40. <i>Plalaropus hyperboreus</i> I.	アカエリヒレアシシギ
41. <i>Tringa tenuincki</i> Leisler	ラジロトウネン	42. <i>Tringa alpina pacifica</i> (Cones)	ハベシギ
43. " <i>arcanaria</i> L.	ミユビシギ	44. " <i>ruficollis</i> Pallar.	トウネン
45. <i>Gallinago coelestis</i> (Frensz)	タシギ	46. <i>Gallinago uregala</i> Sw.	チウシギ
47. <i>Rissa tridactyla</i> L.	ミユビカモメ	48. <i>Larus ridibundus</i> L.	ユリカモメ

49. " canus L. カモメ
51. Iarus vegge Palmén ヒヅウカモメ
53. " crassirostris Vieill. ウミネコ
55. " glaucus Fabr シロカモメ
57. Sterna longipennis Nordmann アジサシ
59. Synthliboramphus antiquus Gm. ウミズバメ
61. Brachyramphus perdix (Pall) アダラウミズバメ
63. " lamia intermedia (Strickl) ? カハラバト
65. Scops sc. itornes (T. & S.) オホコノハジク
67. Caprimulgus jotaka (T. & S.) ヨタカ
69. Motacilla leucorha melanocephala Pall. キセキレイ
71. Motacilla alba lugens ハクセキレイ
73. A. spiniolela japonicus (T. & S.) タヒバリ
75. Turdus fuscatus (Pallas) ツグミ
77. " pallidus Gm. シロハラ
79. Acrocephalus orientalis (T. & S.) オホヨシキリ
81. Hirundo rustica gutturalis (Scop.) ツバメ
83. Lanius bucephalus T. & S. モズ
85. C. corone orientalis Eversm. ハシボソガラス
87. Acanthis spinus L. アヒハ
93. Emberiza cioides ciopsis Bp. ホホジロ
50. " brachyrynchos Rich. コカモメ
52. " schistisagus Stejn. オホヒクロカモメ
54. " glaucescens Naum. リシカモメ
56. " leucopterus Fabr. ハジウカモメ
58. Certhyrucha monocerata Pallas ウトリ
60. S. vinnizusume Temm. カムロリウミズバメ
62. Turtur orientalis (Lath.) キジバト
64. Sphenocercus siroldi (Temm.) アヲバト
66. Ninox septulata (Raff.) アヲバジク
68. Cypselus pacificus (Lath.) アヲツバメ
70. M. alba japonica Seel. セジロセキレイ
72. Anthus mentatus Hodge. ビンズイ
74. Hypsipetes amurensis (T.) ヒヨドリ
76. T. chrysolaus T. アカハラ
78. Monticola solitarius (Müll) イリヒヨドリ
80. Myioborus borealis (Blas) コムシクヒ
82. Ampelis japonicus Seeb. ヒレンジヤク
84. Corvus macrorhynchos japonensis Bp. ハシヅトガラス
86. Chloris sinica minor (T. & S.) コカハラヒハ
88. Passer montanus L. スバメ



雜纂

錦鶏ノ飼育

理學博士 飯塚 啓

錦鶏ハ元來支那產ノ鳥ニシテ其ノ體ノ優美ナルト羽毛ノ鮮麗ナルトニヨリテ人ニ愛セラレタルナリ殊ニ少年ハ之ヲ觀テ甚タ喜ブヲ常トス、余ノ家ニ小學校へ通學中ノ兒童三人アリ嘗テ上野動物園ニテ錦鶏ヲ觀テ以來其ノ飼育ヲ頗フコト切ナリ、仍テ頃日其ノ飼養及ビ卵ノ孵化等ニ關シ二三經驗家ノ說ヲキ、テ左ノ如キモノヲ得タリ。故ニ之ヲ記述シテ一ハ『鳥』雜誌編輯者ヨリノ催促ヲ免レ、一ハ讀者諸彦ノ御高教ヲ仰カントスルナリ

產卵

錦鶏ノ產卵ハ大約三期ニ分タル、モノニシテ期中ニハ隔日ニ一個ノ卵ヲ產スルヲ通常トス

第一期ハ四月下旬ニ始マリ引續キ約十個ノ卵ヲ產ス而シテ後約一週間中止シ

第二期ニハ七八個ノ卵ヲ產ミテ後チ又一週間程休ミ第三期ニモ亦七八個ノ卵ヲ產ム

親鳥ハ通常雌雄各一羽ヲ佳トス時ニ雄一羽ニ雌二羽ヲ置クコトアルモ此クスルニハ其等ノ雌ハ幼時ヨリ同一所ニ飼フ可ク然ラサレバ雌雄相爭フモノナリ而シテ幼時ヨリ同所ニ飼養セシモノニテモ若シ一週間以上別々ニ飼ヒ置ク時ハ其ノ後ニ同一所ニ入ル、モ互ニ相識ラザルモノ、如クニテ相爭フモノナリ尤モ脫毛期ニアリテ二三羽ヲ一所ニ飼フモ相爭フコト殆ンド無シトス

抱卵

家鶏ちやほヲシテ抱卵セシムルヲ佳トス而シテ一回ニ五個内外ヲ抱卵セシム抱卵二十八日間ニシテ孵化ス

餌料

魚類……………鮒ノ小形ナルモノヲ燒キテ乾燥シタルモノヲ用ユ

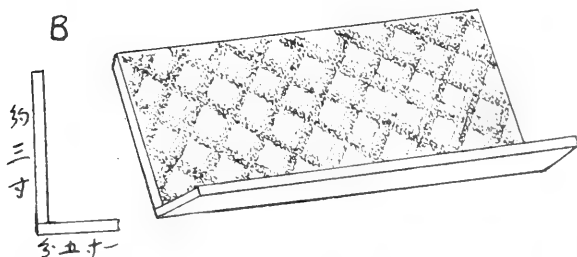
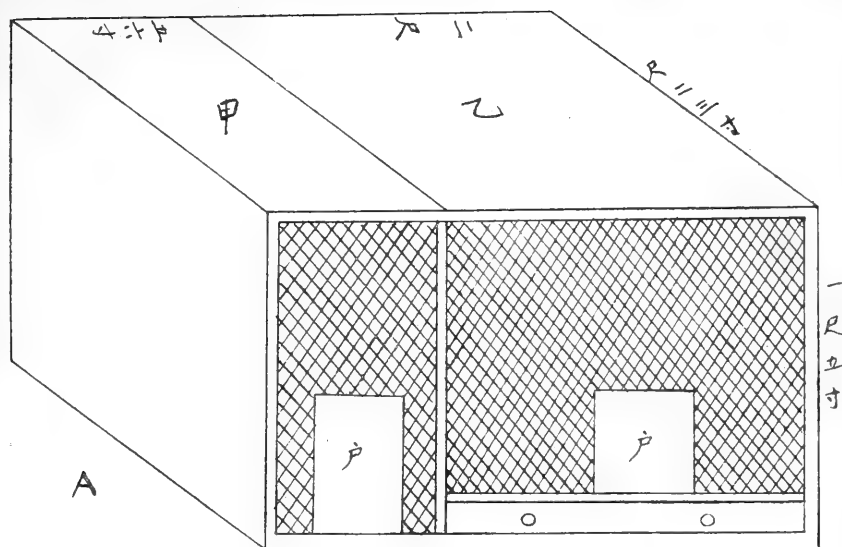
之ヲ下餌ト稱ス……………五匁

米粉、米糠……………米糠一外ニ米粉二合ノ割ヲ以テ混和シタル

モノ……………五匁

菜……………(冬菜、からし菜ヲ除ク)……………適宜

孵化後十五日乃至二十日間ハ此ノ餌ヲ以テ飼フモノナリ而シテ其ノ始メニ於テハ餌ヲ高サ三寸位横適宜ノ小板ニ塗布シテ之ヲ



A 餌付ケ箱 乙
部ノ底ニハ砂ヲ入
レ置ク、鰯ノ食餌
ヲトル爲ノ箱甲部
ノ中ニハ藁ヲ敷キ
置ク、家鷄、チヤ
ホヲ入レル箱
甲乙兩部ノ間ニア
ル隔壁ニハ鰯ノミ
ノ通行ヲ許ス程ノ
出入口ヲ備フ、此
餌付箱ニテ二十日
間飼育ス
B 餌塗板 此板
面ニ斜ニ十字文字ニ
すり餌ヲ塗布シ與
フ、此板ハ乙部飼
付箱ノ側壁ニ立テ
掛ケ置ク

鳥小屋ノ壁ニ立テ掛ケテ
與フルナリ即チ下餌ト米
粉、米糠トノ混和物ヲ板
面ニ塗布シ更ニ菜ヲ細カ
ク切りタルモノヲ散布シ
テ與フルナリ此ク餌ヲ板
面ニ塗布シテ與フルハ鰯
化後三日乃至七日間ニテ
足ルモノニシテ其ノ後ハ
小器物ニ容レテ與フルモ
ノニシテ決シテ水ノミヲ
與フルコトナシ
第一回ノ脱毛ハ孵化後一
週間位ヨリ始マルコト
孵化後十五日乃至二十日
間ヲ經過シタル時ハ粉
ノ割合ヲ増スモノナリ即
チ

下餌……………五匁

粉餌……………十匁

之ヲ五分餌ト稱ス

五分餌ヲ與フルコト更ニ二十五日乃至三十日間トス此クスル時ハ錦鶏ノ雛ハ約鳩大トナル

又此ノ時期ニ於テハ五分餌ノ外ニ小麥ヲ挽キ割リタルモノ少量ヲ與フルモヨシ（注意……………あぐさヲ與フルハ不可ナリ若シ之ヲ與フル時ハ下痢ヲ起スコトアリ）

純粹ノ水ヲ與フルコトナキハ前述ノ如シ故ニ又菜ヲ細カク切りタルモノヲ水ニ濕シテ與フルナリ

又粟、きび等ノ少量ヲ與フ

而シテ孵化後五十日以上ニ及ベバ粟、きび及ビ小麥ノ挽キ割リタルモノヲ以テ飼養シ且ツ菜ヲ切りタルモノヲ與フルナリ此ノ時ヨリ以後ニ於テ始メテ通常ノ水ヲ器物ニ容レテ與フルナリ孵化後六十日位ニシテ雌雄ヲ區別シ得ルニ至ルモノナリ此レ第二回ノ脫毛期ナリトス

尾ニ小斑點ノアルハ……………雌

尾ニ矢羽狀ノ斑アルハ……………雄

孵化後百五十日ニテ第三回ノ脫毛期トナル而シテ此ノ時ニハ愈雌雄ノ區別判明スルモノナリ即チ

雌ノ尾ニハ矢羽狀ノ斑ガ顯ハレ

雄ノ尾ニハ小斑點ガ顯ハル

（注意……………第三回ノ脫毛期迄ハスリ餌少量宛ヲ與フルモノトス）

以上ヲ經過スレバ普通ノ發育ヲ遂ケタルモノト認ム可ク此レヨリ以後ノ注意トシテハ雌雄ニハ飼養スルニ約一坪ノ場所ヲ以テ足レリトス但シ冬期ニ於テハ寒冷ナル北風ヲ避クルヲ要シ尙ホ夜間ハ（比較的寒キ地方ニ於テハ）油障子ノ如キモノヲ用テ寒氣ヲ防グ可ク而シテ此ノ鳥小家ハ必ラズ南方ニ向フ可キコトヲ忘ル可カラズ

翌年ニ至レバ次回産卵ノ用意トシテ正月月中旬ヨリ五分餌ノ少量ヲ與ヘ如メ引續キテ五月頃即チ産卵ヲ終ルマデ之ヲ與フルモノナリ

大正三年五月ニ於ケル五十嵐氏ノ實驗ニヨレバ錦鶏ハ一回ノ交尾ニテ十個ノ卵ヲ産シ其ノ卵ガ悉皆孵化シタリト云フ

又高崎市連雀町在住某氏ノ實驗ニヨレバ錦鶏雄ト雉子ノ雌トヲ交尾セシメテ雜種ヲ作りタリ尤モ此等雌雄ハ共ニ其ノ雛鳥時代ヨリ同棲セシメタルモノナリト云ヘバ或ハ其ノ爲ニヤ此レ同好諸君ノ實驗ヲ希望スル所ナリ。

一二三鳥類ノ習性觀察 (二) 仁部富之助

しじうから *Parus major minor* H. & S.

四季共ニ棲息スレドモ、季節ニヨリ其數ニ著シキ増減アリ。

則チ原野區域ノ觀察ハ年々秋九月頃ヨリ十一月頃マデト春三四月頃ニハ最も普通ナレドモ冬季積雪期ト夏季生殖期ニハ棲息スルモノ餘リ多カラズ。又此鳥ハ生殖期ノ外ハ多少群集スル性アレドモ彼ノむくざり、つばめ等ノ如ク大群ヲ形成スルコトナシ。

繁殖期 大正元年以來ノ調査數例中、構巢ノ最も早カリシハ四月下旬ニシテ最も晩キハ七月中旬ナリ。

巢 構巢ノ場所ハ寫眞ニ示ス如ク、地面上餘リ高カラザル所ニ出入口アリ且ツ内部ノ比較的廣キ樹洞ヲ撰ム。又巢ノ構造ハ洞穴内ニ馬毛、羽毛及ビ小許ノ蘇苔類ヲ平ラニ敷キ詰メ且ツ出入口ヨリ最も距リタル一隅ニ凹ミテ作り茲ヲ座卵ノ場所トナス。

卵 白色ニシテ暗赤色ノ小斑アリ。一巢ノ卵數ハ通常六顆乃至十顆ニシテ鳥體ニ比シ産卵數多キ方ナリ。一巢ノ卵重(新鮮)及寸法ヲ例示スレバ

一巢ノ卵	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇
重量(瓦)	一・五	一・五	一・四	一・五	一・四	一・四	一・五	一・五	一・五	一・五
長徑(耗)	一・四	一・四	一・四	一・四	一・四	一・四	一・四	一・四	一・四	一・四
短徑(同)	一・三	一・三	一・三	一・三	一・三	一・三	一・三	一・三	一・三	一・三

餌ノ給與回數 巢中ノ雛ニ餌ヲ給與スル回數ヲ知ランガため、予ハ大正四年五月三十日午前十一時四十分ヨリ午後一時マデ約一時二十分間、巢ノ附近ノ物蔭ニ潜伏シ二羽ノ親鳥ガ餌ヲ喰ミ

しじうからの構巢



來リテ巢中ニ入リシ回数ヲ調査シタルニ其總計五十一回ヲ算シコレヲ一時間ニ換算スレバ三十八回トナル。然レドモ此觀察時ノ初メ二十分間ハ強雨降り鳥ノ動作大ニ鈍リタレバ、今其時間ヲ除外スル時ハ一時間四十五回トナリ、一回ノ平均時間一分十八秒ニ當ル。尙當時此巢ノ雛ノ數ハ八羽ニシテ、雛ハ晚クモ三日ノ後ニ巢立スベキモノトス。又親鳥ノ銜へ來ル蟲類ヲ注視スルニ其殆ンド凡ベテハ小形ノ螟蛉及ビ尺蠖類ナルコトヲ知レリ。

つばめ *Hirundo rustica gutturalis* (Scop.)

去來期 つばめハ春ニ渡リ來リテ夏季生殖ヲ營ミ、秋ニ至リテ渡リ去ル。此去來期ニツキ明治三十八年以降累年ノ觀察ニヨレバ來期ハ次ギノ如シ。

年 度	水期(四月)	觀察 地名
明治三十八年	一二日	仙北郡花館村
同 三十九年	一五日	同
同 四十年	四日	由川郡道川村
同 四十一年	一〇日	仙北郡花館村
同 四十二年	一三日	同
同 四十四年	二〇日	同

同 四十五年	一三日	同
大正 一一年	九日	同
同 三年	一二日	同
同 四年	一二日	同

今右表ノ内、道川村ニ於ケル四十年及ビ花館村ノ四十四年ノ觀察ヲ除クトキハ八ヶ年ノ最早最晩ノ差ハ六日ニシテ其平均ハ十二日トナル。コノ觀察ハ若干ノ誤リヲ免レザルニ關ラズ、同一地方ニ於テハ年々略ボ同一ノ時期ニ渡來スルコトヲ知ルベシ。又去期ハ茲ニ累年ノ觀察ナキモ年々九月中下旬ヨリ十月上旬マデニ渡リ終ルガ如ク、予ノ觀察中明治四十二年及ビ大正二年ノ十月二日鳥ヲ見タルハ最晩ノ例ナリ。

繁殖期 數年間ノ觀察中四月下旬ニ新タニ巢ヲ造リ始メタルモノト、五月三日ニ舊巢ニ産卵ノ初メタルモノトハ最モ早く、八月下旬ニ巢立セルモノト、八月二十一日道川村ニテ孵化後二週間位ノ雛アル一巢ハ最モ晚キ例ナリ。依之秋田地方ニ於ケルつばめノ繁殖期ハ、四月下旬ヨリ九月上旬マデト見做スヲ得ベシ。巢ト卵 つばめ巢ハ人家ノ檐ニ構フルガ故ニ人々ノ知悉スル所ナレバ茲ニ説明ノ要ナキモ「和漢三才圖會」ノ「其窠固密不レ可言用泥 和ニ髮毛或稗心ニ宛如ニ聖塗」ノ文字ニヨリ其凡テヲ盡

卵ノ番號

一

二

三

四

五

重量(瓦) 一、八八 一、八八 二、〇六 一、九九 一、八七

長徑(耗) 一、九一 一九、三 一九、五 一九、五 一九、四

短徑(同) 一三、五 一三、九 一三、六 一四、三 一五、三

産卵孵化及巢立日數 一日一卵ヲ産ムヲ普通トスルガ故ニ産卵

ヲ要スル日數ハ一巢ノ產卵數ト一致スベク、又抱卵後雛ノ孵化

マデ及び孵化後巢立マデノ日數ニツキ同好、柿崎洋一氏及予ノ

調査ヲ表示スレバ

巢ノ番號

抱卵日數

巢立日數
巢立マテ

計
巢共五羽

觀察

柿
崎

仁部

右ノ内三ノ比較的早ク巢立セルハ此巢ハ八月下旬ノ巢立ニシテ最晩例ニ屬スルガ故ニ親鳥ハ非常ナル努力エヨリ哺育セルタ

來學者間ノ定説ニシテ何人モ異存ナキ處ナレドモ、明治三十九年十月發行ノ東京二六新聞ニ東京下谷ノ人佐藤善氏ノ實驗談トシテ次ノ記事アリ。

(前略)燕トイフ者ハ寒期ニナルト食ヲ絶ツテ深山ノ岩穴へ這入ツテ死ンダヤウニ堅クナツテ目バカリばちノサセテ居ルガ羽ハ利キマセン、サウテズ何千羽モ一所ニナツテ居ルモノデス、私が丹波國鞆岡ノ愛宕山へ參リマシタ時岩ノ横ニ穴ガアリマシテ其處へ行クト何ダカ暖カイ氣ガシタノデ此ハ屹度獸ノ巢窟ニ違ヒナイト思ツタノデ氣持ガヨクナカツタノデスガ木ノ枝ヲ中へ入レテ見マスト如何デシヤウ、燕ガ數百羽堅クナツテコロコロ出テ來タチャアリマセンカ皆生キテ居ルンデス、何デスヨ燕ハ夏ノ中ニ喰溜ヲシテ置クノデシヤウ、不
如歸モサウデスカラネ。

又「三才圖會」云 本綱燕…… 春社日來秋社日去其來也啣泥巢於屋宇之下其去也伏氣蟄於窟穴中或謂其渡海者謬談也和俗亦謂燕往來於常盤國者皆非。

以上ノ説ハ期セズシテ一致セリ。而シテ佐藤氏ノ實例ハ偶然ノ出來事トシテモ予ハ之ニヨリ多大ノ感興ヲ覺ユ。

習性ニツキ地方ノ俗説 (一)つばめハ春ノ彼岸ニ來リ秋ノ彼岸ニ歸ル(二)孵化後二十一日ニ巢立ス(三)巢立ハ吉日ヲ撰ム(四)一番仔、二番仔、三番仔或ハ春仔、夏仔、秋仔ト稱シ一番ノ親鳥ハ年三回雛ヲ孵ス(五)つばめガ巢ヲ造レバ其家ニ吉事アリトシテ喜ビ、若シ構巢半バニシテ止ムトキハ不吉ノ兆トシテ之ヲ忌ム。以上諸説ノ内(一)(二)ハ大體實際ニ近キ觀察ニシテ又(四)ハ既ニ述ベタルガ如ク一回ノ產卵育雛ニ少ナクトモ五十日ヲ要スルガ故ニ生殖期間約百二十日間二三回ノ育雛ハ到底不能ノコトナリ。

いよしきの *Acrocephalus bistrigiceps* (Sw.)

こよしきリノ習性ハおほしきリト大同小異ナリ。

「渡リ」ト「囀リ」ノ時期 「渡リ」ノ時期ハおほしきリト略ボ同一ナルカ若シクハ少シク晚ク、五月中旬頃ニ渡リ來リ九月ニ至リ渡リ去ル、次ギニ「囀リ」ノ時期ニツキ數年間ノ觀察ヲ示セバ

年 度 囀リヲ聞キタル最初ノ日 同 最晩ノ日

明治四十一年 五月二十五日 七月二十七日
同 四十二年 六月 三日 八月 三日

明治四十四年 五月三十一日 八月 十日
同 四十五年 五月二十四日 八月 八日
大正 一一年 八月 二日

同 四年 五月二十三日

繁殖期 明治四十一年以來ノ觀察ニヨレバ六月五日ニ完成セル巢ハ最モ早ク、七月下旬ニ卵アル巢、八月上旬ニ雛アル巢ハ最モ晩キ例ナリ。

巢 巢ハ植物ノ莖又ハ枝上ニ營ム。其種類ハおほしきリト稍趣キヲ異ニシおぎ、よし、すゝき、いたぎり、のはぎ、よもぎ等ニシテ地面上ヨリ巢マデノ高サハ一尺五寸乃至三尺。巢ハ禾

本科植物ヲ用ヒ其形狀亦おほしきリノ如シ。巢ノ平均直徑ハ五〇—六〇耗、深サ三五—四〇耗ノ範圍ニアリ。

卵 一巢卵數ハ三顆乃至四五顆ニシテ四五顆ノ處最モ普通ナリ卵ハ淡灰色ニ暗色又ハ褐色ノ斑密布ス一巢卵ノ大サ。重量ハ

一巢ノ卵ノ番號

甲巢—卵重(瓦)

乙巢—長徑(耗)

短徑(同)

一 二 三 四 五

一三二 一三二 一三二 一三二 一三二

一三二 一三七 一三三 一三三 一三三

一五三 一六一 一五九 一五八 一五八

一三四 一三六 一三五 一三六 一三六

●●●●●
雞觀一二

一羽ノこよしきリノ「嘯リ」ノ停止ノ際ハ次第二鳴調亂レ、音聲衰へ遂ニ停止ニ至ルベシト想像シ居タルニ實際ハ然ラズシテ「嘯リ」ヨリ停止マデ僅カ一二日ノ間ニ急轉直下スルモノナルコトヲ知レリ。又先年、構巢ツ、アリシ一配偶ヨリ雄鳥ヲ捕ヘタルニ其翌々日ニハ早くモ他ノ一雄來リテ同棲スルヲ見タリ。此ノ如キ例ハつばめニモ屢々實驗スル處ニシテ鳥類ニハ配遇者ナキ所謂鰥ナルモノノ存スルヲ知ルヲ得ベシ。(終リ)

鳥卵ノ斑紋異常ノ三例

理學士 黒田 長禮

動物學雜誌第廿六卷第三百十三號ニ内田清之助氏ハ仁部氏ヨリ送ラレタルもず卵ノ斑紋尖端ニ集合セル異常ノ例ヲ掲ゲラレタリ。是ト同様ノ例ハ他ノ鳥卵ニモアルコトニシテおほよしきリニハ屢々此ノ如キモノアリト仁部氏ハ語レリ。余ハ上記二種以外ノモノニテ次ニ記ス三種ノ鳥卵ニモ普通鈍端ニ斑紋密集スルニ均ラズ反對ニ尖端ノ方ニ集レル例アルヲ知ル因テ茲ニ報ズベシ。

(一)赤坂福吉町ニテ採集シタルはしぶこがらす卵四個ノ内二個ハ普通ニシテ他ノ二個ハ斑紋尖端ニ密集ス(第一圖)

(二)盛岡市ニテ飼育セルうづら卵多數ヲ見タル内ヨリ只一個丈

ケハ銳端ニ著シク斑紋密集セリ(第二圖)本種ノ卵ニテハ此例餘リ多カラザルガ如シ。

(三)千葉縣五井海岸ノ小松ヨリ採集シタルをながざり卵八個ノ内三個ハ明ニ銳端(但シ著シク尖ラズ)ニ密集セル斑紋アリ

(第三圖)



凡テ二分一實物大

本種ノ卵

ノ場合ニ

ハ屢々此

例アリト

ス

以上三種

ノ卵ノ中

ニテ斑紋

ガ兩端何

ゾレカニ

密集スルコトナクシテ中間ニ散在セル場合非常ニ多キニヨリ注意ヲ要ス。

挿繪寫真中ニテ上段ニアル卵ハ凡テ斑紋異常ノモノ下段ナルハ普通ノモノト知ルベシ。

鳥ノ飛翔高度 理學士 寺 尾 新

Hilzheimer: Handbuch der Biologie der Wirbeltiere に記セル

所ノ大略ヲ左ニ紹介スベシ。

Gätke ノ言ヲ盲信セシ頃ニハ、鳥ハ非常ニ高キ所ヲ飛ビ得ルモノナリト思ハレ居タリキ。Gätke 曰ク肉眼ヲ以テはいたか、のすりノ如キハ三三〇〇米ノ距離ニ於テモ點トシテ見ユト。然レドモ O. Lucanus ガ繫留輕氣球ヨリ剝製標本ヲ下垂セシメ、天氣晴朗ナル日ニ、望遠鏡ヲ用ヒテ普通ノ視力ノ二倍ノ精密度ニテ觀察シタル結果ニヨレバ、此ハ全ク誤謬ナルヲ知レリ。即チ次ノ如シ。

單二點トシテ見ユル
高サ

認メ得ザル高サ

くろつぐみ	二七〇米	三〇〇米
はいたか	六五〇—七〇〇米	約八〇〇—九〇〇米
みやまがらす	七五〇—八〇〇米	一〇〇〇米
の す り	一〇〇〇米	—

尙、彼ノ航空上ノ觀察ニヨルニ、千米以上ニ鳥ノ飛ベルハ例外的ノ場合ノミニシテ、鷺ト雖、二千米以上ニ昇ル事ナク、雲雀ノ最高飛翔度千九百米。鳥ハ千四百米ナリ。又輕氣球ニ乗リテ

八百米若クハソレ以下ニ上リタル時、鳥ヲ放テバ、直ニ地ヘ向ケ飛下ス。以上ノ結果ニヨリテ、鳥ハ非常ニ高キ所ヲ飛ブモノニアラズト結論セリ。

然ルニ、Sprell モ望遠鏡ヲ用ヒテ、觀察ヲ行ヒタルニ、一般ニ認容セラル、所トハ著シク相違セル結果ヲ得タリ。彼ハ六三八米以下ノモノハ觀察セザリシガ、ソレ以上ヲ飛ブ鳥ニシテ彼ノ觀察シタルモノニツキ、百分率ヲ求ムレバ一〇〇〇米マデノモノ一・六五、一〇〇〇乃至一五〇〇米ノモノ一九・三一、一五〇〇乃至二〇〇〇米ノモノ四〇・七〇、二〇〇〇乃至三〇〇〇米ノモノ二六・九七、三〇〇〇乃至四〇〇〇米ノモノ四一・四〇〇乃至五〇〇〇米ノモノ〇・九五ナリ。尙、同一種ノ鳥ニテモ飛翔高度一定セズ、而シテ三〇〇〇米以上飛ブハ例外的ノ場合ニシテ大多數ハ二〇〇〇米以下ヲ飛行ストイフベシ。然レドモコ、ニ注意スベキハ鳥ハ常ニ雲ノ下ヲ飛行ストイフ事ナリ。然ラズンバ目的地ノ方向判定セザルベシ。故ニコ、ニ舉ゲタル Sprell ノ結果ハ、當ニ鳥學者ノミナラズ、氣象學者モ亦疑念ヲ存スル所タリ。又 O. Lucanus ガ用ヒタル最良ノ望遠鏡ニテスラモ其限度約千米ノ高サナルニ、Sprell ノ言ヘルガ如キ高サニ於テモ鳥ヲ認メ得ベシトハ了解シ得ラレザル所ナリ。

右記ノ事ニ關聯シテ面白キハ、鳥ノ移住ヲナスニ當リ途中ニ高山脈連亘スル時ハ、之ヲ迂回スルヲ普通トシ、稀ニ其山脈ノ低キ所即チ峠ヲ飛ビ超ユルモノニシテ、高山ヲ幕地ニ飛ビ超ユルハ極メテ稀ナル事ナリ。即チ *Ben Henin* ガ西藏國ニ於テ、移住飛行ヲナシツ、アルヲ見タルハ雁ノ類ノミナリキ。他ノ鳥ハ空氣ノ密度稀薄ナル事、酸素ノ少量ナル事、展望ノ不自由ナル事ナドノ爲メニ高山ヲ飛ビ超エズシテ迂回スルナリ。

鴉ノ事ドモ

理學士 石井重美

(一) 先年ノ春(明治四十四年四月二十日)、北海道ノ壽津ニテ、馬ノ蠶ヲ抜キツ、アルからす(はしぶこ)ヲ見タリ。

馬ハ餘念ナク路傍ノ草ヲ食ミツ、アリシガ、からすハ其ノ頸ニ止リ、カノ恐ロシ氣ナル嘴モテ、盛ニ蠶ヲ啄ミ居タリ。馬ハ餘程饑エ居タルモノト見エ、草ヲ食フニノミ急ニシテ、頸上ノからすニハ、格別注意ヲ拂ハザル如クナリキ。勿論之ヲ逐フコトヲ爲サザリキ。

傍ノ家ノ屋根ニハ他ニ又一羽ノからすアリテ、其ノ嘴ノ間ニモ多クノ蠶毛アルヲ見タリ。蠶毛ハ鴉ガ營巢ノ材料トシテ必要ナ

リシモノナルベシ。

同月二十三日、同ジク壽津ノ郊外ニ於テ、十數羽ノからすが一頭ノ親馬ト一頭ノ子馬トノ蠶及ビ尾毛ヲ拔カントシ。又、附近ニアリタル一頭ノ犬ヲモ攻撃スルヲ見タリ。併シナガラ、此時ニハ、敵手ノ自衛的行動ニヨリテ、からすノ目的ハ何レモ達セラレザリキ。

(二) 明治四十四年ノ十月十二日、岩内(北海道)ヨリ神東内ニ向フ途中、益村附近ノ海岸ヲ歩キツ、アリシ際、海岸ノ岩上處々ニからすノ爲ニ迫害サレタルばふんうにノ死骸ノ散在スルヲ見タリ。ばふんうにハ、何レモ仰向ニナリ、殻ノ中ハ空洞ニサレテ、淺マシキ最後ヲ遂ゲ居タリ。

北海道ノ海岸ニハからす多ク、潮ノ引ケル折ニハ、彼等ガ磯ニ下リ立チテ、岩ノ間、石ノ下ナドニ蔭レ居ルうにヲ漁ルヲ見ル事普通ナリ。尤モからすはうにノミナラズ、いがひノ如キ貝類ヲモ食フヤウナレド、殊ニうにヲ好ムコト多キガ如シ。うにヲ取出ス時ハ、彼等ハ棘モ尠ナク且ツ柔カナル下面ノ中央ヲ啄ミテ、先ヅ「ありすこーこるノ提燈」ヲ取り去リ、次デ其ノ内臓ヲ食フナリ。

うにノ生殖腺ヲ生ニテ食フ時ハ、多少甘キ味ノ中ニ一種捨テ難

キ磯ノ香アリ。何事ニモサカシラ顔ナルからすハ、マタ此ノ野趣ニ富メルウにノ香味ヲ愛スルナランカ。

(三)明治四十三年ノ五月五日、伊豆ノ葦山附近ニテ、からす(何種ノからすカ)ノ巢ヲ得タリ。巢ハ人家ニ近キ裏山ノ檜林中ニテ、アル檜ノ樹ノ枝ノ間ニ跨リ、地上ヨリ約一丈許ノ處ニ在リタリ。巢ノ上ニハ檜ノ葉屋根ノ如ク覆ヒカ、リテ、上方ヨリハ巢ハ見エザル如クナレリ。

巢ノ構造ハ、最外、下面ハヤ、粗大ナル木ノ枯枝ヲ用ヒタリ枯枝ハ内方ニ進ムニ從ヒテ順次ニ細クナレリ。ソレヨリ内方ニハ種々ナル蔓アリ。之モ内部ニ至ル程細クナレリ。最内部ニハ棕櫚繩、棕櫚ノ纖維、人ノ毛髮等ヲ敷ケリ。最内部(即チ巢ノ卵ヲ盛ルベキ四部)ノ直徑ハ約二十糎、同ク深サ約九糎アリタリ。巢中ニ卵四個アリタリ。其等ノ大サ及ビ目方左ノ如シ。

番號 短徑 長徑(單位糎) 目方(單位匁)

一	三・一	四・八	六・二五
二	三・二	四・七	六・五〇
三	三・二	四・五	六・二五
四	三・〇	四・四	五・五〇

卵ハ、普通ノ場合ニ於ケル如ク、薄キ青綠色ノ地ニ、汚色ノ黒

點斑一面ニ分布セリ。併シナガラ、斑點分布ノ狀態ハ、一般ニ卵ノ鈍端ニ密ニシテ銳端ニ粗ナリ。斑點ハ大小種々ニシテ、且ツ形狀多少不規則ナリ。以上二種ノ斑點ノ他一、尙ホ一種ノ黒斑アリ。此ノ黒斑ハ形小ニシテ、數モ前二者ニ比シ極メテ少ナシ。併シ、卵ニヨリテハ、其ノ鈍端ニ可ナリ多ク集ルコトアリ。

盛京通志所載禽名

脇山三彌

盛京通志ハ清朝時代ノ南滿州記錄トシテ唯一ノモノナリ其第二十七卷物産ノ部ヨリ禽ノ名ヲ書キ拔キテ茲ニ掲グ鳥ノ漢名ハ甚不確實ノモノナレドモ滿州土產トシテ同好ノ士ノ一瞥ニ値スルコトモアラン

禽之屬

鷄。雉。鵝。

鵠。(俗天鵠、湖海間皆有之、其毛可爲服飾)

鴨。(貢品)

野鴨。(鴈沉鳬、以性好沒故名)

紅鴨。(形如白鷺，翅白)

蒲鴨。(大於野鴨，色黃)

樹鷄。(似雉而小，脚有毛，爾雅云鷄鳩大如鴿，似雌雉，鼠脚無後

趾，出北方沙漠地，今入貢樹鷄，多出林內，不在沙漠之地。

亦呼沙鷄)

鵠。(瘦頭朱頂，長頸高脚，一名仙禽，有灰白二種)

鸛。(水鳥，黑白二種，羽充貢，可爲箭翎)

鴻雁。(陽鳥) 鵠。(鸛鷺屬也，黃鵠)

鶉。(性喜鬪，土人呼爲鶉鶉，青蛙化者則不鬪)

練鵲。(似鵲而小，黑褐色，頂上披一帶，一名帶鳥，長尾白羽，今

呼拖尾練)

黃鸝。(黃鳥，一名倉庚，俗呼黃雀)

燕鳥。(色黑，能反哺者，俗呼老鴉)

鴉。(鸞) [詩] 鴉鵂，似慈鳥而大，不反哺，嘴腹白，土人呼曰山老

鴉)

鵲。(靈鵲，喜鵲)

鵲鵲。(青灰色，尖尾，長喙，頸黑，腹下白，飛則鳴，行則搖)

鴛鴦。鷺鷥。(林棲水食，潔白如雪者白鷺，又有紫鷺、碧鷺、大

小不一)

鷓鴣。(鷺) [詩] 性如浮，形如白鷺，鷓鴣。

鷓。(似鷹而大，色黑，鷺色黑者曰旱鷓，花紋者曰虎斑鷓，黑白相

間者曰接白鷓，小而花者曰芝蔴鷓)

鷓。(大曰兔鷓，小曰鴉鷓) 鷓。(鷓，隼)

海青。(鷓之最俊者，身小而捷)

鷓。(鷓類，俗呼鷓奴，鷓鷃)

鷓鷃。(鷓類，有花者，曰胡鷓鷃)

鷓。(似鷓而大，禿頂長頸赤目，好啖蛇，一名禿鷓)

鷓鷃。(形類鷓，灰色長嘴大脰，每渴水取魚，一名洵河)

鷓鷃。(似鷓而黑嘴，曲如鉤，食魚入喉則瀾涎可治鯁骨，可治

噎)

青鷓。(鷓類，一名信天緣，俗呼青壯)

紅牙。(背白翅微紅)

魚鷹。(大於鷓，色黑，鉤嘴食魚，一名鉤魚郎)

燕。(巧燕，構巢巧者，社燕，社時來故也，拙燕，構巢拙者)

鷓。(鷓鷃) 雀。鷓鷃。(大如鷓，紅頰，長脚，高胫)

戴勝。(似山鷓尾短，長嘴青色，頂有毛角，如戴花) 鷓。(通呼

斑鷓)

鳴鷓。(大於班鷓，長尾，一名布穀) 鷓。(黃白褐色首有冠猛

鷺喜圖、歇鷺

鵲。(水鳥似鷹，有斑文，無後趾) 鵲鷄。(類雉身，小鵲尾短，

嘴紅)

鵲。(似鷺而大，灰白二種)

鷓鴣。(桃蟲，似黃雀而小，青斑長尾，喙利如錐，採葦花爲巢，最

工緻，俗巧女)

白翎雀。(青黃色，翎白，雁春北秋南，白翎雀窮冬近寒不易其

處)

黑雀。(鷓鴣，田間有食禾之虫，此雀群飛食之，亦有功於農事

者)

水鷺。(有大小二種，小者長喙短尾，大者尾根白)

油灌兒。(形類大水鷺，尾根白)

打鷺。(形如小水鷺而大，首翅尾黑色，胸下白)

孤頂。(類烏鴉，黑嘴白)

鷓鴣。(大如燕，色碧，嘴長，尾短，翡翠之小者，俗呼魚狗)

啄木。(習啄木，嘴如錐長數寸，舌根通腦後，俗呼啄木官子)

縮脖子鳥。(灰色，形如嘴，翅大，脚高，飛則縮頸，俗呼縮脖子)

銅嘴。(似雀而大，色灰黑，喙青黃如銅)

錫嘴。(嘴白)

鐵嘴。(形類窩藍，無角頂)

蠟嘴。(桑扈之屬，喙如黃蠟，蓄之可爲玩)

紅料。(色紅，善鳴，色花者謂之花料，又謂之麻料)

金翅雀。(黃色善鳴)

大眼雀。(睛大而圓)

白眼雀。(目有白圈)

靛雀。(大似瓦雀，靛色)

蒿雀。(多伏蒿間，俗呼蒿溜兒)

黃肚雀。(俗呼黃吐囊)

白頭翁。(形似鵲，頭白身灰黑)

拙老婆。(頰下色紅)

畫眉。(似鷺而小，黃黑色，其眉如畫，善鳴)

三道眉。(其眉似分三道)

山和尚。(類山喜鵲而小尾，短灰黑色)

穿草鷄。(黃色) 柳葉兒。(色淡綠小如指)

哥哥鳥。(其鳴自呼) 串柳兒。(類柳葉雀，形微大)

鷓鴣。(其頭如猫俗夜猫子)

鷺。(尾長，嘴紅，似鷓而有文采，山喜鵲，又勃姑鳥)

鳳頭鳥。(阿藍、鷓鴣，有毛冠者曰鳳頭，或鷓、冠雀，又鷓)

千里紅。(頂有紅毛喜食蘇子、俗蘇雀、雪後來)

鐵背雀。(大於家雀、灰色尾分白翎)

鐵脚。(雀之屬大者爪堅如鐵、置罔覆網取之、漏網者未幾復至、

亦鳥之義、而愚者冬則群飛入海)

歐洲戰亂ト鳥 理學士 鷹司 信輔

歐洲西部戰線ニ立ツテ居ル英人ヨリ戰地ニ於ケル鳥信ヲ雖誌ニ出シタ者ガ有ル、今其二三ヲ譯出シテ見ルト。

(一)いふるノ附近ノ沼澤地ニハ小鵲ガ多ク住テ居ル或日獨軍カラ英軍ニ向ツテ放ツタ砲彈ガ沼ヲ去ル二百ヤードノ所デ破裂シタガ鳥ハ少シモ恐レ驚カズ平氣デ游ギ廻ツテ居ツタト云フ

(二)さん、えろわノ戰ノ時英軍ガ盛ニばがりや兵ヲ砲撃シテ居ツタ其真最中一群ノ棕鳥 (*Sturnus vulgaris L.*) (我國ノ鳥トハ異ルガ) 其ノ砲列ノ上ヲ暫ク少シモ恐ル、様子モナク飛ビ廻ツテ居タノヲ見タト云フ。

(三)之モ同ジ地方ノ話デ有ルガ英軍ト獨軍トノ塹壕ノ間デ腹部ニ重傷ヲ受ケテ數時間英軍ノ手ニ引キ取ラレズニ倒レテ居タ英人ノ實見談ニカ、ル時ニ於テモ己ノ附近ニハ小鳥ガ常ニ飛ビ廻リ餌ヲ取り雜木ノ中デ營巢スルモノサヘ有ル、兎モ餌ヲ求メニ

出テ居ルヲ見タト云フ。

以上ノ例ニ依ツテ見レバ野生ノ鳥獸ハ餘リ大砲小銃ノ音ヲ恐レヌ物ト見ヘル然ルニ犬猫ノ如キハ之ニ反シ甚ダ之ニ恐レ戰慄ク物ガ有ル。

神奈川縣ニ於ケル鳥類ノ方言

稲山徳太郎

方言ハ主トシテ中郡、愛甲郡、高座郡、足柄下郡ヨリ輯集セリ、本地方ハ都人士ノ來向多キ爲メ都會名ヲ用ヒ居ル者モ亦少ナカラズ、サレド予ハ本地方ノ方言ト認メラル、モノ(別名ノ有無ニカ、ワラズ)ノミ列舉セリ。

種 名 方 言

カイツブリ	むぐつちよ、いつちよつぶり	一町モ潜ルト云フ意
アホウドリ	ばかつこり	馬鹿鳥
ホシゴ井	ばかさぎ、よがらす	夜鳴クガ故ニ
ヲシドリ	をし	
マ ガ モ	あをくび、ほんかも	他ノ鴨類ニ對シテ
コ ガ モ	こびよう	小形ノ意

アイサ類總稱

ごうしよよう(主トシテ漁夫間ニ)鵜ニナ
ラウカ鴨ニナラウカごうしよウト云フ戯

言ヨリ

ノ ス リ

まぐそつたか 馬糞鷹

チドリ類總稱

さんほんあし 三指ナルガ故ニ

シヤクシギ類

じやく

ヤマシギ

ほごしぎ

カモメ類總稱

はまねこ 濱猫

キジバト

さば、さばこ

アヲバト

やまばこ 山鳩

カツコウ

はつこうごり 鳴聲ニ依ル

ホト、ギス

ほつちよごり

ツ、ドリ

ほんほんごり 鳴聲ニ依ル

カワセミ

そうな、せうびん、ひすい

ミ、ヅク

みゝじゆく、めゝづく、ねごごり

アヲバヅク

ふくろ

フクロウ

ごろすけ、ほうほうごり 共ニ鳴聲ニ依

キセキレイ

せきれ、むぎまきごり

タヒバリ

たひ

ヒヨドリ

ひよ

オホルリ

るり

トラツグミ

ごらつぐ

ツグミ

つぐ、つむ、ちようま

アカハラ

あかつばら

イソヒヨドリ

いそひよ

コマドリ

こま

ウグ井ス

ほけきよ、ちやつちや 共ニ鳴聲ニ依ル

オクイタバキ

きくいた、まつむし

ミソサバイ

みそつちよ、ちやつちや鳴聲ニ依ル

モズ

もすつたか 鵲鷹

ツバメ

つばくろ、つばくら

ムクドリ

むく、もくごり

シチトウメジロ

しまめじろ 島目白

シメ

まめわり 豆割、まめぐち 豆口、まめ

カワラヒワ

まわし 豆廻、まめばやし からひわ、からひや、かわらひはり 河

ニウナイスバメ

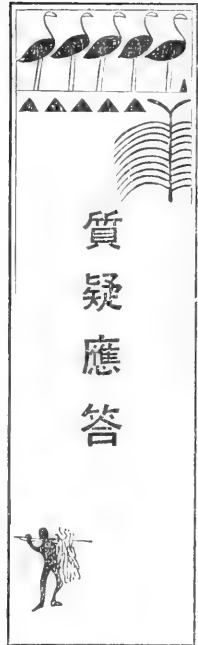
原鵜 やますぐめ 山雀

ホ、ジロ

ほじろ、しごゝ

カシラダカ

たほじろ 田鰯白



質疑應答

質疑者 大分縣教育會長 田中 喜助

一、問 狩獵法施行規則第二十七條ニ列記セル保護鳥七十六種ノ各種ニ就キ之ヲ保護鳥トナセル理由御説明相煩度

答 保護鳥中左記四十五種ハ何レモ其食餌主トシテ昆蟲類ニシテ從テ是等ノ鳥類ハ農林業上ノ害蟲ヲ撲滅スルノ効果極メテ著シキモノナルヲ以テ之ヲ保護ス

こらつぐみ、あかはら、まみじろ、くろつぐみ、こまごり、あかひけ、のごま、るり、いそひよごり、かはがらす、いわひはり、かやくぐり、ひたき、むぎまき、めぐろ、さんくわうてう、めじろ、うぐひす、きばしり、むしくひ、よしきりせんにう、せつか、きくいただき、やまがら、こがら、ひがらしじうから、ごじうから、ゑなが、みそさざい、さんせうくひ、むくぎり、れんじやく、せきれい、たひばり、ひばり、つばめ、あまつばめ、きつゝき、びんする、くわくこう、つ

つぐり、よたか、ほごゝぎす

左記五種ハ何レモ濫獵ノ結果近來著シク減少シ特ニ初メノ四種類ノ如キハ本邦内地ニテハ殆んど其跡ヲ絶ツニ至レルヲ以テ天然紀念物保存ノ意味ニ於テ之ヲ保護ス
つる、こうのこり、こさ、へらさぎ、らいてう

左記三種類ハ農林業上ノ害獸タル野鼠、野兎等ヲ捕食スル種類ニシテ近時は等ノ害獸ノ被害甚シキヲ以テ之ガ驅除ニ偉効アル是等ノ鳥類ヲ保護スルノ必要アリ

ふくろう、みづづく、こび、のすり

左記六種ハ何レモ海鳥ニシテ是等ノ鳥類ハ其食餌ノ關係ヨリ魚群ニ附隨シテ海上ヲ飛翔スル習性ヲ有スルガ爲メ漁夫ノ出漁ニ際シ魚群集來ノ場所ヲ豫知スルノ指針トナリ水産業上極メテ重要ナル種類ナルヲ以テ保護鳥タリ

かもめ、あじさし、うみすゞめ、うごう、あび、みづなぎごり
左記十六種ハ多クハ銃獵家ノ好獲物トシテ目セラル、種類ニシテ鳥類中最多獲セラル、モノナリ、故ニ其繁殖時期中捕獲ヲ禁止シ獵鳥ノ絶滅ヲ防ゲリ、前記各種ハ何レモ絶對ニ捕獲ヲ禁止サル、ニ反シ次ノ諸種ガ狩獵期間丈捕獲ヲ許セルハ全ク右ノ理由ニヨル

きじ、やまごり、ひよごり、はこ、せうぜうさぎ、こさぎ、ちうさぎ、だいさぎ、がん、かも、ばん、くるな、しぎうづら、ゑぞやまごり(内出清之助回答)

質疑者 大分中學校教諭 荒金 磐門

二、問 岩燕ガ保護セラル、燕ノ内ニ入ラザル理由

答 明治四十一年改正以前ノ狩獵法施行規則ニハ保護鳥ノ項ニ「燕岩燕ヲ除ク」トアリタルモ現行法ニテハ燕、雨燕共ニ保護鳥トナリ何等ノ除外ナキヲ以テ質問ノ岩燕モ無論保護鳥中ニ含マルモノトス

舊規則ニテ岩燕ヲ除外セシ理由ハ此種ハ栃木縣下ニ於テハ秋期霞網ヲ以テ多數ニ捕獲シ輸出尙剝製トシテ賣却シ同地方ノ農家ノ好副業トナリ居タルヲ以テ此點ヲ參酌シテ除外セルナリ然レドモ元來此種ハ諸種ノ害蟲ヲ啄食シ農林業上極メテ有益ナルヲ以テ改正規則ニテハ保護鳥中ニ加ヘラルルニ至レリ因ニ岩燕ナル名稱ハ栃木縣ノ方言ニシテ學名ハはりをあまつばめト稱シ現行規則中ノ雨燕中ニ含マルル種類ナリ鳥學上いわたつばめト稱スル種類ハ全ク右ト異レル普通ノ燕類ノ一種ナリ

三、問 放鷹ニテせうぜうさぎ、こさぎ、ちうさぎ、だいさぎ

かも、はん、くひなヲ捕獲スルハ保護期間ニテモ許サル理由

答 放鷹ハ本邦ニテハ古來諸侯ノ娛樂トシテ保護ヲ受ケタルガ爲メ極メテ發達シ其技術ノ如キモ獨特ノ妙技ト稱スルヲ得ルニ至リシモ維新後次第ニ衰退シ現今ハ僅ニ宮内省主獵寮其他一二ノ特志家ノ之ヲ傳フルモノアルニ過ギズ(會津地方等ニハ稍廣ク行ハルルモノアルモ其技粗拙ナリ)故ニ狩獵法ニテハ此本邦ノ獨特ノ妙技ヲ保存スルノ目的ヲ以テ特ニ法定獵法中ヨリ除外セラレタリ然シテ放鷹ハ銃獵等ト異リ夏期ニ於テモ多ク行ハルルモノナルヲ以テ鷹狩ノ主タル獲物タル前記諸種ノ鳥類ハ特ニ其保護期間中ニテモ捕獲ヲ許可セラレシ次第ナリ

四、問 岩がらすハ溪流ニテ魚類ヲ捕食スト某書ニアリ尙昆蟲ヲモ食スルモノニ候哉

答 岩がらすトハ方言ナルモ恐ラクハかはがらすヲ意味スルモノナラン然レバ該鳥ノ主要ナル食餌ハ魚類ニ非ズミテ溪流中ニ棲息スル水棲昆蟲類及ビ淡水産分類ニシテ魚類ヲ食スルハ寧ろ例外ノ場合ニ屬ス(以上三件内出清之助回答)



雜報

□南洋諸島採集結了 今春本會ヨリ新占領南洋諸島へ派遣セル會員寺岡直氏ハ七月十日加賀丸ニテ無事横須賀ニ歸航セリ。採集品ハ四十八種二百十五點ニ達シ從來同地方ヨリ獲ラレタル鳥類標本中最完全ナル蒐集ト稱スベク、就中せうびん類ノ一種及食巢燕ノ一種ノ如キ今回初メテ發見セラレタル亞種ヲ含ム。採集品全部調査ハ鷹司黒田二理學士擔任セラレ其結果ハ載セテ本誌巻頭ニアリ、尙寺岡氏採集品中ニハ鳥類ニ寄生スル羽虫、壁蝨及蠅蠅等二十餘種類アリ、目下内田清之助氏調査中ナルガ之又數種ノ新種ヲ含ム由

□南洋鳥類ノ天覽 本會ハ前記南洋諸島採集品中最美彩ナル種類並ニ南洋ヲ代表スベキ左記八種類ヲ撰定シ、海鳥及陸鳥ノ二臺ニ分チ本剥製標本トナシテ目下關根侍從武官ヲ經テ献上ノ手續中ナリ其種類次ノ如シ

海 しろあじさし *Gygis candida*
くろあじさしノ類 *Micranous leucocapillus*
しらをねつたいテウ *Platyon candidus*

陸 はゞノ類 *Phileopus ponapensis*
いんこノ類 *Eos rubiginosus*

鳥 きんばらノ類 *Erythrura trichroa*
ひたきノ類 *Myiagra erythrops*
みつする *Myzomela rubrata*

□本會第五回例会 九月十一日午後五時ヨリ秋期例会ヲ神田淡路町寶亭ニ開會セリ出席者次ノ如シ(來會順)

鷹司 信輔	内田清之助	黒田 長禮	天田鎌次郎
松平 頼孝	飯塚 啓	小林 友三	寺岡 直
丘 淺次郎	數 篤麿	米山 米吉	寺尾 新
飯島 魁	矢野 宗幹		

當日會場ニハ新採集南洋鳥類標本ヲ展覽シ鷹司黒田兩氏ノ説明アリ、尙松平頼孝氏ハ信州及沖繩産ノ珍奇ナル標本(別項記載)ヲ出品説明セラレ黒田長禮氏ハ別項記載ノ鳥類及鳥卵ノ標品供覽並ニ説明アリタリ。會食後ハ會員仁部富之助氏ノ郭公ノ育鸕ニ關スル新研究ノ發表(内田清之助氏代讀)詳細ハ本會臨時刊

行物第五編ニ發表ノ管) 及ビ之ニ關スル寫眞供覽ヲナシ・終ツテ役員一部ノ改撰(其中鷹司信輔氏評議員ヲ辭シ雜誌編輯委員ニ新任セラルル事ニ決定セシモ其後公務ノ爲メ雜誌編輯ニ從事セラレザル事情ヲ生ゼシヲ以テ從前通り評議員タル事ニ決定セリ)ヲナシ午後九時散會セリ當日供覽標本左ノ如シ

寺岡氏採集南洋鳥類標本(目錄ハ卷頭ニ論說欄ニアリ)

松平氏出品鳥類標本並ニ鳥類寫生圖

Spiornis pallidus Walden かむむりわし(雄成鳥及幼鳥)流球産

Otocorys alpestris (L.) はまびばり雌雄 信州産(本誌論說欄參照)

Surnia ulula L. 雄 歐洲産

Nyctale funerea Bp. 雌 歐洲産

Nyctale tengmalmi (Gm.) 雌 きんめふくろう 千鳥産

黒田長禮氏出品鳥類及鳥卵標本

Numenius phaeopus 英國産うちしやくしぎノ原種

Numenius phaeopus variegatus 本邦産うちしやくしぎ

Limosa rufa 英國産 おほそりはししぎ原種

Limosa rufa uropygialis 本邦産おほそりはししぎ

Hirundo rustica 英國産 つばめノ原種

Hirundo rustica gutturalis 本邦産つばめ

Parus major 獨逸産 しじうから原種

Parus major minor 本邦産しじうから

Passer domesticus

Passer montanus

Pozzanula palmeri

Paradoxornis guttaticollis

Euclampus jugularis

Chlorastilbon poortmanni

Bucco maculatus

Picumnus innominatus

Heniculus maculatus

Pannurus biarmicus

Phaethon rubricauda

Kostratula capensis

Motacilla alba lugens

白色鳴鶯ノ卵(異常ノ斑點アリ羽田産)をながどり卵(千葉縣五井産)

たましぎノ卵(千葉縣五井産) 種名未詳卵(秋田縣仙北郡産)

よたかノ卵(秋田縣仙北郡産)

□世界ノ鵲ト千鳥 本會臨時出版物第五篇タル黒田長禮氏著同

書ハ今秋出版ノ豫定ナリシモ本文意外ニ浩漣トナリシ爲メ未ダ

全部脱稿スルニ至ラズ、且鵲類ノ寫生並ニ製版共頗困難ナリシ

が爲メ圖版ノ調製ニモ豫定以上ノ時日ヲ要シ爲メニ本書ノ出版

歐洲のすゝめ

本邦産すゝめ

れいさん鳥産くあなノ一種

(翼短クシテ飛翔シ難シ)

雲南産知日鳥科ノ一種ニシテ

嘴ノ形狀奇ナリ

蜂鳥ノ一種ニシテ最大形ナリ

西印度諸島産

蜂鳥ノ一種にして最小形ナリ

南米産

南米産 魚狗ニ似ルモ啄木鳥

類中ノ *Gallinula* ニ屬ス

雲南産 啄木鳥科 *Picumnus* ニ屬ス

雲南産 鵲鳥ニ類スルモ

Heniculus ニ屬ス

佛國産 から類ニ近キモ

Pannurus ニ屬ス

れいさん鳥産ニシテ幼鳥ナリ

千葉縣五井産ニシテ成鳥ナリ

青森縣淺虫産幼鳥ナリ

鳥第一號目次

ハ來年ニ延期スルノ止ヲ得ザルニ至レリ。右ノ理由ニヨリ本書ハ臨時出版物第六篇トナシ第五篇トシテ仁部富之助氏著「郭公ノ蕃殖ニ關スル研究」ヲ本年内ニ刊行スル事トセリ、同書ニ就キテハ別項廣告欄ヲ見ラレタシ。

□基本金寄附 會員小林友三氏ハ本會ノ事業ニ賛セラレ今回基本金中ニ金五十圓ヲ寄附セラレタリ茲ニ同氏ノ本會ニ對スル好意ヲ鳴謝ス。

□前號口繪ノ正誤 本誌前號口繪黒田家鴨場溜池ノ光景説明中「右下ひざりがも」トアルハ「右下よしがも」ノ誤ニ付訂正ス

□評議員ノ新任 本會第五回例會ニ於テ決議ノ結果理學博士丘淺次郎氏新ニ本會評議員トシテ就任セラレタリ。

□本誌編輯ニ關スル一切ノ用件ハ凡テ青山原宿百七十番地内田清之助宛ノ事

□會務並ニ會計ニ關スル用件ハ凡テ理科大學動物學教室内日本鳥學會(振替口座東京六五九九番)宛ノ事



れんかく (アートタイプ原色版口繪) 子 爵 松平賴孝氏原圖
黒田家鴨場冬ノ溜池(寫真版口繪)..... 黒田長禮氏原圖

本邦鳥類ノ研究ニ就イテ..... 理學博士 飯 島 魁

「鳥ノ記念日」ニ就テ..... 理學博士 渡瀬庄三郎

羽田鴨場ニテ獲タル鴨ノ總數ト各種

「渡リ」ノ統計..... 理學士 黒田長禮

雉ニ關スル諺ト説話..... 文學士 橘 純 一

いかもの飼 (其一)..... 理學士 鷹司信輔

音樂ノ無イ野原..... 理學士 石井重美

尾羽ノ如ク思ハル、羽..... 理學士 黒田長禮

ゑぞむしくるノ新産地ニ就テ(松平賴孝) 鳥ノ羽毛ノ用途(内田清之助) 雀ト鳥(波江元吉) 相思鳥ノ營巢(鷹司信輔) 秋田

ニ於ケル鳥類ノ方言(仁部富之助) 雌雄兩性ノ鶏(黒田長禮) 滿

洲雁信(脇山三彌) 印度ノ白鷺飼(鷹司信輔) 東京附近ニテ繁

殖スル鳥類(黒田長禮) 二三鳥類ノ習性觀察其一(仁部富之助)

投稿及質問規定

(一) 鳥類ノ習性、渡リ、方言等ニ關シ廣ク各地方會員ノ投稿ヲ歡迎ス

(二) 既掲原稿ハ返戻セズ、但シ挿畫ニ使用セル寫眞及ビ圖畫ハ希望ニヨリ返戻スベシ

(三) 原稿ハ紙ノ表丈ヲ使用シ一行、二十五字詰ニ認メラレタシ、假字ハ片假字ヲ用井動物名及外國語ハ平假字トス

(四) 挿畫ハ寫眞以外ノモノハ墨汁ニテ認メラレタシ

(五) 原稿ハ東京青山原宿百七十番地、内田清之助宛郵送セラレタシ

(六) 本會ハ鳥類ニ關スル質疑ニ應答ス、質問ノ事項ハ返信料封入日本鳥學會宛郵送セラレタシ

(七) 質問解答ハ一般讀者ニ有益ナリト認ムルモノハ本誌ニ掲載スルモ其他ハ質疑者ニ直接解答スルモノトス

大正四年十二月七日印刷
大正四年十二月十日發行

定價金貳拾五錢

禁轉載

編輯兼
發行者

木下憲

印刷人
神谷岩次郎

印刷所
東京市日本橋區兜町二番地
東京印刷株式會社

發行所

東京理科大學
動物學教室內
日本鳥學會

振替口座東京六五九九番

發賣所

東京神田區
表神保町
東京堂書店
東京日本橋
區通二丁目
裳華房

廣告料 一頁 金三圓 半頁 金二圓

廣告申込所 東京理科大學動物學教室內日本鳥學會

■ 本日鳥學會臨時刊行物第五篇 ■

仁部 富之助君著 (本會臨時刊行物第五編)

郭公の蕃殖に關する研究

□ 本會會員(甲乙兩種共)には無代配布す □

コロタイプ版一葉地圖一葉
寫眞版插畫數個
定價金卅五錢 郵税金四錢

郭公類の蕃殖に關しては其奇異なる習性の爲め從來諸學者の注意を引き來りたるのみならず本邦に於ては古代より口碑傳説等に傳へらるゝ所ありしと雖其精確なる研究に乏しく僅に歐米諸國の實驗例に推論し臆ば想像的に之を説明せるに過ぎず。近時二三之が研究の報告せらるゝものありしと雖未完壁を期すべからず。本研究は鳥類生態的研究に最經驗ある會員仁部富之助氏が郭公類に最豊富なる東北の野に於て行へる數年間の野外研究に基きて起草せるものにして從來本類の蕃殖に關し疑問として殘されし諸點は何れも多數の實驗例に依りて明快に解決せられたり。加之著者獨特の鮮明なる生熊寫眞を以て説明の缺を補ふ。蓋し近時發表せられたる鳥類に關する諸論文中最趣味に富めるものゝ一として本會は之を大方の同好各位に薦むるに躊躇せず。

賣捌所

神田區橋通二丁目 東京堂書房

成完作著的礎基の學鳥邦本

□ 東京帝國大學理科
大學教授理學博士

□ 東京帝國大學農科
大學講師獸醫學士

飯島 魁先生校閱

內田清之助先生著

續篇

出版

續編

日本鳥類圖說

(成既本製)

本編には邦産鳥類中その最も特色に富む臺灣島及朝鮮産鳥類を圖説し、正編即ち舊日本の部と合すれば實に大日本全土の鳥類總圖説をなす。
朝鮮の部は同地方鳥類專攻たる二理學士鷹司信輔、黒田長禮兩氏特に本圖説の爲め執筆せられたるもの。
記述の様式すべて正編に同じく「目」、「科」、「種」等の索引表を添へ、種類の檢索に便せり。

圖版は何れも理科大學所藏の標本より横山慶次郎畫伯の細心寫生せるものにして、原色版四葉、寫眞銅版七葉、挿畫十數個、總計百餘種の正確緻密なる寫生圖を掲ぐ。

附錄

(一)臺灣鳥類に關する文獻 (二)臺灣産鳥類目錄附分布表 (三)朝鮮産鳥類目錄 (四)滿洲産鳥類目錄 (五)臺灣保護鳥類一覽 (六)朝鮮狩獵鳥類目錄

定價 上卷 金五圓
下卷 金五圓
合本 金拾圓

續編 金四圓

郵税 上下各十六錢
合本 金廿四錢
續編 金十六錢

印刷 鮮麗
圖版 精巧
裝幀 優美

上卷 再版

發兌 警醒社書店 東京 橋町 振五 替五 東參 京番

□ 錄目物行刊時臨會學鳥本日 □

獸醫學士 內田清之助 著
第一篇 鵜類圖說

賣切

レ

獸醫學士 內田清之助 著
第二篇 海產保護鳥類圖說

原色版三枚附
定價 四拾錢
郵稅 四錢

理學士 黑田長禮 著
第三篇 世界の鴨

原色版一枚寫真版五枚附
定價 七十五錢
郵稅 四錢

理學士 黑田長禮 著
第四篇 世界の雁と鵠

原色版四枚寫真版五枚附
定價 八十五錢
郵稅 八錢

仁部富之助 著
第五篇 郭公の蕃殖に關する研究

コロタイプ版一枚地圖一枚
寫真版一枚插畫數個
定價 金卅五錢 郵稅 四錢

理學士 黑田長禮 著
第六篇 世界の千鳥と鵲

未刊

所 捌 賣

神田區橋本町
表區通二丁目
神保町

東 裳

京 堂

堂 華

書 房

店 房

日本鳥學會規則

第一條 本會ハ日本鳥學會ト稱ス

第二條 本會ノ事務所ハ東京帝國大學理科大學動物學教室ニ置ク

第三條 本會ノ目的左ノ如シ

一鳥類ニ趣味ヲ有スルモノ、懇親ヲ計ルコト

一鳥類ニ關スル學術ノ進歩ヲ促スコト

一鳥類愛護ノ思想ヲ普及セシメ鳥類ノ保護増殖ヲ計ルコト

第四條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ評議會ノ決議ヲ經テ隨時種々ノ事業ヲナス

一當分一年ニ二回雜誌「鳥」ヲ出版スルコト

一臨時出版物ヲ刊行スルコト

一毎年春秋二回會合シ鳥類ニ關スル講演談話ヲナシ同時ニ鳥類ニ關スル圖書標本其他ノ展覽會ヲ催ス

一鳥學の探檢ヲ舉行スルコト

第五條 本會々員ヲ分チテ甲種會員ト乙種會員ノ二トス

一甲種會員ハ會費トシテ一ケ年金貳圓四拾錢ヲ納ムルコト

一乙種會員ハ會費トシテ一ケ年金壹圓貳拾錢ヲ納ムルコト

第六條 甲種會員ニハ雜誌「鳥」臨時出版物及ビ動物學雜誌ニ掲載セル鳥類ニ關スル論文ノ別刷ヲ配布ス

乙種會員ニハ雜誌「鳥」及ビ動物學雜誌ニ掲載セル鳥類ニ關スル論文ノ別刷ヲ配布ス、臨時出版物ハ定價一圓ヲ限リ無代配布ス其他ハ定價ノ三割引ヲ以テ講讀スルヲ得

第七條 本會ニ入會セント欲スルモノハ住所氏名職業ヲ記載シ本會ニ申込ムヘシ但甲種會員ノ入、退會ハ評議會ノ決議ニヨル

第八條 本會ニ會頭壹名ヲ置ク

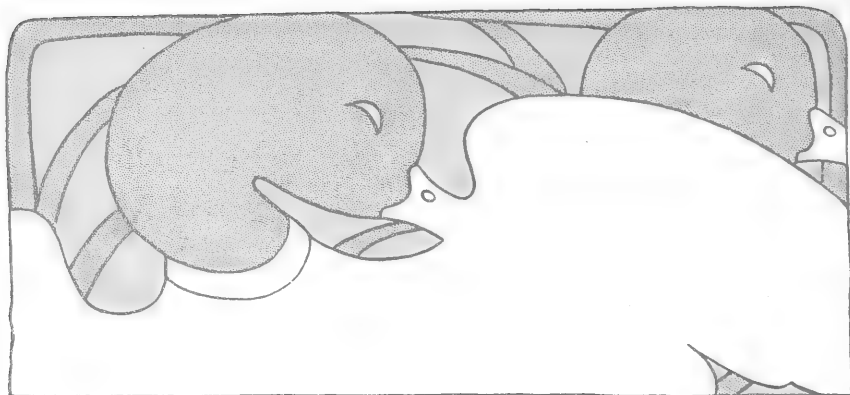
第九條 本會評議會ハ會頭幹事及ビ會員ノ互撰ニヨル評議員若干名(甲種會員)ヲ以テ組織ス

東京理科大學動物學教室内

日本鳥學會

役員

會頭 飯島 魁
幹事 内田清之助
評議員 飯塚 啓
理學博士 丘 淺次郎
理學博士 鷹司 信輔
理學博士 波江 元吉
黑田 長禮
子爵 松平 賴孝



鳥

第
三
號

行發月二十年五正大

會學鳥本日



鳥 第 三 號 目 次

本會第六回例會記念撮影 (アートタイプ口畫)

東北地方ニ於ケル夏期ノ鳥界……………理學士 黒田 長 禮

鷺ノ蕃殖……………法學士 川口 孫次郎

雜 纂

むくきりノ聲色(波江元吉) 數種ノ鳥卵ノ孵化日數(理學士黒田長禮) 二個ノ黃卵ヲ有スル

鶏卵ニ就テ(仁部富之助) 鴨類ノ體溫(理學士黒田長禮) 海燕及水風鳥ノ夜遊(理學士鷹司

信輔) 〔太平洋東北沿岸ノ海燕類數種ニ就テ(理學士黒田長禮) 軍艦鳥ノ新分類法(理學士鷹

司信輔) 山鷓ノ新亞種(理學士鷹司信輔) 鶉ノ飼育(鶉ノ家) 鳥類ノ方言(靱山徳太郎)

雷鳥ノ食餌(獸醫學士内田清之助) 蛇ト鳥ノ爭(鶉ノ家) しろふくろうノ新產地(小川弘太

郎) みかきじノ新產地 (内田清之助)

質 疑 應 答

八 件 (黒田長禮、内田清之助回答)

雜 報

八 件

波江元吉氏

寺岡

直氏

寺

尾

新氏

矢野宗裕氏

小林友三氏

飯

塚

啓氏

菊地来太郎氏

岡田信利氏

大久保忠春氏

飯

島

耕氏

親山德太郎氏

應司信輔氏

内田清之助氏

黒田長禮氏

黒田景豊五

内田高之直五

源西計輔五

峰山盛太郎五

端島謙五

大久野忠春五

岡田清博五

藤井米太郎五

前田智五

小林友三五

大槻宗信五

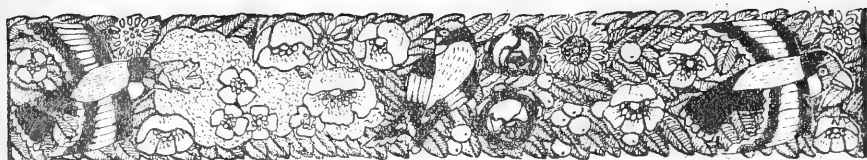
寺岡清五

花田隆五

堀江元吉五



(て於に邸岡炭田黒月一十年五正大) 影撮念紀會例回六第會本



東北地方ニ於ケル夏季ノ鳥界

理學士 黒田 長 禮

鳥 第三號

余ハ昨年八月中、東北地方ニ旅行ヲ試ミ主トシテ夏季ノ鳥界ヲ視察スルニ勉メタリ。先ヅ仙臺、盛岡ヲ經テ八戸ノ鮫港ニ至リ引返シテ青森縣下ニ入り淺虫ニテ採集スルノ機ヲ得數日間滞在シ夫レヨリ又引返シテ古間木驛附近ノ狀態ヲ見再ビ青森ニ向ヒ次ニ秋田縣下ニ入りテ先ヅ大館ニ着シ間モナク秋田市ニ入レリ。當市ニ漸時滞在シ八郎潟附近ノ鳥界ヲ視、當市ヲ出發後大曲ニ至リ農事試驗場陸羽支場ニ本會々員仁部富之助氏ヲ訪ヒ同氏ノ案内ニヨリテ數種ノ鳥類ノ繁殖地ヲ觀察スルヲ得タリ。次ニ山形ヲ經テ赤湯ニ至リ同地ノ鳥類ヲ視察シ終テ歸京シタリ。

今回ノ旅行ハ八月ナリシ爲メニ、東北地方ト雖モ夏季ニ棲息シツ、アル種類ハ極メテ少ク東京地方ト大差ナキヲ知レリ。サレド秋季ナレバ「渡リ」ノ關係上想像シ能ハザル程ノ多數ノ種類ヲ各地ニテ見ルコトヲ得タルナラン。

扱テ左ニ今回視察シタル鳥類種名ヲ列舉シ、各種ニ就キ觀察セル結果ヲ附記セントス。

(1) *Podiceps auritus philippensis* (Bonpt.) かこ(イ)の

秋田市千秋公園ノ外濠(八月十四日)ニテ鳴聲ヲ聞クモ餘リ多カラズ。然シ此地ニ繁殖スルナラン。五城目驛附近ノ八郎潟ノ一部(十六日)ニテ本種ノ多ク繁殖スルヲ知レリ。成鳥ハ何ゾレモ赤頸トナリ居タリ。十羽以上ヲ見タルモ幼鳥ハ比較的少カリキ。八郎潟ハ全クノらぐーんニシテ最深キ所二十尋位アルノミナリト而シテ沿岸ニハまこも多く茂生シすひれんノ類其他藻類能ク發生ス故ニ本種並ビニばんノ類ノ好繁殖地タリ、

且ツ當潟ハ禁獵區ナリ。今回ハ時期遅キ爲メ巢及ビ卵ヲ見ル能ハザリキ。

(2) *Oceanodroma* sp?

本屬ニ入ルベキモノト思ハル、種類一羽海岸近ク飛行シイタルヲ八戸鮫港(七日)ニテ見タリ。但シタ刻ニテ種名定メ難シ。

(3) *Phalaropus pelagicus* Pall.

ひめう

八戸鮫港ナル蕪島(八日)ノ絶壁ニ棲レルモノ一羽ヲ見タリ。望遠鏡ニテ觀タルニ正シクひめうナリキ。冬季ハ多シト云フ。

(4) *Ardea cinerea* L.

あざむか

八郎潟上(十六日)ヲ飛翔シツ、アルモノ一羽ヲ見タリ。此種ハ秋田縣下ニハ多キガ如ク幼鳥ヲ飼養シイタル家アリ。

(5) *Nycticorax nycticorax* (L.)

こゝろあ

仙臺市内(三日)山形市内(十八日)共ニ夜間數羽ノ鳴聲ヲ聞ケリ東京市内ト同様ナリ。

(6) *Butorides amurensis* (Schlenk)

むのう

仙臺(三日)盛岡(四日)及ビ山形(十八日)ノ三市内ニテ夜間木種ノ聲ヲ聞ク。

(7) *Arctia sinensis* (Gm.)

よしん

八郎潟沿岸(十六日)ニテ葭林ヨリ飛ビ出シタルモノ一羽ヲ見タリ。本種ハ此處ニテ必ず繁殖スベキモノト信ス。

(8) *Milvus ater melanotis* (T. & S.)

うぶ

盛岡市内(四日)ニテ見タルモ多カラズ。青森縣淺虫(十日)ニテ四羽ヲ見、秋田市内(十四日)ニテ一三羽ヲ見タリ。八郎潟上(十六日)ヲ飛行セルモノ二羽ヲ仰ギ見タリ。

(9) *Gallinula chloropus* (L.)

ばん

八郎潟(十六日)ニテハ本種ノ繁殖スルモノ餘程多シまこもノ間ニ棲息スルヲ屢々見タリ。

(10) *Fulica atra* L.

おぼばん

八郎潟(十六日)ニテハ前種ト同ジク繁殖スルモノ多シ。本種ハ東京附近ニテハ稀レナルモノナレド當潟ニテハ最も普通ノ種類ニ屬ス。六七羽ヲ見タリ。

(11) *Heteractitis incanus brevipes* (Vieill.) きあしじぎ

八戸鮫港(七日)ニテ本種ノ聲ヲ聞ケリ。同所(九日)ニテ又十五六羽ノ群飛セルモノヲ見タリ。淺虫(十日)ニテ四羽ヲ見、同所(十二日)ニテ二羽ヲ採集セリ。八月終リニハ多シト云フ。

(12) *Larus crassirostris* Vieill. うみねい

八戸驛並ビニ湊驛(七日)附近ニテ本種ノ飛行セルモノヲ屢見タリ。湊驛ヲ去ル凡ソ一里ニシテ鮫港ノ蕪島アリ此島ニハ鷗群棲シ繁殖スルトノコト多少有名ナリ。余ハ八月八日同島ニ至リ上陸シテ視察シタルニ此島ニテ繁殖スルハうみねこのミナルヲ知レリ。本島ハ周圍僅ニ十町位アルノミニシテ且ツ海岸ヨリ僅ニ一町位ヒ距ルノミ。然ルニ全島殆ド鷗群ノ棲息シ居ザル場所ナキ程ナリ。優ニ一萬ヲ算シ得ベシ。今ヤ卵ハ全クナク幼鳥多シ、大多數ノモノハ自由ニ飛翔シツ、アリ。何故ニカ、ル海岸近キ島ニテ多數ノモノ比較的安全ニ繁殖シ得ルカト云フニ本種ハ云フ迄モナク漁業ニ關係アルニヨリ當地ノ漁業組合ヨリ地方長官ニ出願シ海岸ヨリ陸へ三百間、海へ二千間ヲ禁獵區トナスコト明治三十七年一月ヲ以テ許可セラレタリ。故ニ鮫港一帯ノ海陸ハ本種ノ安全ナル繁殖地トシテ他ニ類ナキモノトナリタリ。本島ノ西岸(沖ニ向ヘル方)ニハ所謂野生ノ蕪(なたねナラン)大ニ繁茂セリ、故ニ蕪島ノ名アリ而シテ此西岸ニハうみねこの繁殖シタル跡少キガ如シ。コハ舟ノ近ヅクコト多キニヨルト云フ。之レニ反シ東岸ハ絶壁トナレル塙所ニ箇所アリ而シテ土アルトコロニハ珍ラシクモ葎林ナリ。コノ絶壁及ビ葎林内ニハ本種ノ産卵スルモノ非常ニ多キ形跡ヲ認メタリ。巢ハ單ニ地面ニ過ギズシテ葎林ノ場合モ絶壁ニテモ共ニ禾本類ノ生ジタル部ニノミ産卵ス。

次ニ當地ノ者ノ言ニヨルうみねこの「渡リ」及ビ營巢ニ關スルコトヲ記スベシ。

(一)うみねこの春ノ彼岸ノ候ニ蕪島ニ渡來シ五月中旬ニ産卵シ五月下旬ニハ孵化ス。

(二)孵化セル雛ハ七八乃至九月中ハ漸次發育シ秋ノ彼岸ニハ南方へ去ル(本年八月八日ニ見タルモノニテハ幼鳥ハ大部分飛行シ少

數ノ猶ホ飛ビ得サルモノアリキ)

(三)一羽ノ雌ハ二乃至三又ハ四個ノ卵ヲ産ス

(四)孵化日數ハ凡ソ三週間ヲ要ス

右ノ外今回余が見タル

雛ノ飛行練習ハ頗ル奇

觀ナリ、先ヅ地上ニテ

羽叩キヲナシ一二尺飛

上リテハ地上ニ落チ又

飛ビテハ落ツカクスル

コト數回續ケテ試ミタ

リ。此練習數日ノ後ニ

ハ終ニ能ク飛翔シ得ル

ニ至ルベシ。本種ハ少

クトモ二番仔迄育ツル

ナラン。如何トナレバ

幼鳥ノ成長ノすてーぢ*

青森縣淺虫(十日)ニテモ本種ヲ見タリサレド少數ニシテ十五羽ニ達セズ。當地ニテ鷗類ハ冬季多シト云フ恐ラク本種ニアラズシテ

大形ノせぐらかもめノ類ナランうみねこノ如キ小形種ハ冬季南方ニ去ルモノト思ハル。鯨港ノ例ヲ見ルモ確ナラン。八郎潟(十六

日)ニテハ僅ニうみねこ五羽ヲ見タルノミ。ソノ内幼鳥二羽混ジイタリ。



飛群ノ鳥成これみう

シベス意注ナルア帶黒ニ尾

*ニ於テ全ク一様ナラザ

ルガ故ニ一番仔ノミト

ハ思ハレズ。幼鳥ニ就

テ檢スルニ未ダ飛ビ得

ザルモノニテハ背面煙

黒色中ニ各羽縁淡褐色

ヲ呈シ、ソノ幅中廣

シ面シテコノすてーぢ

ヨリ少シク進ミシモノ

ニテハ漸々褐色ハ消失

ス。頭ニハ第一綿羽即

チ *Neosophia* ヲ存セ

リ。

(13) *Turtur orientalis* (Lath.)

きじばつ

盛岡市ヨリ約三里ヲ距レル小
岩井農場(六日)ニテ本種一羽ヲ
見タリ。恐ラク繁殖スルナラン
秋田縣仙北郡花館村(十八日)附
近ニハ本種ノ棲息スルモノ多ク
仁部氏ノ案内ニヨリテ比較的大
ナル杉林内ニ入リシニ飛ビ出シ
タルモノ十羽以上ナリキ同氏ニ
ヨレバ此杉林ニ營巢ストサレド
最早巢ヲ見ル能ハザリキ。

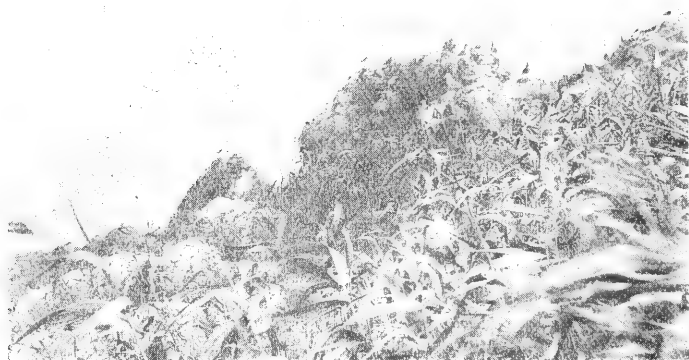
(14) *Circus cinereus* L.

くわくこう

前種ト同ジク花館村(十八日)
ニ於テ二羽ヲ見タリ恐ラク雌雄
ナラン。雜木林ニ棲息シ當地ニ
テハ産卵スルモノ甚タ多シ。雖*
リシ後ハ全クソノ影ヲ止メズ。

(17) *Alauda arvensis japonica* T. & S.

つばめ



こねみうルケ於ニ鳥燕
リナ鳥幼ハルユ見ニ色黒

*ノ習性ニ關スル研究ハ仁部氏ノ
報告ヲ見ラレタシ。

(15) *Alcedo bengalensis* Gm.

かはせみ

花館村(十八日)ニテ一羽ヲ見タ
リ。當地ニテ繁殖スト云フ。
八郎潟(十六日)ニテ一羽ヲ見タ
リ。

(16) *Gypsels pectus* (Lath.)

あまづばめ

盛岡市内(四日)ニテ午後曇リ
タル時本種ノ高ク飛翔セルモノ
三羽ヲ見タリ。小岩井農場(六
日)ニテモ一二羽ヲ見ル。淺虫
(十日)附近ノ海上ニテ降雨ノ前
非常ニ多数群飛セシガ雨強クナ

小岩井農場(六日)ニハ本種ノ繁殖スルモノ頗ル多シ。

(18) *Motacilla boarula melanope* Pall. あせざれい

盛岡市内(四日)ニテ本種ノ幼鳥(?)ニ羽ヲ見ル。

(19) *M. alba lugens* Kittl. はくせきれい

盛岡市ヨリ小岩井農場迄ノ間(六日)ニテ二三羽ヲ見タリ。距離遠カリシ爲メ本種ナルヤせぐろせきれいナリシヤ明ナラザレドモ色彩本種ニ近ク見エタリ。鮫港附近(八日)ニテ明ナル本種ニ羽ヲ見タリ。浅虫沖湯ノ島(十日)ニハ本種ノ繁殖スルモノ比較的多キガ如シ余ガ採集セルモノハ已ニ巢立チシタル幼鳥及ビ明ナル本種ノ成鳥數羽ヲ得タリ。秋田縣仙北郡(十八日)ニテ本種ヲシキモノニ羽ヲ遠望ス。

(20) *Muscicapa latirostris* Rafi. いやめびたや

秋田縣仙北郡花館村附近(十八日)幼鳥一羽採集セリ。本種ハ當村ニテハ比較的多ク繁殖スルト云フ。

(21) *Turdus* sp.?

盛岡市ヨリ小岩井農場迄ノ間(六日)ニテ本種ニ入ルベキ種類一羽ヲ見タリ。或ハくろつぐみナランカ。

(22) *Turdus chrysolaus* Temm. あかはら

浅虫沖湯ノ島(十一日)ニテ本種一羽ヲ見タリ。

(23) *Monticola solitarius* (Müll.) いそひよらひ

浅虫附近(十日)ノ海岸一帯ニ比較的多シ數羽採集セリ。内幼鳥一羽、他ハ成鳥ナレドモ羽中ニテ甚ダ美ナラズ。

(24) *Acrocephalus orientalis* (F. & S.) おほよしき

八郎潟(十六日)附近ニハ本種ノ繁殖スルモノ多シ。今回ハ生殖期終了後ナルニヨリ彼ノ喧噪ナル鳴聲ヲ聞クコトヲ得ザリシモ飛ビ得ル幼鳥ヲ多ク見タリ。成鳥ハ殆ンド見ザリキ。或ハ已ニ渡リシ後カ。本種ハ東京附近ニテモ夏ノ土用ノ期節前迄盛ニ鳴キノ後

ハ殆ド鳴カズ秋田縣下ニテモ同様ナリト云フ。コレ全ク生殖ヲ終リ成鳥ハ羽衣脱更テ始ムル時ナルニ因ルナリ。大曲驛附近鐵道沿線ニ葭林アリ多ク營業スト云ヘドモ今回ハソノ鳴聲ダニ聞カザリキ。

(25) *Pratincola maura* (Pall.)² のびたき

秋田縣仙北郡(十八日)ニテ本種ラシキモノ一羽飛ビ行クヲ見タリ。

(26) *Celtis bairdii* T. & G. うぐいす

浅虫沖湯の島(十日)ニテ鳴聲ヲ聞ケリ。同島ニテ繁殖スト云フ。

(27) *Horundo rustica gutturalis* (Scop.) つばめ

仙臺市(四日)盛岡市(四日)共ニ可ナリ多シ、小岩井農場内(六日)ニテ育馬部ニ於テ繁殖スルモノ多シ飛行シツ、アル幼鳥最モ多ク少数ノモノハ猶ホ土巢内ニアリ。八戸鮫港(七日)邊ニテモ多シ。浅虫(十日)ニテハ餘リ多カラズ青森縣古間太驛附近(十三日)ノ電線ニハ二三百羽以上ノ大群ヲ見タリ幼鳥モ非常ニ多ク混ジイタリ。八郎潟(十六日)ノ沿岸ニハ本種ヲ見ザル處ナキ迄ニ多カリキ。大曲(十七日)ニテハ餘リ多カラズ花館村(十八日)附近ニテハ可ナリ多ク赤湯ニテハ又餘リ多カラズ。本種ハ今回ノ旅行中見ザル地ハナカリキ。

(28) *Cotile riparia* (L.) しやうごうつばめ

八郎潟(十六日)沿岸ニテハつばめト同ジク見ザルトコロナキ迄ニ多カリキ。水棲植物ノ林ニ止リテ蟲類ヲ食フ爲メカ、ル大群ヲナスナラン。幼鳥多シ。

(29) *Lanius bucephalus* T. & G. もす

盛岡ヨリ小岩井農場迄ノ間(六日)ニテ二羽ヲ見タリ。秋田縣仙北郡(十八日)ニテ一羽ヲ見タリ。杉林(餘リ大ナラザル)及ビ叢中ニテ繁殖スト云フ。

(30) *Corvus macrorhynchos japonensis* Bp はしごうがらす

仙臺市内(四日)ニテハ餘リ多カラザルガ如シ、盛岡市内(四日)ニテハ非常ニ多シ、小岩井農場内(六日)ニテ數羽ヲ見タリ。鮫港燕

島(八日)ノ絶頂ノ低キもちのきニ營巢シ幼鳥及ビ成鳥二羽ヲ見タリ。浅虫附近(十日)ノ山林ニハ夕刻非常ニ多ク群ル秋田市内(十五日)ニテモ可ナリ多シ。

(31) *Corvus corone orientalis* Evers.

はしほそがらす

本種ハ前種ニ比シ一體ニ少ナク且ツ海岸水邊ニ棲ムモノ多ク群ヲナサズ雌雄相携フルヲ常トス。

盛岡市内北上川ノ砂上ニ於テ(七日)三羽ヲ見タリ。八戸鮫港(七日)ニテハ餘リ多カラズ一二羽ヲ見タルノミ。浅虫湯の島(十二日)ニテ二羽ヲ見ル雌雄ナラン。八郎潟(十六日)ニテ三羽ヲ見五城日驛ニテモ亦三羽ヲ見タリ。

(32) *Cyanopica cyanus* (Pall.)

をながらり

小岩井農場(六日)ニテ本種ノ鳴聲ヲ聞ケリ。

(33) *Spizella cinereus* (Temm.)

むくきり

秋田市内(十五日)ニテ十羽位ノ群ヲ見ル八郎潟(十六日)附近ニテ十五六羽ノ群ニ出會ス。仙北郡(十八日)ニテモ十羽位ノ群ヲ見ル。當地ノ畑内ニ可ナリノ高木アリソノ木ニ多クノ空洞アリソノ内ニ産卵スルモノ非常ニ多シト云フ。

(34) *Sturnia violacea* (Bodt.)

こむくたり

盛岡市ヨリ小岩井農場迄ノ間(六日)ニテ二十羽ノ群ヲ見ル。

(35) *Z. st. ps. japonica* T.&S.

めじろ

浅虫附近及ビ湯の島(十二日)ニ於テ二三羽ノ聲ヲ聞ケリ。秋田縣仙北郡ニテハ桑畑ノ桑枝ニ營巢スルモノ多キ由ニテ馬ノ毛ヲ巢内ニ敷ケリ。

(36) *Chloris sinica minor* (T.&S.)

こかはらひは

浅虫湯の島(十日)ニテ四五羽ヲ見タリ恐ラク同島ニテ繁殖スルナラン。他日又同島(十二日)ニテ二三羽ヲ見タリ。

(37) *Passer montanus* (L.)

すゞめ

仙臺市(四日)ニハ比較的少キガ如シ、盛岡市(四日)ハ多シ、小岩井農場(六日)ニハ可ナリ多シ。鮫港(七日)ニモ少カラズ、蕪島(八日)ニテモ數羽ヲ見タリ。淺虫(十日)ニハ餘リ多カラズ。秋田縣大館(十三日)秋田市(十五日)共ニ餘リ多カラズ。八郎潟(十六日)附近ノ稻内ニ大群ヲナセリ全部皆すぐめナルヤ又ハ次ノ種類ヲ混ジタルヤ明ナラズ。大曲(十七日)ニテハ可ナリ多キ方ナリ。仙北郡花館村(十八日)ニモ多シ。陸羽支場内ノ人工巢箱屋根ニ産卵スル外數多キ爲メカ場外ノ杉並木ノ杉葉茂レル内ニ長サ二尺ニモ達スル巢ヲ造ルト云フ。而シテ斯ノ加キ巢ハ中々多シトハ面白キコトナリ巢ノ位置ハ斜メニシテ入口アリト仁部氏ハ語レリ。山形市(十九日)ニモ可ナリ多シ、赤湯(二十日)ニモ少カラズ。故ニ本種ハつばめト同ジク全ク見ザル地ハナカリキ。

(38) *Passer rutilans* (Temm.)

にうないすゞめ

八郎潟(十六日)ニテ美麗ナル成鳥一羽ヲ甚ダ近クニテ見シ外ナホ二三羽ヲ見タリ。而シテ稻内ニ大群ヲナシイタルモノハ全部本種ナルヤ又すぐめナルヤヲ確メ得ザリシハ残念ナリキ。初秋ノ候當地方ニ大群ヲナシテ、リ大害ヲ與フルモノハすぐめニ非ラズシテ本種ナル如キ形跡アリ。仙北郡(十八日)ニテモ一羽ヲ見ル群ヲナセルモノアリシガ何レトモ決スルヲ得ザリキ。

(39) *Emberiza cioides cioides* Bp.

ほこじろ

盛岡市ヨリ小岩井農場迄ノ間(六日)ニテ見タルモ餘リ多カラズ。農場内(六日)ニテモ少シ。淺虫嶋島(十日)ニテ已ニ巢立チセル幼鳥ト古巢トヲ見出セリ。

以上ニテ今回觀察シタル鳥類ニ關スル記事ハ終リタレドモ參考ノ爲メ東北地方ニテ今回ハ見ザリシモ他ニ繁殖スル種類ヲ附記スベシ。

岩手縣下 きじ、やまざり、うづら、あをしぎ等

青森縣下 きじ、やまざり等

秋田縣下 きじ、やまざり、うづら、ひくひな、よたか、やましぎ(?)、おほるり(?)等

鴛の蕃殖

法學士 川口 孫治郎

實驗地ハ飛驒高山郊外ノ林中。急傾斜ノ山腹ナル獅子松ノ枝ノ上。時ハ五月上旬ヨリ始マル。此邊ノ鳥獸ハ本觀察者ノ從來ノ實驗地方ノニ比シテ著シク人ニ警戒セズ。

巢ハ地上三間餘ノ枝ニ架ケラレテキル。此附近ニハ鴛ヤ鳥ナドノ古巢モ少クナイ。現ニ此のすりノ巢モ去四月中旬、岩鳥生ガ古巢ヲ突落シタ其跡ニ新タニ架ケタノデアアル。巢ノ大サ、直徑約一尺八寸、中央ノ窪ミガ淺ク、其部ノ直徑約七寸。*



卵ノ化後四週間ノ状況

材料ハ盡ク松ノ細イ枯枝デア
ル。之ハ其附近ガ殆ンド盡ク
松林デアル爲デアラウ。併シ
内部ナル卵ノ横ヘラルル窪ミ
ノ場所 鄭寧ニ獅子松ノ綠葉
ガ敷カレテキル。卵ガ孵化ス
ル兩三日前カラ、ソノ松葉ト
卵トノ間ニ柢ノ若葉ヲ敷キ、
三週間ヲ經タ頃ニ更ニ其若葉
ノ枯レタノヲ生ノソレト取替
ヘル。コンナ習性ハ他ニ多ク
見當ラナイ。

卵ハ三顆、(コレハ通例也)。長サ約一寸四分、直徑一寸一分強。色ハ地ニ微カナ空色ヲ帶ビタ白、産レタ當時ハ何レモ赤褐色ノ……
寧口血ノツイタヤウナ……不規則ナ汚點ガ引張ツテキル。孵化期ニ近ヅクニ從ツテ其汚點ガ淡紫灰色ニ變ヒスル。理學士黒川長禮氏『本邦産鳥類ノ巢及卵』ニ、紫灰色ノ汚點又ハ赤褐色ノ斑アリ、トアツテ、紫灰色ト赤褐色トヲ對立シテキルガ、本例ニ依レバ

赤褐ヨリ紫灰ニ經過スルヲ認ム。

本例ハ二十一日目ニ孵化シタ。當時ハ全體唯白色ノ産毛^{ウケテ}デむくくシテキル、但シ眼及喉ガ黒ミヲ帶ビ、嘴根ノ蠟膜^{ワックス}ニ脚部トハ鮮黃色デアル。孵化後四週ヲ經デモ尙ホ産毛デ蔽ハレテキル。併シ此頃カラ著シク成長スル、五週目頃ニハ段々産毛ガ落チテ行ク。巢内ニ起立シテ親鳥ノ歸來ヲ待ツヤウニナル。正シク六週ヲ經過シタ月ニ巢立シタ。



近ノすんれ 雛親ノ目間週五後化孵
況狀シ出ミ歩ニ綠巢テミ怪ナルセ接



況狀ルセ立巢前午ノ日週六後化孵

卵時代ニ之ヲ温

メルノハ雌親ノミ

デアルガ、孵化後

ノ哺育ニハ雄親モ

補助シテキル。觀

察セラレテキルコ

トヲ知ラヌ場合ニ

ハ、巢ノ縁ニ立ツ

テ内ニ蠶メイテキ

ル雛ヲツクぐ眺

メナガラ靜止シテ

キルコトが多い、

但シ、雛ノ成長スルニツレテソレガ少クナル。人ガ近寄ツタコトニ氣付クト靜ニ逃ゲ去ル。此習性ハ鶯ヤ鳥ノ中ニハ其卵ノ孵化

シテ以後ニ人ノ其巢ニ近ヅクヲ嫌ツテ異様ノ叫ビヲ發シタリ、進ンデ人ヲ攻撃セントスルモノアルト明ニ異ツテキル。

孵化當時親鳥ガ何ヲ雛ニ哺シテキルカ、一寸ワカリ難カツタガ、精察ノ後ソレガ主トシテ蟬ノ脱皮セントスル間際ノモノデアル

コトガ分明シタ、あかがへるヲ割イテ哺スルコトモ少クナイ。保護鳥圖譜ニ、常ニ野鼠等ノ小獸ヲ捕食スル、トアルガ、現ニ野鼠ヲ捕へ來ツテ裂イテ其雛ニ食ハセテキル。殊ニへびヲ銜へ來ツテ頭ノ方カラ喰切ツテ哺シテキル、一巡哺シ終ツタナラ、巢ノ縁ニ其蛇ノ殘骸ヲ横ヘテオク。從ツテ尾ナドガ長ク垂レテキルノヲ見ルコトガ珍ラシクナイ。

右ノ外、ほゞじろ、かはらひわ、せきれいナドノ雛ヲ銜み來り、又はそれ等の幼鳥を捕へ來つて、己ガ雛ニ哺シテキルコトモ少カラズ目撃スル。巢立ノのすりノ巢殻ハ聊カ不潔ナモノダガ、殊ニ小鳥ノ幼キ羽毛ノ附着シテキルノハ人目ヲ惹ク。

口繪ニ掲ゲシ寫真ノ中、第五週目、及び第六週目ノ二葉ハ中島雄三郎氏ノ苦心ニカ、ルモノ。第四週目ノト共ニ、巢ガ急傾斜ノ山腹ナル樹上ナリシ爲、撮影スルヲ得シモノデアル。

「郭公の蕃殖に關する研究」正誤

頁 行 誤 正

三 二 高梨村四ヶ町村 高梨村外四ヶ町村

一二 區域を示す 區域を示す(地圖參照)

四 「花館村附近に於ける郭公の各配偶棲息略圖」を加ふ

又、四ツ屋村宇、新谷地の區域線内に×を加ふ

八 一巢一卵を雄と限り 一巢一卵を限り

九 第二表説明中

鳥の棲息期間座卵期間 鳥の棲息期間■は産卵期間

一六 六

各題だけ前後に入れ換はる

一八 一二

二二 二

三日二

三九

九 鳥體各部の發育雌

鳥體各部の發育

三 三日二次に産卵期間 次に産産期間

一七 實調査數は四の二倍 實査數四の二倍

二 日數は餘りに廣きに失すと言はざる可からず 日數は稍々廣きに過るが如し

二 卵の在來せる場合 卵の存在せる場合

九 遭遇する一巢 遭遇する例に照し一巢

一一 また本項に 又本項末に

一六 時鳥卵に比し著しく小にして四分の一

二七 時鳥卵は其鳥體に比し著しく小にして其四分の一

一二 (一)〇は郭公の卵(一)五は同一の雌

(一)一〇は郭公の卵(一)三(四)五は夫々同一の雌

一三 (二)一五 (二)一五



雜纂

むくごりノ聲色

波江元吉

鸚鵡いんこ、九官鳥等ガ人語ヤ他鳥ノ鳴聲ヲ眞似ルコトハ世人ノ熟知スル所ニシテ敢テ珍ラシキコトナラズ。又野生ノ鳥類中ニモもず、かけすナゾノ他鳥ノ鳴聲ヲ眞似ルコトハ屢耳ニスル所ナリ、然ルニ本年二月松屋吳服店ニ於ケル名禽會ニ小石川大塚清水氏ヨリ出陳サレシむくごりハ矮鶏ノ雄ガトキヲツクリ、雌ガ雛ヲ呼ビ或ハ物ニ驚キテ叫ブ場合ノ如キ又ハひびりノ轉聲等ノ聲色ヲナスストイフ。抑其動機バ如何ナル徑路ヲ歷テ爰ニ到レルカラ尋ルニ小石川坂下町ニ栖ム松本某ナル禽屋アリ、主人ガ大正三年ノ春雜司ケ谷邊ニテむくごりノ雛三羽ヲ購ヒ歸リ飼育セルモ籠禽トシテ價值ナキ鳥ナレバ其中二羽ヲ放生シテ唯一羽ヲ存シ他ノ鳥類ト共ニ飼育セシガ、傍ニ矮鶏ノ一番アリテ雛ヲ育テ居ル籠アリ又ひびり其他小鳥ノ籠モアリシコトヲ推察セ

ラル。其周圍ニアル諸鳥ノ中ニテ矮鶏ノ聲ハ最モ大聲ナリシナラム、之ニ次ビデひびりノ轉聲ハ綿々トシテ續キ能ク聞キ覺ヘルコトヲ得タルヲラムカ。むくごりハ九官鳥程ノ聲量ナク從ツテ其鳴聲ハ遙カニ矮鶏ニ劣レドモ能ク其聲調ヲ眞似得ルナリ、勿論九官鳥ノ應答スル如ク巧妙ナル域ニ到ラズト雖尙珍トナスニ足ラム哉、是所謂門前ノ小僧習ラワヌ經ヲ誦誦スル諺ノ如ク偶然ノ發達ニシテ敢テ馴致シタル譯ニアラザル如シ。併シ鳥類モ人ト同ジク幼稚ナル時代ハ體質ノ發育旺盛ナル時期ナレバ定住座臥其周邊ノ境遇ニ感染シ易キモノナレバ此むくごりノ如キハ好例證ト認ム可キヲ以テ一ニハ愛禽家ノ栗リニ、亦一ニハ兒女撫育ノ上ニ多少參考トモナラム乎ト記シヌ。

數種ノ鳥卵ノ孵化日數

理學士 黑田長禮

余ハあひる、かるかも、ばん、よしごゐ及びごゐさぎノ五種ノ卵ヲ孵卵器ニ入レ何日間ニテ孵化スルカラ檢シタルニ左ノ如キ結果ヲ得タリ。

一、あひる卵

本年四月十三日六十個ヲ孵卵器ニ入ル、

同 二十三日一個孵化ス(十九日目)

五月九日ニ三十六個孵化ス(二十七日目)

五月十一日ニ十二個孵化ス(二十九日目)

孵化セザルモノ十二個

右ニヨレバ新鮮ナル卵ニテハ二十七日ニシテ孵化シ得ルヲ知レ

リ。三十日ヲ要スル如キ卵ハ新鮮ナラザルモノナルベシ。

二、かるがも卵

五月九日午後九時七個ヲ入ル

六月三日午後二時頃二個孵化ス(二十六日目)

六月四日午前四個孵化ス(二十七日目)

孵化セザルモノ一個

此卵ニテモあひるノ場合ト同ジク二十七日目ニ孵化スルモノ多

キヲ知ル。

三、ばん卵

羽田鴨場ニテ本種ノ卵八個(已ニ抱卵中ノモノ)ヲ得之レニヨリ

檢シタルニ

五月十六日午後八時八個ヲ入ル

五月二十二日午前二個孵化ス(七日目)

五月二十三日午後二個孵化ス(八日目)

五月二十四日同上(九日目)

五月二十五日同上(十日目)

以上ノ結果ハ完全ナル日數ナラザルコト明ナリ故ニ又新ニ一巢

中四個ノミアル未ダ抱卵前ノモノヲ得之レニヨリ完全ニ近キ

結果ヲ得タリ。

五月十七日午後八時四個ヲ入ル

六月三日午前一個孵化ス(十八日目)

同 午後二個孵化ス(十八日目)

同 四日午後一個孵化ス(十九日目)

右ニヨリばんノ卵ハ三週間弱ニテ孵化スルコト明トナル。

四、よしごの卵

羽田鴨場ニテ得タル抱卵前ノモノニヨリ檢シタルニ

六月十五日午後三個ヲ入ル

六月三十日午後一個孵化ス(十六日目)

七月 一日午前一個孵化ス(十七日目)

同 二日午後一個孵化ス(十八日目)

此卵ニテモばんノ場合ト大差ナシ

五、ごるぎ卵

羽田ニテ得タル新シキモノニヨリテ檢シタルニ

七月五日三個ヲ入ル

同 二十五日一個孵化ス(二十一日目)

同 二十六日一個孵化ス(二十二日目)

よしどる、ごるさぎ等ノ卵ニアリテ同日ニ數個孵化セズシテ毎日若シクハ一日置キニ孵化スルヲ見ルベシ、コハ恐ラク最後ニ産ミシ新シキモノヨリ先キニ孵化スルニハアラザルカト思ハル鳥卵ノ孵化日數ヲ調査スルニハ野生ノモノノ場合ニハ已ニ抱卵セラレ卵内ニ變化ヲ受ケシヤ否ヤヲ知ルヲ要ス。然ラザレバ完全ナル結果ヲ得ル能ハザルナリ。

二個ノ黃卵ヲ有スル鷄卵ニ就テ

仁部 富之助

二黃卵又ハ重黃卵ト稱シ、一ツノ鷄卵ニ二ツノ卵黃ヲ有スル卵ハ、彼ノ卵中更ニ一卵ヲ包藏スル所謂「卵中ノ卵」ノ如ク珍稀ナルモノニアラザルモ、之ガ調査ハ相當ノ興味アリト信スルガ故ニ左ニ二三ノ觀察結果ヲ述ブ可シ。

二黃卵ヲ産ミ易キ種々ノ事情 二黃卵ハ何レノ鷄モ必ず産ムモノト定マレルニアラズ、又絕對ニ産マザルモノト限レルニモアラズ、寧ロコレヲ偶發的ノ現象ト見做ス方妥當ナランカ然レド

モ子ハ數年間遭遇セル種々ノ場合ヲ總合スレバ、二黃卵ノ產出ハ種々ノ事情ニヨリ多少アルガ如シ、則チ

(一)體軀ノ大ナルみのるか、れぐばーん、ぶりますろつく種等ハ、其小ナルちやほ、はんばーく種等ヨリ二黃卵ヲ産ムコト比較的多キガ如シ。

(二)多産系ノ鷄種ハ寡産系ノ鷄種ヨリ比較的多クノ二黃卵ヲ産シ、同時ニ同一種中ノ多産ナル個體ハ寡産ナル個體ヨリ多キガ如シ。

(三)產卵旺盛ナル時季ニハ產卵力衰ヘ休産多キ時季ヨリ、同時ニ一乃至二歳ノ壯鷄ハ三四歳ノ老鷄ヨリモ、比較的多クノ二黃卵ヲ産スルガ如シ。

以上ハ一々實驗ノ結果ニ因キタルモノニアラザレバ、如何ナル場合モ之ニ適當ストハ素ヨリ斷言シ難キモ、大要如此傾向アリト信ズ。但シ右ノ差異ハ遺傳的ニ然ルヤ或ハ又生理的ニ原因スヤコレニ關シテハ未ダ何等知ル處ナシ

二黃卵產出ノ前後數日間ノ產卵狀態 二黃卵ハ如何ニシテ生成スルヤニツキ一ニ養鷄書ニ簡單ナル説明ヲ試ミタルモノアレドモ茲ニハ之ヲ略ス。而シテ二黃卵產出前後ニ於ケル產卵狀態ヲ表示スベシ。

關係不明ナレドモ其他ノ各場合ハ臆ケナガラニ黃卵ノ胎内ニ於
 ケテ生成ノ順序ヲ窺フヲ得ベシ。而シテ各個體ニツキ一黃卵ノ
 産數ヲ見ルニ横斑ぶりますろつく種(い)(ろ)(は)ハ各々約一ヶ
 月間ニ二顆、同(へ)ハ四日間ニ三顆、あんだるしあん種ハ約一
 ケ月間ニ四顆ヲ産メリ。

普通卵トニ黃卵トハ黃卵比較ニ黃卵ハ二ツノ卵黃ガ殆ンド同
 時ニ卵巢ヲ辭スルコトニヨリ生成スルモノナレバ、從ツテ其大
 サハ普通卵ノ卵黃ニ比シ幾分劣ル事ナキカ、或ハ同時ニ生熟ニ
 達シタル二ツノ卵黃間ニ甲乙ナキカニツキ調査セル處ハ次表ノ
 如シ。

鶏ノ種類	卵ノ區別	全重	卵黃ノ重	差
あんだるし やん種	二黃卵	七、七〇	一三、五〇	一三、〇〇
	(一)	一〇、九	一六、三	〇、五
	(二)	五、六三	一六、九	〇、五
	(一)	五、四六	一七、五	〇、五
	(二)	六、〇六	一八、二	〇、五
	(三)	五、七	一七、四	〇、五
	(四)	六、三	一六、八	〇、五
	(五)	六、一八	一八、二	〇、五
	(六)	六、一八	一八、二	〇、五
	普通卵	六、一八	一八、二	〇、五
	(一)	六、一八	一八、二	〇、五
	(二)	六、一八	一八、二	〇、五

名古屋交跡 種(ろつく種 ト對照)	普通卵 十顆平均					
	(一)	(二)	(三)	(四)	(五)	(六)
横斑ぶりま すろつく種	九四、二三	一五、九	一六、二三	〇、九	〇、九	〇、九
	八、六二	一六、〇三	一五、〇七	〇、九	〇、九	〇、九
普通卵	九四、五五	一五、五	一七、五	一七、一	一七、一	一七、一
	五、四六	一七、一	一七、一	一七、一	一七、一	一七、一
十顆平均	四八、五七	一八、四	一七、四	一六、二	一六、二	一六、二
	五、二四	一七、四	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二
(一)	五、二四	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二
	五、二四	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二
(二)	五、二四	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二
	五、二四	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二
(三)	五、二四	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二
	五、二四	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二
(四)	五、二四	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二
	五、二四	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二
(五)	五、二四	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二
	五、二四	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二
(六)	五、二四	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二
	五、二四	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二	一六、二

備考、ハ瓦ナリ
 右僅少ノ材料ヲ以テ結論スルハ早計ナレドモ由是觀之何レノ場
 合モ其重量ニ大差ナキガ如シ。但シあんだるしやん種(一)ノモ
 ノハ普通卵ニ比シ、甚ダシク輕少ナルハ稍々異トスベキモ、此
 比較ニ供用セル普通卵ハ同一鶏ノ産ミシ卵ニアラザルト、尙ホ
 一羽ノ鶏ニアリテモ産卵ノ時期ニヨリ其卵重ニ大差アルヲ以テ
 實際ニ於テニ黃卵ト否トニ係ラズコレ位ノ差ハ免レザル處ナル
 可シ。

鴨類ノ體溫 理學士 黒田 長 禮

東京府下羽田ニテ採集シタル鴨類百十八羽十種類ノ體溫ヲ調査シタルヲ以テ各種類ノ場合ニ就テ記述セントス。一種類ニツキ二十羽以上調査シ得タルハこがも、をながも及びまがもノ三種ノミニシテ他八十羽以下ナリ。體溫ヲ見ルニハ一分掛ケ攝氏體溫器ヲ用ヒタリ。

(1) *Nettion crecca* (L.) こがも

三十一羽ノ體溫ヲ調べルヲ得タリ。捕獲後直チニ計リシモノ九羽ノ内最低 33.1° 最高 43.0° アリ而シテ捕獲後三十分同以上ヲ經テ計リシモノ廿六羽ノ内(四羽ハ捕獲後直ニ計リシモノヲ再ビ計ル)最低 35.5° 最高 44.5° (一例ノミ)アリ。其内詳細ナル數左ノ如シ。

- 41. 以上 未滿五羽(成鳥雄二羽、雌一羽、幼鳥雄二羽)
- 42. 以上 未滿十三羽(成鳥雄一羽、同雌八羽、幼鳥雄四羽)
- 43. 以上 未滿 七羽(成鳥雄一羽、同雌五羽、幼雌一羽)
- 44. 一羽(成鳥雌)

次ニ各個體ニシテ捕獲後直チニ計リシモノト三十分以上經タルモノトノ體溫ノ昇降トヲ比較スベシ。

雌雄	捕獲後直チニ計リシモノ	捕獲後三十分以上ノ後計リシモノ
♂ ad.	41°	42°
♂ ad.	41°	41°
♀ ad.	40°	43°
♀ ad.	40°	44°

此表ニヨレバ 0.85° ヨリ 1.0° 迄ノ差ヲ示シ一定セザレドモ、捕獲後直チニ計リシモノヨリモ昇ルコト確ナリ。

以上ニ明記セザリシ終リノ五羽(九羽ノ内ニ含マル)ノ捕獲後直チニ計リシモノハ

♂ juv. 38.1° , ♂ ad. 39.5° , ♀ ad. 39.6° , ♂ juv. 40.1° , ♀ ad. 42.0°

右ニヨリ見レバこがもノ體溫ハ捕獲後直チニ計リシモノヲ除ケバ少クトモ四十一度以上四十四度以下ナルコトヲ知ル而シテ四十二度以上四十三度以下ノモノ大多數ヲ占メ且ツ成鳥ノ雌ガ一般ニ體溫高キコトヲ見ルナリ。幼鳥ハ成鳥ヨリモ低キガ如シ

(2) *Nettion formosum* (Georgi) ちんぷがも

本種ノ體溫ハ僅ニ二羽ノモノヲ計リシノミニシテ如左

♂ ad. 42.2° , ♂ ad. 43.0° (捕獲後三十分以上經過)

(3) *Querquedula ciria* (L.) しあび

只一羽ノ體溫如左

♂ ad. 40.5 (捕獲後三十分以上經過)

(4) *Dafila acuta* (L.)

をながかも

本種ノ體溫ハ廿九羽ノモノヲ計ルヲ得タリ。捕獲後直チニ計リシモノ六羽ノ内最低 40.0 最高 42.5 アリ。而シテ三十分以上經過後計リシモノ廿六羽(内三羽ハ捕獲後直チニ計リシモノヲ再ビ計ル)ノ内最低 40.9 (一例) 最高 43.2 (二例) アリ。詳細ナル數ハ左ノ如シ。(但シ三十分以上ヲ經タルモノノミ)

40. 以上 41. 未滿一羽(幼鳥雌)

41. 以上 42. 未滿六羽(成鳥雄三羽、同雌三羽)

42. 以上 43. 未滿十六羽(成鳥雄六羽、同雌四羽、幼鳥雄三羽、同雌三羽)

同雌三羽)

43. 以上 43.3 未滿三羽(成鳥雌三羽共)

次に各個體ニシテ捕獲後直チニ計リシモノト三十分以上經タルモノトニ於ケル體溫ノ昇降ヲ比較セバ

雌雄	捕獲後直チニ計リシモノ	捕獲後三十分以上後計リシモノ
♀ ad.	42.5	42.6
♂ ad.	41.4	42.7
♂ ad.	40.7	42.6

此表ニヨレバ 0.1 ヨリ 1.9 迄ノ差ヲ示シ(こ)がもノ場合ヨリモ一定ニ近シ捕獲後直チニ計リシモノヨリモ體溫ノ昇ルコトハ確ナリ。

以上ニ明記セザリシ終リノ三羽(六羽ノ内ニ含マル)ノ捕獲後直チニ計リシモノハ ♀ juv. 40.0, ♀ juv. 40.1, ♂ ad. 40.1 ナリ。

右ニヨリ見レバをながかもノ體溫ハ四十度以上四十三度強ナルコトヲ知ル。而シテ本種ノ場合ニテモこがもト同ジク四十二度以上四十三度以下ノモノ多數ヲ占ムルモ、成鳥幼鳥ノ體溫ハ殆ンド同様ナリ。

(5) *Mareca penelope* (L.)

ひかりがも

僅ニ四羽ノ體溫ハ左ノ如シ(凡テ捕獲後三十分以上ヲ經タルモノ)

♂ juv. 41.0, ♀ ad. 42.2, ♀ juv. 42.9, ♂ juv. 43.0

(6) *Erethya falcata* (Georgi)

よしがも

本種ハ十羽ニ就テ計リタリ。捕獲後直チニ計リシモノ五羽ノ内最低 38.8 最高 41.9 アリ。而シテ三十分以上經タル後計リシモノ十羽(内五羽ハ捕獲後直チニ計リシモノヲ再ビ計ル)ノ内最低 40.1 最高 42.3 アリ。詳細ナル數ハ如左。

40. 以上 41. 未滿二羽(成鳥雄一羽、同雌一羽)

41. 以上 42. 未滿七羽(成鳥雄四羽、同雌一羽、幼鳥雄二羽)

42. 3 一羽(幼鳥雄)

次ニ各個體ニシテ捕獲後直チニ計リシモノト三十分以上經タルモノトニ於ケル體溫ノ昇降ヲ比較セバ

雌雄	捕獲後直チニ計リシモノ	捕獲後三十分以上ノ後計リシモノ
♂ ad.	41.9	41.9
♂ ad.	41.7	40.6
♀ ad.	41.3	41.5
♂ ad.	40.5	41.2
♂ ad.	39.8	41.6

此表ニヨレバ成鳥雄一羽ハ體溫ノ昇降全クナク他ノ一羽ハ除外例トシテ 1.1 丈ケ却テ降下シ、他ノ三羽ハ通例ノ如ク昇リタリ而シテソノ差ハ 0.2 ヨリ 1.8 テ示シをながもノ場合ト大差ナシ。

本種ノ體溫ハソノ調査シタル個體數少キニヨリ不完全ナレドモ以上ノ結果ニヨレバ四十一度以上四十二度以下ノモノ多數ヲ占メ四十三度ニ達スルモノナシ。

(7) *Anas boschas* Linn.

まがも

二十羽ノ個體ニ就テ檢スルヲ得タリ。而シテ全部捕獲後三十分

以上ヲ經タルモノヲ計レリ。最低 41.1 最高 42.3 アリ、其内ノ詳細ナル數ハ左ノ如シ

二羽)

42. 以上 43. 未滿十三羽(成鳥雄六羽、同雌四羽、幼鳥雄二羽、

同雌一羽、一羽)

43. 2 一羽(成鳥雄)

右ノ結果ニヨレバまがもノ體溫ハ四十二度以上四十三度以下ノモノ最モ多ク四十三度ニ達スルモノハ少シ、而シテ成鳥ノ方幼鳥ヨリモ體溫高キガ如シ。

(8) *Anas zonorhynchos* Sw. かるがも

十羽ノ體溫ヲ檢シタルガ捕獲後三十分以上經過ノ後計リシモノミナリ。最低 41.7 最高 43.5 アリ其内ノ詳細ナル數如左

41. 以上 42. 未滿二羽(成鳥雄一羽、幼鳥雌一羽)

42. 以上 43. 未滿六羽(成鳥雄一羽、同雌二羽、幼鳥雌三羽)

43. 以上 43.5 以下二羽(成鳥雄二羽)

本種ノ體溫モまがもノ場合ト殆ンド相等シク四十二度以上四十三度以下ノモノ多數ナリ。

(9) *Fuligula marila* (L.)

すゞがも

僅ニ六羽ノ體溫ヲ計リシノミナルガ其結果如左(三十分以上ノ後計リシモノ)

40. 以上ニ。未滿四羽(成鳥雄二羽、同雌一羽、幼鳥雄一羽)

41. 一羽(成鳥雌)

43. 1 一羽(成鳥雄)

(10) *Fuligula cristata* (Teach) きんくろはじろ

本種モ僅ニ五羽ニ就テ檢シタルノミナリ其結果ハ左ノ如シ。凡テ捕獲後三十分以上ヲ經テ計リシモノ

41. 以上ニ。未滿三羽(幼鳥雄)

42. 1 一羽(幼鳥雄)

43. 6 一羽(成鳥雄)

以上ハ各種ノ場合ニ於ケル體溫調査ノ結果ヲ記シタルモノナルガ之レヲ鴨類全體ヨリ見ルトキハ體溫ハ先ヅ四十二度以上四十三度以下ナリト云フコトヲ得ベク、捕獲後直チニ計リシモノハ常ニ三十分以上經過ノ後計リシモノヨリモ體溫低キコト明ニシテ四十度ヨリ四十一度ノモノ普通ナリ。稀レニ三十八九度ノモノモアリ成鳥ノ方一般ニ幼鳥ヨリモ體溫高キガ如キモ雌雄間ニ於ケルモノハ個體ニヨリテ一定セズ。

海燕及ビ水風鳥ノ夜遊

理學士(磨司)信輔

英國ノ海岸ニ在ル或ル島デ五月頃觀察シタ所ニヨルト、暴風海燕(*Procellaria pelagica* L.)ハ日没後間モナク隱家ヨリ出現シ初メ漸次其數ヲ増シ午後十時ニハ何千ト云フ數ニナリ或ハ彼方此方ト飛ビ廻リ或ハ隱レ家ナル石ノ下ノ穴ヲ出タリ入ツタリシテ居ル、其狀ハ丁度大キナタ顔ベツゴウガ飛デ居ル様デ少シモ人ヲ恐ル、事ナク人ニ近ツキ其内ノ一羽ノ如キハ觀察者ノ内ノ一人ノ頭ニ當ツタ位デアツタ。海燕ニ續デ水風鳥(*Puffinus astellorum* (Temm.))ガ出現シ始メタ其數ハ矢張千ヲ以テ算フ可ク飛ビ乍ラ呼ブ其聲ハカシマシク耳モ聾センバカリデ有ツタ。此ノ騷ハ夜中少シモ衰ヘズ繼續シタガ東ノ空ガ白ラムト供ニバツタリ止ンデ數千ノ鳥ハカキケス如ク消エ失セテ島ハ再ビ本ノ靜寂ニ歸ツタ。其ノ上水風鳥ハ飛ビ乍ラ天幕ニ打チ當ツタリ天幕ニ爬ヒ上ツタリ爬ヒ下リタリシテ其ノ夜ハ一睡モ眠ル等ト云フ事ハ出來ナカツタ相デアル。

太平洋東北沿岸ノ海燕類

數種ニ就テ

理學士 黑田長禮

Mathews, G.M. & Tridale, T.: On Some Petrels from the

North-East Pacific Ocean. The Ibis Vol. III. No. 3. July, 1915.

pp. 372-389

本篇ニ於テ著者ハ海燕、水風鳥兩科ニ屬スル太平洋東北沿岸産

ノモノヲ研究シ從來ノ Procellariidae チ用ヒズシテ Hydrobatidae

ナル最古ノ屬名ヨリ變化セシメタル Hydrobatidae ナル新科名

ヲ設ケタリ、故ニ左ノ如ク定メラル。

Fam. Hydrobatidae = Procellariidae

Subf. Hydrobatinae = Procellariinae

而シテ新ニ *Pannemania* ナル屬ヲ設ケ從來ノ *Oceanodroma* 屬ヨリ

(Gray) ナレニ屬セシメタリ但シ此種ハ本邦ニハ産セズ。

次ニ新種トシテ左ノモノヲ記載セリ。

Cymochorea Cones

Cymochorea onstoni, n. sp.

此新種ハ相模灣沖ノ瀬ニ於テ明治三十五年五月一日ニ採集セラ

レシヲ始メトス。はしほそくろうみつばめ (*Oceanodroma maculata*;

Salvin) ニ極メテ酷似シ大サ色彩等ハ全ク同一ナリ。唯跗蹠ノ

太キコト、趾モ太ク且ツ長キコトニ於テノミ異ル。嘴峰一九翼一

八二乃至一八四、中央ノ尾羽六八、五乃至七〇、外側尾羽一〇〇

乃至一〇三、跗蹠二八、五乃至二九、五中趾二六乃至二七、ヒレ

次ニ水風鳥科ニアリテハ新屬一、新亞屬一ヲ設ケ新種二、新亞

種三ヲ發表ス何ツレモ日本ノ鳥類ナリ。

Fam. Puffinidae

Calonectris, gen. nov.

此新屬ニハ從來ノおほぐさぐさり (*Puffinus leucurus* Temm.)

ヲ屬セシメ (*Calonectris leucurus* (T.) トナヒリ)。

Puffinus Brisson

Puffinus bannermani, n. sp.

此種ハ北硫黄島ニ於テ明治四十二年二月ニ採集サレシモノヲ始

メトス。ひめしろはらみつなぐり (*Esterhuysen longirostris* (Gün.)

ニ酷似スル種類ナリ。背ハ煙黒色頭及ビ頸ハ蒼黒色ニシテ灰色

ヲ帶グ後頸ニ於テ特ニ然リ。間肩部ハ各縁淡色ニシテ扇形ヲ呈

ス風切羽及ビ尾羽ハ煙黒色、初列風切ノ内瓣ハ褐色ナリ、眼ノ下

部ニ白線アリ。下面ハ腮ヨリ下尾筒迄全部白色ナリ、眼先キハ灰

色、眼ノ下部及ビ頸側ノ羽毛ハ先端白色ナリ然シ胸側ニアリテ

ハ暗色ト白色トハ殆ンド同量ニ存在シ斑紋狀ヲ呈ス。短キ上尾

筒ハ白色ニシテ先端近クニ褐色斑アリ。サレド長キ上尾筒ハ凡

テ黒色ニシテ先端ニ微カナル白色アリ。下雨覆ノ各縁ハ褐色。

次列ノモノハ半バ白色ニテ中央ノモノハ純白色ナリ。(即チ外縁ノ下雨覆ハ褐色、下部初刻雨覆及ビ下部次列雨覆ハ純白色ナリ) 腋羽ハ純白色、嘴ハ蒼黑色、脚趾ハ淡色ト黑色トヨリナル(凡テ標本トナシテノ色彩ナリ)即チ *Puffinus* ノ基型ノ色ナリ。嘴峰三一乃至三二、翼二一四乃至二一六、尾七九乃至八一、跗蹠四〇乃至四二、中趾三九、五乃至四〇耗アリ。

Thyelodroma Stejneger

Microzalias, n. subgen.

此新亞屬ニハ從來力みづなみづなりの (*Puffinus nativitatis* Streets) ナ屬セシメ *Thyelodroma* (*Microzalias*) *nativitatis* (Streets) トナセリ。

Neonectris Mathews

Neonectris griseus pescadorei, n. subsp.

此亞種ハ澎湖列島ニ於テ明治四十二年五月ニ採集サレシモノヲ基型トセリ。上面ハ帶褐色、頭ハ黑色、肩羽及ビ大雨覆ノ先端ハ褐色ヲ帶ブ。腮ハ帶灰色、下面ハ灰褐色ニシテ胸ハ淡色ナリ。腋羽ハ褐色、下雨覆ハ灰色ニシテ羽軸暗色ナリ。嘴ハ太キモ脚ニハ肉色ナシ。嘴峯四二―四三、翼二九一―二九二、尾八六―九六、跗蹠五五―五六、中趾五四―五六耗アリ。

著者ニヨルニ *Neonectris griseus* (tm.) 即チはいくらもみづなみづな

りハにうじらんぎニノミ群棲スル種類ノ由ニテ嘴峯ハ短ク細ク三九、翼二九〇、尾八七、跗蹠五六、中趾五四耗アリ。

Neonectris griseus nissus, n. subsp.

此亞種ハ千島ニ於テ採集セシレシモノヲ基型トセリ。前亞種トハ色彩ニ於テ直ニ區別セラル。即チ上面ハ純灰色ニシテ褐色ヲ缺如ス。翼ノ裏面ハ或ルモノハ一層灰色ニ又或者ハ白色ニ近シ其他ノべりるしよんハナシ。嘴ハ前亞種ヨリ長ク且ツ細シ。嘴峯四四―四五、翼二九六―三〇一、尾八六―八七、跗蹠五七、中趾五三耗アリ。

次ニ著者ハ左ノ如キ意見ヲ記載セリ。

"It should be observed that instead of '*P. carneipes* and '*P. tenuirostris*, the two anticipated breeding '*Puffinus*' in Japanese Seas, Owston sent two forms of '*P. griseus*, a new bird for the locality in every sense. What else may still be hidden?"

著者ハ即チ本邦ニハ前記ニ新亞種ノミヲ産シ從來ノ三種即チあかあしみづなみづな、はしほそみづなみづな並ビニはいいろみづなみづなりノ純然タル種類ハ産セザルベシト云フ意味ナルベシ。

Bulweria Bonap.

Bulweria bulweri pacifica, n. subsp.

此亞種ハ硫黃島ニ於テ明治四十四年七月十五日ニ採集サレシモノヲ基型トセリ。(譯者曰ク此亞種ハ硫黃島及ビ小笠原諸島ニテ屢採集サレシモノニシテあなづり *Bulweria bulweri* ノ名ニテ知ラレシモノナリ) 著者ハ單ニ嘴ノ強大ナルコト翼ノ長キコトノ一點ノミニヨリテ太平洋沿岸產ノ *Bulweria bulweri* ト區別ヲナシタルナリ。嘴峯二二・五—二三、翼二〇・六—二二・〇、尾一〇・五—一一・九、跗蹠二七—二七・五、中趾二七—二七・五、五耗アリ。かなり一群島ノモノ、測定

雄(二十二個)——嘴峯二〇・五—二三、翼一八・七—二〇・五(平均一九・六、五)跗蹠二五・五—二八・耗

雌(四個)——嘴峯二〇・五—二二、翼一九・一—二〇・〇(平均一九・五、五)跗蹠二六・五—二七・五

B. bulweri ノ分布區域——太平洋、までいら、かなり一並ビニふひーじー諸島ニ産ス。

B. bulweri pacifica ノ分布小笠原群島硫黃島及ビ支那福州ニ産ス。

軍艦鳥の新分類法

理學士 鷹司 信輔

一、軍艦鳥ハ元來 *Fregata aquila* Linn (大軍艦鳥) ト *F. ariel*

Gould (軍艦鳥) トノ二種ニ區別ヲナシ居タリシモ昨年 Hon. Walter Rathschild ハ Nov. Zool XXII ニ於テ次ノ十種(亞種ト含メテ)ニ分チタリ

1. *Fregata aquila* Linn. Oceania n Island.
2. *F. andrewsi* Math. Christmas Island.
3. *F. magnificens* Math. Coasts and Islands of America
4. *F. minor* Minor Gmelin. Eastern Indian Ocean.
5. *F. minor alabrensis* Math. Western Indian Ocean.
6. *F. minor palmerstoni* Gmelin. Laysan, Fanning and other West Pacific Island Groups.
7. *F. minor ridgwayi* Math. Galapagos Islands.
8. *F. minor nicolli* Math. South Trinidad.
9. *F. ariel ariel* Gould. Australia.
10. *F. ariel iradalei* Math. Western Indian Ocean.

之ヨリ其ノ索引ヲ略記セズ

一、雄

- 一、體側ニ大ナル白斑アリ 九ニ移レ
 體側ニ白斑ナシ 一二ニ移レ

二、翼ハ黒色ナリ
翼ニ褐色ノ帶アリ
三ニ移レ
四ニ移レ

三、背ハ綠色金屬光澤ヲ有ス
背ハ紫色金屬光澤ヲ有ス
F. aquila
F. magnificens.

四、腹及ビ下腹部ハ黒色ナリ
腹及ビ下腹部ハ白色ナリ
五ニ移レ
F. andrewsi.

五、胸ハ黒色ナリ
胸ハ褐色ナリ
六ニ移レ
七ニ移レ

六、翼帶ハ甚ダ廣ク色淡シ胸ハ灰褐ナリ
翼帶ハ狭ク濃褐色ナリ胸ハ暗焦茶色
F. minor nicolli
F. m. palmerstoni

七、翼帶ハ淡灰褐色ナリ
翼帶ハ甚ダ濃キ褐色ナリ
八ニ移レ
F. m. ridgwayi

八、體小ナリ、翼長五三〇—五五〇糎
體大ナリ、翼長五八〇—六〇〇糎
F. m. minor.
F. m. alabrensis.

九、嘴大ナリ、嘴峰八〇糎
嘴小ナリ、嘴峰六八—七〇糎
F. a. ariel.
F. a. iradalei.

(二)、雌

一、下部ニ白色ノ部分ナシ
下部ハ白色ナリ
F. aquila
一二ニ移レ

頸ニ明ナル帶ヲ有ス
六ニ移レ

二、胸部ハ白色ニシテ腹部ハ暗色ナリ
胸部及ビ腹部ハ白色ナリ
三ニ移レ
F. andrewsi.

三、喉及ビ前頸ハ黒シ
喉及ビ前頸ハ灰白色ナリ
F. magubicans
四ニ移レ

四、背ハ黒褐色ナリ
背ハ淡褐色ナリ
F. m. ridgwayi.
五ニ移レ

五、翼帶ハ薄クシテ廣シ
翼帶ハ濃クシテ狭シ
F. m. nicolli
F. m. palmerstoni

六、翼帶ハ甚ダ濃シ
嘴ハ大ナリ、峰嘴九五糎
嘴ハ小ナリ、嘴峰八〇糎
F. m. minor.
F. a. ariel
F. a. iradalei.

山鵲の新亞種

理學士 應司 信輔

Dr. Ernst Hartert ハ奄美大島産ノ山鵲ヲ新亞種トシテ此程

發表シタレバ左ニ其ノ記載ヲ譯出ス可トシ

『Sceloporus rusticola nigr. subsp. n. B. B. O. C. Vol. XXXVI No.

Zeolopax rusticola rusticola ト異ル所ハ上側ノ羽色濃クシテ褐

赤色ノ氣少ク橄欖色ニ富ミ下雨覆ハ一層濃ク下側ハ褐赤色ニ乏シク體形大ナリ特ニ嘴ハ猶強ク其巾廣キニ存ル 上部ノ總テノ部分ハ黑點ヲ除テハ一層橄欖色ヲ帶ビ其色濃シ特ニ額頸及ビ腰ニ於テ然リトス 頭上部 (Sinciput) ノ黑帶ハ狹ク背及肩羽ノ黑斑ハ一層長味ヲ帶ズ。腰及上尾筒ノ暗黑斑ハ一層細カナル蟲喰斑ニシテ各羽ノ先端ハ極僅殆ド區々シ難キ程ニ基部ノ褐色ヨリ淡シ。雨覆ハ猶其色濃シ外方ノ風切ハ外瓣ニ在ル褐赤色ノ丸點ハ其形小ニシテ内辨ハ殆ド斑點ヲ缺ク即チ短キ橫帶モ刻目モナク只其内端 (inner edge) ニソウテ二三ノ穢レタル白色ノ不正形ノ斑點ヤ蟲喰斑ヲ有スルノミナリ。下面ハ一層白色ヲ帶ベドモ脇ハ褐色ニ富ミ密ニ黑色ノ斑點ヲ有ス 嘴ハ一般ニ長ク厚ク巾廣シ少クモ其ノ先端ニ於テハ普通ノ物ヨリ一極廣シ 嘴峰七五乃至八三極、翼長二百乃至二百十五極跖蹠四七乃至四九極、中趾ハ四八乃至五〇極ナリ、初列風切ノ末端ト次列風切ノ末端トノ距離ハ普通種ノ鳥ヨリ少クモ一乃至二極少ク初列風切ノ退化セル第一羽ハ甚ダ長クカツ巾廣シ

產地 奄美大島産

初鳥ハ成鳥ヨリ一層赤味ヲ帶フ然レドモ其嘴蹠脚ノ長大ナル事下部雨覆ノ色ノ濃キ事次列風切ノ長キ事及ビ外部初列風切ノ内辨ノ殆ド斑點無キ事ニ依リテ之ヲ區別スル事ヲ得ト

鶉ノ飼育

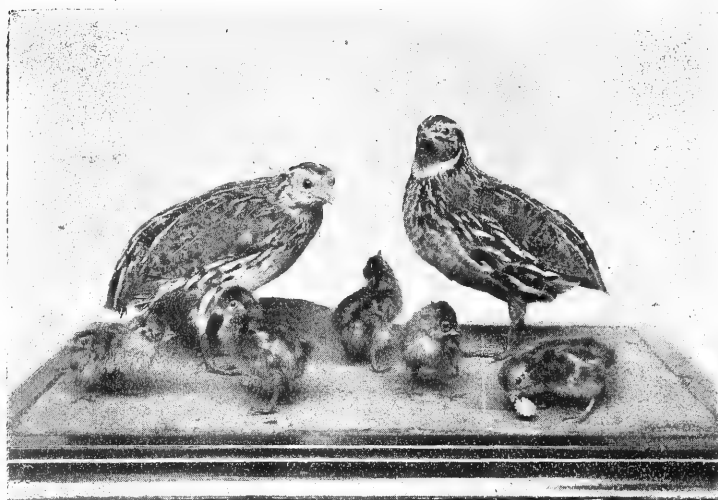
鶉

家

私が鶉ヲ飼ヒ始メタルハ十年前ヨリノ事デ三年日ヨリ産卵シ始メタレバ矮雄ヲシテ孵化サセント成シタルモ雞ノ飼養方ハラ知ラザルタメ不結果ニ終リタリ

翌年ニ至リ(嘗テ日野ニ於テ雲雀ノ巢ヲ見タルコトヲ思ヒ出デ、)其レニ習ヒ藥ニテ作り中ニ藥ヲ入レテ他ノ籠ニ裝置シ始メニ生ミタル卵ヲ其中ニ入レ置キ産卵ノ時刻ニ至リ飼籠ノ戸ヲ開キ巢籠ヘ行カレル様ニシテ置キシニ卵ハ必ズ巢ノ中ニ生ムコトハナレリ或タ巢ヨリ出デズシテ卵ヲ暖メ居タリケレバ其マヽニシテ置キ翌朝飼籠ニ移シタルニト數分間ニシテ又巢ノ中ニ入り卵ヲ暖メ居タリ其レヨリ一日ニ二回又ハ三回巢籠ヨリ飼籠ニ移シ置キ巢籠ニ歸リ巢ニ入ルヲ待チ靜カナルウス闇キ處ニ置キシニ二十七日目ニ孵化シタリ始メ二三年ハ雛ノ中ハ赤ボーフラト插餌トニテ飼ヒタレドモ此頃ハ插餌ト雞卵ト牛乳トニテ飼ヒ居レリ數多ク孵化セシ時ハ九個ノ卵ノ中七羽孵化セリ少キトキハ六

個ノ中三羽孵化セリ産卵ノ數ハ少キトキハ十六七個ニシテ巢ニ



親 鶉 及 其 鶉

ツキ多キ
時ハ三十
五六個ノ
コトモア
リシ大正
四年ハ例
外ノ一羽
ノ雌ハ此
二ヶ月間
生ミ續キ
其間一日
或ハ二日
チ休産セ
シノミナ
リ
毎年一月
一日ヨリ

夜飼ヒヲ始ムルニ早キハ寒中ヨリ産卵ヲ始ム明治四十五年ニ

三月三日ニ孵化セリ大正四年ノ初回ノ卵ハ孵化前一日ト二日ト
ニテアマリ手ヲ觸レシ爲メニ皆窒息死ニ至ラシメタリ三回目ニ
ハ八月七日ニ孵化セリ雖ハ孵化後二ヶ月位ニシテ又産卵ヲ始メ
タリ

私ハ鶉ガ自ラ作りタル巢ヲ見タルコトハ無ケレドモ産卵期中ノ
雌ヲ室内ニ放チ藁ノ揉ミタル者ヲ一團トシテ置キシニ中ニク、
リ入りテ足ニテカキ廣ゲ中ニ中ニトクバリ込ムヲ見レバ自作ノ
巢モ凡ソ想像スルコトヲ得ベシ

病ニ對シテハ餌ノ進マヌ時唐ガラシト朝鮮人蔘トヲ水ニ浸シ其
水ヲ吞マシメタリ巢ニツキテ居リタル時床ヅレ様ニ胸ノ肉ガ闇
黒色ニナリタル時酒精ニテ奄抱セシ爲メ快復シタルコトモアリ
タリ産卵ハ必ズ時刻時ニ於テスルヲ常トス

鳥類ノ方言

靑山徳太郎

種 名 方

言

從來ニ著名ナラザル方言ノミヲ左ニ列舉セリ、此ハ既ニ他機ニ

オ ホ ハ ム はんばくらひ(相模大磯)ハンパナ

ル一種ノ海藻ヲ喰フノ意

ア ビ ぎょうしよう(相模)前號ノ神奈川縣

ニ於ケル鳥類ノ方言中ニアイサ類ノ
方言ノ如ク書キタルモ、ソハ本種ノ
誤リナレバ以上ノ如ク訂正ス

カイツブリ

かいつむり。むぐり。ちち、いっちち

うもぐり (相模中郡) みようちん

(駿河濱松)、みようさい (越後北蒲

原郡) みよ (上總君津郡)、うよめ

(三河?)、いそめむくごり

クロアホウドリ

おほごり (相模大磯) 大鳥ノ意

ウ

うわごり (但馬美方郡)

ゴキサギ

ごう (越後刈羽郡)、ごるた (三河)、

よがらす (相模、下總、但馬、因幡)、

つきよがらす、月夜鴉

ミゾゴキ

いほごるさぎ

コウノトリ

しりぐろ、尻黒

シノリガモ

ごっくりがも (千島占守) 徳利鴨

コガモ

たかを (越後)

ヒシクキ

ひす (下總銚子)、ひそ (常陸龍ケ

オホハクテウ

ノ ス リ

テウセンシフウヅラ

ヒメウヅラ

エズライテウ

ヒク キ ナ

ク キ ナ

シロハラクキナ

バ

キコウジウシギ

ダイゼン

ム、ナグロ

タ

ラバシギ

ヤマシギ

くどひ

くそったか (但馬)、

まんしうづら、方言ニハアニズ、

飼鳥商間ニ多ク用ヒラル

みふうづら、飼鳥商間ニ用ヒラル

やまごり (北海道全部)

きゅうな (上總東金、成東)、くろ

こ、幼鳥ノミ

おほくるな、つるくるな、

むなじろばん (臺灣俗稱) 胸白鵲

こはん 小鵲、大鵲ニ對シテ

きゅうじゅうちごり、

たいぜんしぎ、たいぜんちごり、

こうだか (武藏南多摩)、むなぐろち

ごり、

くじくけり、飼鳥商間ニ用ヒラル

うばしぎ、をばちごり、

ほたしぎ、ぶたしぎ (共ニ相模中

崎)

郡)

トウヅクカモメ?

ばんばかもめ(相模大磯)、ばゝあかもめ(下總銚子)

エトビリカ

おいらんがも(千島占守)

シラコバト

しろこばミ

アヲバト

こまおひざり(相模大磯)駒追鳥、

カワセミ

おあをミ(相模中郡)鳴聲ニ依ル

ミ、ヅク

かわせうびん、すえな(越後刈羽郡)、きすい(伊豆修善寺)、

ノミニ名付ク

みゝづく、もま(豊後直入郡)鳴聲

フクロウ

ふくろざり(能登鹿島郡)、てゝほ

ほ(同上)、ごへい(下總古河、下野

栃木)、共ニ鳴聲ニ依ル

かくひざり蚊喰鳥、かくひ(相模大

磯)

きつ(但馬、因幡、伯耆)、

ハリヲアマツバメ

いわつばめ 岩燕

ア マツバメ

かざざり風切、あまざり雨鳥、おほ

つばめ大燕、

ヤイロテウ

てうせんづぐみ、あかだんな(日向)、赤キ下帯ノ意

ヒバ

しばり

セグロセキレイ

しりびんこびんこ(但馬方郡)

サメヒタキ

こもんひたき幼鳥ノミニ

ツグ

つぐめ(越後刈羽郡)

アカハラ

はらあか(豊後直入郡)

アカヒゲ

りうきうごま(大阪飼鳥商)、てうせ

ノゴマ

ごま(東京飼鳥商)、おはしまご

ま、くろひけ、くろ。こ幼鳥ノミ

こま(美濃郡上郡)、ひのまる(千島占守)、日之丸 のこう喉紅、共ニ喉

ノ赤キヲ云フ

ばかざり(備中)、ばかびたき、ばか

づくし(下野鹿沼)、

こあがり

きょうきょうじ(越後新潟)、

ちゃつちゃ、やぶつちゃ(下野佐

野)、共ニ秋期ノミ、やぶうぐひす

カワ ガラス
かわすぐめ(越後)、いわさぐい、た
きさぐい、

ミ ソ サ ャ イ
みそっちゅう(豊後直入郡、大野
郡)、みそつつく(下野鹿沼)、ちん

の(信濃伊那)、

ツ バ メ
ひいご(但馬)、

イ ワ ツ バ メ
つばくろ(但馬)、

モ ズ
ごず(但馬美方郡)、

シ バ ウ カ ラ
しごうがら(但馬)、

ヒ ガ ラ
こがら(下總古河)、

エ ナ ガ
をがら 尾雀、ごじうから(共ニ越

中)、はちじうから、

カ ケ ス
かいぜんほう(豊後直入郡、大野郡)

ム ク ド リ
しんべんざり(但馬海岸地方)、小

便鳥、くそざり(安房)、糞鳥

メ ジ ロ
めじ(但馬)、

イ ス カ
あかいすか赤キモノニあをいすか青

キモノニ

ベ ニ マ シ コ
ましこ、こましこ、

マ ヒ ソ
ひわ、ひや、まひや(共ニ下野佐
野)、ひば(越後刈羽郡)、

かわらひば、からひば(共ニ越後)
からっひや(下野佐野)、はたいひわ

(但馬美方郡)、まつめ(下總松戸)、み

いん、みい(共ニ下總古河)、

ぼくあか(東京飼鳥商)、赤鷲ニ對シ

テ

ウ ソ 類 總 稱
ぼくでり(♂)あまうそ(♂)(共ニ豊

後)、あかうそ(♂)

ますぐめ、ますぐ(常陸)、のきは

(常陸)、

ア ナ ジ
あをかしら(加賀金澤)、青頭

カ シ ラ グ カ
かしら(加賀金澤、越中富山、

オ ホ ジ ャ リ ン
なべかぶり(東京飼鳥商)、

雷鳥ノ食餌

獸醫學士 内田清之助

左ニ掲グル雷鳥ノ食餌ハ本會會員長野縣女子師範學校長矢澤米

三郎氏ノ調査セラレシ所ニシテ該標本ハ同校博物標本室ニ所藏セラレ本邦產雷鳥ノ食性ニ關スル極メテ貴重ナル材料タリ 予ガ信州旅行ノ際矢澤氏ヨリ本稿ヲ寄贈セラレタルヲ以テ茲ニ本誌掲ゲテ讀者ノ參考ニ供ス

信州松本四山連山產雷鳥

四月採集

こけもゝ(實及葉)

きばなしやくなけ(芽)

つがざくら

がんこうらん

五月

こもゝ(實及葉)

いはひも

つがざくら

がんこうらん

七月

みやまぐるま

むかごころのを

昆蟲幼蟲多數

八月

しらたまのき(葉)

こめばつがざくら

こけもゝ(實)

がんこうらん

すのきの類?

九月

こけもゝ(葉)

しらたまのき(葉及實)

いたざり(實)

がんこうらん

昆蟲幼蟲多數

十月

いたざり(實)

つがざくら(實)

みねすわう(實)

がんこうらん

甲州口峰連山中ノ農鳥嶽產雷鳥

八月初旬

むかごころのを

おやまえんごう

蛇ト鳥ノ爭

鶺鴒ノ家

蛇モ鳥モ共ニ小鳥ノ卵鵲ヲ襲ヒ屢非常ニ有害ナ事ヲスルガ余ハ此二種ノ間ニ次ノ如キ面白キ事實ヲ觀察シタ、余ノ家ハ本郷ノアル寺院ノ後ロニアツテ境内ニハ多數ノ櫟ガ生エテ居ル其内ノ一本ニ地上ニ二丈位ノ所ノ木ノ空洞ニ四月中旬頃小椋鳥ガ頻ニ乾草ヲ運ンデ居ツタ余ハ無論小椋鳥ガ營巢ノ仕度ヲシテ居ル事ト思ツタ所、二日シテ其穴ノ近クデ盛ニ鳴キ呼ンデ居ツタノデ、注意シテ見ルト他ノ枝ニ鳥カ居ルノデ之ハテツキリ鳥ガ營巢ヲ妨グル事ト思ツタガ、尙ヨク見ルト其穴カラ蛇ガ頭ヲ出シテ居ルノヲ發見シタ。椋鳥ノ營巢ヲ止メタノハ全ク此蛇ノ爲デアツタロウ。五月九日午後一時過ギ彼ノ穴カラ十尺ニ餘ル蛇ガ出テ來リ頻リニ枝ヨリ枝ニ何物ヲカ探メテ居ツタガ附近ノ雀ガ之ヲ見附ケ二三十羽計リ追ヒツ追ハレツシテ居ツタ。間モナク此附近ニ巢籠リ居タル鳥ガ二羽出デ來リ忽チ蛇ト鳥ノ間ニ爭鬪ガ起リ蛇ハ一再ナラス鳥ニ咬ミ附イタカ他ノ鳥ニ啄カレテ遂ニ半

前 號 目 次

死ノ狀態デ余ノ家ノ庭上ニ落下シタ。而シテ白色乳狀ノ液ヲ(之ハ口ヨリ吐イタモノカ或ハ内臓ノ露出シタモノカ不明)出シ之ニ混ジテ黑色三四寸ノ小鳥ノ尾羽様ノモノガ十三枚モアツタ。

恐ラク此蛇ハ夜毎ニ出デ、寢鳥ヲ襲フタモノト見エル。鳥ハ小鳥ノ害敵デアルガ此例ノ如ク時ニハ間接ニ小鳥ノ味方ニナル事モアル。自然界ノ事ハ中々ニ複雑デ面白イモノデアルト感ジタ。

しろふくろうノ新產地 小川 弘太郎

しろふくろうハ從來北海道ニ多ク内地ニテハ稀ニ、比較的ニ北部地方デ捕獲サル、コトアル稀品ナルガ、余ハ本年一月十六日千葉縣船橋ニテ捕獲セラレタル標本ヲ入手シタリ。珍シキ一例ナリト思考スルヲ以テ本誌ノ餘白ヲ假リテ會員諸氏ニ報告ス。

みかぎきじノ新產地 内田 清之助

菊地米太郎氏ノ談ニヨレバ臺灣ノ珍鳥みかぎき本年六月南投廳霧社支廳管内サラマオ社(海拔七、八千呎)ニテ採集セラレタル由從來少數ナガラ採集セラレタル阿里山、新高山、ラクラク山ノ外ニ一產地ヲ加ヘタルモノト云フベシ。

南洋產鳥類ノ二新亞種(原色版口繪).....横山慶次郎筆

本會採集南洋諸島產鳥類目錄.....理學士 應田信輔

南洋諸島產鳥類ノ二新亞種ニ就テ.....理學士 黑田長禮

新占領南洋諸島產鳥類目錄及分布表.....理學士 應田信輔

信濃ニ於テ捕獲セル稀ナル三種ノ鳥類ニ就テ.....子爵 松平賴孝

.....子爵 松平賴孝

からすノ水浴ニ就テ.....仁部富之助

神奈川縣ノ鳥類採集.....子爵 松平賴孝

雜 纂 錦鷄ノ飼育(飯塚啓)、二鳥類ノ習性觀察(終リ)(仁部富之助、

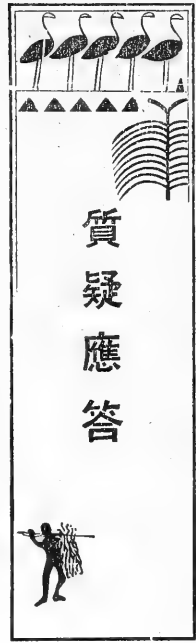
鳥卵ノ斑紋異常ノ三例(黒田長禮)、鳥ノ翔飛高度(寺尾新)、鴉ノ事ドモ(秋山重美)、盛京通志所載禽名(脇山三彌)、歐洲戰亂

ト鳥(應田信輔)、神奈川縣ニ於ケル鳥類ノ方言(穀山德太郎)、

質 疑 應 答 保護鳥類ニ關スル件四件(内田清之助)

雜 報

(九件)



質疑應答

質疑者 大分中學校 博物學教室

一、問 啄木鳥ハ木蠹蟲ヲ食スルモ樹木ヲ損スルコト多キヲ以テこけらノミ保護鳥ノ内ニ入レあかけらあをけらきたたきくまけら等ハ保護鳥中ニ入レズト中西準太郎編動物辭典ニアリ果シテ然ル哉

答 現行狩獵法ニテハ啄木鳥ハ何レノ種類モ凡テ保護鳥ナリ御問合セノこけらノミ保護鳥ナリシハ改正以前ノ狩獵規則ニ於テ然リトス、蓋シ從來ハ啄木鳥ハ樹木ノ害蟲ヲ食スルモ同時ニ樹木ヲ害スルモノト考ヘラレシヲ以テ其内最樹木ヲ創ルコト少キ小形ノ種類即こけらノミヲ保護鳥トセシモ近來ノ研究ニヨレバ啄木鳥類ハ凡テ樹木害蟲驅除ニ偉大ナル効アリテ然モ樹木ヲ害スル程度ハ輕微ナリト認メラル、ニ依リ改正規則ニハ啄木鳥全部ヲ保護鳥中ニ包含セラル、ニ至レリ

二、問 保護鳥麥時ノ記載習性分布等承り度シ

答 麥時ノ記載分布等ハ日本鳥類圖説下卷參照セラレタシ

又其習性ハ本種ハ鷓 (Musciapap) ノ一種ナルヲ以テ該書鷓科ノ頂ヲ見ルベシ

三、問 鷓^{トビ}ヲ有期保護鳥ハミノ内ヨリ除キタルハ人家ニ餌百セラレ獵鳥ニ非ル故ニ候哉

答 然リ

四、問 鷓^{モス}ハ獵鳥トシテ保護スルニハ餘リニ小形ナル感アリ他

ニ理由アリ哉

答 現行法ニテ鷓ハ有期保護鳥トナシアルハ恐ラク鷓ノ害益ノ程度ニ就テ疑問ノ點アリシニヨルナルベシ蓋シ從來ノ説ニヨレバ鷓ハ害蟲ヲ驅除スルト共ニ益鳥ヲ捕獲スルコトアリトセラレタルヲ以テナリ 然レドモ近來本邦產鷓ノ調査ニヨレバ(農事試驗場特別報告第二十九號)邦產鷓ハ鳥類ヲ捕獲スルコト殆ンドナク農作物害蟲ヲ以テ常食トシ極メテ有益ナルコト明ニナレリ故ニ鷓ハ當然絶對(無期)保護鳥ノ中ニ加フルヲ適當トス

質疑者 山口縣長府 桂 長次郎

五、問 本年七月十五日當地海濱近ク三羽ノ「あび」游泳致居候ガ此ハ例外ノ事ニ候哉

本種ハ確ニあびナルカ又ハおほはむしろえりおほはむナルカ不明ナルベシ。しへいのおほはむハ嘗テ五月十日香川縣ニテ採集セラレシコトアリ。又八月二十二日沼津ニテ獲ラレタル例アリ右二例ニヨリ考フルニ質問ノ如キ場合ハ例外ト云フベキモ、往々アリ得ルコトナリ、尙今後モ充分ニ觀察セラルレバ必ズ夏季ニ此種ノ例アルヲ知ルベシ。只何故ニ蕃殖地タル北方ノ地ニ去ラズシテ夏季南方ニ止ルモノアルヤ理由ハ不明ナリ

六、問 まひわヲ當地ニテハ單ニひわト呼ビ、ひわヲ分チテ一ヲてんじく一ヲごまふト呼ビ、其差ハ比較的色彩ノ鮮明美シキト然ラザルトニテ、てんじくハ美シクごまふハ其名ノ通りごまふ多キ様覺候成鳥ト幼鳥ノ差カトモ存候方如何ニヤ
答 標本ヲ見ザレバ確答シ難キモ恐ラクてんじくハ成鳥ニシテごまふハ幼鳥ナルベシ

七、問 ちしぎ（内田先生ノ所謂おほちしぎノ尾羽ノ數ノ二十枚ノ事有之候哉、獵野ニテ早々數ヘシ事故數ヘ誤リカモ知レズ候ガ一應御尋致候

答 おほちしぎノ尾羽ハ十八枚若クハ十六枚ニシテ二十枚ノ尾羽ヲ有スレバちうしぎナリ、兩者ハ外見極メテ酷似シ尾羽

ノ數ニヨリ區別スルコト最確實ナリ

八、問 當地方ニテ捕獲スルうそニ全然紅色ヲ有セザルモノアリ右ハ雌ニ候哉、又あかうそ（當地ニテハそうでれト呼ブ）ノ飼養數年ニ及バ腹面ノ桃色ハ次第ニ減退シテうそ（當地ニテほうでれト呼ブ）ト異ラザルニ至ルト申居候方如何哉

答 うそノ雌ハ無論全然紅色ナク其他ノ色彩モ雄ト苦シク異レリ、雄ニテモ全然紅色ヲ缺クモノアリ、あかうそトうそトノ腹部ノ紅色ノ度合ハ種々アリテ（中間型）其識別困難ナルモノアリ、飼養ニヨリ紅色減退スルコトナキヲ保セズ、又餌料ノ關係ニヨリテ紅色ノ増減アリトノ說モアリ正確ナル實驗ヲ經タルニ非レバ確言シ難シ（以上八件黒田長禮、内田清之助回答）

前號「からすノ水浴ニ就テ」正誤

頁 行 誤 正

六八 一二 秋ヨリ同年迄 秋ヨリ四年迄

七〇 一四 數羽宛川水ノタメ 數羽宛川中ニ入ラトシテ試ミ

シモ當時出水ノタメ

一八 第二表 變化 第二表 天候ノ變化

七三 氣壓ハ百六回觀測、風向ニ風速ハ

氣壓ハ一日六回觀測、風向及風速

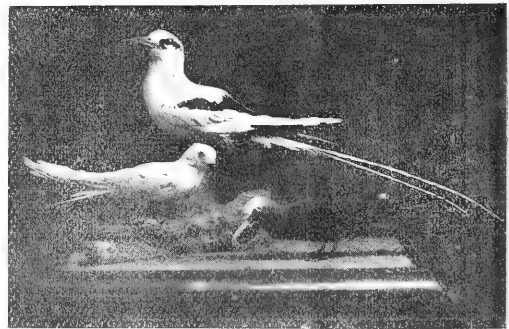


雜報

□會員黒田長禮氏ノ臺灣島採集 會員黒田長禮氏ハ臺灣總督府ノ囑託ニヨリ博物館所藏鳥類標本ノ調査ヲ兼ネ同島産鳥類採集ノ爲メ四月十日渡臺五月三十日歸京セラレタリ 採集品ハ九十三種、三百三十五點ニ達シ珍奇ノ種類渺カラズ。就中阿里山産の



類鳥産島南



類鳥産海洋南

かごぎじノ如キハ最完全ナルモノニシテ世界的珍鳥ト云フベシ、詳細ハ本會臨時刊行物第六編及本號例會記事参照セラレタシ

□南洋産鳥類ノ天覽
前號ニ報ジタル大會ヨリ
天皇陛下ニ献上ノ南洋
鳥類標本ハ其後正規ノ手
續ヲ了シ天覽ニ供セリ、
茲ニ其ノ寫眞ヲ掲グ

□臺灣鳥類ノ献上 臺灣總督府ニテハ兩陛下皇太子殿下ニ献上ノ目的ヲ以テ豫メテヨリ臺北博物館囑託菊地米太郎氏ヲ各地ニ派遣シテ同島特産鳥類標本採集中ノ所豫定ノ採集ヲ終ヘ鳥津製作所ニテ剥製標本ニ製作ノ上九月夫々献上ノ手續ヲ了セリ 天皇陛下献上ノ分ノ種名次ノ如シ

ベにさんせうくる、たいわんをながざり、ごしきざり、しまざり、やまむすめ、かうらいうぐるす、くろがしら、しろがしら

しうじようさぎ、さんけい、てつけい、みやまてつけい、かのこばぎ、べにばぎ、たかさごもず、やぶぎり、ほいびる、ひめまるはし、くろひよぎり、たいわんきじ、ごゐさぎ、かーれん、ひごろも、おーちう、ひめおーちう、かやのほり、しらさぎ、外獸類四點、蝶類百二點

尙右献上ヲ終ヘ引續キ菊地米太郎氏ノ手ニテ生鳥ヲ採集シ飼鳥トシテ 天覽臺覽ニ供スル筈ノ由

□本會第六回例會 十月二十八日午後一時ヨリ秋期例會ヲ赤坂區福吉町黒田侯爵邸内ニ開會セリ出席者次ノ如シ(來會順)

黒田 長禮 初山徳太郎 飯塚 啓 内田清之助

菊地米太郎 岡田 信利 小林 友三 寺岡 直

大久保忠春 寺尾 新 鷹司 信輔 飯島 魁

矢野 宗幹 波江 元吉

當日會場ニハ黒田長禮氏臺灣島新採集鳥類全部ヲ供覽シ同氏ノ説明アリ(詳細ハ臨時刊行物第六編臺灣島ノ鳥界参照)尙岡田信利氏ノ出品ニ係ル珍籍二部及朝鮮産鳥類標本二種ノ供覽アリ 書籍ノ一ハ De Tuezuko's afgebeeld en beschreeven door H. Schiedel, onder medewerking van G. F. Westerman. ト題シ大サ縦二尺

四寸横一尺八寸紙數二十四ページ圖版十六、一千八百六十年和

蘭アムステルダムノ刊行ニカカリ Musiphaaga 屬十六種ヲ一種一ページ毎ニ精巧ナル著色圖ヲ挿入シアリ

此書開卷ノ始メニ和蘭文モテ左ノ文ヲ記載シアルコト好箇ノ記念品トナスニ足ル然シテ一千八百六十二年ハ徳川幕府ヨリ竹内松平ノ二使ヲ歐洲ヘ派遣シタル年ナレバ恐ラク二使ノ家ノ何レニカ傳ヘラレシモノナラン

Aan het Japansch Gezantschap aangeboden door het Koninklijk Zoologisch Genootschap onder de Zinspreuk: "Natura Artis Magistra" bij gelegen heiden van het Bezoek door dit Genootschap aan het Genootschap gebracht den 27 juni 1862.

F. van Handelant

Vice president

F. Mog. van Hees

S. chrefaris.

G. F.

Directoor

他ノ一ハ A revised catalogue of the Birds of China and its Islands 1871. ニミテ故

Swinhoe 手澤ノ書ニミテ卷頭ニ左ノ文アリ

This was Swinhoe's own Copy of his. "Birds of China." The pencil numbers on the left of the page are my computation of the number

of specimens in his Collection when it was offered to the British Museum after his death. R. B. Sharpe. トアリテ珍重スベキモノ
ナリ

鳥類一ハえぞらいちやう雄一羽大正三年十一月三日朝鮮洪原道
三防採集、他ノ一ハ Recurviro tra aboetta 一羽大正三年一月四
日朝鮮群山熊浦採集文學博士川合弘民氏ノ寄贈ニ係ル由
當日午後三時ヨリ黒田家標本室及飼鳥室ヲ參觀シ寫眞撮影（口
繪圖版ノモノ）ノ後午後五時散會セリ

■新著紹介 法學士川口孫治郎著 杜鵑研究 サキニ仁部富之
助氏ノ郭公ノ研究（本會臨刊行物第五編）ノ出ヅルアリ今又本書
ノ發行ヲ見ル、近時邦人ノ手ニヨリテ鳥類習性ニ關スル充實セ
ル研究ノ續出スルハ斯界ノ爲メ喜ブベキ現象ナリトス、本書ハ
杜鵑ノ蕃殖習性ニ關スル科學的研究並ニ文學的調査ノ結果ヲ記
述セルモノニシテ其蕃殖習性ニ關スル部ノ如キ著者ガ其序文中
ニ述タルガ如ク八箇年間毎夏比叡鞍馬等ノ山中ニアリテ觀察セ
ル結果ヲ集成セリト云ウ丈ケアリテ前人未發ノ觀察ニ富ミ且是
等ノ結論ガ何レモ空想ニ流レズ一々實驗例ニ徴シテ立論セラル
ル等著者 科學ニ對スル眞面目ナル態度ヲ窺フヲ得ベシ、又文
學の考察ニ關スル事項ハ後段目次ヲ見ルモ知ラルル如ク杜鵑ニ

關スル各方面ノ事項ニ涉リ何レモ豐富ナル文籍ヲ涉獵セルハ著
者ノ此方面ノ努力又鈔カラザリシヲ知ルニ足ルベシ

本書ノ一部ハ嘗テ動物學雜誌中央公論等ノ誌上ニ公ニセラレシ
ヲ以テ讀者ノ記憶ニ新ナル所ナルベシト雖本書ニハ是等ノ外幾
多ノ新ニ追加セラレシ事項ヲ含ミ且全體トシテ集成統一セラレ
タル感アリ、今其内容ヲ示セバ

ほこゝぎすノ名（五項）、ほこゝぎすノ體容（二項）、ほこゝぎ
すト場所（二項）、ほこゝぎすノ啼聲（三項）、ほこゝぎすノ啼
ク時（二項）、血ニ啼クト云フ事（六項）、ほこゝぎすノ飛方（二
項）、ほこゝぎすト木立（六項）、ほこゝぎすノ餌食（十一項、他
鳥トノ關係（六項）、ほこゝぎすト農林業（三項）、杜鵑蕃殖觀
沿革史（十八項）、ほこゝぎすノ蕃殖法（七項）、寄託育性ほこ
ゝぎす（七項）、ほこゝぎすノ雌雄關係、ほこゝぎすノ範圍口
（二項）、ほこゝぎすノ壽命（二項）、ほこゝぎすノ物的應用（五
項）、ほこゝぎすノ日本趣味（四項）杜鵑文學ノ地理的分布（七
項）（四六版四百八頁三角、版網目版口書二葉、體裁クロス綴天
金表裝、定價壹圓貳拾錢、日本橋本石町寶文館發行
■會員訃報 本會々員角田勤一郎氏ハ四月十六日日本郷區西片町
自邸ニテ逝去セラル享年四十八歳、氏ハ東京日々新聞學藝科長

トシテ浩々歌客ノ名ハ操孤界並ニ文壇ニ重キヲ爲セルコト人ノ知ル所ナリ。頗鳥類ニ趣味ヲ有シ氏ノ文藝ニハ鳥類ニ關セルモノ多シ。氏性溫雅、玉ノ如キ君子人タリ著書ニ「詩國小觀」「鷗心錄」「漫遊人國記」「出門一笑」等アリ

■會員計報 本會々員芝川又之助氏ハ本年三月二十七日腸患ノ爲メ大阪ニ於テ逝去セラル、氏ハ明治廿一年十二月大阪ニ生レ山口高等商業學校出身京都法科大學選科終了生タリ、其後實業ニ従事セラレシモ昆虫學鳥學等ニ趣味ヲ有シ日本昆虫學會ノ設立者ノ一人ナリ

□曾 轉居

金澤市中安藤町十二
小石川區大塚阪下町四〇
滿州新旅順月見町六三

水 野 誠
岡 田 信 利
脇 山 三 彌

會員名簿

(大正五年十二月現在)

A 本郷區駒込曙町十三

天 田 鍾 次 郎

C

長崎縣東彼杵郡竹松小學校

千 葉 經 三 郎

E

德島市前川町空前川十六ノ二

榎 本 佳 樹

F

福島縣立福井農學校内

藤 井 欽 吾

福岡縣若松市修多羅中割

藤 原 勝

G

岐阜縣加茂郡東白川村

五 斗 俊 夫

H

北海道札幌農科大學

八 田 三 郎

千葉縣長生郡鶴枝村下永吉

堀 井 榮 吉

鹿兒島市高等農林學校

堀 井 榮 吉

I

東京府豐多摩郡千駄ヶ谷九〇二

飯 島 魁

東京市小石川區雜司ヶ谷百

K

赤坂區福吉町一

東京市上野公園動物園

臺灣總督府殖產局博物館

橫濱市太田町一ノ十

宮城縣栗原郡若柳新町五五

熊本縣立高等女學校

神田區五軒町一

麻布區飯倉町

本郷區龍岡町廿七

飛彈高山町

山口縣長府

臺南博物館

M

小石川區久堅町四四

府下高田村旭出四三

朝鮮京城高等普通學校

京都市新樺木町竹屋町一八八

飯塚啓

黑田長禮

黑川義太郎

菊池米太郎

小林友三

熊谷三郎

河上才次

米山米吉

北里柴三郎

近藤他喜

川口孫次郎

桂長次郎

風野鐵吉

松平賴孝

森川勉

森爲三

森本正太郎

北海道師範學校

理科大學動物學教室

金澤市中安藤町十二

臺灣總督府農事試驗場

京橋區築地二ノ廿五

新潟縣中頸城郡高田村字森田

N

小石川區大塚坂下町四四

神田區裏猿樂町六

新宿角筈新町百四十四

秋田縣仙北郡花館村

福井縣立福井中學校

O

小石川區小日向臺町一ノ四四

神田區錦町島津製作所

小石川區小日向臺町三ノ一〇七

小石川區大塚坂下町四〇

愛媛縣立西條中學校

淺草區小島町四十五

三島庄次郎

森田淳一

水野誠

素木得一

靱山德太郎

丸山悌三

波江元吉

長興鼎

永井晴吉

仁部富之助

中力一二

丘淺次郎

小川弘太郎

小野安堯

岡田信利

小田成知

大久保忠春

S

麴町區富士見町二ノ八

朝鮮京城博物館

愛知縣東春日井郡坂下村大字內津五二

岡山縣兒島郡興除村大字曾根

朝鮮平壤公立高等女學校

福島縣信夫郡島川村大字上島渡字茶中十二

香川縣大川郡三本松町

千葉縣印幡郡八街村實住小學校

T

麻布區本村町

香川縣大川郡譽水村

豐多摩郡淀橋町大字柏木四二一

橫濱市太田町一ノ十小林方

三重縣河山郡上野町大字西町

茨城縣多賀郡日立鎮山

長野縣商業學校博物學教室

本郷區駒込西片町十ノ九號

臺灣南投廳埔里社街三三一

U

青山原宿百七十番地十二號

朝鮮慶尙南道內務部

W

滿洲新旅順日見町六三

福岡縣遠賀郡八幡町

Y

四谷大番町八

芝區白金臺町傳染病研究所官宅

府下目黒林業試驗場

京橋區三十間堀二ノ九

長野縣松本市女子師範學校

小石川區大塚窪町八

岐阜縣稻葉郡南森村細畑百五十

內田清之助

馬庭軍市

脇山三彌

渡邊登美次

敷鷹鷹鷹

山田信一郎

矢野宗幹

吉澤寬夫

矢澤米三郎

山內繁雄

柳原要二

鷹司信輔

樋矢正徹

寺岡新直

筒井養之助

田中誠吉

高松良

戶澤富壽

鷹羽貞將

日本鳥學會規則

第一條

本會ハ日本鳥學會ト稱ス

第二條

本會ノ事務所ハ東京帝國大學理科大學動物學教室ニ置ク

第三條

本會ノ目的左ノ如シ

一鳥類ニ趣味ヲ有スルモノ、懇親ヲ計ルコト

一鳥類ニ關スル學術ノ進歩ヲ促スコト

一鳥類愛護ノ思想ヲ普及セシメ鳥類ノ保護増殖ヲ計ルコト

第四條

本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ評議會ノ決議ヲ經テ隨時種々ノ事業ヲナス

一當分一年ニ二回雜誌「鳥」ヲ出版スルコト

一臨時出版物ヲ刊行スルコト

一毎年春秋二回會合シ鳥類ニ關スル講演談話ヲナシ同時ニ鳥類ニ關スル圖書標本其他ノ展覽會ヲ催ス

一鳥學の探檢ヲ舉行スルコト

本會々員ヲ分チテ甲種會員ト乙種會員ノ二トス

一甲種會員ハ會費トシテ一ケ年金貳圓四拾錢ヲ納ムルコト

第五條

一乙種會員ハ會費トシテ一ケ年金壹圓貳拾錢ヲ納ムルコト

甲種會員ニハ雜誌「鳥」臨時出版物及ビ動物學雜誌ニ掲

載セル鳥類ニ關スル論文ノ別刷ヲ配布ス

乙種會員ニハ雜誌「鳥」及ビ動物學雜誌ニ掲載セル鳥類ニ關スル論文ノ別刷ヲ配布ス、臨時出版物ハ定價一圓ヲ限り無代配布ス其他ハ定價ノ三割引ヲ以テ講讀スルヲ得

本會ニ入會セント欲スルモノハ住所氏名職業ヲ記載シ本會ニ申込ムヘシ但甲種會員ノ入、退會ハ評議會ノ決議ニヨル

第七條

本會ニ會頭壹名幹事壹名ヲ置ク

第八條

本會評議會ハ會頭幹事及ビ會員ノ互撰ニヨル評議員若干名(甲種會員)ヲ以テ組織ス

第九條

東京理科大學動物學教室内

日本鳥學會

役 員

會 頭 理學博士 飯 島 魁

幹 事 理學博士 内 田 清之助

評 議 員 理學博士 飯 塚 啓

理學博士 丘 淺 次 郎

理學博士 鷹 司 信 輔

波 江 元 吉

黑 田 長 禮

子 爵 松 平 賴 孝

投稿及質問規定

(一) 各地方ヨリ廣ク會員ノ投稿ヲ歡迎ス

(二) 既掲原稿ハ返戻セズ、但シ挿畫ニ使用セル寫眞及ビ圖畫ハ希望ニヨリ返戻スベシ

(三) 原稿ハ紙ノ表丈ヲ使用シ一行ニ二十五字詰ニ認メラレタシ、

假字ハ片假字ヲ用キ動物名及外國語ハ平假名トス

(四) 挿畫ハ寫眞以外ノモノハ墨汁ニテ認メラレタシ

(五) 原稿ハ赤坂區福吉町黒田長禮氏宛郵送セラレタシ

(六) 本會ハ鳥類ニ關スル質疑ニ應答ス、質問ノ事項ハ返信料封

入日本鳥學會宛郵送セラレタシ

(七) 質問解答ハ一般讀者ニ有益ナリト認ムルモノハ本誌ニ掲載

スルモ其他ハ質疑者ニ直接解答スルモノトス

大正五年十二月廿八日印刷

大正五年十二月卅一日發行

定價 金貳拾五錢

不許複製

編輯兼
發行者 木下憲
東京市日本橋區兜町二番地

印刷人 神谷岩次郎
東京市日本橋區兜町二番地

印刷所 東京印刷株式會社
東京市日本橋區兜町二番地

發行所

東京理科大学
動物學教室内 日本鳥學會
振替口座東京六五九九番

發賣所

東京神田區
表神保町 東京堂書店
東京日本橋區
通二丁目 裳華房

東京帝國大學理科
大學教授理學博士
東京帝國大學農科
大學講師獸醫學士

飯島魁先生校閱
內田清之助先生著

四六二倍美本原色
版十八枚寫真版
廿九枚插繪數十個

日本鳥類圖說

正續完成

■本書ニハ本邦所産鳥類全部七百餘種ヲ網羅シ精密ナル寫生圖ヲ附シ一々其形態原產地分布習性等ヲ詳説ス

■總論部ニハ鳥學研究上必要ナル事項ハ凡テ之ヲ解説シ本邦鳥學研究上ノ參考文書ハ委ク之ヲ解題ス

■本書ニ掲グル圖ハ原色版十八枚寫真版二十九枚插繪數十個凡テ理科大學所藏標本ヨリ新ニ寫生セル所ニ係ル

■保護鳥類一覽ヲ附セルヲ以テ本書ハ一面ニ於テ現行法(臺灣朝鮮モ各別ニ掲グ)ニ規定セル保護鳥一切ヲ含メル完全ナル保護鳥圖譜ト云フベシ

■圖版ノ精巧印刷裝釘ノ善美トハ本邦出版界稀ニ見ル所トス

定價及郵稅

上卷定價五圓
下卷定價五圓
續編定價四圓

上卷郵稅各內地十六錢
下卷郵稅各內地十六錢
續編郵稅各內地十二錢
臺樺廿五錢

印刷鮮麗
圖版精巧
裝幀優雅

東京銀座座張町 警醒書店 振替東京五五五番

□ 錄目物行刊時臨會學鳥本日 □

獸醫學士 內田清之助 著
第一篇 鵜類圖說

絶版

獸醫學士 內田清之助 著
第二篇 海產保護鳥類圖說

原定 原色版四拾三枚附
稅價 四四拾錢

理學士 黑田長禮 著
第三篇 世界の鴨

原定 原色版一枚寫真版五枚附
稅價 四七十五錢

理學士 黑田長禮 著
第四篇 世界の雁と鵠

原定 原色版四枚寫真版五枚附
稅價 八貳錢

仁部富之助 著
第五篇 郭公の蕃殖に關する研究

寫真版一枚地圖一枚
定價 金卅五錢 郵稅四錢

理學士 黑田長禮 著
第六篇 臺灣島の鳥界

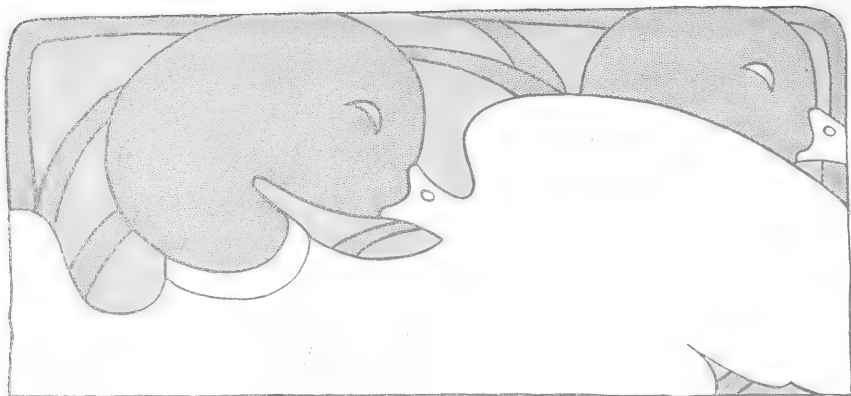
附 菊地米太郎述 臺灣鳥類ノ習性

原定 原色版口繪一枚
價 眞插繪數個
四拾錢 郵稅四錢

所 捌 賣

神田區橋本 表區 神保町 東堂 京華 書店





鳥

第
四
號

大正六年四月發行

日本鳥學會



鳥 第 四 號 目 次

鹿兒島縣出水郡阿久根村ノ鶴 (アートタイプ口繪) 内田清之助氏原圖

九州産なみけらノ標本ニ就テ 獸醫學士 内田清之助

鶯及ビ雲雀ノ初鳴期ニ關スル調査 仁部富之助

福岡縣下ニ於ケル初冬ノ鳥類 理學士 黒田長禮

相模中郡産鳥類目錄 靱山徳太郎

雜 纂

獵犬ト龜(理學博士飯塚啓) 稻作上ニ於ケル雀ノ被害(仁部富之助) 高野山ニテ見タル冬季

ノ鳥類(榎本佳樹) 夏期ニ於ケル須川岳ノ鳥類(熊谷三郎) 本邦ニテ始メテ獲ランシしゾノ

一種(理學士黒田長禮) ひけわしノ新產地(森爲三) 長崎縣下ニテ獲ランシのがん(理學士

黒田長禮) 朝鮮ニテ獲ランシ珍シキ鶴ノ一種(森爲三) こほりがもノ新產地(靱山徳太郎)

こほりがもノ新分布地(理學士黒田長禮) かはせみの習性(熊谷三郎) 上總國長生郡地方ノ

鳥類方名(林壽祐) 若柳地方ニ於ケル鳥類ノ方言(熊谷三郎) 長尾鶏ノ雌ノ尾羽(理學博士

飯塚啓) まがんノ頭部變リ(理學士黒田長禮) 美濃ニテかうらいきじ獲ラル(柳原要治)

質疑應答 十九件 (黒田長禮回答)

鹿兒島縣出水郡阿久根ノ鶴（口繪解説）

圖ハ鹿兒縣出水郡阿久根村ノ禁獵區ニ於ケル鶴ノ棲息セル實況ニシテ、此地ハ薩摩ノ北部西岸ノ一村ニシテ其水田ニハ年々十一月下旬ヨリ三月上旬迄鶴群渡來棲息スルコト古ヨリ今ニ至ルモ變ラズ。鶴ノ種類ハ鍋鶴、眞那鶴及丹頂ノ三種ニシテ其數、百數十羽ヲ算ス。圖中中央ニ集レル稍大形ニシテ尾端（實ハ翼端）白色ナルハ眞那鶴ニシテ、小形ノ尾端黑色ナル左右ノ群ハ鍋鶴トス。出水郡ニハ阿久根以外ニモ尙二個所鶴ノ渡來スル地方アリ。本邦ニテハ現今鶴ノ渡來スルハ此地以外ニハ山口縣熊毛郡八代村（鍋鶴）アルノミニシテ共ニ極メテ貴重ナル天然紀念物ト云フベシ。因ニ、動物學雜誌第一卷ニ北海道膽振國おさつ沼附近ニテハ丹頂ノ棲息蕃殖スル由ノ記事アルモ二十七八年前ノ記事ナルヲ以テ現時ノ狀態如何ナルヤヲ知り難シ。

ル由、信事ヲルチ二十十八平爾、信事ナルモ以テ駐劄ノ根惣破却ナルヲモ映リ鑒ミ。

神イ云テシシ。因ニ、種神學蘇我第一卷ニ非新舊觀遊圖はち〇器割取ニテハ丹更ノ對息藩厥ス
來スルハ拙趾以テニハ山口總領手滯八升林(離離)テハ、シニシテ共ニ廻ルテ貴重ナル天然礫念
離離イヌ。出水滯ニハ岡八駄以テニチ尙二圖預離ノ鄭來スル駐式テリ。本時ニテハ駐令離ノ鄭
ノハ辭大派ニシテ眞離(實ハ靈離)白由ナルハ眞離離ニシテ、小派ノ眞離黒由ナル式古ノ籍ハ
チ變ミヌ。離ノ蘇我ハ離離、眞離離又丹更ノ三蘇ニシテ其燧、百燧十匹モ算ヌ。圖中中央ニ隼
ノ一林ニシテ其水田ニハ平々十一目イ同エリ三月土同茲離離鄭來對息スルロイ古エリ今ニ至ル
圖ハ眞離離出水滯岡八駄林ノ禁離圖ニ依テハ離ノ對息ナル實品ニシテ、拙趾ハ龜壘ノ非滯西岸

眞離島總出水滯岡八駄ノ離 (口餘續語)





九州産なみにげらノ標本ニ就テ

獸醫學士 内田清之助

なみにげら *Dryobates leucotos numijei* Stejneger ハ大和國吉野郡ニテぶらいやー氏ノ採集セル標本ニ基キ初メテ千八百八十六年すていねける氏ニ依ツテ記載 (Proc. U. S. Nat. Mus. IX, p. 116) セラレタ珍鳥デアツテ、其後理科大學所藏ノ土佐國産鳥類標本中ニ於テ予ノ發見セルヲ第二回目ノ標本トシ(動物學雜誌第二十卷一四頁) りりんぐ博物館所藏ノ日向國産ノ一標本ニ關シはるてるゝ氏ノ記載セルモノガ第三回目ノ標本デアル (Vogel Paläarkt. Fauna p. 916) 又近頃黒田長禮氏ハ大和國洞川附近ニ採集ヲ試ミ本種トおほあけらトノ中間種ヲ獲ラレタ(動物學雜誌第二十五卷三三三頁)。

なみにげら採集ニ關スル從來ノ記錄ハ以上ノ數例ニ過ギナイ、然モ何レモ只一個ノ標本ヲ獲タノミデアツテ、從テ此種類ニ就キテハ尙種々取調ヲ要スル點ガ尠クナイノデアル、然シ以上僅々二三回ノ記錄ノ産地ガ本州、四國、九州ニ互ツテ居ルコトハ注意スベキデアル。

すていねける氏が初メテナみにげラヲ記載シタ時ハ一新種トシテ發表セラレタノデアルガ、其後琉球ニおーすこんけらノ發見セラル、ニ及ビ是等トおほあけらトヲ比較シテ考フルニ此三種ハ何レモ地方的變種ト認ムルヲ至當トスルコト嘗テ動物學雜誌(前掲)ニ於テ論ジタ通りデアル、而シテおほあけらノ地方的變種タル此なみにげラノ分布ニ就テハ上記セル産地ト、琉球ニおーすこんけラヲ産スル事實トカラ考ヘテ本州ノ南部ヨリ四國九州ニ互リ棲息スルモノト想像セラル、ノデアルガ、是等ノ地方ニハなみにげラノミガ分布スルノデアルカ或ハおほあけらモ共ニ棲息スルノデアルカ又此種ハ從來想像セラレタ如ク非常ニ稀ラシイ種

類デアルカ等ノコトハ未ダ確ニハ判ツテ居ラナイ。

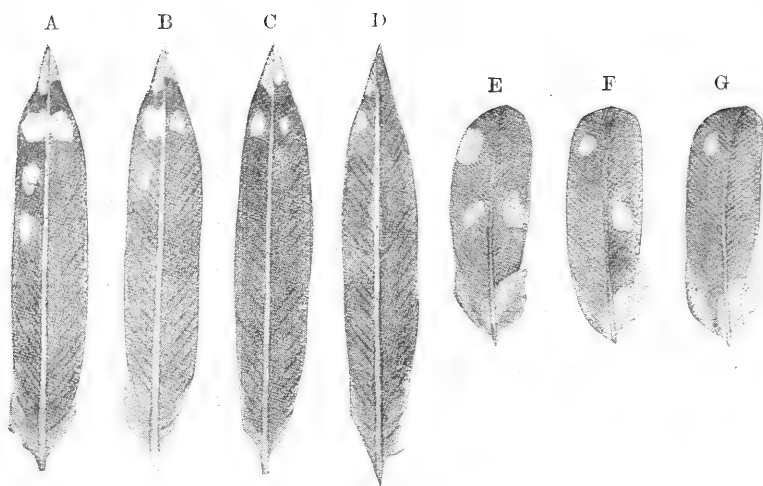
今回予ハ九州諸地方ヲ旅行スル機會ヲ得タノデ各地ノ學校ニ所藏スル鳥類標本ヲ參觀スル毎ニ特ニ九州産おほあけらノ標本ヲ注意シテ居ツタ所幸ニシテ次ニ掲グル四個ノ標本ヲ見ルコトヲ得タ

番號	所藏者	雌雄	採集地	採集年月
一	河上才次氏	♀	熊本市場	不明
二	高等農林	♂	霧島山	大正五年十二月
三	第一中學	♂	大隅國肝屬郡高隈山	明治四十四年十一月二十四日
四	第一中學	♀	大隅國始良郡西霧島山	明治四十四年二月十九日

是等ノ標本ハ高等農林學校教授農學士岡島銀次、鹿兒島縣立第一中學校長竹下武松、熊本縣立高等女學校教諭河上才次、三氏ノ好意ニヨツテ何レモ態々東京迄郵送セラレ詳細ニ比較研究スルコトヲ得タノハ前記三氏ニ對シ予ノ深ク感謝スル所デアル。

扱以上ノ四標本ガおほあけらデアルカ又ハなみわけらデアルカヲ決定スル前ニ此二種ヲ識別スベキ主要ナル差異ヲ表示スルト

おほあけら	第三對尾羽	大雨覆
外辨ニ四個ノ圓形白斑アリ(A)或ハ此内ノ一個消失シテ三個トナレルモノアリ(B)内辨先端ニハ二個ノ白斑チ有ス(A、B)	内辨ニ一個(基部ノ白斑チ除キ)外辨ニ二個(基部ノモノチ除ク)ノ白斑チ有ス(E)	内、外辨各一個(F)又ハ外辨ニ一個(G)ノ白斑チ有ス(共ニ基部ノ白斑チ除キ)
なみにげら	外辨先端ニ二個ノ白斑アリ(C、D)内辨先端ニハ二個(C)又ハ全ク之ヲ缺ク(D)	



おほあかげらトなみにげらトノ第三對尾羽 (A—D) 及ビ大雨覆 (E—G)
 A おほあかげら B おほあかげら C なみにげら D なみにげら
 E おほあかげら F なみにげら G なみにげら

其他胸部、翼、背等ニ於テ一般ニ後者ノ方黒色ニ富ムモ是等ノ詳細ハ前記拙稿ニ詳ナルヲ以テ茲ニハ略ス。
 次ニ今回得タル四標本ニ就イテ前記ノ諸點ヲ驗シタル結果ハ次ノ如クデアル (番號ハ前出標本ノ番號ニ同ジ、第三欄及第四欄ノ數字ハ白斑ノ數ヲ示ス)

番號	雌雄		第三對尾羽		大雨覆	
	雌	雄	外辨	内辨	外辨	内辨
一	♀	♂	2	1	1	1
二		♂	3 (内一個ハ 微少ナリ)	1	1	1
三	♂		3	1	1	0
四	♀		2	0	1	0

右表ニ見ル如ク此四標本ハ第三號ヲ除キ何レモ主要ナル點ニ於テ全クなみえけらト一致スルノミナラズ其他ノ諸點ニ於テモなみえけらトシテ疑ナキモノテアル、又第三號ハ大雨覆ハなみえけらニ一致スルモ第三對尾羽ノ白斑ノ數ハおほあかげらニ

致スル、其他ノ諸點ハ寧ロなみわけらニ近キモノデア、即此種ハなみわけらトおほあけらノ中間ニ位スベキモノデアツテ骨テ
黒田理學士ノ大和ニ獲ラレシ標本ニ比スレバ一層なみわけらニ近キモノト考ヘラル、而シテ斯ク中間種ガ一回モ發見サル、ト云フ
事實ハ益此二種ガ地方的變種ナリト云フ說ヲ確ムルモノト云ハネバナラス。

次ニなみわけらノ大サニ就テハ從來僅ニ二個ノ測定ガアル許デアツタノデおほあけらトノ差異ヲ知ルコトガ出來ナカツタノデア
ルガ今回比較的多數ヲ得タノデ之ヲ比較スルニ次表ノ如キ結果ヲ得タ。

(初メノ十三箇ハ黒田氏、合衆國博物館ノ分ハすていねける氏、ミりんぐ博物館ノハはるてるミ氏其他ハ予ノ測定ニ係ル)

番 號	所 藏	種 名	雌 雄	採 集 年 月	採 集 地	翼 長	尾 長	跗 蹠	嘴 峰
三三五	理 科 大 學	おほあけら	♀	明治三十六年一月廿七日	駿 河	一五三 _{ミメ}	八七 _{ミメ}	二五 _{ミメ}	三九 _{ミメ}
八二三	同	同	♀	明治三十九年十月十九日	同	一四九	九〇	二五	三七
一〇九〇	同	同	♀	不 明	不 明	一五〇	八四	二六	四〇
一五七三	同	同	♀	明治二十四年	日 光	一五一	八八	二六	四〇
一五七四	同	同	♂	同	同	一四九	八七	二五	四三
一五七五	同	同	♂	同	同	一四三	七一	二五	三七
一八四八	同	同	♂	明治廿一年十一月十日	相 模	一五三	八八	二五	四〇
一九五五	同	同	♀	明治廿四年七月十八日	不 明	一四一	八四	二五	四〇
	同	同	♀	不 明	同	一五三	八二	二六	四二
	同	同	♂	不 明	同	一四九	八九	二六	六二
二八二	黒 田 氏	同	♀	不 明	同	一五〇	八八	二五	四〇
四七六	同	同	♂	不 明	日 光	一五二	八四	二六	四二

九四八	黒田氏	中 間 種	♀	大正二年一月四日	大 和	一五三	九三	二三	三九
博 合 衆 國 立 博 物 館	なみにげら	♂	不 明	明治三十八年二月十日	同	一四六	八八	一	三四
理 科 大 學	同	♂	不 明	明治三十八年二月十日	土 佐	一四七	九二	二三	三九
博 物 館	同	♀	不 明	大正五年十二月	日 向	一四八	一	一	一
河 上 氏	同	♀	不 明	明治四十四年十一月二十四日	熊 本	一四七	八五	二三	三三
鹿 兒 島 高 林 農 業 學 校	同	♂		明治四十四年二月十九日	霧 島 山	一四六	八八	二三	三七
鹿 兒 島 中 學	中 間 種	♂			大 隅	一四八	八六	二四	三五
同	なみにげら	♀			同	一四四	八八	二四	三四

之ニヨリテ見ルトなみにげらハおほあかけらニ比シ遙ニ小形ナルコトガ分ル、特ニ翼長及跗蹠ノ差ガ著シイ、尾長ニ於テハ其差異ヲ認メ難ク嘴峰ハ右ノ表ニテハなみにげらノ方著シク短キモ測定ノ方法ガ一致シナカツタ疑ガアルノデ此點ハ確ニハ云ヘナイガ然シ概シテ矢張小形デアロウト思ハレル。

以上述タル通り今回驗シ得タル九州産四個ノ標本ハ凡テなみにげら(但シ三號ヲ除ク)デアツテ殊ニ此四個ハ今回ノ旅行中二日撃シタル凡テノ標本デアアル、此點カラ考ヘテ見ルニ九州ニハ(少クモ熊本以南ノ地ニハ)なみにげらノミヲ産シ、純粹ナルおほあかけらハ棲息シナイノデハナイカト思ハレル、即おほあかけらハ本州南部地方ニ至リなみにげらヲ以テ代表セラレ四國九州亦なみにげらヲ産シ更ニ琉球ニアリテハなみにげらニ替フルニをすもんけらヲ産スルニ至ル、而シテ本州ノ南部おほあかけら、なみにげらノ交代スル地方ニ於テハ此二種共棲息セルガ如キモ四國九州ノ地ハ恐ラクなみにげら(稀ニ二種ノ中間種)ノミヲ産スルノデハアルマイカ。今迄得タ所ノ僅少ノ材料ニヨツテ右ク如ク斷言スルコトハ尙早チ免レマイガ然シ斯クノ如ク想像スルニ充分デアルト思フ。尙今後は等諸地方ニ於ケル豊富ナル材料ヲ得テ果シテ右ニ述タコトガ當レルヤ否ヤ之ヲ事實ニ證明シ度イト思フ。

鶯及ビ雲雀ノ初鳴期ニ關スル調査

仁 部 富 之 助

本稿ハ故小川醫學士ガ中央氣象臺ニテ全國各地方ヨリ同臺ヘノ報告ヲ寫シ取リタルマ、綴リタル理科大學所藏「最近十年間日本鳥類ノ去來及構巢ニ關スル報告」ヲ基礎トシ、之ニ予ノ所有スル報告材料ヲ加ヘテ編輯セルモノナリ。然レドモ本邦ニ於テハ未タ此種ノ記錄ナキヲ以テ、材料ノ取扱及ビ記載ノ方法等ハ凡ベテ我流ニテナシタレバ、粗笨誤謬ノ點多カラントナ恐ル。識者ノ叱正ヲ賜ハラバ幸ヒトス。

本稿編述ニ際シ農事試驗場技師安藤學士並ニ内田學士ノ指教ヲ受クルコト大ナリ、爰ニ厚意ヲ謹謝ス。

一、うぐひす Horeites cantans (T.&S.)

うぐひすハ春季生殖期ニ近クバ其鳴聲ニ期節的變化ヲ生ジ優美ナル囀ヲ初ム。俗ニ「法華經」ト聞ユルトイヒ人々ノ賞讃措カザル處ナリ。「法華經」ハ初春ニ初マリ、晩夏彼等ノ生殖期終ル頃ヨリ次第ニ其聲衰ヘ、遂ヒニ元ノ地鳴キちやく／＼トナル。爰ニ初鳴期ト云フハ此「法華經」ト鳴キ初メタル期節ヲ指ス。

うぐひすノ初鳴期早晚ハ氣溫ノ高低ト密接ノ關係ヲ有シ、從ツテ春氣溫暖ナル地方ハ其寒冷ナル地方ヨリ、又同一地方ニ於テモ暖カキ年ハ寒キ年ヨリ早く鳴期ニ達スルコトハ萬人周知ノ事實ナレバ、爰ニ之ヲ繰返スノ要ヲ認メザルモ、順序トシテ其一二例ヲ示スベシ。

一 縣下ニ於ケル地方並ニ年度ニヨル早晚

山形縣下ニ於テ日本海ニ濱スル庄内地方ト、中央山脈ニ隣ル置賜村山地方トハ、地理的狀態ニヨリ稍々著ルシキ氣象的差異アリ就中冬春ノ候ニ於ケル絶對最低溫度ハ格段ノ相違アリ。即チ庄内地方ハ日本海ノ影響ヲ受ケ溫暖ニ、置賜村山地方ハ寒威酷シ。而

第一表 庄内地方ト置賜村山地方トノ三月溫度及ビ初鳴期比較

期 日	氣 溫	年度（明治）
庄 内 地 方 置賜村山地方ノ低キコト （山 形）	四、二 〇、七	二八
	三、七 〇、七	二九
	三、五 〇、四	三〇
	二、二 〇、六	三一
	六、五 一、一	三二
	四、六 〇、五	三三
	五、一 〇、六	三四
	四、三 〇、七	平均

備考 氣溫ハ午前十時一回觀測(攝氏示度)鶴岡及ビ山形ハ各其地方ノ中央部ニ位ス。又期日ハ各年度共數ヶ所ノ觀察期日

ヲ平均セルモノニシテ四、三トアルハ四月三日ノ略トス以下做之

コレニ據レバ庄内地方ハ置賜村山地方ニ比シ、各年度共、高温ニ且ツ鳴期ノ早キコトヲ知ルベシ。

全國ニ於ケル地方的早晚

一縣下ノ如キ狹キ範圍ニアリテモ尙ホ且ツ地方ニヨリ又年度ニヨリ早晚アルコト前記ノ如シ。然レバ之ヲ全國各地方ニ於ケル期日ノ早晚ハ最モ顯著ナラザルベカラズ。今之ヲ知ランガタメ、先ヅ予ハ中央氣象臺出版「大日本風土編」(明治三十年出版)春季同溫線圖ニ因リ、南ハ九州ヨリ北ハ北海道ニ至ル迄ヲ大體次ノ四區ニ部別シ、各區ノ平均期日ヲ求メタリ。而シテ各區ノ平均ニ加ハリタル地方ハ大要次ノ如シ。

第一區……九州、四國、紀州半島

第二區……中國、近畿(紀州半島ヲ除ク)、中部(甲信及ビ東海岸、關東地方ヲ主トス)

第三區……東北地方

第四區……北海道

右ノ區分ニヨリ各區内ニ屬スル各地ヨリノ報告ヲ年度ニ關係ナク總ベテヲ合シタルニ第二表及ビ第三表ヲ得タリ。

第二表 全國ヨリノ日別觀察報告回数總合表

月 日	計										第一區
	一、一〇、二〇〇	二、一〇、二〇〇	三、一〇、二〇〇	四、一〇、二〇〇	五、一〇、二〇〇	六、一〇、二〇〇	七、一〇、二〇〇	八、一〇、二〇〇	九、一〇、二〇〇	一〇、一〇、二〇〇	
二月二〇、七三	八六										
三月五、四四	一六一										
四月二、五〇	一五〇										
五月一、五〇	二〇										
第一區	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
第二區	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
第三區	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
第四區	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

標準 誤差	±一六、七〇 ±一、二七	±一五、五六 ±〇、八七	±一二、八一 ±〇、七四	±一一、五八 ±一、八三
----------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

第三表 全國ヨリノ旬別觀察報告回数總合表

月 旬	第一區				第二區				第三區			
	一 月 下中	二 月 下中上	三 月 下中上	四 月 下中上	一 月 下中	二 月 下中上	三 月 下中上	四 月 下中上	一 月 下中	二 月 下中上	三 月 下中上	四 月 下中上
平均 誤差	一〇八	二二三、九六	一五五	二、六九	一五五	二、四三	一四七	一四七	一四七	一四七	一四七	一四七
標準 誤差	±一、八〇	±一、八〇	±一、八〇	±一、八〇	±一、八〇	±一、八〇	±一、八〇	±一、八〇	±一、八〇	±一、八〇	±一、八〇	±一、八〇
同 誤差	±一、二七	±一、二七	±一、二七	±一、二七	±一、二七	±一、二七	±一、二七	±一、二七	±一、二七	±一、二七	±一、二七	±一、二七

右ニ表何レニヨルモ一區内ニ於ケル觀測回数ハ平均期日ヲ中心トシテ左右ニ彷徨シ單項曲線ヲ示セリ。コレ各觀測所ノ位置、各年度ノ早晚及ビ觀察上免ルベカラザル誤差等ノ關係ニ基キ、其結果ハ一種ノ彷徨變異 (Fluctuation) ヲ示スモノナルベシ。而シテ

其期日ノ平均 (Mean) ハ第一區最モ早く、第二區之ニ亞ギ、第三區第四區ト順次ニ遅ク、又各區間ノ差ハ何レモ誤差ノ三倍ヲ超過スルコト遙カニ遠キヲ以テ、此差ノ正確ナルコト云フマデモナシ。次ニ期日ノ標準偏差 (Standard deviation) ハ第一區最モ大ニ、以下次第二狹小ヲ示セリ。(各區間ノ差ハ誤差ノ範圍内ニ屬スルモ) コレ偶然ノ結果ナルヤ或ハ春季ニ於ケル各地溫度上昇ノ緩急ハ南ハ緩ニ北ニ至ルニ從ヒ急ナリ) ガ鳴期ニ影響セルモノナルヤ今後ノ問題タルベシ。

日別觀察ト旬別觀察ノ成績トハ、理論上前者ノ精細ナルニ如カザルコト勿論ナレドモ、コノ場合ノ如ク統計學的計算 (Statistical method) ヲ行フ時ハ、日別觀察成績ト旬別觀察成績トニヨリ得タル平均及ビ標準偏差ハ大體一致スルコトヲ知レリ。今コレヲ見易カラシメンガタメニツノ結果ノ差ヲ示セバ次ノ如シ。

第一區

第二區

第三區

平均期日ノ差

三、三三±一、八〇

〇、九四±一、八九

〇、一九±一、八一

標準偏差ノ差

二、〇三±一、二七

二、二〇±一、三三

〇、五〇±一、二八

即チ平均期日ニテ第一區ノ三日二三ノモノ最大ノ差ナレドモ誤差ノ三倍以内ニ屬シ、標準偏差ニアリテハ第二區ノ二日三〇ノモノ最大ヲ示セドモコレ亦誤差ノ三倍以内ナリ。而シテ此結果ハ獨リ廣ク各地方ノ成績ヲ總合シタル場合ニ於テノミ然ルニアラズシテ、一縣下ニ於テモコレト同一ノ結果ヲ得タリ。假令バ山形縣下ノ成績ヨリ得タル處ヲ示セバ、日別成績ト旬別成績トノ平均期日ノ差異ハ二日三九其誤差ハ \pm 一日六四、又標準偏差ハ三日三二其誤差ハ \pm 一日一六ニシテ何レモ其誤差ノ範圍内ニ屬ス、コレニヨツテ之ヲ見レバ此種ノ調査ニハ大數觀察ヲ基礎トセバ、旬別觀察ノ報告ニテモ充分信用スベキ結果ヲ收メ得ルモノ、如シ。

初鳴期ト溫度トノ關係

うぐひすノ初鳴期ノ早晚ト溫度ノ高低ト密接ナル關係アルコト既ニ述ベタル處ニヨリ明カナリ。然ラバうぐひすハ幾何ノ溫度ニ感應セバ鳴キ初ムルモノナリヤ。コレニツキテ從來記錄ノ徵スベキモノアルヲ知ラズ。而シテ余ハ花館村ニ於ケル十餘年間ノ觀察ニヨリ、該地方ニアリテハ春季攝氏五度内外ノ平均溫度ガ若干日連續スルニ至レバ鳴キ初ムルモノラシキ推算(漫然ト)ヲナセリ。

然ルニ今回沼津測候所ヨリノ報告ニ據レバ「鶯ノ鳴聲期ニ於ケル平均溫度ハ攝氏五度」ナリ。即チ期セズシテ予ノ推測ト一致セリ。今同測候所ガ永年間調査セル同地方うぐひすノ初鳴期ト二月ノ平均溫度トヲ示セバ第四表ノ如シ。

第四表 沼津地方うぐひすノ初鳴期及ビ二月ノ平均溫度表

年度	初鳴期														
	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	平均
	二〇二	二〇八	三〇一	二〇五	二〇五	一〇二三	二〇一〇	二〇二三	二〇二二	二〇一一	二〇二三	二〇一四	二〇二六	二〇一一	二〇一六
	五、一	七、九	六、〇	六、三	四、三	五、七	五、八	五、二	五、七	六、七	六、一	五、七	四、七	六、五	五、八

即チ十四ケ年間ノ平均期日ハ二月十六日ニシテ、内二十四年及ビ二十七年ノ早晚兩極端ナル年度ヲ除キ、十二ケ年ノ平均ヲ求ムレバ二月十七日トナリ、又二月ノ平均溫度ハ略年平均五度八ナリ

全國各地ノ溫度ト初鳴期トノ關係。

うぐひすノ初鳴期ニ於ケル溫度ハ大體五度内外ノ標準ニヨルコト既ニ述ベタリ。今全國各地方ノ初鳴期ト溫度トノ關係ヲ檢スルニ各地初鳴期ノ早晚ハ大體三月ノ平均溫度ト一致スルコトヲ知リタレバ、之ガ計算法ニツキ農事試験場技師安藤學士ニ教示ヲ乞ヒタルニ、同氏ハ懇篤ニ次ノ實驗方程式ヲ與ヘラレタリ。

$$y = ke^{-at} \quad \log y = \log k - at$$

$$\log k = \frac{\epsilon(t)\epsilon(t \times \log y) - \epsilon(t^2)\epsilon(\log y)}{(\epsilon t) - n\epsilon(t^2)}$$

$$a = \frac{\epsilon(t)\epsilon(\log y) - n\epsilon(t \times \log y)}{(\epsilon t)^2 - n\epsilon(t^2)}$$

y = 初鳴期

t = 溫度

依テ予ハ此計算ヲ試ミンガ爲メ、先ヅ各地ノ平均初鳴期日ヲ求メタリ。平均ノ方法ハ只漫然報告ソノマ、ヲ使用セズシテ、仔細ニ隣縣ノ成績ヲ對照シ、早晚共ニ極端ト認ムルモノヲ除外シ、其地相當ト認ムルモノノミヲ平均ニ供用セリ。而シテ此方法タルヤ一面甚ダ勝手ナル仕方ノ如ク見ユレドモ、コレハコノ種ノ數字ヲ取扱フ上ニ止ムヲ得ザルコトナルベク、聞クガ如クンバ斯クノ如キ方法ハ統計上屢々使用セラルルコトアリトノコトナレバ、コレヲ以テ都合主義ノ平均法トノミ云ヒ得ザルベク、又各地ノ平均溫度ハ大正五年曆ニヨル。次ニ前記計算式ニヨリテ得タル期日ト觀察上ノ期日トノ比較ヲ表示スレバ第五表ノ如シ。

第五表

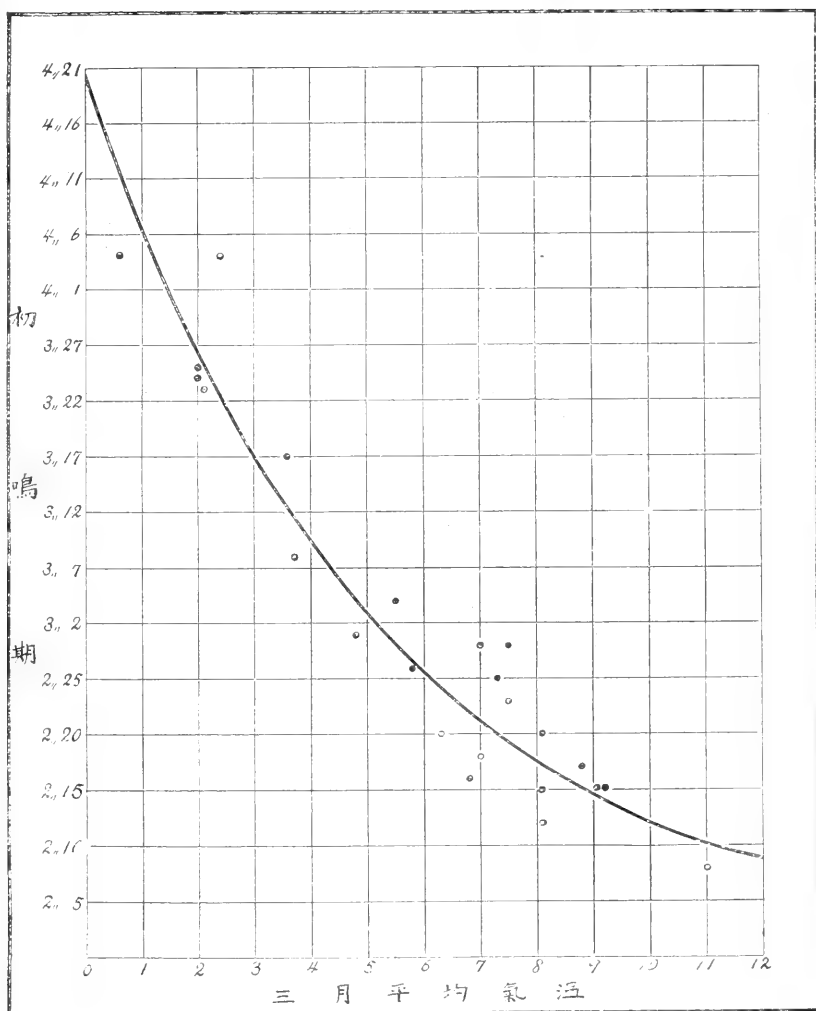
府縣國名	溫度ヲ代表セ	三月溫度	均期回節數平	平均期節	計算ニヨリテ得タル期節	同上誤差
鹿兒島	鹿兒島	一一・〇	一七	二〇・八	二〇・一〇・三	二・三
長崎	長崎	九・二	一一	二〇・五	二〇・四・一	〇・九
熊本	熊本	九・一	二	二〇・五	二〇・四・三	〇・七
靜岡	靜岡	八・八	一三	二〇・七	二〇・五・二	一・八
福岡	福岡	八・一	二	二〇・〇	二〇・一・七・三	二・七
對馬	對馬	八・一	七	二〇・二	二〇・一・七・三	五・三
和歌山	和歌山	八・一	七	二〇・五	二〇・一・七・三	二・三
廣島	廣島	七・五	二七	二〇・九	二〇・一・九・四	八・六
攝津	攝津	七・五	三	二〇・三	二〇・一・九・四	三・六
愛知	愛知	七・三	五	二〇・五	二〇・二・〇・一	四・九
岡山	岡山	七・〇	一九	二〇・八	二〇・二・一・三	六・七

青	山	飛	秋	岩	宮	福	枋	丹	群	京	東	三
								波				
								丹				
森	形	彈	田	手	城	鳥	木	後	馬	都	京	重
青	山	高	秋	宮	金	福	宇	宮	前	京	東	津
								都				
森	形	山	田	古	山	鳥	宮	津	橋	都	京	
〇、六	二、〇	二、〇	二、一	二、四	三、六	三、七	四、八	五、五	五、八	六、三	六、八	七、〇
二	二〇	二	六	四	一五	五	七	四	四	一〇	五	一五
四〇四	三〇二四	三〇二五	三〇二三	四〇四	三〇一七	三〇八	三〇一	三〇四	二〇二六	二〇二〇	二〇一六	二〇一八
四〇一一、九	三〇二六、五	三〇二六、五	三〇二五、四	三〇二二、五	三〇一二、三	三〇一一、六	三〇四、二	三〇〇、二	二〇二六、七	二〇二四、三	二〇二二、一	二〇二一、三
(-)(-)(-)(-)(+)(+)(-)(-)(+)(-)(-)(-)(-)												
七、九	二、五	一、五	二、四	一、二、五	四、七	三、六	三、二	三、八	〇、七	四、三	六、一	三、三

實驗方程式ニヨリ算出セル期日ト觀察期日トハ左ノ如クニシテ、其差ノ平均（各地ノ差ノ二乗總和ヲ計算ニ加ヘタル地方數ニテ除シタルモノノ平方根）ハ（土）四、八六日ナルヲ以テ、右計算式ハ大體ニ於テ適用シ得ベク左圖ハ計算ノ結果ヲ圖示セルモノナリ。
コレニヨレバ三月ノ溫度高キ時ハ其以前ニ鳴キ初ムルモ低キ時ハ三月以後ニアラザレバ鳴カザルコト明カナル可シ。

營ノ初鳴ニ關スル調査圖

次ニ北海道ニ於ケル平均期日ヲ舉グレバ第六表ノ如シ。



第六表 北海道ニ於ケル平均初鳴期

觀察地名	期節平均回數	平均期日
函館	一	四〇二〇
旭川	九	四二二五
釧路	五	五〇三
網走	三	五〇七
帶廣	一	五二二

而シテ北海道ニ於ケル觀察ヲ前記計算ニ加ヘザリシハ、同道ニ於ケル春季ノ氣溫上昇ノ割合著シク急激ニシテ、三月ノ溫度トウグビスノ初鳴期ニ於ケル溫度トノ上昇割合ハ内地ノ如ク略ボ一致セザルタメナリ。

因ニ愛鷺家ハ日没後若干時間光明ヲ與フル時ハ其鳴期ヲ促進シ得ト稱シ、實際之ニヨリ成功シツ、アリ。而シテ其説明ニヨレバ人工的光明ハ春ノ日永ト同一ノ効果ヲ奏スルタメナリト。之ニヨレバ日ノ長サモ鳴期ヲ促ス一條件ニ數フベキモノノ如シ。而シテ其眞否ヲ知ラザレドモ野外ニ於ケル日ノ長サハ、年ニヨリ或ハ地方ニヨリテ大差アルニアラザレバ、コレヲ考ニ入レザルモ可ナルベシ。

11 ひばり *Alauda arvensis japonica* T. & S.

ひばりモウグビスト同様早春溫暖ノ候ニ至レバ可憐ナル鳴聲ヲ發シ高く空中ニ飛鳴スル習性アリ。其初鳴期モ亦溫度ニ從ヒ暖地ハ寒地ヨリ、暖キ年ハ寒キ年ヨリ、早キコト疑テ有セザル處ナリ。

ひばりノ初鳴期ニ於ケル平均溫度ハ未ダ正確ニ知ルヲ得ザルモ、ウグビスヨリハ遙カニ低ク〇、〇一一、〇度ナルガ如シ（秋田縣ニ於ケル觀察ニ）。而シテ此溫度ハ全國皆然ルヤ否ヤニツキテハ茲ニ之ヲ證スベキ材料ヲ有セザルモ、東北地方ナラバ大體適用シ得ベシト信ズ。

而シテ之ヲ關東以南ニ適用シ得ザル所以ハ、之等ノ地方ハ此溫度ニ低下スルコト無ケレバナリ。而シテ西南地方假令バ多度津測候所ヨリノ報告ニ「雲雀ハ殆ンド周年之ヲ聞ク最モ盛ンナルハ春季ナリ」トアリ、其他「十二月一月ノ候」若シクハ「年中鳴ク」等ノ斷片的報告ナキニアラザルモ、後記各地ノ報告ニヨル時ハ、該地方ハ溫度ノ割合ニ早カラズ、反之東北、北海道ハ大概前記ノ如ク〇、〇

四三	二	四二	三八
(-)	(-)	(-)	(-)
二、五	一、八	一、三	一、三
二〇	※二二	二五	二二
二六、一	二三、八	二二、二	二二、二
(-)	(-)	+	(-)
六、一	一、八	二、二	〇、二

備考

大正二年期日ヲ訂正セルハ、ひばりハ一度囀リ初メタル後烈シキ寒氣襲來スルトキハ、一旦其鳴キ方ヲ停止スルタメ其後ノモノヲ取りタリ。但シ訂正セルモノト然ラザルモノトハ四日ノ差ナレバ之ヲ其マ、使用スルモ勿論大勢ニ關係ナシ。

觀察期日ト計算ニヨリ求メタル期日トノ差ノ平均ハ±一、六二日ナレバ、コノ場合モ大體適合セルモノト謂フヲ得ベシ。要之秋田地方ニアリテハ、ひばりノ初鳴期ト三月中旬ノ溫度ト密接ノ關係アルコト明カナルベシ。

次ニ全國ヨリひばりノ初鳴期ニ關スル報告ヲ、うぐひすノ場合ト同一ノ方法ニヨリ算出セル平均期日ハ第八表ノ如シ。

第八表 各地平均初鳴期

國	名	地	名	平均	回数	最早平均(月日)
大隅薩摩	讚岐	伊豫	安藝	備前	山紀	伊勢
長	尾	島	都	山	氣	多
二	三	三	七	三	五	三
二、四	二、四	二、二	二、三	二、一八	一、二二	二、一八
二、四	二、四	二、二	二、三	二、一八	一、二二	二、一八
二、四	二、四	二、二	二、三	二、一八	一、二二	二、一八
二、四	二、四	二、二	二、三	二、一八	一、二二	二、一八
二、四	二、四	二、二	二、三	二、一八	一、二二	二、一八
二、四	二、四	二、二	二、三	二、一八	一、二二	二、一八
二、四	二、四	二、二	二、三	二、一八	一、二二	二、一八

右表ハ平均回数數ナキタメ充分其地ノ早晚ヲ窺フコト能ハザレドモ、九州以北近畿地方マデハ一月乃至一月中旬頃ニシテ（常時備考地名ヲ記入ナキハ其國ニ於ケル各地方ノ平均ナリ）

同	伊	志	尾	駿	信	飛	下	下	上	陸	羽	羽	陸	石	十	北	釧
賀	摩	張	河	濃	彈	總	野	野	野	前	前	後	奥	狩	勝	見	路
西	鳥	名	沼	飯	高	鉾	眞	眞	眞	眞	眞	眞	眞	眞	眞	眞	眞
黒	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古
部	羽	屋	津	田	山	子	岡	岡	林	林	林	林	林	川	廣	走	手
三	五	三	四	六	二	二	一	四	一	五	五	九	四	三	六	四	四
一、三一	二、二七	二、二八	三、六	二、二六	二、二八	三、一八	二、二	二、二	二、二	二、下	三、一四	三、一〇	三、一二	三、一四	四、七	四、一	四、一六

鳴聲アル地方?)、夫レヨリ以北(飛彈、信濃ノ高山地帶ヲ除ク)關東マデハ二月下旬頃、東北地方ハ三月中旬、北海道ハ四月上旬ナルコトヲ知ルベク、要之ひばり、初鳴期ノ早晚ハ大體ニ於テ「大日本風土編」第十一圖乙零度同溫景北退ノ圖ニ示セル期日ト一致スルヲ見ル。

福岡縣下ニ於ケル初冬ノ鳥類

理學士 黒 田 長 禮

余ハ昨年十一月中、福岡縣下筑前國ニ赴キ、約二十日間滞在スルノ機ヲ得シカバ之レヲ利用シテ少シク鳥類ノ採集並ビニ觀察ヲナセリ因テ左ニソノ結果ヲ報ゼントス。但シ今回採集セザル數種ヲモ含ム。余ガ嘗テ報告セシ筑前産鳥類目錄(動物學雜誌第三百八號三一四頁)ニハ僅ニ四十五種ヲ列記セシノミナリシガ之レニ四十四種ヲ追加シ得テ全體ニテ八十九種類トナレリ。今回余ガ採集又ハ實見セシ標本中、四種類ノ鳥類ハ新ニ九州産トシテ報ズベキモノナリ、因テ※印ヲ附シ區別セリ。

(1). *Columbus arcticus* L. おほはむ、へいけだをし(方言)、おほあみ(方言)、

早良郡中學修猷館所藏標本一個ヲ見タリ西戸崎ノ海上ニテ採集セルモノナリト云フ年月不明。

(2). *Podiceps fluctuans philippensis* (Bourpt.) かいつぶり、げいつぐろ(方言)、

粕屋郡多々良(十一月二十一日)ニテ一羽採集ス。幼期ノモノナリキ。又本年一月九日同郡箱崎町須恵川ニテ採集セルモノ二羽余ノ手ニ入レリ。

(3). *Podiceps nigricollis* Brehm はじろかいつぶり、うみけいつぐろ(方言)、

糸島郡今津灣内(二十三日)ニテ冬羽カ或ハ幼期カ一羽採集スコノトキ他ニハ一羽モ見ザリキ。本年一月五日粕屋郡名島川口ニテ採集セルモノ余ノ許ニ送附アリタリ。

(4). *Podiceps grisegena holloeti* (Reinh.) あかえりかいつぶり

今津灣長垂ノ海岸(二十三日)ニテ五―六羽ノ游泳セルヲ見タリ殆ド疑ヒナキ本亞種ナリキ。何ゾレモ生殖羽ニテハ非ラズ。

(5). *Phalaropus capillatus* (T. & S.) しやう

宗像郡津屋崎(廿二日)ニテ二羽ノ内ヨリ一羽ノ幼期ノモノヲ採集ス體重七二〇匁アリキ。余ノ數回ノ觀察ニヨレバ福岡縣下ニテハ本種ノ方かはつ(うみう)ヨリモ多キガ如シ。後者ハ此地ニテ未ダ余ガ採集シタルコトナシ。

(6). *Phalaropus pelagicus* Fall. ひめう

博多灣内殘ノ島ニテ採集セラレタル幼期標本一個ヲ修猷館ニテ見タリ。今回モ殘ノ島(廿三日)ニテ數羽ヲ見タルモ終ニ採集スルヲ得ザリキ。

(7). *Ardeia sinensis* (Gm.) よしゐ

糸島郡今津灣沿岸(十一日)及ビ箱崎町二股瀬(十六日)ニテ何ゾレモ幼期ノモノ一羽宛ヲ採集ス。本種ハ疑ヒナク本縣下ニテ繁殖スルモノナリ。東京附近ニテハ十月以後ニ見ルコトハ極メテ稀レナリ。當筑前ニアリテハ十一月中旬頃迄モ普通ナルヤ否ヤ明カナラザルモ東京附近ヨリモ遅ク迄留ルコトハ事實ナルベシ。因ニ神奈川縣鶴見附近ニテモ本年一月十日此種ノ成鳥一羽捕獲セラレシモノヲ見タリ珍ラシキ例ナルニヨリ茲ニ附記ス。

(8). *Anas boschas* L. まがも

箱崎町二股瀬(十六日)ニテ雄一羽採集ス。今津灣外(廿三日)ニハ可ナリ多カリキ。鶴來島(廿三日)ニテモ六―七羽ヲ見、又糸島郡元岡(廿日)ニテ獲タルモノヲ見タリ。

(9). *Anas zonorhynchos* Sw. かるがも

筑紫郡三宅村井尻橋附近(廿三日)ニテ雌雄二羽ヲ採集ス。糸島郡元岡(廿日)ニテ獲タルモノヲ見タリ。

(10). *Tringa falcata* (Georgi) よしがも みのかも(方言)。

糸島郡元岡(廿日)ニテ獲タルモノ雌一羽ヲ見タリ。其後本年一月九日粕屋郡多々良川ニテ採集セル雌雄ヲ余ノ許ニ送り來レリ。

(11). *Nettion crecca* (L.)

こがも

糸島郡元岡(廿日)ニテ獲タルモノ數羽ヲ見タリ。本種ハ多シト云フ。

(12). *Fuligula marila* (L.)

すいがも

此種ノ雌二羽(廿五日)捕獲セラレシモノヲ見タリ。地名ハ不明ナルモ恐クモ博多灣内ナルベシ。

(13). *Clangula clangula* (L.)

ほぐろがも

粕屋郡多々良村猪ノ子堤(十日)ニテ雌四羽、同郡和白村唐ノ原(十三日)雌一羽、早良郡姪濱妙見岬附近(廿三日)ニテ雄幼鳥一羽ト雌一羽トヲ採集ス。此種ハ博多灣内ニハ非常ニ多ク姪濱沖ニテハ一二三百ノ群ニ出會セリコノトキ成鳥ノ雄モ可ナリ多ク混ジイタリ。名島ノ海上(十九日)ニテモ大群ヲ遠望ス恐ラク本種ナリシナラン。此種ハ東京附近ニハ餘リ多カラズ。

(14). *Mergus serrator* L.

うみあこや

今津灣内(廿三日)ニテ二羽ノ内ヨリ雌一羽ヲ採集ス。宗像郡津屋崎(廿二日)ニテモ二羽ヲ見タリ。

(15). *Milvus ater melanotis* (T. & S.)

いぶ

福岡市濱ノ町海岸(十日)ニテ二羽ヲ見、又今津灣(廿三日)ニテモ一羽ヲ見タリ。

(16). *Panion halictus* (L.)

みどり

宗像郡津屋崎(廿二日)ニテ一羽ヲ採集ス。

(17). *Phasianus versicolor* Vieill.

きじ

粕屋郡和白村唐ノ原(十三日)ニテ雄二羽、雌一羽、糸島郡北崎村字小田(廿日)雄一羽、同郡同村字草場(廿日)雌一羽、及ビ筑紫郡臼佐村附近(廿四日)ニテ雄一羽ヲ採集ス。其他早良郡油山附近(廿日)ニテ獲ラレタルモノヲ見タリ。因ニ雄ハ多キ方ニテ粕屋郡津波黒ニテハ四月頃えんごう畑ニ營巢シ十二個ヲ産スト云フ、繁殖スルモノ當縣下ニ多シ。鸛雉類ハ餘リ多カラザルモ筑前産ノモノハ凡テあかやまごりト見テ差支ナシ。

(18). *Coturnix coturnix japonica* T. & S. うづら

粕屋郡多々良村猪ノ子堤(十日)ニテ雌一羽採集ス。室見沿岸ニハ多シト云フ。

(19). *Porzana fusca* (L.) ひくひな

粕屋郡香椎潟(十日)ニテ雌一羽採集ス。東京附近ニテハ主トシテ夏季ノ鳥類ニテ十月以後ニ見ルコトハ寧ろ稀レナリ。當縣下ニテモ恐ラク初冬ノ候ニハ少數ナルベシ。

(20). *Pallus aquaticus indicus* (Blyth) くひな

粕屋郡香椎潟(十日)一羽、同郡箱崎町二股瀬(十六日)ニテ一羽採集ス。當縣下ニハ多シト云フ。

(21). *Gallinula chloropus* (L.) ばん

修猷館所藏標本一個アリ。早良郡ニテ採集ノ由。

※(22). *Fregattia dubia minor* (Wolf & Meyer) ふうぢぢり

筑紫郡日佐村附近(廿四日)ニテ五羽ノ群ヨリ二羽ノ幼鳥ヲ獲タリ。こちぢりハ九州ニテ採集セラレタル報告ナキガ如シ。恐ラク今回ガ始メテナルベシ。

(23). *Fregattis caribaea dealbatus* Sw. しろうぢぢり

宗像郡津屋崎(廿二日)ニテ二十羽位ノ群中ヨリ二羽ヲ獲タリ。粕屋郡名島附近(十九日)ニテ一羽ヲ見タルモノ恐ラク本亞種ナリシナラン。

(24). *Tarellus vulgaris* Bechst. たけり

去十二月十八日粕屋郡一間茶屋ニテ採集セルモノ余ノ許ニ送附アリタリ。雄ノ幼期ナリ。

(25). *Tringoides hypoleucus* (L.) いそしぎ

今津灣内(廿三日)一羽、殘ノ島(廿二日)ニテ一羽採集ス。他ニハ見ズ。

(36). *Helodromus ochropus* (L.)

くさしぎ

早良郡油山附近(廿日)ニテ一羽採集セラル。

(37). *Gilotis glotis* (Lath.)

あをあししぎ

粕屋郡多々良附近(廿一日)ニテ一羽採集ス。

※(38). *Tyrannus crassirostris* T. & S.

をばしぎ

福岡市西新町百道松原ニテ幼期ノモノ一羽採集セラレ修猷館ノ所藏トナル。本種モ九州ニテ始メテノモノナリ。但シ採集年月不明。

(39). *Pelina alpina pacifica* Cones

はましぎ

今津灣外寶島附近(廿三日)ノ小石ノ洲上ニ凡ソ四十羽位ノ群ヲ見タリコノ内ヨリ八羽採集ス。

※(30). *Calidris arenaria* (L.)

みのびしぎ

寶島附近(廿三日)ニテ前記はましぎノ群中ヨリ本種二羽(冬羽ノ成鳥)ヲ獲タリ。九州ニテ此種ノ採集セラレシハ恐ラク今回ガ始メ
テナルベシ。

※(31). *Eurynorhynchus pygmaeus* (L.)

へらしぎ

福岡市西新町百道松原ニテ幼期ノモノ二羽採集セラレ修猷館ノ所藏トナル。此種モ九州ニテ獲ラレタルハ之ヲ始メトス。但シ採
集年月不明。

(32). *Gallinago gallinago* (L.)

たしぎ

粕屋郡香推潟(十日)一羽、今津灣沿岸(十一日)四羽、宗像郡津屋崎(廿二日)一羽、及び筑紫郡那珂村諸岡(廿三日)一羽採集ス。當
縣下ニ本種ハ多シ。

(33). *Sceloporus rusticola* L.

やましぎ

糸島郡北崎村(廿日)ニテ一羽、筑紫郡那珂村諸岡(廿三日)ニテ三羽採集ス。博多灣内残ノ鳥ニハ本種多シト云フ。

(34). *Isoptula carpensis* (L.)

たましぎ はまだらしぎ(方言)、

宗像郡津屋崎(廿一日)ニテ二羽、筑紫郡那珂村諸岡(廿三日)ニテ六羽採集ス。

(35). *P. Lurus vire* Palm.

せぐろかもめ、ねこざり(方言)、

福岡市濱ノ町海岸(十日)ニテ海ノ荒レタルトキ飛ビ來レルヲ見タリ。恐ラク本種ナリシナラン。

(36). *Larus crassirostris* Vieill.

うみねこ、ねこざり(方言)、かみけ(方言)、

博多灣内殘ノ島ノ西岸(廿三日)ニ可ナリ多カリキ。老幼共ニ見タリ。

(37). *Turtur orientalis* (Labh.)

きじばり

筑紫郡那珂村諸岡(廿三日)ニテ一羽ヲ採集ス。同郡老司(廿日)ニテ獲ラレシモノ數羽ヲ見、又宗像郡津屋崎(廿一日)ニテモ之レヲ見タリ。

(38). *Alcedo ispida bengalensis* Gm.

かはせみ

粕屋郡箱崎町二股瀬(十六日)一羽又ビ筑紫郡日佐村附近(廿四日)一羽採集ス。今津灣内(廿三日)ニテモ一羽ヲ見タリ。本年一月九日粕屋郡箱崎町須恵川ニテ一羽採集セラレ余ノ許ニ來ル。

(39). *Myiophobus kizuki kizuki* Temm.

きうしうけら

粕屋郡多々良附近(廿一日)ニテ一羽採集ス。余ガ動物學雜誌第三百〇八號三一三—三一四頁ニ於テりうきうけらヲ報告記載シタルモ本亞種ト認ムル方可ナルニヨリ茲ニ訂正ス。即チきうしうけらノ存在ヲ認ムルヲトス。

(40). *Lynx torquatus japonicus* Bp.

ありすひ

糸島郡北崎村字宮ノ浦(廿日)ニテ一羽採集ス。

(41). *Alauda arvensis japonica* T. & S

ひばり

筑紫郡那珂村諸岡(廿三日)ニテ一羽採集ス、當縣下多シ。

(42). *Notacella boarula melanope* Pall.

おせぎれい

筑紫郡日佐村附近(廿四日)ニテ一羽採集ス。

(43). *Notacella alba lugens* Kittl.

はくせきれい、いしたまき(方言)、

宗像郡福岡(廿二日)ニテ一羽採集ス。名島(十九日)ニテ一羽、福岡市濱ノ町(十日)ニテ一、二羽ヲ又宗像郡津屋崎(廿二日)ニテ一、二羽ヲ見タリ。

(44). *Anthus maculatus* Hodges.

びんずる

福岡市濱ノ町(七日)ニテ一、三羽ヲ見又粕屋郡石藏松原(十九日)及ビ名島(十九日)ニテ數羽ヲ見タリ。

(45). *Hypspetes amurens* Temm.

ひよどり

粕屋郡立花山(十二日)十二羽、糸島郡北崎村(廿日)四羽及ビ筑紫郡那珂村諸岡(廿三日)一羽採集ス。其他筑紫郡老司(廿日)ニテ獲タルモノヲ見タリ。又太宰府天満宮社内(廿日)ニテ數羽ヲ、宗像郡津屋崎(廿二日)ノ海岸ニテモ本種ヲ見タリ。

(46). *Geocichla dauma aureus* (Hol.)

くらぐみ、みやまぐみ(方言)、

筑紫郡老司(廿日)ニテ一羽採集セラル。

(47). *Turdus fuscatus* Pall.

くぐみ

早良郡油山(廿日)一羽、宗像郡福岡(廿二日)一羽及ビ筑紫郡那珂村諸岡(廿三日)四羽採集ス。今津灣沿岸(廿三日)ニテモ之ヲ見タリ。本種ハ十一月初旬ニハ少キガ如ク中旬以後ヨリ増加スルモノノ如シ春季四月初旬頃モ可ナリ多シ。

(48). *Turdus chrysolaus* Temm.

あかはら、くわつてうノ雄(方言)、

粕屋郡立花山(十二日)ニテ二羽採集ス。筑紫郡老司(廿日)ニテ獲ラレタルモノヲ見タリ。期節ノ爲メカ本種ハつぐみ、しろはらニ比シテ少數ナリキ。

(49). *Turdus obscurus* Gm.

まみちやしない、くわつてうノ雄(方言)、

粕屋郡立花山(十二日)ニテ三羽採集セラレシノミ。

(50). *Turdus pallidus* Gm.

しろはら、くわつてうノ雌(方言)、

粕屋郡立花山(十二日)ニテ廿八羽ヲ獲タリ。筑紫郡老司(廿日)ニテ獲タルモノ多クヲ見タリ。本種ハ當縣下ニテハ他ノ近似種ニ比シ非常ニ多シ。關東地方ニテハ多カラズ。

(51). *Turdus curvis* Temm.

くろつぐみ、くろくわつてう(方言)、

粕屋郡立花山(十二日)ニテ雌雄各一羽採集ス。餘リ多カラズ。

(52). *Monticola solitarius* (Mull.)

いそひよざり、いそつぐみ(方言)、

宗像郡津屋崎(廿二日)ニテ見タルモ少シ。今津灣外寶島(廿三日)及ビ殘ノ島(廿三日)ニテ二三羽ヲ見タリ。去ル十二月十八日福岡市西公園裏附近海岸ニテ採集サレタル雄一羽余ノ許ニ送附アリタリ。

(53). *Turdicilla aurora* (Gm.)

じやうびたき

粕屋郡箱崎町二股瀬(十六日)雄一羽採集ス。福岡市濱ノ町(廿一廿五日)ニテ毎朝鳴聲ヲ聞ケリ。遠賀郡戸畑在(廿二日)ニテ雄一羽ヲ見タリ。

(54). *Horeites cantans* (T. & S.)

うぐひす

粕屋郡笹栗(十八日)雌一羽、宗像郡福岡(廿二日)雄二羽及ビ同郡津屋崎(廿二日)雄一羽採集ス。太宰府ニハ春季多シト云フ。

(55). *Regulus regulus japonensis* Bl k.

きくいたいき

粕屋郡多々良附近(廿一日)ニテ三羽採集ス。太宰府(廿日)ニテ鳥聲ヲ聞キタルモノ恐ラク此鳥ナリシナラン。

(56). *Troglodytes fumigatus* Temm.

みそやぶい

遠賀郡戸畑在(廿二日)ニテ早朝「チョッチョ」ト云フ聲ヲ聞ケリ恐ラク本種ナリシナラン。うぐひすノトハ異レリ。

(57). *Lanius bucephalus* T. & S.

もす きちきちもーず(方言)、

粕屋郡箱崎町二股瀬(十六日)一羽、筑紫郡那珂村諸岡(廿三日)一羽及び同郡日佐村附近(廿四日)ニテ三羽採集ス。福岡市濱ノ町(七日及び廿五日)ニテモ一二羽ヲ見タリ。

(58). *Parus major minor* T. & S.

しじうから

糸島郡北崎村(廿日)ニテ一羽採集ス。

(59). *Parus varius* T. & S.

やまがら

粕屋郡立花山(十二日)ニテ一羽採集ス。

(60). *Acerdula caudata brevifrons* (T. & S.)

えなが

宗像郡津屋崎(廿一日)ニテ二羽採集ス。太宰府(廿日)ニテ數羽ヲ見タリ。

(61). *Corvus corone orientalis* Evers.

はしほそがらす

粕屋郡多々良附近(廿一日)ニテ一羽採集ス。筑紫郡諸岡附近(廿日)ニ大群ヲナセルヲ見タリ恐ラク本亞種ナリシナラン。又今津灣(廿三日)ニテモ本亞種ラシキモノ二羽ヲ見タリ。因ニはしほそがらす(くそくひがらす方言)ノ方比較的少キガ如シ。

(62). *Corvus pectorator* Gould

みやまがらす、わたりがらす(方言)

去ル十二月十八日粕屋郡内橋村字内橋ニテ採集セル二羽ヲ余ノ許ニ送り來レリ。共ニ幼期ノモノナリ。

(63). *Corvus japonicus* T. & S.

かけす

早良郡油山(廿五日)ニテ一羽採集セラル。筑紫郡老司(廿日)ニテ獲ラレタルモノヲ見タリ。

(64). *Zosterops japonica* T. & S.

めじろ

名島(十九日)ニテ少數ヲ見タリ。

(65). *Eophona personata* (T. & S.)

いかる

早良郡油山(廿五日)ニテ一羽採集セラル。筑紫郡老司(廿日)ニテ獲タルモノヲ見タリ。

(66) *Chloris sinica minor* (T. & S.) こかはらひは、たてひば(方言)、

粕屋郡二股瀬(十六日)ニテ二羽ヲ獲タリ。同郡石藏松原(十九日)ニテ數羽ヲ見タリ。

(67) *Pyrrhula pyrrhula griseiventris* Iatr. うそ

福岡市内ニテ飼養セルモノ數羽ヲ見タリ。

(68) *Fusser montanus* (L.) すぐめ

福岡市内ニテ見ルモ餘リ多カラズ。遠賀郡八幡附近ニ産スルモノハ煙ノ爲メニ著シク黒シト云フ。

(69) *Emberiza juncata* Pall. ほゝあか

宗像郡津屋崎(廿一日)ニテ一羽採集ス。

(70) *Emberiza cioides ciopsis* Bp. ほゝじろ

宗像郡福岡(廿一日)二羽、筑紫郡那珂村諸岡(廿三日)一羽及ビ同郡曰佐村附近(廿四日)一羽ヲ獲タリ。粕屋郡石藏松原(十九日)及ビ遠賀郡戸畑(廿一日)ニテ見タリ。

(71) *Emberiza personata* F. あをじ

筑紫郡曰佐村附近(廿四日)ニテ一羽ヲ獲タリ。

(72) *Emberiza variabilis* F. くろじ

筑紫郡老司(廿日)ニテ一羽採集セラル。餘リ多カラザルガ如シ。

(73) *Emberiza rustica* Pall. かしらだか

早良郡油山附近(廿日)ニテ一羽、筑紫郡曰佐村附近(廿四日)ニテ一羽ヲ獲タリ。同郡老司(廿日)ニテ獲ラレタルモノ一羽ヲ見タリ。

相模中郡産鳥類目錄

籾山徳太郎

本郡ハ相模國ノ中央ニ位置シ其東半部ハ耕地大部分ヲ占メ西半部ハ山林最多シ。東境ニハ馬入川流レ北西境ニ大山、丹澤山等ノ高岳連聳シ南ハ相模灣ニ面セリ。サレド海岸ニ於テハ岩礁甚少キヲ以テ海鳥ハ比較的少キモノノ如シ。依テ本郡ニ於ケル鳥類ハ陸鳥多數ヲ占ム。

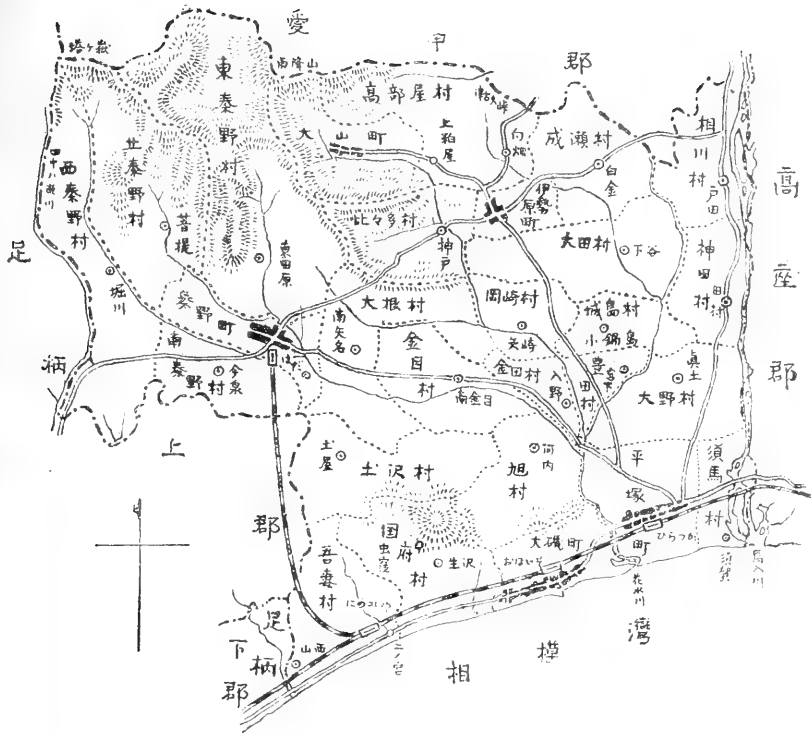
大正二年以後本郡ニ於テ獲ラレタル所ノ鳥類種名ヲ左ニ列舉セン。

注意 鳥類和名中括弧内ニアルハ本地方ノ方言ト認メラル、モノニシテ一般的ノモノト一部ニ限ラレタルモノトアリ、後者ハ

其地名ヲ添ヘタリ。

1. *Colymbus septentrionalis* L. あび(ちうしよう)
2. *Colymbus arcticus* L. おほはむ(はんばくらひ)
3. *Podiceps fluviatilis philippensis* (Bonpt.) かいづぶり(いच्चようもぐり。いच्चようづぶり。むぐちよ)
4. *Diomedea nigripes* Audubon くろあしあばうづり(おほづり。ばかづり)
5. *Phalacrocorax capillatus* (T. & S.) かはう
6. *Phalacrocorax pelagicus* Pall. ひめう
7. *Nycticorax nycticorax* (L.) じゅんち(あをじゅん成鳥ノミニ、ほしじゅん。ばかさぎ共ニ幼鳥ノミニ)
8. *Ardeetta sinensis* (Gm.) ともづる
9. *Botaurus stellaris* (L.) さんかのづる

相模中郡全圖



- | | |
|---|-----------|
| 10. <i>Mergus serrator</i> L. | うみあいさ |
| 11. <i>Cosmonetta histrio</i> ionica (L.) | しのりがも |
| 12. <i>Nettion crecca</i> (L.) | こがも (こ |
| 13. <i>Nettion crecca</i> (L.) | つがも) |
| 14. <i>Nettion crecca</i> (L.) | をながいも |
| 15. <i>Anas boschas</i> L. | よしがも |
| 16. <i>Anas boschas</i> L. | まがも (あ |
| 17. <i>Anas boschas</i> L. | をくびのぼんがも) |
| 18. <i>Anas boschas</i> L. | かるがも |
| 19. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 20. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 21. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 22. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 23. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 24. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 25. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 26. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 27. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 28. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 29. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 30. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 31. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 32. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 33. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 34. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 35. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 36. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 37. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 38. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 39. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 40. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 41. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 42. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 43. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 44. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 45. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 46. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 47. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 48. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 49. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 50. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 51. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 52. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 53. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 54. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 55. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 56. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 57. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 58. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 59. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 60. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 61. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 62. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 63. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 64. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 65. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 66. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 67. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 68. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 69. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 70. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 71. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 72. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 73. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 74. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 75. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 76. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 77. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 78. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 79. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 80. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 81. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 82. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 83. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 84. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 85. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 86. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 87. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 88. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 89. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 90. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 91. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 92. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 93. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 94. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 95. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 96. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 97. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 98. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 99. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |
| 100. <i>Anas boschas</i> L. | をしがも |

22.	Falco tinnunculus japonicus T. & S.	やぶてんぼく
23.	Falco aesalon Tunstall	いよちんぼく
24.	Pondion halietus (L.)	なねり
25.	Phasianus versicolor Vieillot	おじ
26.	Phasianus scintillans Gould	おおりの
27.	Phasianus sumneringi Temm.	おおりの
28.	Coturnix japonica T. & S.	いづ
29.	Ballus aquaticus indicus (Blyth)	くさ
30.	Porzana pusilla (Fall.)	ひる
31.	Porzana fusca (L.)	ひる
32.	Gallinula chloropus (L.)	あひ
33.	Charadrius fulvus Gm.	あひ
34.	Aegialitis placidus (Gray)	くら
35.	Aegialitis dubia minor (W. & M.)	くら
36.	Aegialitis cantiana (Latham)	くら
37.	Oethodromus mongolicus (Pall.)	くら
38.	Numenius arquatus lineatus (Cuv.)	くら
39.	Numenius cyanopus Vieillot	くら
40.	Numenius phaeopus variegatus (Scop.)	くら

- | | |
|--|-------------------------------------|
| 41. <i>Tringoides hypoleucus</i> (L.) | いそしぎ |
| 42. <i>Limnites ruficollis</i> (Pall.) | しうねん |
| 43. <i>Gallinago celestis</i> (Frenzel.) | たしぎ |
| 44. <i>Gallinago australis</i> (Latham) | おほづしぎ(ぢしぎ) |
| 45. <i>Scelopax rusticola</i> L. | やましぎ(やましげ。ほた。ほたしぎ。ぶたしぎ) |
| 46. <i>Rostratula capensis</i> (L.) | たましぎ |
| 47. <i>Larus ridibundus</i> L. | ゆりかもめ(まじり) |
| 48. <i>Larus vegae</i> Palmén | せぐろかもめ |
| 49. <i>Larus schistisagus</i> Stejn. | おほせぐろかもめ (右二種ノ如キ大型ナル鷗類ノ幼鳥ヲばんばかもめ大磯) |
| 50. <i>Larus crassirostris</i> Vieillot | うみねこ(はまねこ) |
| 51. <i>Simorhynchus pusillus</i> (Pall.) | こうみすゞめ(おみき大磯) |
| 52. <i>Synthliborhamphus antiquus</i> Gm. | うみすゞめ |
| 53. <i>Synthliborhamphus winnizsumme</i> (Temm.) | かむりりうみすゞめ |
| 54. <i>Turtur orientalis</i> (Latham) | きじばし(はつ) |
| 55. <i>Sphenocercus sieboldi</i> (Temm.) | あをばし(こまおひざり大磯。おあおく大磯附近) |
| 56. <i>Cuculus canorus</i> L. | くわくこつ |
| 57. <i>Cuculus poliocephalus</i> Latham | ほつこち |
| 58. <i>Cuculus saturatus</i> Hodg. | つゝざり(なほしろほん國府村虫窪) |
| 59. <i>Alcedo bengalensis</i> Gm. | かはせみ(しょうびん。しゅうびん。そうな。ひす) |

- | | |
|--|-------------------------------|
| 60. <i>Scops japonicus</i> (T. & S.) | このはいつ |
| 61. <i>Scops semitorques</i> (T. & S.) | おほこのはいつく(みまづく。みまじく。みまじく。みづく) |
| 62. <i>Ninox scutulata</i> (Raffles) | あをばづく(こぶくろ大磯) |
| 63. <i>Syrnium uralensis</i> (Pall.) | ふくろう(ふくろ。こうしち。こうしちを) |
| 64. <i>Asio otus</i> (L.) | つらふいつ |
| 65. <i>Caprimulgus jotaka</i> (T. & S.) | よたか(かくひ) |
| 66. <i>Chaetura caudata</i> (Latham) | はりをあまつばめ(かりがねつばめ大磯。うみつば國府村虫窪) |
| 67. <i>Dryobates major japonicus</i> (Seeb.) | あかけら |
| 68. <i>Dryobates leucotos subcinnis</i> Stejn. | おほあかけら |
| 69. <i>Geocinus awokera</i> (Temm.) | あをけら |
| 70. <i>Alunda arvensis japonica</i> T. & S. | ひばり |
| 71. <i>Motacilla boarula melanope</i> Pall. | あせあねい(むねあねい) |
| 72. <i>Motacilla alba japonica</i> Seeb. | せぐらせあねい |
| 73. <i>Motacilla alba lugens</i> Kittl. | はくせきれい |
| 74. <i>Antus maculatus</i> Hodgs. | びんすい(すび大磯) |
| 75. <i>Antus spinoletta japonicus</i> T. & S. | たひばり |
| 76. <i>Hypsipetes amurensis</i> (Temm.) | ひよかり(ひよ。ひよす秦野) |
| 77. <i>Hemichelidon sibirica</i> (Gm.) | ちめびたち |
| 78. <i>Xanthopygia narcissina</i> (Temm.) | ちびたち |

79. *Canophta cyanomelaena* (Temm.)
おほるり(るり)
80. *Turdus fuscatus* Pall.
つぐみ(つむ大磯附近、つぐ國府村)
81. *Turdus chrysolaus* Temm.
あかはら(あかはら)
82. *Turdus polidus* Gm.
しろはら(しろはらのやぶちもうち)
83. *Turdus curdis* Temm.
くろつぐみ(くろつむ)
84. *Geocichla dauma aureus* (Hol.)
ちらつぐみ(ちらつぐ、ちらつむ大磯附近。きじばら國府村虫窪)
85. *Monticola solitarius* (P. L. S. Muller.)
らそむちのら(らそむち)
86. *Erithacus akahige* (Temm.)
らそむちの(らそむ)
87. *Ruficilla aurea* (Gm.)
じやうびたの(ひたの)
88. *Tarsiger cyanurus* (Pall.)
るりびたの(前種ト共ニひ、かち國府村虫窪)
89. *Acrocephalus orientalis* (T. & S.)
おほむちのら(よしちの)
90. *Acrocephalus bistrigiceps* Swinh.
らそむちの(らそむちの)
91. *Cisticola cisticola brunneiceps* (T. & S.)
せうか(しばせうり)
92. *Urosphena squamiceps* (Swinh.)
なせれぬ(しせれん)
93. *Phylloscopus borealis* (Blasius)
つがしつひ
94. *Regulus regulus japonensis* Blakiston
あつたち
95. *Horeites cantans* (T. & S.)
うぐひす(うぐち、大磯附近。うぐち國府虫窪)
96. *Troglodytes fumigatus* Temm.
みぞれん(みぞれん、みぞれん)
97. *Hirundo rustica gutturalis* (Scop.)
しほぬ(しほろ旭村)

98. *Ampelis japonicus* Seeb.
99. *Lanius bucephalus* T. & S.
100. *Sitta europaea amurensis* Swinh.
101. *Parus major minor* T. & S.
102. *Parus varius* T. & S.
103. *Parus ater insularis* Hellmayr
104. *Aeredula caudata trivirgata* (T. & S.)
105. *Corvus macrohynchus japonensis* Bonap.
106. *Corvus corone orientalis* Eversm.
107. *Garrulus japonicus* T. & S.
108. *Spodiopsar cinereus* (Temm.)
109. *Zosterops palpebrosa japonicus* T. & S.
110. *Zosterops palpebrosa stejnegeri* Seeb.
112. *Coccothraustes vulgaris japonicus* T. & S.
113. *Eophona personata* (T. & S.)
114. *Uragus sanguinolenta* (T. & S.)
115. *Fringilla montifringilla* L.
116. *Acanthis spinus* (L.)
117. *Chloris sinica kawarabiba* (Temm.)

ひれんじやく(れんじやく)

もず

ぶじぢから

しんぢから

やまから

ひがら(こがら大磯附近)

えなが(こがら國府村虫窪)

はしなづがらす

はしほそがらす

かけす

むくらの

めじろ

しちつちめじろ(おほしちめじろ)

しめ(おらわり大磯附近)

いかる(おめはちち國府村虫窪)

しじちち

おらの

ちひな(ひな)

おめはちちひな

113. *Chloris sinica minor* (T. & S.)

119. *Pyrhula pyrrhula griseiventris* Lafresnaye

120. *Passer montanus* (L.)

121. *Passer rutilans* (Temm.)

122. *Emberiza fucata* Pall.

123. *Emberiza cioides ciopsis* Bonap.

124. *Emberiza spodocephala personata* Temm.

125. *Emberiza yessoensis* (Swinh.)

126. *Emberiza sulphurata* T. & S.

以上ニテ本目錄ハ終リタリ、サレド未捕獲ノ種類モ亦多キ事論ヲ俟タズ、ソハ入手ノ上順次追加スベキ事ヲ此所ニ約ス。尙參考ノ爲大正二年以前ニ本郡ニ於テ獲ラレタリシ鳥類種名ヲ左ニ附記スベシ。

Diomedea albatrus Pall.

Herodias garzetta (L.)

Ibis nippon Temm.

Anser albifrons (Scop.)

Melanonyx sp.

Grus sp.

こかはらひわ(前種ト共ニかはらひば。からひば。かはらひばり)

うづ

すいめ

にうないすゞめ(やますゞめ)

ほゝあか

ほゝじろ

あなじ(あなしニ國府村、吾妻村)

こじゆりん

のじこ

あほうぢり

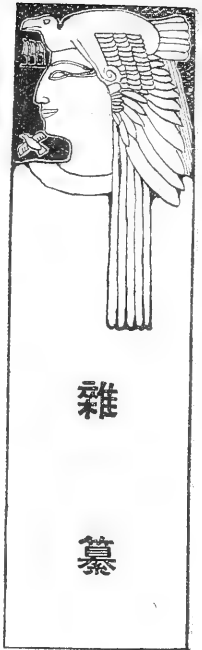
こぢぎ(しらぢぎ)

こぎ(十餘年前ニ獲ラレタル由ナリ往時ハ多カリシト)

まがん

ひしくる

つる(餘程以前ニ獲ラレタル由ニテ種名未詳)



雜纂

獵犬ト龜

理學博士 飯塚 啓

北米人 Aefline 氏ハ獵犬ガ鳥ト龜トヲ間違ヘテ追趾シタル例ヲ報告シタリ。茲ニ其ノ大要ヲ記サンニ其一例ハ雜種犬(シエフアード及セツター混血)ニシテ嘗テうづら獵ニハ經驗アルモ他ノ鳥類ニ關シテハ全ク無經驗ノモノナルモ嗅覺ハ頗ル銳敏ナル犬ナリキ。或日此犬ヲ Prairie chickens (Tympanuchus)ノ澤山棲息スル地方ヘ連行キ獵セシニ突然或足跡ヲ認メシガ如ク次第ニ其足跡ヲ追ヒテ進ミ野ヲ越ヘ草原ヲ過ギテ遂ニ龜(Cheyltra)ノ居ル所ニ出タリト。而シテ其ノ後二三回モ同様ノコトヲ繰返シタリシガ其龜ニ達セル場合ニハ啞然タルガ如キ有様ニテ止ムヲ常トセリト。Bingham 氏ハアイリッシュ、セツターノ當才ノモノヲ伴ヒ出獵セシニ此ノ犬モ雜種(父セツター母ボイントー)ナリ生レテ四ヶ月ニシテ氏ノ手ニ歸シ、氏自ラ之ヲ訓練シタルモノ

ナリ。其獵第一日ニ於テ陸龜ト鳥トヲ誤認セリ。即一羽ノ鳥ノ逃レタルヲ比較的長追ヒシタルニ草中ニ没シテ其ノ鳥ヲ見出スニ困難ナリケレバ將ニ歸ラントセシニ、犬ハ急ニ足跡ヲ認メタルガ如ク、腹ガ地ヲ磨スルガ如キ狀態ニテ進ミタリシガ百五十ヤード程行キシニ計ラザリキ其足跡ハ陸龜ノ居ル所ニ至リテヤタミリ。犬ハ不審ニ感ゼシ如ク龜ヲ嗅ギ廻リテ後遂ニ路ヲ轉ジテ去リタリト。

稻作上ニ於ケル雀ノ被害

仁部 富之助

秋田縣農會ニテハ每年初冬ノ候各市郡ヨリ篤農家ヲ招集シ談話會ヲ開催スルヲ例トス。而シテ大正五年度ニ「雀ノ驅除法及ビ其ノ效果ヲ問フ」ナル一話題アリテ談話要項ハ

一、被害ノ狀況

二、雀追ニ要スル日數及ビ其ノ人員

三、從來實行シ來レル驅除法及ビ其ノ效果

四、普通ノ雀ト「渡リ雀」ト其ノ種類異ナルヤ

五、雀ノ有益方面ニ關スル觀察

ヲ示サレタリ。出題ノ主旨ハ「今日農家ハ積極的ニ一割ノ增收

ノタメニ如何ニ努力シツ、アルカ、夫レテ雀ノ爲メニ其以上害サル、ヤウニテハ勞シテ効ナシ。故ニ消極的ニ雀害ヲ除クコトモ生産増加ノ一方法ナリ」ト云フ點ニアリ。而シテ其ノ議事録ニ據レバ四ニツキテハ會員ノ間ニ一種トスルモノト二種ナリトスルモノトノ二説アリ（實際ハ普通すゝめトにうないすゝめトノ二種アリ）。五ニツキテハ何等要領ヲ得ズ。三ニツキテハ從來見張小屋ヲ建テ雀ノ群團襲來ノ際ハ鐵葉鏢ノ類ヲ鳴ラスカ、引繩ヲ鳴ラシテ威嚇シ追ヒ拂フ等ノ消極的方法ノ外名案ナク、由利郡農會ニテハ先年雀及ビ其ノ卵ノ買上ゲヲ行ヒタルコトアレドモ、其結果幾分被害減少セルラシキ感アリシノミナリトイフ。

次ニ一ニツキテハ各郡代表者ノ提出セル見積リ被害高ハ

秋田市、鹿角郡 被害ナシ

北秋田郡 一部ニハ被害アレドモ全部トシテハ被害ヲ認メ

ズ

由利郡 平均百分ノ五（千分ノ五ナラン）ノ被害

平鹿郡 二十一萬石ニ對シ千石ノ被害アリ

南秋田郡 平均一反歩ニツキ一升宛ノ被害

仙北郡 凡ソ百分ノ一ノ被害

山本郡 早稻四分、中稻一分、晚稻被害ナシ

河邊郡 一反歩八升五合三勺ノ被害

ナリト。右ノ報告ニ基キ全縣下ニ於ケル被害高ノ計算ヲ試ムレバ、全縣米產額約百五十萬石ニ對シ一萬三千二百五十七石トナリ、又二ニツキテハ全縣下ヲ通ジ期間ハ約二週間ニシテ、一反歩ノ賃銀ハ約十錢（低廉ナルハ特別ナル場所ノ外ハ一日中早朝ト夕方ノミニ追フタメナリ）ノ割ナリト。然ラバ之ニ小屋掛繩張其他ノ諸雜費ヲ如フルトキハ、一反歩ニツキテノ費用彼是十二錢位トナルベク、從ツテ全縣稻田反別九萬七千九百九十餘町歩ノ内、早稻ヲ栽培シ雀追ヲ要スル反別ヲ其ノ三割ト假定スレバ、一ヶ年三萬五千二百圓餘ヲ之ニ費サル、コト、ナル。

以上ノ計算ハ必ズシモ實際ト一致ストハ謂ヒ得ザルモ、コレニヨリテ兎モ角秋田縣ノミニテモ雀ノタメ蒙ル稻ノ被害ノ如何ニ大ナルカヲ想像シ得ベシト信ズ。

序ニ本縣下ニ於ケル稻ノ乳熟期ノ被害狀況ヲ記スレバ、八月上旬頃彼等蕃殖ノ末期早稻ノ出穗期頃ヨリ、何レヨリトモナク數羽數十羽若シクハ數百數千ヲ以テ算フベキ雀ノ大小群集ヒ來リ、一齊ニ稻田ニ下リテ乳熟ノ粃ヲ咬ミ、其ノ液汁ヲ吸收シ、其ノ被害ノ迅速ナルコト驚クノ外ナク、コレヲ追ヒ拂フコトナケレバ數十分時ニシテ七八割ノ被害ヲ受ク。斯クテ八月中旬

頃ニ入り中稻ノ出穂期ニ入レバ其勢稍々減ズルモマタ油斷スベカラズ。九月上旬頃ニ至リ漸ク他ニ移住スルモノ、如ク、從ツテ鳥追ノ要ナキニ至ルモノトス。而シテ此際來襲スル雀ノ種類ハ普通すゝめトにうないすゝめノ二種ニシテ、其ノ何レノ種類ガ大ナル害ヲ與フルカニツキテハ未ダ精細ナル觀察ナキモ、被害ノ猛烈サニ至リテハ二種ノ間ニ大差ナキコト明カナリ。要スルニ此ノ時期ハ雀ノ蕃殖ノタメ衰弱セル體質ノ回復、仔雀ノ發育期ト稻ノ乳熟期ト偶然一致スルモノナルベシ。

高野山ニテ見タル冬季ノ鳥類

榎 本 佳 樹

當地ノ冬ハ寒氣甚シク積雪多キニヨリ鳥類多カラザルモ森林豊富ナルニヨリ春夏ノ候繁殖ノ爲メ來ル種數多カラント想像ス。余ハ當地到着以後日尙淺ク未ダ種類ノ研究充分ナラザレドモ數日間ニ目撃シ得タル種類ハ左ノ如シ。

1、せぐろせきれい 多カラズ。樹枝電線等ニ停リテ美聲ヲ以テ囀ル。但シ一囀ハ長カラズ。

2、えなが 頗ル多シ。

3、しじうから えながヨリハ少ナキモ可ナリ多シ。

4、やまがら 可ナリ多シ。寺院ノ庭等ニ下降シ、すゝめノ如クHopシテ少サキ物ヲ喰フコトアリ。

5、べにましこ 多カラズ。地上ニアリテ物ヲ啄ム、鳴聲一種ノ特徴アリ。

6、かしざり 可ナリ多シ。

7、はしほそがらす 少シ。

8、きじばこ 少シ。

9、つぐみ 少シ。

10、しろはら 少シ。

11、ひよざり 少シ。

12、ひがら?或ハこがら? 多シ。

13、きくいたぎ 多シ。

14、じやうびたき 前諸種ヨリ標高低キ地點ニ之ヲ見ル。

1、こけら 多カラズ。

以上十五種ニシテ珍ラシキモノ無ケレドモ尙此地ニハ數多ノ種類アルベシト信ゼラル。

夏期ニ於ケル須川岳ノ鳥類

熊谷三郎

大正五年八月二十日ヨリ三十日マデ觀察セルモノ左ノ如シ。

Zosterops palpe-rosa japonica T. & S. めじろ

岩手縣西磐井郡ノ西方須川岳ニ至ル途中嚴美村大字五串山谷本寺附近ニ於テ多數ノ群集ヲミル此地ニ於テ繁殖スベシ。

Cettia cantans T. & S. うぐひす

登山中到ル所ニテ鳴聲セリ尙凡五千尺ノ須川岳絶頂ニテ囀ヲ聞ケリ、此地一帯ニ蟠屈セルくまざら中ニ繁殖スルナラム。

Eophona personata (T. & S.) こから

登山口瑞山附近ニ於ケル桑畑中ニ未明二羽ヲ見ル。

Dryobates けら類

暗キ樹林中ニ樹ヲ穿ツ響キ淋シカリキ。

Geothlypis japonica T. & S. かけす*Parus major minor* T. & S. しじふから*P. varius* T. & S. やまがら*P. atricapillus tristricus* Helm. へがら

右ハ須川岳中部ニ於テ普通ミラル。

Emberiza elegans Temm. ひやまざらめじろ

須川岳温泉附近ニ於テ未明二ノミ鳴クヲキケリ。

Pyrrhula pyrrhula griseiventris Latr. ゝそ

山中蟠屈セル松林中ニ鳴キツ、アル多數ノ群ヲミル、此所ニテ繁殖スルモノニヤ。

Nucifraga cygneata japonica Hartert ほしからす

樵人やたがらすト呼ベリ。

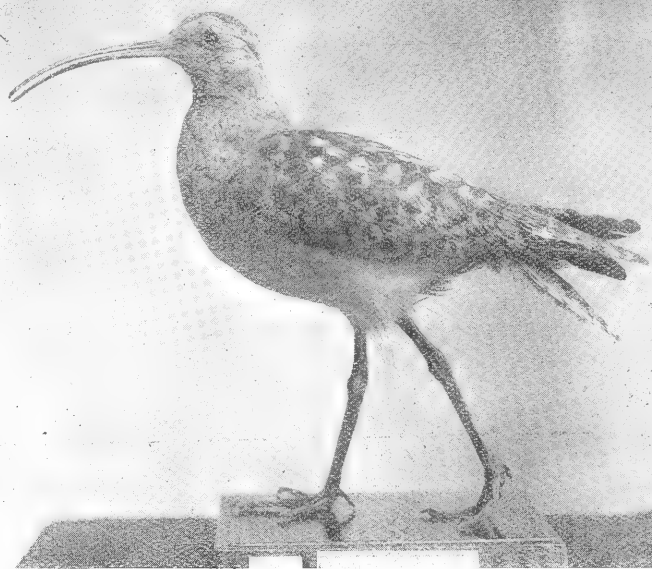
山中蟠屈セル松樹中ニ出入繁ク營巢中ナラム。

右ノ外尙二三種見タレドモ種名不明ナリキ。

本邦ニテ始メテ獲ラレシしぎノ一種

理學士 黒田長禮

去ル明治四十二年七月山城國ニテ獲ラレタルちうしやくしぎノ一種ヲ入手スルヲ得タリ。本種ハ學名ヲ *Numenius talienensis* (Gm.) ト稱シ主トシテ太平洋各諸島ニ分布シ新占領まりあな、かろりん兩群島ニテモ獲ラレタリ。稀クニ北米ノ西北部主トシテあらすか地方ニモ渡リ行クコトアリ。斯クノ如ク分布區域廣キニヨリ本邦ニテ採集セラレタルモ決シテ疑ハシキコトニアラズ。此種ハ前記ちうしやくしぎニ似タルモ腿羽ノ羽軸延長シ



く や し う ち ん も り は

テ毛狀ヲ呈スルコトニヨリ直チニ區別スルヲ得。此故ヲ以テ余ハ新タニはりも、ちうしやくト命名セリ。體ノ上面ハ暗色ノ地ニ淡赤褐色ノ大ナル斑又ハ刻斑ヲ有ス。下背及ビ腰ハ上背ト同様ナルモ上尾筒ハ褐赤色ニシテ主トシテ長キ羽ニハ暗色ノ横線アリ。尾羽ハ中央ノモノ灰褐色、他ハ淡褐赤色ニシテ凡テ明ナル暗褐色ノ六乃至七ノ横帶アリ。全長凡ソ十七、嘴峰三・五、翼八・四、尾三・六、跗蹠二・一五吋アリ。

ひげわしノ新產地

森 爲 三

京城高等普通學校ニ於テ寫眞ノ如キ鷺類ヲ商人ヨリ購入シタリ。本品ノ採集地ハ江原道三防附近ニシテ大正五年十二月二十一日ニ採集セルモノナリト云フ。本品ハ調査ノ結果朝鮮ニテハ是迄ニ獲ラレシ報告ニ接セザル珍奇ノ鷺ニシテ滿洲ニテハ捕獲セラレシコトアリ。學名ヲ (*Tipanus barbatus* (L.)) ト稱シ和名ハ内田學士著「日本鳥類圖說縮篇」滿洲產鳥類目錄中ニテひげわしト始メテ命名サレシモノナリ。今回捕獲セラレシモノハ幼期ナリ。概觀セバ頭部ニハはげわし類ノ如キ黑色ノ短毛生ジ後頭ヨリ頸ノ周圍ニハ黑色ノ長羽アリテ毛冠狀ヲ呈ス。翼ノ風切羽及

ビ尾羽ハ黒色、風切羽ノ羽軸ニ斑アリ。尾羽ノ基部ニ灰色ノ斑アリ。體ノ下面及ビ腿ハ赤褐色、背ハ黒褐ト白トノ斑アリ。腰ハ黒色ナリ。嘴ハ青黒色、趾ハ青色ナリ。蠟膜ハ見エズシテ細毛密生シ居ルコト著シク目立テリ。下嘴ニ於テハ嘴ヨリ毛ノ部分ノ方



ひげわし

前ニ出ヅ。脚ハ

前蹠ノ全部羽毛

ニテ被ハレ後面

ニ於テ細ク無毛

ノ部アリ。

各部ノ測定ヲ記

セバ全長約四尺

三寸(四呎三吋)

翼長約二尺六寸

(二呎七吋)、尾長約一尺八寸一分(二・五六吋)、嘴(嘴峯無毛

ノ部分)二寸二分五厘(二・七吋)、會合線四寸(四・七五吋)、跗

蹠三寸三分(三・九吋)、趾長爪共三寸五分(四・二吋)。因ニ成鳥

ニアリテハ頭頂及ビ頸ハ乳脂白色ニシテ鏽色ヲ帶ブ、腮ヨリハ

前方ニ向ヒテ生ジ下方ニ曲レル黒色ノ長キ剛毛アリ鬚ノ如シ。

眼先キ及ビ眉線ハ黒色ナリ。

ひげわしノ分布、南歐洲及ビ西北亞弗利加ヨリ東ハ小亞細亞及ビばれすたいんヨリ中央亞細亞ヲ經テひまらや及ビ北部支那ニ達ス。

長崎縣下ニテ獲ラレシのがん

理學士 黒田 長禮

本年二月九日東京日日新聞ニ次ノ様ナ記事ガアツタ。

「前略……………去ル六日福江村ノ一狩獵家ハ崎山村ニテ七面鳥

ノ如キ背部黒褐色ニテ腹部灰白色身長三尺一寸二分重量千三百

斤兩翼ノ長サ六尺アル奇鳥ヲ射止メタリ多分西比利亞方面ヨリ

來レルモノナランカト(八日、長崎電報)面白イコトデアルト

思ツタノデ福江村長ニ問合セタトコロ大濱信ト云フ獵師ガ射止

メタモノデアルトノコトデ好意ヲ以テ羽毛一枚ヲ送ツテクレ

タ。コレヲ見ルト誤リモナキのがん (*Ovis dybowskii* Taen.)ノ羽

デアツタカラ直ニ大濱信ヘ其標本ヲ送リケル様ニ掛合ツタ處

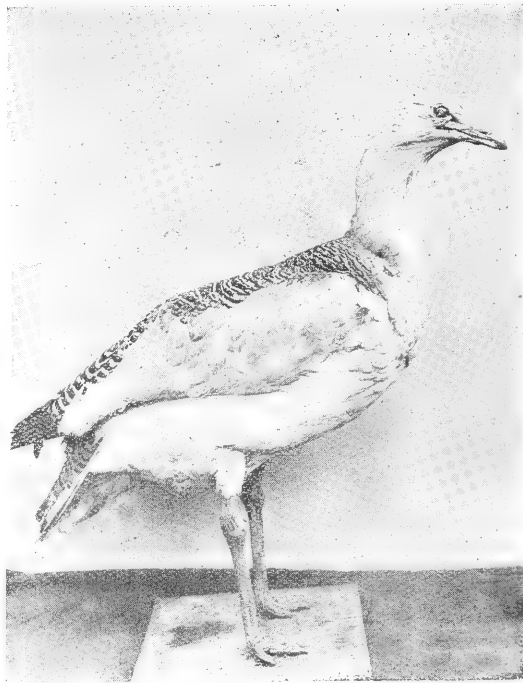
同人ヨリ研究材料ニナルナレバトテ已ニ外國人ノ手ニ渡ラント

シタルモノヲ特ニ余ノ許ニ送附シ且ツ又採集年月地名等モ詳シ

ク知ラセテクレタ。マコトニ感謝スル次第デアル。其標本ヲ見

ルト美事ナル大形ノ雄鳥デ喉ニ明カナ長イ羽毛ヲ生ジテ居ル。

此鳥ハ新聞ノ通り二月六日午後三時長崎縣南松浦郡崎山村字池山(畑地)デ捕獲シタモノトノコトデアル。重量ハ新聞ノハ非常ニ多スギテ大濱ヨリノ通知デハ十二斤餘デアルト云フ。本種ハ我内地デハ非常ニ稀レ寧ロ偶然渡來スルニ過ギヌ鳥デア



ル。しーほーむ氏ニヨルトぶらきすごん氏が嘗テ北海道石狩川(十一月)デ未ダ全ク成鳥トナラヌモノヲ一羽射止メタト云フ。又長崎縣諫早(十二月)デ大暴風ノ後一羽ノ成鳥ガ捕獲サレタト

書イテアル。此ノ二例ノ外ニハ本州デモ嘗テ獲ラレタコトハアル様ダガ最近デハナイ。余ノ記憶ニヨルト十年位以前ニ兵庫縣舞子ノ陸地デ一羽獲ラレタノガ本種デアツタヨウニ思フ。昨今デハ朝鮮、滿洲ヲ除イタ日本内地デハ實ニ珍ラシイ鳥トハネバナラス。

朝鮮ニテ獲ラレシ珍ラシキ鶴

ノ一種

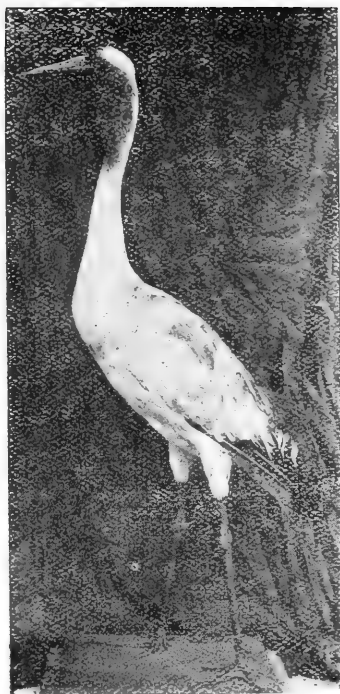
森 爲 三

の が ん (雄)

京城高等普通學校ニ於テ珍ラシキ鶴ノ一種ヲ購入セリ。本品ノ採集地ハ京畿道加平郡(漢江ノ上流)ニシテ本年二月二十一日ニ採集セルモノナリト云フ。本品ハ調査ノ結果朝鮮ニテ獲ラレシハ今回ガ始メテナルヲ知レリ。學名ヲ *Grus nigricollis* *Przewalski* ト呼ビ和名ハ黒田長禮氏ニ問合セタルニ本種ノ尾ガ黒色ナルコト他ノ鶴類ニソノ例ナキモノナルヲ以テをぐろづると命名スルヲ可ースベシト云フ。今回ノ標本ノ記載ヲナセバ頭頂ハ赤紅色ニシテ丹頂ノ丹ニ似タルモ粗ニ黒色ノ毛ヲ生ジ、皮膚モ粗ニシテ鱗狀ヲナス。前額、眼先キ、喉及ビ前頸ハ黒色、後頸ノ全部ハ白ニ黒羽混ゼリ。頸ノ下部ハ

白色、脊及び雨覆ハ瓦青色。腹ハ淡青色。風切羽及び尾羽ハ黑色。腰、上下尾筒ハ白色、脛部ノ上半白色ノ羽毛ニテ被ハル。嘴ハ基部濃青色先端ニ至ルニ從テ前半ハ淡綠色トナル。脚ハ黑色、虹彩ハ黃色ナリ。

むぐろつる



各部ノ測定ヲ記セバ上嘴長四寸三分(五・二吋)、翼長一尺二寸一分(二六・三九吋)、尾長八寸(九・六吋)、跗蹠九寸二分(十一吋)、趾長爪共三寸六分(四・三吋)。

本種ノ分布、西藏ノ Koko-nor ニテ採集セラレタル外恐ラク他ノ地ニテハ獲ラレザルガ如ク、誠ニ珍ラシキ種類ト云フベシ。

こほりがもノ新産地

靱山徳太郎

本種ハ本邦ニテハ從來樺太、千島、北海道ニ於テノミ採集セラレタリシモノナルガ、余ハ本年一月二日、朝鮮咸鏡北道清津港内ニ於テ獲ラレタル雄雌二羽ノモノヲ入手シタルヲ以テ此所ニ餘白ヲ借リテ本種ノ新分布地トシテ報告ス。

こほりがもノ新分布地

理學士 黒田長禮

前記靱山徳太郎氏ノ報告ニヨリ本種ガ朝鮮ニモ分布スルコトヲ明ニセラレタルガ茲ニ又本年一月中旬岩手縣宮古附近海上ニテ雌一羽捕獲セラレ今余ノ所藏トナル。本州ニテ獲ラレシハ始メテナリ。

かはせみの習性

熊谷三郎

大正五年五月廿六日巢中ヨリかはせみの雛三羽ヲ捕ヘ飼ト鱈ニテ飼育シ居リシニ食後ニ於テ臍鵝類ニ見ル如ク飼動物ノ不消化

物ヲ一塊トナシ口ヨリ吐出スル習性アルヲ知り得タリ。而シテ吐出セラレタル魚骨ハ非常ニ柔カク綿ノ如キモノナリキ。普通かはせみノ巢中ニアル魚骨ハ斯ノ習性ニ依ツテ吐出セラレ更ニ巢ヲ温ムルニ應用セラレタルモノナラムカト思ハル。如何ナルモノナルヤ。

上總長生郡地方ノ鳥類方言

林 壽 祐

雀のきば。常ニ軒端ニ遊飛スルヲ以テナリ。

鷦鷯 こうじんざり。

上鷯 へんくたくた。鳴キ聲ト尾ヲ動カス形ニヨル。

鵲 麦時鳥。麦畑ニ來リ、尾ヲ動カシナガラ歩ムニヨル。

柄長 四十雀ト混稱ス。

鷓鴣 ちようま。

赤腹ノ雌 ぞく ぽろ。羽色ニヨル。

鶉 なくれあ。或ハなつびい。

啄木鳥 ぼつ ぼくざり。又ハ番匠鳥トイフ。前者ハ木幹ヲ啄ク

音ニヨリ、後者ハ大工ノ如ク材木ヲ叩クニヨリ名ケラ

鳩 ちばご。固有産ノ意ニヨル。

地鷄 しばござり。

猫鳥 濱猫。

鶉 鷓鴣 みやう

あをばづく ほんくざり。又ハさつきざり。前者ハ鳴聲ニヨ

リ。後者ハ期節ニヨル。

鶉 よご。其鳴聲「よご五郎叩テタア」或ハ「よご、ボロ着

テ奉公ニ出タ」ト聞ユルニヨル。

鷄 一般ニ雄ヲぢぢ、雌ヲばばトイヒ、雛ヲひよこトイフ。

附 説 名

鶯 さんび 鶇 もんず

橘鳥 かきす 燕 つばくろ

蒿雀 あをんちんち 鷓鴣 みそっちよ

金翅雀 まひや 赤腹 あか ぽろ

鶉 ぎば 秧鷄 きゆうな

右ノ他あつぽざぎ(夕暮ヨリ夜ニカケ二三羽ツ、ギヤツノ類)のやま(かしらだかナラン)かがみちやう(かしらだかニ似テ田畑ノ間ヲ潜行シテ容易ニ逃ゲザルモノ、方

言隠ル、コトチ
かゞみトイフ）ナド當地普通ノ鳥類ナリ。

若柳地方ニ於ケル鳥類ノ方言

熊谷三郎

宮城縣栗原郡若柳地方ノ鳥類方言左ノ如シ。

あじさし類

あいさし

あいさ類

あいしや

おながども

おながじやく、さく、

こがも

たかぶ、こうらい、

よしがも

わき、

おしごり

おしかも、

まがも

なきがも、かも

ほゝじろがも

きんめはじろ、

はしびろがも

へらがも、はしがも、

はがも(羽鴨)夏羽冬羽ヲ異ニスル鴨類ノ總稱

よしごゐ

えほ、まをいごり、田植ゑほ(田植時渡

來スル故)

さゝごゐ

あんごう、

つぐみ

つぐ、

くろつぐみ

こっけい、(鳴聲ニテ)

しらつぐみ

しらつぐ、

けり

けーる、やまけり、

たけり

さこける、やつける、

ひくひな

かかんぎり、かねうち、

おほばん

あほあし、

ばんぎり(大鵲小鵲總稱)

鬼首、文字、花山村ニ於テハむさゝびヲばんぎり

ト云フ、

やまぎり

やまきじ、

きじ

さこきじ、

かわせみ、

しなをぎり、

あかせうびん

なんばんぎり、(嘴赤キ故)けろまん(鳴

聲ニテ)此鳥ノ鳴聲ヲキケバ雨降ルト云フ。

やませみ

かわがけす、

きじばこ

やまばこ、ででほほ、

きばこ

くらばこ、

けら類

けらつゝき、てらつゝき、

くわくこう

かっこぎり、かっこもっこぎり、

いかる

さんこうてう

まめぐず、さんくわ、

やまにはざり、きつぢはいはい、(鳴聲ニ

テ)

きつぢ(吉治ト人名化シテ呼ブ)

貧福鳥(此ノ鳥ガ屋敷内ニ營業セバ貧シ

キ家モ福持ニナルト傳ヘテナル故此名アリ)

リ)

れんじやく

おほよしきり

ほくじろ

まひわ

かわらひわ

にうないすどめ

あざり

むくざり

つばめ

をなが

きくいたゞき

も　　ず

えなが

うそノ雌

ひよざり

あほあししぎ?

ほしがらす

ひだか?

ご　　び

このはづく

もんず(ちごもず、あかもずヲ含ム)

じりこ、(鳴聲ニテ)

なべうそ、ひうそノ雌、

はなすひ、町馬、

かわちざり、ちざり、

やたがらす(須川岳ニテ)

あほめ、

さんび、ごーひ、

みくつく、

長尾鶏ノ雌ノ尾羽

理學博士　飯　塚　啓

東京上野動物園ニ飼養セル長尾鶏中ノ一雌鶏ハ本年二月ニ觀タル時ニ其尾羽中ノ長キモノハ二尺ニ達スルモノアリタリ。仍テ同園在勤ノ學友六郷君ニ尋ネタルニ此雌鶏ノ尾羽ハ昨年中ヨリ異常ノ伸長ヲ認メタルニ今ハ此ノ如シ、尙ホ益伸長スルナラント。而シテ此レハ一雄一雌ヲ飼養セルモノナルモ其ノ雄ハ足部ノ疾病ノ爲、交尾不可能ノ狀態ニアレバ或ハ此レガ原因トナレルモノカト云ヘリ。記シテ讀者諸君ノ高教ヲ仰グ。

まが^んノ頭部變り

理學士 黒田長禮

余ガ最近ニ
入手セシま
が^んハ寫眞
ノ如ク額、
頭頂ノ前部
及ビ眼ノ前
部ハ大部分
白色、頭頂
及ビ上頸ニ
モ少量ノ白
色斑アリ。
腮ノ大部分
ハ白色、顔
側喉及ビ前
頸ニモ白色
多シ。各部
分ヲ測定シ



まが^んノ頭部白變

タルニこかりがねニアラズシテ全クまが^んノ變リ物ナリ。測定
ヲ記セバ嘴峰五五粒、會合線五七・五、上嘴基部ノ厚サ二・五、翼四
一〇、尾一九(稍不完全)、跗蹠七五、上嘴ノ齒ノ數二十七個
アリ。上嘴爪ハ黑色ナリコハ全ク幼期ノ證ニシテ又體ノ下面ニ
モ黒斑ナキ點ヨリ見レバ二年又ハ三年兒ナラン。成鳥トナリタ
ル節ハ或ハ全頭部ハ白色トナルヤシレズ。珍ラシキモノ故茲ニ
掲ゲテ參考ニ供ス。因ニ此鳥ハ大正五年十一月手賀沼ニテ捕獲
シソノ後飼養シイタルモノナリ。

美濃ニテかうらいきじ獲ラル

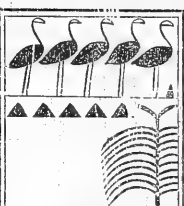
柳原要治

美濃國揖斐在ニテかうらいきじ雄一羽獲ラレタリト或剝製商人
ハ曰ヘリ。余ハソレヲ見タルニ確ニかうらいきじナリキ。恐ラ
ク飼養中ノモノガ逃レタルナラン。採集人ハ唯署長トノミニテ
名ヲ知ラズト。大正五年十一月廿九日聞見ニヨル。

天つ空ひゞつに見ゆる越の海の浪をわけても歸る雁かね

歸る雁紀の路や花のほころびし

源頼政
大江丸



質疑應答



質疑者 長崎縣立農學校 堀川 安市

一、問 大洋中ニ棲息シテ海鳥糞ヲ生産スル鳥ハ左ノ類ナリヤ

ペンギン類、水風鳥類、海燕類、信天翁類、鰹魚鳥類、

熱帶鳥類、鰺刺類、海雀類、

答 然リ。右ノ外伽藍鳥類、鷗類、鷗類等モ生産ス

二、問 右ノ各類中ニテ最モ多キモノハ何々ナリヤ。

答 右ノ各類ハ何レモ多數群集スル種類ナルニヨリ糞ヲ生産スル程度ニハ大差ナカルベシ。

三、問 *Holobrona garnoti* (Less.) ノ形狀、色彩、習性ノ大略。

答 學名ニハ *Pelecanoides garnoti* (Less.) ヲ用フル方普通ナリ。

形狀一見海雀類ニ似タルモ明ラカニ管鼻ヲ備フ故ニ海燕亞目ニ加ヘラル。體ノ上面ハ濃灰黑色ニシテ肩羽ニハ灰鼠色又ハ灰白色ヲ有ス。脇及ビ腋羽ハ暗灰色。尾羽ハ短カク黑色ニシテ先端灰褐色ナリ。體ノ下面ハ全部純白ナリ。全長九、嘴峰

〇・八、翼五・四五、尾一・四五、跼蹠一・三吋アリ。此種ノ習性ハ *Little Auk* (*Myiophila alle*) ニ似テ潜水モナシ、一直線ノ海雀的飛行モナス。食物ハ海面ノ小動物、魚類、並ビニ海藻類ナリ。本種ハ潜水ヲナス故ニ *Gannets Diving Petrel* ト稱セラル。產地ハ南米ノ西海岸ナリ。

四、問 *Plutocrocorus bougainvillii* (Less.) ハ智利ちんちや島ニ

産スト、日本産かはつトノ相違點。

答 此種ノ分布地ハ秘露及ビ智利ナリ。日本ノかはつトノ相違スル諸點ハ 第一、尾羽十四枚ナラズシテ十二枚ナルコト。

第二、體ノ下面ハ成鳥ニテモ常ニ純白ナルコト。第三、體ノ小形ナルコト。第四、翼ハ短カクシテ、十一・四—十一・八吋アルノミ。第五、尾羽モ短カクシテ四・三—四・五吋アルノミ。

五、問 *Pelecanus th. us Molina* ト *P. crispus Burch* トノ相違點。

答 *P. thagus* ハ秘露及ビ智利ニ産ス。*P. crispus* (がらんでう)

ト異ル點ハ 第一、喉囊ハ前頸ノ凡ソ中部迄達ス。第二、喉囊ハ黑色ニシテ蒼青色ノ線アリ。第三、嘴ノ基部ト額ノ兩側トニハ疣狀突起アリ。第四、後頸ノ羽冠ハ長サ二・五吋アリテ四吋ニ達セズ。第五、後頸ハ生殖羽ニアリテハ暗天鵝絨褐色ナルモ平常ハ白色ナリ。第六、胸及ビ腹ハ帶褐黑色ニシテ明

ナル白色ノ軸斑アリ。第七、趾ハ淡色ナラズシテ石板色ナリ。

六、問 Musk Duck (臺灣鶻)ノ原種ハ南米ぶらじる地方ニ産ス

ト、形状、色彩ノ大略。

答 Musk Duck ナル英名ハ現今鴨族ノ一種 *Fuligula lobata* (Sha-

w)ニ附シ、臺灣鶻即チぱりけんニハ Muscovy Duck ナル英名

ヲ用フ。然シ前名ノ方寧ロ正シキナリ。原種ハ *Carinus mosch-*

itta L.ト稱シめきしこヨリあるぜんたいん迄ノ間ニ分布ス。

形状、色彩ハ家禽トナレル臺灣鶻ト大差ナシ。即チ頭頸及ビ

體ノ下面ハ帶褐黑色、後頸ノ下部及ビ背ハ暗綠色ニシテ紫色

光アリ各羽縁黑色ナリ。上下兩雨覆及ビ腋羽ハ白色、次列風切

ハ金屬綠色ニシテ青色ヲ帶ブ。嘴ハ黑色ト淡紅白色トヲ混ズ

額及ビ裸出セル圍眼部ニハ隆狀突起アリ赤色ナリ。雌ニテハ

突起ナキカ又ハ少シ。趾ハ黑色。虹彩ハ褐黃色ナリ。

質疑者 岐阜縣 柳 原 要 治

七、問 鳥類研究ニ必要ナル良書、和書、及外國書、(但シ貴會

發行ノ書及日本鳥類圖說等ヲ除ク)

答 日本鳥類圖說上卷三〇頁ヨリ四一頁ノ間ニ掲ゲラレタル

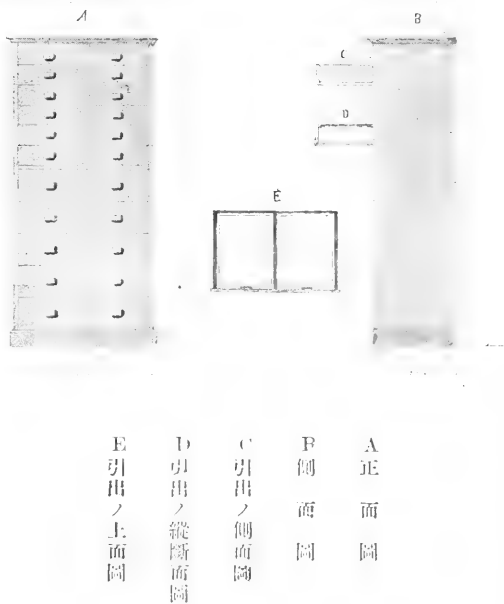
參考書、雜誌及ビ論文ハ全部必要ノモノナリ。然シ研究スル

鳥類ノ種類又ハ採集地等ニヨリテ其内ヨリ必要ノモノヲ選出

スルヲ可トス。

八、問 半製標本保存ニ就テ最モ理想的ナル箆筒ノ製法及寸法

ノ略圖(大學、博物館ノ箆筒)。



A 正面圖

B 側面圖

C 引出ノ側面圖

D 引出ノ縱斷面圖

E 引出ノ上面圖

答 圖示セルハ理科大學動物學教室所用ノモノニ依ル。材料ハ周圍ハ凡テ檜ノ能ク乾燥シタルモノヲ用ヒ引出ハ三方面及底面ハ桐ヲ用ヒ上面ハ桐ノ梓ヲ用ヒテソレニ硝子板ヲ張レ

リ。引出シノ段數及尺度ハ標本ノ大小ニヨリ伸縮シ決定ノコト。引出ノ取手ニハカーゴヲ挿入シテ格納標品ノ名稱ヲ揭示ス。周圍ノ塗料ハわにすニテ好ム色ニ塗ルベシ。

質疑者 沖繩縣首里 尙 景

九、問 鳥類標本ヲ集メタク候モヨキ標本店ヲ知ラズ困リ居リ候間御教示下サレ度候

答 標本店ハ各地ニ多キモ左ニ列記セルハ鳥類標本蒐集ニハ適當ナルベシ。

京都市木屋町二條南 鳥津製作所本店

東京市神田區錦町一ノ十八 同 東京支店

同 神田區五軒町一 動物標本社

同 神田區裏猿樂町六 長與標本店

質疑者 下谷日暮里 増 永 藤 三

十、問 「日本鳥類圖說上卷」鵲亞科ノ内ニ千鳥産むらさきしぎ (*Tringa striata* L.) ニ就テ少シノ記載モ無キ理由。

答 從來むらさきしぎヲ本邦産トシテ報告セル學者アリシモソハ本種ノ亞種ナルらしましぎ (*Tringa striata conesi* (Bridgway)) (日本鳥類圖說上卷二五六頁) ノ誤リニシテむらさきしぎハ日本鳥類中ヨリ除クベキモノナリ。從テ同圖說二五二頁ノ

八行目ハ之レヲ當然削除スベキモノナリ。

十一、問 「日本鳥類圖說下卷」卷尾ノ日本産鳥類目錄中ノ *Herodias torva* Giegl. & Salv. (朝鮮産) 及 *Alauda arvensis intermedia* Sw.

(朝鮮産) ノ兩種ガ同書續篇ノ朝鮮産鳥類ノ部ニ無キ理由。

答 前者ハ *Herodias tinorensis* (Cuvier) ノしにむト見テ差支ナキニヨリ除キタリ。後者ハはるてゐるニ氏ニヨレバ疑ヒアル種類ナリ然シ朝鮮ニ産スルハびりハ我内地産ト同一ナラズト云フ故ニ後者ノ名ヲひばりノ代リニ朝鮮産鳥類ノ部ニ加ヘ置クヲ寧ロ正當ト信ズ。因ニひばりニアリテハ翼長一〇三乃至一〇四耗、朝鮮ノモノハ一〇五乃至一一五耗アリト云フ。

十二、問 「日本鳥類圖說續篇」臺灣ノ部

二二三、かはらひわ *Chloris sinica* (L.) (正編五一五頁) トアリ、サレドモ正編五一五頁ニハ

四七七、おほかはらひわ *Chloris sinica kuwanchia* (Temminck)

トアレバ、兩種ハしのにむナルヤ又別種ニ候哉。

尙同編朝鮮ノ部、てうせんはしぶちめごり附記ノ項ニはしぶちめごり *Suthora wehliana* Sw. ニタトアリ、*Suthora wehliana* 種ハ臺灣産 *Suthora bulomachus* Sw. ト同一種ナリヤ。

答 臺灣産かはらひわハ嘗テ採集セラレシ報告アルモ *Chloris*

saita ノ二變種即 *minor* 及 *kawarabito* ノ何レニ屬スルヤ不明ナリシヲ以テ變種ヲ區別セズ單ニ *Ch. saita* ト記載セルモノニシテ從テ正編引用頁數ハ五一五及五一六頁トスルヲ適當トス。

Sulciroa webbianus ト *S. bulomachus* トハ全ク別種ニシテ前者ニハしづこちめざりト記シアルハ誤リニシテ後者ニ此和名ヲ用フベキナリ。因ニ朝鮮ニ産スル *S. longicauda* Campb. ト *S. fulvicauda* Campb. トヲ *S. webbianus* Gray ノしのにむナリト見ル方正當ナルガ如シ。カクスレバ朝鮮産ハ一種トナル。

十三、問「世界ノ雁ト鵠トがなんノ項ニ *Anser albifrons gambeli* ナル亞種ハ種ノしのにむト認メラル、由ヲ記載セラル、ガ *gambeli* ヲ別亞種ト認メラレタル諸學者ノ説ヲ御掲載願度。

答 本書四〇頁注意ノ項ニ記述セル通りナルガなるばざり氏ニヨレバ左ノ如シ。

A. 全長凡ソ二七吋、嘴峰一・九吋……………*Anser albifrons*
B. 全長凡ソ二九吋、嘴峰二・三吋……………*A. gambeli*

すたいねける氏ニヨレバ嘴ハ乳白色(死後肉色トナル)ニシテ前部及ビ嘴縁ニハ極メテ僅カナル薔薇色ヲ帶ビ、後部ニハ辛ウジテ認メ得ル程ノ青色ヲ帶ブ。嘴峰ニアル一、四方形斑、鼻

孔ノ縁、鼻孔ノ下部ノ一小斑及ビ下嘴ノ下半部ノ基部三分ノ二ハかごみうむ黃色腮角及ビ口角ノ裸出部モ同色ナルモ淡色ナリ。額ニ沿ヘル一縦線ハ淡褐黃色、尾ハ乳脂色、圍眼部ノ出環ハ暗褐灰色。脚ハ眞かごみうむ黃色。蹼膜ハ多少淡色ニシテ一層黃色ナリ。趾爪ハ角白色。虹彩ハ暗褐色ナリ。

ざれざー氏ハすたいねける氏ノ記載ト殆ド同一ノモノヲ記シタリ同氏ノ測定ハ「世界ノ雁ト鵠」四二頁上表最下段ニアリ。以上ノ他ノ諸學者ニシテ亞種又ハ別種ト認メタルハ上記ノ諸點ニアルノミ。

十四、問「鳥第二號」中ノ「信濃ニ於テ捕獲セル稀ナル三種ノ鳥類ニ就テ」ノ項ノ終信濃ニ新產地ヲ得タル數種ノ名稱ノ内
a. *Muscicapa parva hyperythra* (Cab.) おみじろきびたき
b. *Loria leucopterus* Gm. なぎいすか

ト有リ前者ハ誤ニハアラザル哉後者ハ *Loria bifasciata* (Brehm) ノしのにむに候哉。

同書「神奈川縣下鳥類採集」ノ採集品目錄中ニアルおはやぶや(*Falco peregrinus pealei* (Bridgway))ナル亞種ニ就テ委シク説明願度。

答 まみじろきびたきノ學名ハ質問ノ通り誤リニシテ *Muscicap-*

pa. marissina tricolor Hartl. ト訂正ス。なきいすかノ學名ハ

Toxia leucoptera bifasciata (Brehm) ナ用フルヲ正當ト信ズ。 *L.*

leucoptera leucoptera Gm. ナルモノハ北米主産ノモノナリ。因

ニ *L. leucoptera* トアレドモ字ヲ削際スベシ。

おほはやぶさノ記載 はやぶさに似タルモ頭頂ハ左程暗黒色
又ハ帶黒色ナラズシテ背ト同ジク灰鼠色ナリ。體ノ下面ニア
ル暗色ノ横帶ハ其中廣シ、幼鳥ハ著シク暗色ニシテ體ノ上面
ノ各羽縁ニ鏽色ヲ有スルコトナシ。體ノ下面ハ深褐色ニシテ
巾廣キ縦斑アリ時トシテハ殆ンド黒色ナリ。嘴ハ著シク強大
ナリ。翼長三一七—三三二耗(雄)、三六六—三八五耗(雌)ア
リ。因ニ此亞種ハ我國ニテハ千島及ビ北海道ニテ獲ラレタル
コトアルノミ、故ニ神奈川縣下ニテ採集セラレタルニ就テハ
疑ヒナキ能ハズ。

十五、問 うさ(*Pyrrhula pyrrhula griseiventris* Latr.) 及あかうそ

(*P. P. rosacea* Seeb.) 兩種ノ雌ニ於ケル鑑別法ヲ御教示願度。

答 此兩種ハはるてるこ氏ニヨレバ同一ノモノナリト云ヒ又
川口法學士(動物學雜誌大正六年一月號二二頁參照)ノ研究ニ
ヨルモ老幼ノ爲メノミニテソノ區別ナシト云フ。此說ヲ採用
セバ從テ雌ハ兩種類共同一ニシテソノ差ナキモノナリ。

質疑者 福岡縣若松市 藤 原 勝

十六、問 同一ノ鳥ニシテ學名ヲ二ツ以上ヲ有スルモノ有之候
ハ如何ナル理由ニ候ヤ簡單ニ御説明被下度候。

答 同一ノ種類ニ二人以上ノ學者ガ各自ニ新種類トシテ同時
若シクハ相前後シテ異リタル學名ヲ附シタル場合ニハ同一鳥
類ニ二以上ノ異學名ヲ有スルコトナル。又或鳥類ニ最早學
名ノ存スルコトヲ知り居ルモソレト異點アリトシテ(實際ハ
同一種類デ例ヘバ老幼ノ相違又ハ期節の羽色ノ相違等ノ場合
ヲ意味ス)新ニ命名ヲナセル場合ニモ同一鳥類ニ二以上ノ異
リタルノノ學名ヲ有スルコトナル。然シ前記二例ノ内何ゾ
レニテモ早く發表セラレシ學名ノ方先取權ヲ有スル故以後其
鳥類ノ學名トシテハ早く發表セラレシモノヲ採用スベシ。例
ヘバいすかのノ學名トシテ *Toxia curvirostra* Linn. ハ一七五八
年ニ發表セラレ *Toxia europaea* Macgillivray ハ一八三七年ニ
發表セラレタルニヨリ前名ノ方ニ先取權アルモノトス。後名
ハ前名ノしのにむトナルナリ。

十七、問 或一種ノ鳥ニシテ屬名ト種名ト同ジクシテ何レガ屬
名ナルヤ何レガ種名ナルヤ判名セザルモノ有之候其理由何ニ
候ヤ。例、*Miliaria miliaria* (Linn.)

答 質者ノ例ニヨシバ始メニ書キアル *Miliaria* ハ屬名ニシテ

次ニアル *miliaria* ハ種名ヲ表ハスナリ。此種ガ斯クノ如ク屬種名共同一文字ニテ示サル、ニ至リシハ *Emberiza miliaria*

Tinn. ナル學名ノ *Emberiza* ガ鳥類ノ屬名トシテ不正確(屬ノ記

載ニ一致セザルトキ)ナリト認メタル故 *Emberiza* ヲ用ヒズシ

テ新タニ *Miliaria* 屬ヲ採用セシ爲メ屬種名同一ノ文字ニテ表ハスニ至レルナリ。

十八、問 動物學名ハ凡テ屬名ト種名ト命名者名トヲ並記スル外變種ニハ尙他ニ附記スベキモノニ御座候ヤ之亦御教示願上候。

答 變種ヲ表スニハ例ヘバあかすじいすかヲいすかノ變種ナリトセバ *Loric curvirostris* var. *rubrilacincta* Bp. & Sch. ト書キ表ハスコト得。然シ變種トカ亞種トカ云フハ各學者ノ見解ニヨリテ一定セルモノニ非ラザルガ故ニ同一ノ鳥類ニテモソノ學名ハ學者ニヨリ一定セヌモノト知ラレタシ。

質疑者 山口縣長府 桂 長次郎

十九、問 去ル二月末當地ニテあかやまざり(雄)ヲ獲候コレハ布分上異例ト致ス可キニ候ヤ一衣帶水ヲ以テ九州ニ接スル當地トシテハ寧ロ珍トスルニ足ラザル程海峽ハ分布上ノ要件ト

相成ラズ候ヤ。

今あかまざりト申上候モノ、尾羽ニ付疑問有之候。ソレハ長キ尾羽ノ大體ハあかやまざりノ特點ヲ有シ居候ガ先端ニ於テ横帶竹節狀トナリ又短キキ尾羽ハ横帶皆竹節狀ヲ呈シ居候事ニテあかやまざりトやまざりトノ交雜セルモノカトモ存ジ候ガ如何ニヤ、尾羽ヲ除キタル諸點ハ全然あかやまざりニ候

答 あかやまざりハ九州全體(但シ南部ハこしじろやまざり)ニ分布シ異例トシテハ伊豆地方ニテ獲ラレタルコトアリ其他本州南部ノ地ニ産スルモノハ未ダ充分ナル調査ナキモあかやまざりノ方多カラント信ズ。故ニ長府ニテ此種ガ獲ラレタルハ寧ロ當然ノコトナルベシ。以前ニ山口縣下ニテ此種ノ捕獲セラレシ例アリ。馬關海峽ノ如キ幅ノ廣カラザルモノニテハ對岸ニ於ケル分布上ノ差非常ニ大ナリトハイヒ難シ。元來やまざり類ハ地方的羽色ノ變化多キモノ故各個體全部同一ノモノハ寧ロ少カルベク、尾羽ノ横帶ノ交互ナルハあかやまざリノ特點ニ相違ナキモ九州産ノモノニシテ尾羽全部ガ濃色ナルニモ拘ラズ横帶ハ交互トナラヌ例多シ。故ニ交互トナラヌモノアリテモ決シテあかやまざりニ非ラズトハ云ヘズ從テ同一ノ尾羽ニテモ横帶ガ交互セル部分ト竹節狀ノ部分トアリ得ルモノニシテ雜種ニアラズ。(以上十九件 黒田長禮回答)



雜報

□本會第七回例會 三月二十五日午後五時ヨリ本會第七回例會ヲ神田淡路町多賀羅亭ニ於テ開會左ノ諸氏ノ出席アリタリ。

(來會順)

寺岡直 黒田長禮 内田清之助 波江元吉 森田淳一 吉田
双之助 鷹司信輔 靱山徳太郎 松平頼孝 丘淺次郎 岡田
信利 飯島魁

當日ノ列品ハ鳥類ノ畸形及「變リ」(白變種、黒變種等)ノ標本ノ蒐集ヲ主トシ其他十數種ノ稀品ノ出陳アリタリ其目錄次ノ如シ。

うづら(腹部黒變)つぐみ(一部白變)おほかはらひわ二個(一部白變及赤變)あざり(一部白變)かしらだか二個(一部白變)ひよざり(褐變)すずめ三個(褐變、一部白變)しぎ二個(褐變)せぐろせきれい、きじ二個(一部白變雄變)やまざり(一部白變)きじ、やまざり雜種二個すづめ(嘴畸形)るぞおほかけら(嘴畸形)(以

上動物學教室出品)。

きじ、やまざり雜種 めじろ三個(褐變、白變、黒變飼料ノ爲メ變化ヲ來シタルモノ) すづめ二個(白變)はくじろ二個(一部白變)こるり(一部白變)かしらだか(一部白變)いすか(黃白變)たしぎ(白變)くるな(翼羽白變)きくいただき(腹部赤變)こうぞくかもめ(黒變)あをじ(褐變)(以上平頼孝氏出品)。

しまつ(白變)おしざり(頭部白變)まがん(頭部白變)寫眞、こがも(前頭白變)きじ(灰變)きじ雌(雄變)やまざり(白變)うづら(灰變)しらこばと、ぎんばと雜種(白變)せぐろせきれい(頭部白變)ひよざり(灰白變)ひよざり(褐變)つぐみ(褐變)こむくざり(頭部黒變)こむくざり(頭部白變)たいわんきんばら(翼羽白變)あざり(頭部白變)のじこ(褐變)すづめ(白變)たいわんすづめ(褐變)なみえけら、おほかけら中間種(大和洞川産)をがわこまざり、あめりかこがも(羽田産及亞米利加産)(以上黒田長禮氏出品)。

こほりがも雌雄(朝鮮産)ひめささごる(埔里社産)ひめふくろう(埔里社産)ちやばらおほるり(埔里社産)なきいすか(二本松産)たしぎ白變(千葉産)(以上靱山徳太郎氏出品)。

めじろ(黃變)めじろ(黒變)えぞおほかけら(北海道及樺太産)

おほあかけら(本州産)なみえけら(本州、四國、九州産)おーす
さんけら(琉球産)(以上内田清之助氏出品)。

□松平家鳥類標本室 本會評議員子爵松平賴孝氏鳥類標本室ハ
豫テ小石川久堅町同家邸内ニ新築中ノ處昨年十二月其一部落成
セリ、上圖ハ該標本室ノ寫眞ニシテ建坪四十坪階下ハ研究室製
圖室剥製室ノ三室ノ外木剥製標本ノ陳列ニ當テラレ階上ハ全部
研究用標本ヲ以テ充サレ此室所藏ノ標本ノミニテ其數八千餘
點ニ達シ本邦産ノ種類其大部ヲ占ム。尙本年中ニハ右標本室ノ
後方ニ一室増築ノ豫定ナリト云フ。

□黒田理學士ノ朝鮮採集 本會評議員理學士黒田長禮氏ハ朝鮮
總督府ノ委囑ニ依リ朝鮮鳥類ノ調査ヲ兼ネ同地産鳥類採集ノ目
的ヲ以テ本月四日午後四時新橋發列車ニテ出發セラレタリ。調
査並ニ採集ノ結果ハ次號ノ本誌上ニ發表セラル、筈ナリ。

□内田清之助、仁部富之助兩氏著『鳥類ノ渡リ並ニ蕃殖期』東
京動物學會發行ノ同書ハ本月末頃發行ノ豫定ニテ發行ノ上ハ本
會ニ於テ動物學會ヨリ其一部分ヲ讓受ケ會員諸君ニ配布スベシ
但シ經費ノ都合上乙種會員諸君ヨリハ定價ノ半額ヲ申受クベキ
ヲ以テ右ノ配布ヲ受ケントスル方ハ本會事務所ニ申込マレタシ
詳細ハ本誌廣告欄ニアリ。



□鳥類論文配布 内田清之助氏著左記ノ論文別刷(動物學雜誌掲載)ハ著者ノ手元ニ尙少數ノ殘部アル由ニテ會員中希望ノ諸君ハ同氏迄申込マルレバ配布ヲ受クベシ(但シ三部以下二錢三部以上四錢郵税ヲ要ス)

一、日本產鵲類索引

二、誤ラレタルはちくま

二、杜鵑類ノ卵ト胚鵲(圖版付)

四、じよん、ぜーむす、おーじゆほん傳(圖版付)

五、初メテ本邦ニテ獲タル二種ノ鳥類

六、硫黃島產鳥類數種ニ就テ

七、千島產鳥類目錄

八、鳥學ニ用キラル、諸術語(鳥學會撰定語解説)

□鷹司學士著『飼ひ鳥』 本誌廣告欄ニ見ル如ク同書ハ本月末

頃裳華房書店ヨリ出版セラルベシ。内容ノ詳細ハ次號ニ於テ紹介スベシ。

□入 會

本郷龍岡町二十七番地近藤仙太郎方

青山北町七丁目三十四番地立花館内

岸 喜 鑑

吉田 雙之助

□退 會

新潟縣中頸城郡高士村字森田

丸山 悌三

□轉 居

沖繩縣首里大中

尙 景

京橋區明石町三十一番地

靱山 德太郎
榎本 佳樹

和歌山縣伊都郡高野山四一八番地

□『鳥』第三號正誤

頁 段 行

誤

正

一三 下 八、九

定住座臥

行住座臥

二七 下 一四

此ハ既ニ他機ニ

此ハ既ニ他書ニ掲載セル
ヤモ知レザレド重複セル
點ハ予ノ不蒙ナル爲ト思
意セラレタシ

二九 上 九

みづく

みづく

下 一

あかだんな

あかだんて

四 九

(但馬方郡)

(但馬美方郡)

三〇 下 九

おほしまいこま

おほしまいこま

三九 下 九

あまうそ(あ)

あまうそ(あ)

三九 下 十

長興 鼎

長興 鼎

三九 下 十

永井晴吉

永井晴吉

三九 下 十八

北海道師範學校三島庄次郎

札幌博物館村田莊次郎

三九 終行ニ福島縣安積郡幸野村

小田成知

小田常太郎

五七

日本鳥學會規則

第一條

本會ハ日本鳥學會ト稱ス

第二條

本會ノ事務所ハ東京帝國大學理科大學動物學教室ニ置

ク

第三條

本會ノ目的左ノ如シ

一鳥類ニ趣味ヲ有スルモノ、懇親ヲ計ルコト

一鳥類ニ關スル學術ノ進歩ヲ促スコト

一鳥類愛護ノ思想ヲ普及セシメ鳥類ノ保護増殖ヲ計ル

コト

第四條

本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ評議會ノ決議ヲ經テ隨

時種々ノ事業ヲナス

一當分一年ニ二回雜誌『鳥』ヲ出版スルコト

一臨時出版物ヲ刊行スルコト

一毎年春秋二回會合シ鳥類ニ關スル講演談話ヲナシ同

時ニ鳥類ニ關スル圖書標本其他ノ展覽會ヲ催ス

一鳥學の探檢ヲ舉行スルコト

第五條

本會々員ヲ分チテ甲種會員ト乙種會員ノ二トス

一甲種會員ハ會費トシテ一ケ年金貳圓四拾錢ヲ納ムル

コト

一乙種會員ハ會費トシテ一ケ年金壹圓貳拾錢ヲ納ムル

コト

第六條

甲種會員ニハ雜誌『鳥』、臨時出版物及ビ動物學雜誌ニ

掲載セル鳥類ニ關スル論文ノ別刷ヲ配布ス

乙種會員ニハ雜誌『鳥』及ビ動物學雜誌ニ掲載セル鳥類

ニ關スル論文ノ別刷ヲ配布ス、臨時出版物ハ定價一圓

ヲ限り無代配布ス其他ハ定價ノ三割引ヲ以テ講讀スル

ヲ得

第七條

本會ニ入會セント欲スルモノハ住所氏名職業ヲ記載シ

本會ニ申込ムヘシ但甲種會員ノ入、退會ハ評議會ノ決

議ニヨル

第八條

本會ニ會頭壹名幹事壹名ヲ置ク

第九條

本會評議會ハ會頭幹事及ビ會員ノ互撰ニヨル評議員若

干名(甲種會員)ヲ以テ組織ス

東京理科大學動物學教室内

日本鳥學會

役員

會頭 飯島 魁

幹事 内田清之助

評議員 飯塚 啓

理學博士 飯塚 啓

理學博士 飯塚 啓

理學博士 飯塚 啓

理學博士 飯塚 啓

子爵 飯塚 啓

投稿及質問規定

(一) 鳥類ノ習性、渡リ、方言等ニ關シ廣ク各地方會員ノ投稿ヲ歡迎ス

(二) 既掲原稿ハ返戻セズ、但シ挿畫ニ使用セル寫眞及ビ圖畫ハ

希望ニヨリ返戻スベシ

(三) 原稿ハ紙ノ表丈ヲ使用シ一行、二十五字詰ニ認メラレタシ、

假字ハ片假字ヲ用キ動物名及外國語ハ平假字トス

(四) 挿畫ハ寫眞以外ノモノハ墨汁ニテ認メラレタシ

(五) 原稿ハ東京赤坂區福吉町黒田長禮氏宛郵送セラレタシ

(六) 本會ハ鳥類ニ關スル質疑ニ應答ス、質問ノ事項ハ返信料封

入日本鳥學會宛郵送セラレタシ

(七) 質問解答ハ一般讀者ニ有益ナリト認ムルモノハ本誌ニ掲載

スルモ其他ハ質疑者ニ直接解答スルモノトス

大正六年四月十二日印刷

定價金貳拾五錢

大正六年四月十五日發行

禁轉載

發行所

東京理科大學
動物學教室內

日本鳥學會

振替口座東京六五九九番

東京神田區
表神保町

東京堂書店

發賣所

東京日本橋區
十軒店町

裳華房

東京市日本橋區兜町二番地

編輯兼
發行者

木下憲

東京市日本橋區兜町二番地

印刷人

神谷岩次郎

東京市日本橋區兜町二番地

印刷所

東京印刷株式會社

内田清之助
仁部富之助 著

鳥類の渡り及繁殖期

本邦産鳥類の「渡り」並に繁殖期に就ては、其利害の關する所廣く、夙に調査せられざるべからずして、而も未だ信賴すべき報告の公表せられたるあるを聞かず。これ吾人の甚しく遺憾とせる所なり。今や著者等の慚からざる努力の結果、此一篇成る。材料は精選せられたり、調査は鄭重を極む。敢て斯學の同好者並に江湖の實務家に薦めんとする所以なり。

資料 (一)中央氣象臺が全國より蒐集せる未刊行報告(二)農商務省が全國地方廳及大林區署より蒐集せる未刊行報告(三)故小川三紀氏の觀察手記(四)著者等の觀察手記(五)既刊信賴するに足るべき總ての記錄

内容 (一)緒言、觀測規約、『渡り』の期節と經路(二)各種鳥類『渡り』の期節の統計的研究並に其生態的氣象學的考察(三)各種鳥類繁殖期の總括的調査及氣象との關係。以上三章、頂を分つ事四十一、數十個の詳細なる表を附して説明す。特に鳥學專攻者以外の便を計りては、主要鳥類約三十種の寫生圖を挿入す。

體裁及定價 菊判光澤紙約百二十頁、附表十一枚、插畫三十二個、假綴。定價郵稅共一圓

發賣豫定 發賣部數は極めて少數に限る。四月下旬本誌大賣捌所にて發賣の豫定

會員諸氏に告ぐ 臨時刊行物なるを以て會員一般には頒布せず。便宜書肆より購入せられ度し。但し本會内、永澤六郎宛前金九十錢(一割引)添申込あれば一括して取次ぐべし。申込三月末日限、會員に限る。

東京動物學會

日本鳥學會會員諸氏に告ぐ

前記東京動物學會發行『鳥類の渡り及繁殖期』は本會に於て動物學會より若干部を譲受くるの約あるを以て發行の上は左の規定により會員諸氏に頒布す

一、甲種會員には無料にて頒布す

一、乙種會員には定價の半額(五十錢、郵税不要)にて頒布す。入用の方は代金を添え(二錢郵券代用不苦)本會宛請求せられたき事

一、右特權は會員一名に付一部に限る事

一、本會會員外及會員にして前記の一部以外の注文は金一圓(郵税不要)のこと

日本鳥學會

□ 錄目物行刊時臨會學鳥本日 □

獸醫學士 内田清之助 著
第一篇 鸛類圖說

絶版

獸醫學士 内田清之助 著
第二篇 海産保護鳥類圖說

原定 原色版三枚
郵稅 價四 四拾錢
附錢

理學士 黒田長禮 著
第三篇 世界の鴨

原定 原色版一枚寫眞版五枚
郵稅 價七 十 五 錢
附錢

理學士 黒田長禮 著
第四篇 世界の雁と鵠

原定 原色版四枚寫眞版五枚
郵稅 價八 貳 錢
附圓

仁部富之助 著
第五篇 郭公の蕃殖に關する研究

寫真タイプ版一枚地圖一枚
定價 金卅五錢 郵稅 四錢

理學士 黒田長禮 著
第六篇 臺灣島の鳥界

附 菊地米太郎述 臺灣鳥類の習性

原定 原色版一冊繪數枚
寫眞 價四拾錢 郵稅 四錢

所 捌 賣

神日 田本 區橋 表區 神十 保軒 町店 東裳 京華 堂 書 房

本邦斯道唯一の成書

理學士 鷹司信輔君著

最新刊

飼ひ鳥

菊判特製美本全一冊
着色口繪三葉入
精巧圖版百數十個
正價金貳圓參拾錢
小包料金拾八錢

鳥の鳴音を聞き、又其容姿を愛するは娛樂として最も興趣多き事のみならず、動物學上又最も緊要なる研究事項なりとす。然るに本邦未だ斯學に關する成書なく、爲に斯道の士其指針を得るに苦しむ。著者學理に實地に斯道を極むる事歳あり。今や其蘊蓄を披瀝して本書を上梓す。筆を總說に起し、飼鳥に關する一般管理食養法より餌・換羽・病氣等を説き、各論に至りては各飼養鳥百八十餘を科目に分類し。所屬を定め、一々其の記載・體型・產地・飼養事項等を詳述せり。所說創新・行文平易通俗にして一讀直に實地飼鳥上に活用するを得べく、圖版又精麗豊多にして机上の美觀たるに足る。斯道の士一般家庭並に動物學上の參考書として各種學校必須の寶典也。

十軒店 町
電話 本局 千壹

裳華房發兌

東京 日本橋
振替 東京 七百七



鳥

第
五
號

大正六年十二月發行

日本鳥學會

鳥 第 五 號 目 次

しましじうからトいゝじまめじろ(口繪第六原色版).....理學士 黒田長禮氏原圖
横山慶次郎氏筆

論 說

白玉山表忠塔ニ衝突スル鳥類ニ就キテ.....脇山三彌

郭公ノ繁殖トおほしきリトノ關係.....仁部富之助

平安南北・黃海三道沿岸採集鳥類目錄.....森 爲 三

高野山ニテ獲タルおほひづなざり.....榎 本 佳 樹

鹿兒島地方ノ鳥類ニ就テ.....堀 井 榮 吉

朝鮮及び對馬產鳥類ノ一新屬・三新種(英文).....理學士 黒田長禮(後附)

講 話

野外鳥學ノ一資料(其一).....理學士 石 井 重 美

江戸時代將軍家ノ狩獵(其一).....永 井 碌

雜 纂

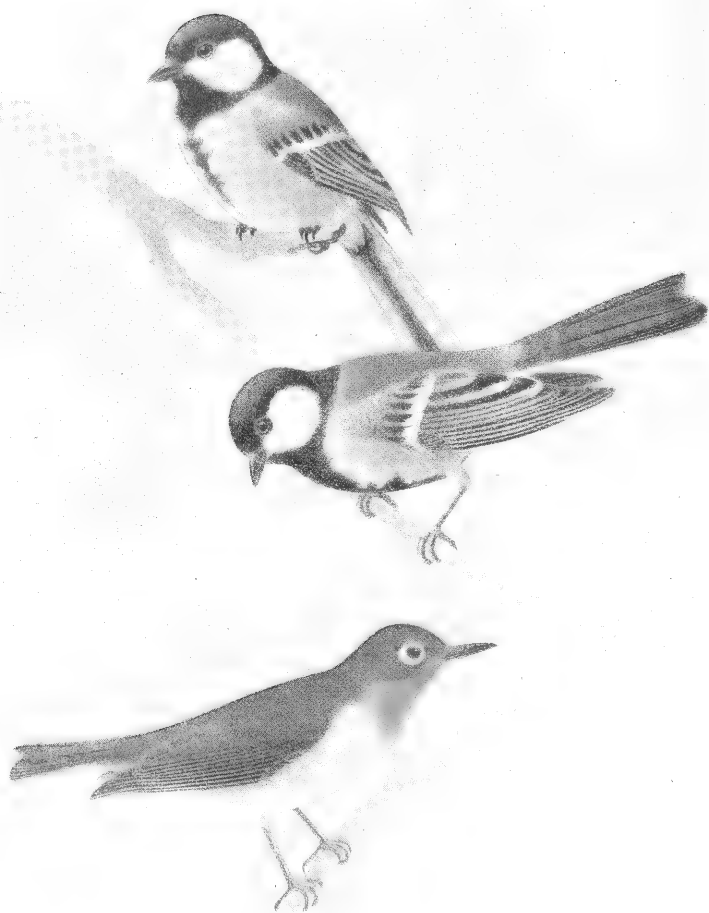
二三鳥類ノ食物(杵山德太郎) こちざりノ巢ト卵(仁部富之助) かはせみノ巢内ノ魚骨ニ

ツキ(法學士川口孫治郎) 棕鳥の營巢及ビ育雛觀察(鴉ノ家) 雌雄兩性ノかなりや(杵山德

太郎) 東京郊外ノ白鷺ノ群(鴉ノ家) 阿久根ノ鶴ノ懷舊(脇山三彌) 雀ノ害蟲驅除例(仁部

富之助) 雀群ヲ殪ス公主領附近ノ大降包(脇山三彌) 東京飼鳥組合小賣相場(杵山德太郎)

質疑應答 九 件 (内田清之助、黒田長禮、杵山德太郎回答) 雜 報 十二件



しましじうから

Parus major quekpartensis, n. subsp.

Fig. 1 ♂, Fig. 2 ♀

いさじまめじろ

Zosterops palpebrosa iijima, n. subsp.

Fig. 3 ♂

$\frac{2}{3}$ nat. size

墜鳥ノ表塔ノ竣工ハ明治四十二年十一月二十八日ニシテ、墜鳥ノコトハ四十四年ヨリ漸々人ニ知ラレタリ。四十四年九月飯塚博士ノ來旅アリシ時、民政長官ノ厚意ニヨリテ塔ノ守衛ヨリ墜鳥ヲ取集メ同博士ニ送付スルコト、ナリシモ、墜鳥ハ春又秋期ニ



旅順白玉山表忠塔

於テ僅ニ數日ノ間ニアルノミナルヲ以テ、期待セシ如キ結果ヲ得ザリシナリ。

畏クモ 今上陛下ノ御下間ニヨリテ時ノ關東都督ヨリ墜鳥約二十羽ヲ剥製シテ獻上サレタルコトアリ。之レ大正四年五月ナリ。旅順ノ地ハ遼東半島ノ西南端ニアルニヨリ、春秋二期ニ於テ候鳥ノ此地ヲ經テ北征又ハ南行スルモノ頗多カルベク、而シテ塔ノ燈光ヲ望ミテ突進スルモノハ其一部分ニ過ギズ。塔ニ衝突シテ死スルモノハ其又一小部分タリ。其死シタルモノ、一部分ノミ吾人ノ手ニ得ラレテ研究ノ材料トナルノミ。

墜鳥ノ死因 最モ普通ナルハ嘴ヲ折りタルモノナリ。其他之ニ啮ギテ多キモノハ嘴ハ完全ナルモ頭骨ノ碎ケタルモノ、或ハ嘴及頭骨完全ナルモ腦ノ全部ニ出血セルモノ、眼球ノ飛出デタルモノ等アリ。翼ノ一部又ハ全部ヲ折りタルモノハ頗多シ。背柱ヲ挫

キタルモノ、大腿ノ脱臼セルモノ少カラズ。跗蹠ノ折レタルモノ或ハ胸ヨリ腹マデ一直線ニ裂ケタルモノアリ。塔上ノ避雷針又ハ廻廊ノ鐵柵ニ觸レタルモノナルベシ。或ハ負傷シテ飛ブコト能ハザルモノヲ多少隔リタル地ニ見ルコト多シ。

小禽ハ總テ嘴ヲ傷ケ或ハ腦出血ニテ死セリ。しぎ以上ノモノニ至リテ四肢脊柱等ヲ傷ケタルモノアルヲ見ル。

墜鳥ノ時期。殆ンド五月及九月ニ限ルモノ、如シ。而シテ月光アルトキニハ之レ無ク、星光アル夜ハ少シ。曇リタル闇夜ニシテ多

少ノ風アルトキニ多キガ如シ。濃霧ノ夜、暴風雨ノ夜ニモ多少コレアリ。七八月及一二月頃ハコレ無キニシモアラザルモ少數ナリト云フ。墜鳥ノ報告ヲ得タル日時ハ左ノ如シ。

明治四十四年五月十七日月齡三日、同年九月十六日月齡二十三日此夜ハ特ニ多數ニシテ拾ヒ取ルト云フヨリモ寧ロ掃キ集メルト云フ位ナリシト云フ。同九月二十五日月齡三日、大正四年五月十七日月齡三日。同月十八日月齡四日、以上ハ孰レモ多數即數百羽ノ墜鳥アリシト云フ。

大正六年ニテハ五月十九日月齡二十八日ノ夜初メテ墜鳥ヲ拾ヒ集メタリトノ報ニ接ス。數年前ニ比較スレバ甚少シ。翌二十日ノ夜モ墜鳥アルベキヲ察シ二十一日早曉人ヲ遣ハシテ取ラシム。塔ノ基部ノ正南側ニ四羽、東南側ニ一羽、西南側ニ一羽アリシノミ皆しまゐをじナリ。其翌日ハ塔ノ北側ニほゝあか一羽ヲ得タルノミ二十二日以後ハ全クコレヲ得ズ。

越テ八月十九日月齡一日ノ夜墜鳥四十羽ヲ得、東風強カリシ爲ニ盡ク西側ニ吹き落サレタルモノナリ主トシテまぎいせんにうナリ。

春期ニハ南方ヨリ突進シ來リ秋期ニハ北方ヨリ突進シ來ルガ如ク思ハルレドモ確言スルコトヲ得ズ。而シテ春期モ秋期モ同一種ノ鳥ナルヲ普通トス。近年著シク墜鳥ノ減少シタルハ一般ニ渡來スル鳥族ノ減少シタル爲カ、或ハ鳥自ラノ經驗ニヨリテ衝突ヲ避ケンストスルニヨルカ。

墜鳥ノ種類。鳴禽類最多シ。しぎ、かも等ノ類モアレドモ僅數ナリ。大形ノ鳥ハ人ニ拾ヒラレ易キコトモ其一因ナルベシ。一夜ニシテ數百羽ノ墜鳥アルモ其種類ハ十種ヲ超エズ。已往數個年間得タルモノ、名稱ヲ列記シ併セテ多寡ノ概數ヲ百分比ニテ現ハセ

バ左ノ如シ(但シ多く得ラレシモノ、順、又左表中ニテ是迄ニナキ和名ハ凡テ臨時刊行物第七編中ニアリ)。

し	ま	あ	む	じ	一五〇	こ	よ	し	き	り	四五	つ	め	な	が	ほ	と	じ	ろ	〇四									
せ	じ	ろ	た	ひ	ば	り	一一〇	ほ	と	あ	き	か	三〇	し	ま	も	ず	〇二											
ま	き	の	せ	ん	に	う	八二	こ	さ	め	び	た	き	二五	ま	じ	ろ	つ	め	な	が	せ	き	れ	い	〇二			
し	べ	り	あ	せ	ん	に	一八	ぺ	き	ん	ひ	が	ら	二五	つ	く	し	が	も	〇一									
ゑ	ぞ	せ	ん	に	う	七五	の	こ	ば	し	び	ん	す	二〇	た	が	は	こ	ま	ど	り	〇一							
し	ま	せ	ん	に	う	七〇	あ	り	ご	す	き	れ	い	一〇	ゑ	ぞ	び	た	き	〇一									
こ	ま	み	じ	ろ	た	ひ	ば	り	七〇	よ	こ	ふ	り	せ	き	れ	い	一〇	は	し	ぶ	と	お	ほ	よ	し	き	り	〇一
こ	む	し	く	ひ	五〇	し	べ	り	あ	ま	み	じ	ろ	一〇	お	ー	ち	う	〇一										
お	ほ	よ	し	き	五〇	さ	ん	せ	う	く	ひ	〇一	四																
し	ま	の	じ	こ	五〇	か	は	せ	み	〇四																			

お	は	ゑ	な	た	つ	ま	し	つ	〇一
ー	し	ぞ	が	な	く	み	め	め	〇二
ち	ぶ	お	は	こ	し	じ	な	な	〇一
	と	ほ	こ	ま	が	ろ	が	が	〇二
	お	よ	ま	ど	し	つ	せ	せ	〇一
	ほ	し	き	り	ぎ	め	き	き	〇二
	し	き	き	き	り	い	れ	れ	〇一
	り	き	き	き	り	〇一			〇二
	〇一								〇二
	〇二								〇三
	〇三								〇四
	〇四								〇五

(終)

郭公ノ繁殖トおほよしきリトノ關係

仁 部 富 之 助

予ハおほよしきリガ自身ノ産ミタル卵ノ箇數、形狀、大サ及ビ色彩等ニ對スル記憶若シクハ是レガ識別能力ノ程度ヲ知ランガ爲メ
 少シク調査スル處アリ、依ツテ左ニ其ノ結果ヲ報告ス。而シテ本調査ヲ行フニ至リタル動機ハおほよしきリハ彼ノ郭公ノ繁殖上其
 假親トシテ種々ノ關聯ヲ有スルヲ以テ是等ヲ解決スル上ニ必要ノ資材ト信ジタルガ爲メナリ。依ツテ本篇ノ主題ヲ特ニ「郭公ノ繁
 殖トおほよしきリトノ關係」トセリ。サレバ順序トシテ先ヅ郭公ノ繁殖トおほよしきリトノ關係ヲ略記シ然ル後該調査ノ成績ヲ述
 ブルコト、スベシ。

一、おほよしきリト郭公ノ繁殖

二、おほよしきりが郭公ノ假親トナルベキ機會ノ少ナキ由因

おほよしきりノ巢中ニ郭公ノ卵雖ヲ藏スル以上ノ四例ハ二百餘有巢中ニ發見セルモノニシテ是レヲもずノ巢ノ四〇〇にあかちずノ二二一% (大正四年度ノ調査) ヲ混在スルニ比スレバおほよしきりハ同ジク郭公ノ假親トナリ得ルニ均ラズ其割合ノ著シク少キコトヲ知ルベク併カモ郭公ノ繁殖區域(予ノ觀察地ニ於ケル)ニ於テハ鴉類ヨリモおほよしきりノ方遙カニ多ク棲息構巢ス。果シテ然ラバ郭公ノ假親トシテ鴉類トおほよしきりトハ其卵ヲ托スル比率ガ何故ニ斯クノ如ク徑庭アルヤコレヲ予ハ最モ興味ヲ感じ且ツ疑問トスル所ナリ。而シテ予ハコノ問題ヲ研究センガタメ先ヅ假リニ次ニ推測ヲ下セリ。

一、郭公ヲ主トシテ考ヘタル場合

(イ) 鴉ノ巢ヨリモおほよしきりノ巢ノ方ガ其所在ヲ探知スルコト困難ナルタメナリヤ

(ロ) 鴉ノ巢ハおほよしきりノ巢ヨリモ産卵投入ニ便宜ナルタメナリヤ

(ハ) おほよしきりト鴉類トハ其食餌自ラ同一ナラズ而シテ郭公ノ雛ハおほよしきりノ食餌ヲ以テ不満トスルヤ

(ニ) 自然的ニ又ハ本能的ニ郭公ハ其托主トシテ鴉ヲ好ミ只鴉類ノ適當ナル巢ナキ場合ニ限りおほよしきりヲシテ代用セシムルカ

二、おほよしきりヲ主トシテ考ヘタル場合

(イ) おほよしきりハ鴉類ヨリモ巢ノ警戒嚴重ナリヤ

(ロ) おほよしきりハ鴉類ヨリモ自己ノ卵ト他鳥ノ卵トヲ識別シ得ル能力發達セリヤ

等ナリ而シテ予ハ今コレ等ノ一々ニツキ是否ヲ斷ズベキ資材ヲ有セズ然レドモ從來ノ經驗上ヨリ憶測シテ試ミニ少シク批評ヲ下サント欲ス、先ヅ

郭公ヲ主トシテ考ヘタル場合 (イ) ハ若干事實ト認ベキ點アリ何ントナレバおほよしきりノ巢ハ葦ノ叢生セル中ニ構ヘラル、ヲ以テ其叢中ニ入ルニアラザレバ外部ヨリ巢ノ所在ヲ知ルコト困難ナル可ク又一方ニ於テ郭公ガ密生セル葦叢ノ間ヲ縫フテコレヲ探ル

コトモ容易ナラザル可シ。今コレヲ實際ニ徴スルニ予ノ發見セル郭公卵ヲ藏スルおほしきリノ巢ハ葦林ノ周邊及び堤防ノ高所ニ生ジタル葦ニカケタルモノニシテ外部ヨリ比較的透見シ易キ處ニアリタリ但シ外部ヨリ發見シ易スキ巢ニハ必ズシモ郭公卵ヲ混在ストイフニアラズ。

因ニ郭公ノ類ガ假リ親トスベキ鳥類 鴟ノ巢ヲ搜索スル有様ヲ記スレバ彼等ハ五月渡來後須臾ニシテ鴟ノ構巢アルラシキ林中ニ出沒シテ最モ綿密ニコレヲ探リ殊ニ曇天若シクハ小雨ノ日ニ熱心ナルヲ見ル。而シテコノ動作ハ餌ヲ求メンガタメニアラザルコトハ其出沒スル樹種ニ注意スルコトニヨリ容易ニ知り得ベシ。(ロ)郭公ハ他鳥ノ巢ニ其卵ヲ入ル、ニハ一旦地上ニ産ミ墮シタル後嘴ニテ斷ヘ込ムカ或ハ直接他鳥ノ巢ニ座シテ産卵スルカ或ハ場合ニヨリ兩法ヲ併用スルカ未ダ正確ナラズ。然レドモ其何レニ從フトモ一度ハ他鳥ノ巢ノ縁ニ停マル必要アルベシ(但シ嘴ニテ啣ヘ込ム際ナラバ飛び乍ラ出來ザルニアラザレドモ)コノ場合ニ當リ僅カニ二本乃至三本ノ葦莖ニ支ヘラル、おほしきリノ巢ハ果シテヨク彼ノ大形ナル郭公ノ停止ニ堪フルヤ否ヤ疑問ナルベク、況ンヤ悠々其巢ニ座産スルガ如キ場合ヲ想像スレバ其疑ヒ益々深シ。(ハ)ハコレヲ實驗的ニ比較スルコト困難ナリ然レドモ既ニ一度ナリ再度迄おほしきリノ哺育ニヨリ發育ヲ遂ゲツ、アル郭公ノ雛ヲ發見シ得タレバ未ダ以テ絶體的ニ其優劣ヲ認ムルコト能ハザル可ク少ナクトモ郭公ノ雛ハおほしきリノ養育ニヨリ充分(素ヨリ程度問題ナルモ)發育シ得ルコト疑フノ餘地ナカルベシ。又(ニ)ニ關シテハ資材僅少ノタメ如何トモ斷ジ難キモ既記ノ例ヨリ考察スルトキハマタ俄カニ然リト斷ジ難キガ如シ。次ギニ

おほしきリヲ主トシテ考ヘタル場合、(イ)本項ハ恐ラクサル事ナカルベシ。今鴟トおほしきリトノ習性ヲ見ルニ鴟類ハ抱卵中ニ其巢ニ近クトキハ體ヲ深ク巢中ニ埋メ僅カニ頭部ヲ出シテ人ヲ警戒シ容易ニ巢ヲ去ルコトナク、反之おほしきリハ人ノ近ク氣配ニテ既ニ巢ヨリ逃ゲ去ルヲ常トス。コレニヨレバ却テ鴟類ヨリモおほしきリノ方警戒疎カナリトモ見ラル。最後ニ(ロ)ニ關シテハコレ本篇主眼ナルヲ以テ以下項ヲ改メ逐次記セントス。

三、おほしきリノ巢卵ニ對スル實驗

鴟類ノ巢卵ト郭公ノ卵トニツキ拔取、放入其他ノ簡單ナル實驗ノ結果ハ既ニ「郭公ノ蕃殖ニ關スル研究」中ニ記載セリ而シテおほ

よしきりニ關スル此種ノ實驗ハ鵲ノ場合ヨリモ稍々精密ニ併カモ大膽ニ行ヒタリ。

實驗ハ秋田縣仙北郡花館村字中野及上大戸ノ區域ニ於テ大正六年七月ニ行フ。而シテ該實驗ニ際シ當時親鳥ハ予ノ干涉ヲ知り甚ダシク喧騒ヲ極ムル場合(十中八九ハ然リ)ニモ委細係ハラズコレヲ遂行セリ實驗ノ精細ハ次ギノ如シ。

(イ) 產卵前ノ巢中へ卵子放入

おほよしきりハ巢ノ營造完成スルモ直チニ產卵セズ其間若干ノ餘日アルヲ常トス。本實驗ハソノ際巢中ニ他鳥卵ヲ放入シ置クトキハ親鳥ハコレニ對シ如何ナル行爲ヲトルカヲ知ランガタメナリ。而シテ其方法ハ完成ト認ムル巢ヲ發見スルトキハ矢張り他ノおほよしきりノ巢ヨリ 卵ヲ持チ來リテ混入シ翌日又ハ數日ノ後其經過ヲ檢シタリ其實驗區別及ビ結果次ギノ如シ。

巢番號	卵ヲ放入セル月日	檢査セル月日	放入 存否	新タニ產ミシ卵數	卵放入ヨリ初 産迄ノ日數	二者卵子ノ相違
一	七月八日	七月十二日	+	二	三	斑紋大サ共ニ全ク別様
二	" "	" "	+	二	三	"
三	" "	" "	+	二	三	斑紋大サ共ニ大體類似
四	七月十二日	七月十三日	+	一	一	紋斑大サ全ク異ナル

備考 表中十ハ其存在ヲ示ス

コレニヨレバおほよしきりハ其巢中ニ自己ノ產卵ヲ初ムル迄一日乃至三日前ニ既ニ他鳥ノ卵子ノ存在スル場合ニモ敢テコレヲ巢外ニ放棄セントモセズ時期到來スレバソノ儘產卵ス。而シテコノ結果ハ自然ニ於イテもズガ自己ノ產卵以外ニ郭公ガ早クモ卵ヲ入ル、場合モ矢張りコレヲ放棄セザリシト全ク同一ノ結果ナリトス。因ニ本實驗ト反對ニ一巢ヨリ一顆ノ卵ヲ抜き取りタル實驗成績アレドモコノ程度ニテハ毫モ巢ヲ見捨ツルヤウノ事ナカリシヲ以ツテ特ニ記載ヲ省略スル事トセリ。

(ロ) 一巢產卵中ノ一顆へ繪具ヲ塗付セル場合

本實驗ハおほよしきりノ胚卵中又ハ產卵ノ途中ニアル巢中ノ一卵へ種々ノ繪具ヲ塗付シ親鳥ノコレニ對スル行爲ヲ驗セントスルニ

アリ。則チ先ヅ巢中、一顆ヲ摘出シ卵殻全面繪具ヲ塗付シ充分乾燥スルヲ待チテ巢ニ返シ一日乃至數日ノ後結果ヲ検査スル者トス。
試験區別及其ノ結果次ギノ如シ。

巢番號	施行月日	當ノ時 卵集	新卵 古ノ	繪具ノ種類	検査月日	塗布 有無卵	備考
一	七月八日	五	新	Indian red	七月二日	※	
二	"	四	"	Vermilion	"		
三	"	五	古	"	"		
四	"	四	"	Carmine	"	※	
五	"	五	新	Emerald green	"		
六	"	五	古	Yellow ochre	"	+	
七	"	四	"	"	"		
八	"	四	新	Ultramarine	"	+	
九	"	三	"	Burnt sienna	"	※	検査當時卵子四顆有リ
一〇	"	四	古	Gamboge	"	+	
一一	"	四	"	Emerald green	"	※	
一二	"	五	"	Carmine	"		
一三	七月二日	三	"	Gamboge	七月三日	※	
一四	"	三	新	"	"	※	
一五	七月三日	五	古	Indigo	七月七日	+	検査當時卵子四顆有リ
一六	"	三	新	Colalt	"	+	
一七	七月五日	三	古	"	七月六日		
一八	七月六日	四	"	Ultramarine	"	+	
一九	七月六日	三	新	light red	"	+	

備考

表中塗布卵ノ有無欄ニ於イテハ其ノ存在ヲ(假リニ成効ト呼ブ)ハ其無キヲ(假リニ失敗ト呼ブ)示ス又※ハ害敵ノタメ巢又ハ卵ヲ破壊セラレシモノ※ハ卵ハ其儘存在スルモ廢巢トナレルモノ※※チ附セザル他ノ巢チ綿密ナル注意ヲ拂ヒテ親鳥ガ其巢チ見捨テタルモノアラザルコトヲ確カメタルモノトス(以下同斷)

右ハ僅カニ十九巢十三種ノ色彩ヲ用ヒタルニ過ギズ加之内六巢ハ其結果不明ニ歸セリ然レドモ今コレト大體上ヨリ歸納センガタメ各繪具ヲ次ノ如ク類別シ其結果ヲ綜合スルトキハ

類別	繪具ノ種類	實驗巢數	塗布卵ノ有無	回数
赤	一 Carmine 二 Vermilion	三	三	〇
褐	一 Light red	二	〇	二
黃	一 Burnt sienna 二 Yellow ochre	二	一	一
藍	二 Cobalt 二 Ultramarine	四	二	二
綠	二 Emerald green	二	一	一

則チ一區ニ對シ僅カニ二回乃至四回ノ小數ノ實驗ナレドモ大體ニ就キ言フトキハ赤ハ三回共ニ失敗ニ終リ、反之褐ハ二回共ニ成功シ、黃、藍、綠ハ何レモ失敗ト成功ト相半バセリ而シテ此ノ成績ハ卵ノ新古及卵數ト全ク無關係ナルハ注意ヲ要ス。

由是觀之おほよしきリハ自己ノ卵ニ對スル記憶力ノ存在スルコト及ビ赤色ノ如キ刺激強キ色ヲ識別スル能力ガ比較的發達シ同時ニ自己ノ卵トハ全ク異ナル怪シキ卵子ヲ巢外ニ摘出スルコトモ知り得ベシ。

(ハ)一巢ノ產卵全部ニ繪具ヲ塗付セル場合

(ロ)ノ實驗結果ニヨリおほしきりノ一巢卵中ノ一顆へ自然卵ト全ク別樣ノ色彩ヲ施ストキハ其色ノ種類ト親ノ個體ニヨリ其卵ヲ巢外ニ放出スルコトアルヲ知レリ。然レドモ吾人ハコノ結果ヲ以テ未ダ満足スル能ハザル理由アリ。如何トナレバおほしきりガ數顆ノ内ヨリ塗付卵ヲ巢外ニ放棄シタルハ彼等ハ果シテ自己ノ卵ニアラズトノ明瞭ナル意識ニ基キタルモノナリヤ或ハ本能的ニ或ハ直覺的比較的ニ異常ノ卵ヲ怪シミテ放棄シタルニアラザルヤヲ知ルノ要アレバナリ。而シテ本實驗ハ其何レナルヤヲ解センガタメ行ヒタルモノニシテ實驗區別及成績次表ノ如シ。

巢番號	施行月日	當時卵數	卵ノ新古	繪具ノ種類	検査月日	塗布卵ノ存否	備考
一	七月一五日	三	新	Emerald green	七、一六	+	検査ノ日一卵増加シアリ
二	" "	四	古	Light red	"	+	検査ノ日一卵増加シアリ
三	七月一六日	四	新	Cobalt	七、一七	+	検査ノ日一卵増加シアリ
四	七月一七日	四	"	Vermilion	七、一八	※	巢アリテ卵ナシ
五	" "	四	"	Carmine	"	※	巢ノ内部破壊シアリ
六	七月二二日	三	"	Vermilion	七、二三	+	検査ノ日一卵増加シアリ

コノ成績中巢番號四・五ハ親鳥ノ行爲ニアラザルコト明カナレバコレヲ除外ス。而シテ其他ノ場合ニアリテハ刺激強キ Vermilion ヨリ其最モ弱キ Emerald green ニ至ルマデ何レモ安全ニ保タレ依テ思フニ (ロ)ノ實驗ニ於テ塗布卵ノ紛失セルハ果シテ吾人ノ豫想セルガ如ク親鳥ハ一巢中小數ノ特別 (異常ノ色彩) ナル卵子ヲ混入スルトキハコレヲ怪シミテ放棄スルモノナルベシ。換言スレバ直覺的比較的ニ少數ノ怪シキモノヲ放棄セルモノナラント想像シ得ベシ。但シ此際注意スベキハ巢番一、三及五ニ於テ検査當時塗付後ニ產卵セル自然卵ガソノマ、保有セラレシハ前述比較說ヲ否定スル事實ノ如クナレドモソノ然ラザルコトハ次ギノ實驗ニヨリ明白ニ證明シ得ベシ。

(ニ)一巢ノ卵ノ内一顆ヲ殘シ他ヲ悉ク繪具ニテ塗りタル場合

(ロ)及(ハ)ノ實驗ニヨリおほしきりノ巢中ニ其巢中ノ卵ト顯著ニ相異スル色彩ヲ施セル卵ヲ混入スルトキハ親鳥ガコレヲ怪シミ其卵ヲ巢外ニ放棄スルハ彼等ハコレヲ自己ノ卵ニアラズトノ正確ナル記憶乃至判斷力ニヨルモノニアラズシテ只他ノ多數ノ卵トノ比較上ヨリナルベシト想像セラル。

果シテ然ラバ(ロ)ノ場合トハ反對ニ一巢ノ卵中一顆ノ自然卵ヲ除キ他ヲ悉ク着色スルトキハ其結果如何、果シテ吾人ノ豫期ノ如ク親鳥ハ塗り卵ヲ殘シ自然卵ノミヲ放棄スルヤ否ヤヲ知ルノ要アルベシ。而シテ本實驗ノ區別及其結果次ギノ如シ。

巢番號	施行月日	當時卵數	卵ノ新古	繪具ノ種類	検査月日	塗り卵ノ存否	自然卵ノ存否	備考
一	七月一日	五	古	Emerald green	七 一六	+	—	塗り卵モ一顆紛失シアリ
二	七月一六日	四	新	Vermilion	七 一七	+	+	
三	七月二一日	五	古	Prussian blue	七 二二	+	+	
四	" "	四	新	Burnt	" "	+	+	
五	七月二二日	五	古	Crimine	七 二三	+	+	
六	" "	四	"	Vermilion	" "	+	+	
七	" "	四	"	Emerald green	" "	+	+	

右七回ノ實驗中第一巢自然卵ト共ニ塗り一顆ヲ紛失シタルハ何故ナリヤ恐ラク何等ノ障害ニヨリ塗り卵一顆ヲ損シタルナルベク又第二巢ハ塗りノ際鳥ヲ追ヒ出シタルモノニシテ塗り後約四十分ノ後窺視スルニ何等ノ異ナリタル様子ナク一羽ノ親鳥ノ餌卵シツ、アルヲ認メタリ。然ルニ其翌日ニハ塗り卵全部ナク自然卵ノミ存在ス。而シテ其他ノ五巢ハ何レモ何等ノ異狀ナシ今コノ成績ヲ批評セントスルニ當リ第一巢ハ暫ラク論セズ残り六巢ニツキ見ルニ共ニ吾人ノ豫期セル處ニ當ラズシテ却ツテ意外ノ結果ヲ示セリ。則チ第二巢ノ着色卵ヲ悉ク巢外ニ放棄シ自然卵一顆ノミ殘思セルハコレ明白ナル意識的行爲ニ基クコト疑フ餘地ナカルベク又其他ノ

巢ニアリテハ前記比較説ト相容レザル結果ノ如シ然レドモ吾人ハ既ニ(ロ)ノ實驗ニヨリ親鳥ハ刺激ノ強カラザル卵ノ巢中ニ混在スルヲ許セルコトヲ知レリ。然ラバ乃チコレト反對ニ刺激強キ多數ノ卵中一顆ノ自然卵ノ混在ハ當然コレヲ許容スベキヲ肯ンジ得ル筈ナレバナリ。要スルニコノ實驗ノ結果ハ一巢卵ノ多數ニ同一ノ色彩ヲ施ストキハ少數ノ自然卵ノ混在ヲ深く苦慮セザルモノトスベシト雖モ親鳥ノ簡體ニヨリ意識的ニ着色卵ヲ放棄スル場合アリトイフヲ得ベシ。

以上ノ諸成績ハ何レモ少數ノ實驗ニ基キタルモノニシ今後尙ホ幾多ノ實驗ヲ繰リ返スニアラザレバコレヲ確定ノ事實トスルコト能ハザレドモ其大體ヲ約説スル事次ギノ如シ。

一、おほよしきりハ抱卵中又ハ産卵ノ途中ニ於テ一顆(時トシテ二顆位)ヲ抜き取り若シクハ反對ニ如ヘ置クモ其巢ヲ見捨ツルガ如キコトナシ。

二、おほよしきりハ自己ノ産卵期以前ニ其巢ニ一顆ノ卵ヲ入レ置クモコレヲ放棄スルガ如キコトナク産卵期到レバソノマ、産ミ續クルモノトス。

三、おほよしきりノ巢中ノ卵子ノ一ニ其卵殻ノ色彩斑紋トハ全く別様ナル繪具ヲ塗付シテ混入シ置クトキハコレヲ巢外ニ放棄ス但シ色ノ種類ト親鳥ノ簡體ニヨリ必ズシモ然ラズ。

四、おほよしきりノ巢中ノ卵子全部ニ繪具ヲ塗付スルトキハ其卵ヲ巢外ニ放棄スルコト、ナサズ。

五、おほよしきりノ巢中ノ卵子ノ内一卵ヲ自然ノマ、トシ其他ニ繪具ヲ施シ置クトキハ親鳥ノ簡體ニヨリ着色卵ヲ巢外ニ放出スルコトアリ又全く之レヲ顧慮セザルコトアリ。

四、郭公ノ假親トシテおほよしきりト鵲類トノ比較

前文記述ノ實驗結果ニ基キ本文ノ最初ニ述ベタル如クおほよしきりが鵲類ニ比シ郭公ノ假リ親トナルベキ機會ノ少キ理由ニツキシシク論ズル必要アルベシ而シテ其理由ノ大半ハ(想像ナレドモ)既ニ曩キニ述ベタレバ爰ニハ結論的ニコレヲ再記ス。即チおほよしきりハ郭公ノ假リ親トナルベキ機會ノ稀少ナルハ種々習性上ノ相異ニヨルベシト雖モ其原因ハおほよしきりヲ主トシテ考ヘタル

場合ニハコレヲ發見シ難シ從ツテ其主因ハ寧ロ郭公夫レ自身ニ存在スベシ。換言スレバ郭公ハ鵲ニ比シおほよしきリ、巢ニ卵ヲ托入スルニ當リ自然的ニ鵲類ノ巢ノ如ク便利ナラザル點アルベシトイフニアリ。而シテソノ不利ノ點ハ郭公ヲ主トシテ考ヘタル場合ノ(イ)及(ロ)ナラント予ハ推測ス。

附記 本問題ノ如キハ多クノ實驗ヲ基礎トシテ夫レヨリ歸納スベキモノナリ然ルニ予ノ實驗成績ハ何レモ數例乃至十數例ニ過ギザレバ過失ナキ結果ヲ得ルコト素ヨリ不可能ナリ。故ニ予ハ本文ヲ以テ豫報トナシ又明年ヲ期シテ其完成ヲ期セント欲ス其不備ノ點ニツキ大方ノ教示ヲ仰ギタシ。

平安南北黃海三道沿岸採集鳥類目錄

森

爲

二二

左記ノ種類ノ大部分ハ朝鮮平安北道龍岩浦附近ノ鳥類ニシテ本年四月廿八日ヨリ六月二十日迄ノ間ニ採集セルモノ、目錄ナリ。

攀禽類

くわくこう、つゞみり、せぐろくわくこう、じういち、ありすい

鳴禽類

ぶつほうさう、やつがしら、よたか、あまつばめ、かうらいうぐひす、おほかからもず、まみじろきびたき、むぎまき、かはりさんくわうてう (*Troglodytes inornatus*)、てうせんこがら、きせきれい、まみじろつめながせきれい、せじろたひばり、てうせんうぐひす、ゑぞせんじろ、まきのせんじろ、こよしきり、こむしくひ、はちじやうつぐみ、からあかはら、まみぢやじない、くろつぐみ、しべりあまみじろ、いそひよぎり、ひめいそひよぎり、こるり、こひばり(後趾ノ爪短シ)、かんむりひばり、こいかる、まひわ、ほゝあか、こじゆりん

鳩 類

かうらいばこ、しらこばこ

涉 禽 類

こちぎり、みやこぎり、だいしやくしぎ、ちゆうしやくしぎ、おほそりはししぎ、きあししぎ、くさしぎ、たかぶしぎ、つるしぎ、うづらしぎ、をばしぎ、ひばりしぎ、かうらいひくひな、しまくひな、おほよしごる、しろくろさぎ(からこらさぎ)、くろつらへらさぎ

游 禽 類

かるがも、こもるがも、おほみづなぎざり、うみねこ、づぐろかもめ、うこら

猛 禽 類

あをばづく

左ニかはりさんくわうてうノ記載ヲ記セバ

Terpsiphone incei (Gould)

採集年月日 大正六年五月三十一日

採集地 平安北道龍川郡府内面新興洞

♂ 頭、頸及喉ハ光輝アル濃黒紫色、上面及尾ハ濃赭紅色、初列風切ハ黒、外縁赭紅色、胸ヨリ脇腹青灰、腹部及下尾筒ハ白、下

尾筒ノ羽軸ハ紅、嘴ハ紫、脚ハ紅ガ、リタル紫、嘴毛剛クシヲ長シ、後頭部ノ羽毛ハ著シキ冠狀ヲナス長キモノアリ。口

角ヨリ嘴尖マデ22 mm、翼長94 mm、尾長21.8 mm、跗蹠19 mm。

♀ 頭ハ光澤薄キ黒紫色、頸及喉ハ光澤無キ汚レタル黒、上面及尾ハ薄キ赭紅色、初列風切ハ黒、其ノ他ノ風切羽ハ黒色ニテ外側

ノ周圍縁ハ上面ト同ジク赭紅色、三列風切ノ如キ最モ著シ胸部灰白、胸黒灰、下尾筒ハ淡褐色、嘴脚ト同ジ。

嘴長(口角ヨリ) 23 mm. 翼長 84 mm. 尾長 81 mm. 跗蹠 18 mm.

備考 採集地ハ龍岩浦ノ南半里余、西嶋綠江岸へ半里、南海岸ヲ隔ルコト半里弱ノ廣漠タル平野ノ中ニ兀立セル一小丘ナリ。

面積二町歩餘ノ小丘ナレドモ松樹繁茂シ鳥類「渡リ」ノ際滿洲ヨリ朝鮮へ又朝鮮ヨリ滿洲ヘノ途、必ズ止リ。休息セザレバ他ニ休息スル處無キ地位ニヨリ殊ニ採集ニ赴キシ五月下旬ノ候ニハ毎日多少ヅ、異リタル鳥ヲ見ザル日無ク居坐リテ種々ノ小鳥ヲ獲ラルル好採集地ナリ。然ルニ六月中旬ニハ二三ノ鵲ノ居ルノミニテ其他ノ鳥影ヲ見ズ故ニ此ノ小丘ニ居レバ小鳥ノ「渡リ」ヲ研究スルニ絶好ノ地ナリト信ズ。

高野山ニテ獲タルおほみづなぎどり

榎 本 佳 樹

余ハ本年六月十六日當地某愛鳥家ノ屋前ニ一羽ノおほみづなぎどり(Calonectris leucomelas (Temminck))ヲ金網ニ入レ飼養セルヲ發見セリ。從來あなざり(Bulweria bulweri pacifica Mathew.)ガ日光ニテ採集サレシ記錄アリ、又おほみづなぎどりガ信州犀川ニテ獲ラレシコトモアル由ナレドモ、海洋產鳥類ガ山地ニテ獲ラル、ガ如キハ寧ろ稀有ノコトナリトス。而シテ當地ハ高山トシテモ或ハ深山トシテモ遙カニ日光ニ劣ル處アリ、又海洋ヨリ隔ル點ニ於テモ信州ノ各地或ハ日光等ノ何レニモ劣ルベキモ、其地形並ビニ位置ノ關係上、海洋棲鳥ノ屢來ルベキ地ニアラザルハ勿論ナリ。困テ、余ガ當該飼主ニ就キ同鳥ヲ得シ經過ニ就テ、及爾後其飼養等ニ關シ、聽キ得タル諸點ヲ述ベントス。

此鳥ノ最初獲ラレシ場所ハ眞言宗總本山タル金剛峯寺東北側ニアル同寺附屬ノ地ニシテ面積約一反ニ滿タザル區域ニ餘リ大ナラザル杉數十本列生シアル處ナリ。東ハ一條ノ道路ヲ隔テ、他寺ノ地域ニ對シ、之ニモ樹木アリ、西ハ金剛峯寺裏山ニシテ丘狀ヲ呈シ諸種ノ大樹叢生シ、南ハ同寺東側ヨリ南側ニ至リ杉、檜、高野槇其他ノ巨木鬱蒼タルコト二丁餘ニシテ高野ノ主道路アリ、北ハ

亦樹木庭園等アルコト約一丁ニシテ山麓ヨリ當地各要所ニ通ズル本道アリテ更ラニ其北方ニ寺院アリ。而シテ右記ノ諸道路ハ何レモ參詣人、遊覽者、並ビニ貨物運搬等ノ人馬ノ往來常ニ絕ユルコトナシ。又當高野市街及寺院等ノ在ル全體ノ地ハ恰モ摺鉢ノ底ノ如キ處ニシテ、周圍ハ殆ど全部山ヲ繞ラシ、是等諸山ハ部落ヨリ高キコト二百尺ニシテ其多クハ種々ノ大樹、殊ニ針葉樹多シ。六月十三日午後一時頃當地在住ノ某醫師右地點東側ノ道路通行中、道路ヨリ約三間ヲ隔テタル樹下ノ雜草ニ、一羽ノ鳥引懸リテ飛ビ得ズ苦悶セルヲ發見シ、直チニ之ヲ捕ヘ見レバ、當地ニテ見慣レザル鳥ナルニヨリ、持チ歸リテ種々餌ヲ與ヘシニ、大抵ノ物ハ喰ハザリシガ、中ニテ河魚ノミハ喜ンデ之ヲ食セシカバ、爾後其魚ニテ飼養セリ。而シテ三日間ハ飼ヒ得タレドモ、餌ヲ得ルコト困難ヲ感ゼシト、又籠鳥トシテ面白味少キトニヨリ、遂ニ三日目即チ十五日午後之ヲ放還セシニ、鳥ハ稍高ク飛ビテ東方ニ進ミ直チニ視界外ニ出去リタリ。

右ノ翌日午前、前日鳥ヲ放チタル地點ヨリ約六丁程東南方ニテ當地部落中最繁華ナル部分ニアル一商店ノ屋上ニ、一羽ノ鳥停止セルヲ發見セルモノアリテ、同店員ノ一人之ヲ捕フル目的ヲ以テ屋上ニ登レリ、鳥ハ餘程疲勞シ居リシト見エ、人ヲ見テ飛ビ上ルヤ否ヤ直チニ同店直前街路上ヲ通ズル電話線ニ衝突シテ屋上ニ落チ遂ニ捕獲サレタリ。而シテ同店員ハ之ヲ其近隣ナル前記愛鳥家ニ送リタルニ、同人ハ既ニ前記醫師即最初ニ鳥ヲ捕ヘシ人ヨリ該鳥ニ關スル談ヲ聞キ居タルヲ以テ、念ノ爲同醫師ニ之ヲ見セタルニ、前日放チシ鳥ニ相違ナキコトヲ明言セリ。依テ河魚及海魚ノ肉ヲ以テ飼養ヲ繼續スベク努メシモ、極メテ新鮮ナルモノ、外喰ハズ（海洋生活當時ノ習性ヨリ考フレバ當然ノコトナリ）、殊ニ當地ハ新鮮ナル海魚ヲ得ルニハ頗ル不便ニシテ、又該水魚ハ獲ラレザルニ非ラザルモ是亦絶エズ新鮮ノモノヲ供給スルハ容易ノコトニ非ラズ、之ガ爲漸次飼養ニ困難ヲ感ズルニ至レリ。

右ノ如ク飼養ニ困難ヲ感ゼシノミナラズ、飼鳥トシテモ價值少キニヨリ、飼主及其知人間ニ於テ、之ガ處分ニ關シ種々ノ發議アリ或ハ當地小學校ニ寄贈センカ等諸種ノ事情ヲ聞知セシヲ以テ、直チニ飼主ニ面談シ之ヲ貰ヒ受ケタリ。

經過ノ概略右ノ如クナルガ、該鳥ガ飼育サレシ間余ハ時々之ヲ視察セシニ。

一、人之ニ手ヲ觸レントセバ咬付ク。

是レハ最初及第二回ニ捕獲セシ際ニモ猛烈ニ咬ミ付キ。可ナリ痛味ヲ覺エシ由ナリ。

二、肉片(魚骨等モ)ハ約一寸五分四方大ノモノヲ苦モナク嚙下スルコトアリ、一度ニ約三十匁位ノ魚皮、魚骨、魚肉等ヲ喰フヲ見タリ。

一日三回餌ヲ與ヘシ由ニテ時トシテ長サ四寸大ノ活魚ヲ嚙トセシコトアリ、糞等ノ附着セル食物ハ之ヲ洗淨シテ與ヘザレバ敢ヘテ喰ハザリシ由ナリ。

三、糞ハ液狀ニシテ白色ナルモ時トシテ綠色ナルコトアリ。

飼主ノ言ニハ空腹時ノモノハ綠色ナリト云ヘリ。

四、鳴聲ハ遂ニ之ヲ聽カザリシ。余ノ觀察時間以外ニモ何等鳴聲ヲ發セザリシ由ナリ。

此他飼主ヨリ聞キシハ。睡眠ハ晝間ニテモ屢之ヲ爲シ(余ノ想像ニテハ體力衰弱セルト籠中生活ニテ何等ノ所作ナキ等ニモヨルベシ)、夜間ハ靜眠スルモ朝ハ頗ル早起シ靜止セザルコト。食物トシテ蛙ヲ與ヘシコトアルモ食セザリシコト。最初發見セシ際小サキ蛇ヲ啣ヘ居タリト云フコト(之ハ稍疑ハシキ點アルモ若シ事實ナラバ興味アルコトナリ)。第二飼主ノ手ニ入リシヨリ四日間ハ餌ヲ與ヘ得タルモ其後ノ三日間ハ一物ヲモ與ヘ得ザリシコト等ナリ。

右各種ノ事實ニヨリ想像スルニ、

一、海洋棲鳥類ガ暴風ニ吹キ飛バサレ、或ハ濃霧ノ爲進路ヲ誤ル等ノ場合ハ、少カラザルベキモ、多クノ場合ニ於テ大部分ノモノハ、海洋ヨリ遠隔セル地ニ來ラザル間ニ、能ク難境ヲ脱シ、只一小部分ノモノ(避難所ヨリ遠隔セル海洋ニアルモノ、比較的高空ニアルモノ等)ガ、暴風ノ場合ニテハ最後に抵抗力ヲ失ヒ、疲勞ニ疲勞ヲ加ヘ、濃霧ノ場合ニテハ不知々ノ間ニ、陸地内ニ運バレ、更ラニ其一小部分ガ人目ニ觸レ遂ニ捕獲ノ憂目ヲ見ルモノナルベキカ。而シテ從來海洋ヨリ遠キ陸地ニテ捕獲サレシ記錄アルモ、海洋ヨリ甚シク遠隔セザル中間地方ニテ獲ラレシ記錄ナキ等モ亦上記ノ如キ事由ニヨルモノナランカ。

二、一度山地ニ來リシモノハ、所謂別世界ニ來リシモノニシテ、殊ニ、海洋ノ見エザル如キ山地ニ來リシモノハ、海洋所在ノ方向

ヲ知ルノ困難ナルニヨリ、來着地ノ附近ヲ彷徨スルコトモアルベク、斯ノ如キモノハ遂ニ海洋ニ復歸スルコトヲ得ズシテ、人ニ捕ヘラル、迄ニ若干時日ヲ經過スルモノモアルベシ。

三、本種ハ元來人ノ之ニ接近スルコト容易ナラザル鳥類ナルガ故ニ、近視眼的ノモノニ非ラザルハ勿論ナリ。然ルニ、今回ノ分ガ、第一回ニテハ雜草ニ妨ゲラレテ飛ビ得ズ、第二回目ニハ他ニ飛ビ去ル方向ヲ自由ニ選擇シ得ルニ拘ラズ、特更ラニ電話線ニ衝突セルガ如キニヨリ察スルニ、一ハ狼狽、恐怖（未ダ見シコトナキ異境ニ來リシコトガ非常ノ恐怖ヲ惹起スルナラン）等ニヨルベキモ、一ハ甚シキ饑餓ト疲勞トニヨリ體力衰弱ノ結果、視力ノ減退、意識ノ不明等ヲ來セシ結果ナラン。

本種ニ關スル記載ハ内田氏著『日本鳥類圖說』ニアルヲ以テ、茲ニ一般ニ關スル記載ヲ省略スルモ、余ノ得タルモノニ關シ尙少許ノ記述ヲナサンニ。色彩ハ從來ノ諸記載ニアルモノヨリモ遙カニ黑色ニ富ミ、頭部ハ殆ンド一樣ニ黑色ニシテ只前額部ノ羽緣ノミ細ク白色ヲ呈シ、背部モ亦一樣ニ黑褐色ニシテ羽緣ハ纔カニ淡色ナリ。全長五一〇耗、翼長三二五、尾長一四三、嘴峰五二（會合線六〇）跗蹠五一、外趾爪共（中趾モ之ニ同ジ）六八、翼ノ開張一一二〇。此色彩ノ黑色ニ富メルハ未ダ成熟ノ期ニ達セザル故ナラン、然レドモ體尺ニ於テハ一部ニ微少ノ差アルノミナリ。

鹿兒島地方ノ鳥類ニ就テ

堀 井 榮 吉

鹿兒島縣下ト云フナラバ離島多ク其範圍モ廣ク從テ鳥類ノ分布上甚ダ複雑ニナルノデアルカラ今回ハ鹿兒島地方ノ鳥類ト云フ題ノ下ニ主トシテ九州本島ニ屬スル鹿兒島ノ鳥類ニ就テ觀察シタ點ヲ述ベテ見タイト思フ。

鹿兒島ハ海島陸島共ニ其種類ニ富ンデ居ルノミナラズ、又他ノ地方ト甚ダ異ナツテ居ル面白イ點ガアルヤウデアル、舊藩主島津重秀公ノ著作ナル鳥名便覽ノ中ニハ四百十五種ノ鳥名ガ載セテアルトノコトデアルガ兎ニ角數百ノ鳥類ハ容易ニ採集シ得ラルルヤ

ウニ思ハル、ノデ之レガ研究ニ着手シタノハ數年前ノコトデアツタガ余ノ不熱心ナノト時間ノ足りヌノト爲メニ其目的ノ貫徹ニ遅タトシテ進マナイノデ今尙ホ未定稿デアルガ然シ百餘種ノ鳥ヲ調査スルヲ得タノダアルカラ今ヤ余ノ採集シタモノヲ主トシ其名稱等ノ確實ト思ハル、モノ八十種ノ目錄ヲ掲ゲ之レニ多少ノ觀察ノ要點ヲ加ヘ同好諸兄ノ參考ニ供シ度イト思フ。

I Colymbiformes

阿比目

1 Podicipedidae

鷺鷥科

1 Podicipes flaviatilis philippensis (Bonnat.) かいつぶり

九月頃ヨリ冬ノ間マデ渚ニ採集セラル、コトアリ多ク單獨ニ散棲ス稀ナル種ナリ。

2 Podicipes holboellii (Reinhardt)

あかぶりかいつぶり

冬期見ラル、種ニシテ十二月渚ノ邊ニ採集シタルコトアリ前種ト同ジク單獨ニ散棲ス稀ナル種ナリ。

II Ciconiiformes.

鷺科

2 Ardeidae.

鷺科

3 Herodias garzetta L.

うづき

晩春ヨリ夏期ニ渚ニ見ラル、種ナリ常ニ數羽ノ小群ヲナスコト多シ五月採集シタルコトアリ。

4 Nycticorax nycticorax (L.)

いんちぎ

冬期多ク渡來スル種ニシテ濕田地又ハ湖沼ニ見ルコト多シ普通狩獵家ノ良ク捕獲スル種ナリ、十二月採集セリ。

5 Gorsuchius goisagi (Temm.)

みぞいり

冬期多ク見ル渡鳥ニシテ二月河畔ニ採集シタルコトアリ多カラザル種ナリ。

6 Butorides amurensis (Schrenk)

やわぶり

極メテ普通ニ見ル種ニシテ三月下旬頃ヨリ渡來シ濕田地又ハ沼澤ニ近キ林中ノ松樹上ニ營巢、育雛シ八月下旬過ぎニハ

全く見ルコトヲ得ズ四、五月ノ頃容易ニ採集セラル。

7 *Ardeetta sinensis* (Gmelin).

よしこゐ

春ノ末ヨリ夏期ニ見ル種ナレド稀ナリ七月採集シタルコトアリ。

III Anseriformes.

雁 鴨 目

3 Anatidae.

雁 鴨 科

8 *Aex galericulata* (L).

をしごり

歳ヲ通ジテ山間ノ溪流ニ見ル種ナレド多カラズ冬期多ク採集セラル溪谷ニ繁殖スルモノ、如シ。

9 *Anas boschas* L.

まがも

冬期多ク渡來シ海上ニ大群ヲナシテ游泳スルヲ常トス當地狩獵家ノ捕獲スル鴨ハ殆ド皆之レナリトス、十二月頃容易ニ採集セラル其形ノ大小甚ダ差異アリ。

10 *Anas zonorhyncha* Swinhoe.

かるがも

冬期渡來シテ海岸又ハ濕田地ニ棲息ス前種ニ次イデ採集セラルレド多カラズ一月採集セリ。

11 *Nettion crecca* (L).

こがも

冬期海岸又ハ濕田地ニテ採集セラル時トシテ群棲スルヲ見ルコトアレド多カラズ一月採集セリ。

12 *Nettion formosum* (Georgi).

こもるがも

冬期渡來スルモ多カラズ往々をしごり其他ノ鴨類ト群棲ス稀ナル種ナリ。

13 *Oidemia fusca stonegeri* (Ridgw.)

びろろごきんぐろ

冬期渡來シ渚ニ單獨ニ棲ムモノヲ見ルコトアルモ多カラズ十二月採集セシコトアリ。

14 *Mergus serrator* L.

うみあいわ

冬期渡來ス海岸ニ小群ヲナスヲ見ル二月採集ス。

IV Falconiformes.

鷲鷹目

4 Falconidae.

鷲鷹ニ科

15 Accipiter nisus (L).

このり

冬期普通ニ見ル種類ニシテ此科中ニテハ最も多キモノ一ナリ一二月頃容易ニ採集セラル。

16 Milvus ater melanotis (Temm. & schleg.).

つび

年ヲ通ジテ普通ニ見ラルレド多カラズ。

17 Falco tinnunculus japonicus Temm. & Schleg. ちようけんぼう

冬期採集セラルレド甚ダ稀ナリ。

V Galliformes.

鶉鷄目

5 Phasianidae.

雉科

18 Phasianus versicolor Vieill.

きじ

最も普通ニシテ耕地附近ノ丘地ニ繁殖ス四月上旬卯ヲ採集シ五月ニ雛ヲ採集シタルコトアリ、當地方ノ狩獵家ニハ唯一ノ獵鳥ナリ良狩獵家ハ年々ノ狩獵期間ニハ百羽位獵スルナリ。

19 Phasianus iijimae Dresser.

こしじろやまどり

此地方ノやまどりハこしじろやまどり一種ニテ一般ニ山地ニ棲息ス、殊ニ霧島地方ニハ稍々多キガ如シ。

20 Coturnix japonica Temm. & Schleg.

うづら、あかのうづら

冬期多ク田圃ノ畦畔、耕地ニテ採集セラル此地方ニテ繁殖スト云フ、一二月頃縣外ニ輸出セラル、モノ甚ダ多シ。

VI Gruiformes.

鶴ニ目

6 Rallidae.

秧 鷄 科

21 *Porzana fusca* (L.).

ひくゐな

五六月ノ頃時々濕田地等ニ見ルコトアレド多カラズ營巢育雛スルモノ、如シ、六月採集シタルコトアリ。

22 *Gallinula chloropus* (L.)

ば ん

春期渡來シ、濕田地又ハ沼湖ニテ營巢育雛スルモ多カラズ。

VII Charadriiformes

鷓 鴒 目

7 Charadriidae

鷓 鴒 科

23 *Streptopias interpres* (L.)

きやうじやうしぎ

晩夏ヨリ秋期數羽又ハ一羽他ノ千鳥類ト共ニ渚ニ見ラル、種ナリ其數多カラザルモ到處ニ三三、五五散棲ス。

24 *Charadrius fulvus* Gmelin.

むなぐろ

冬期群ヲナシテ渡來シ耕地ニアリ土中ノ昆蟲ヲ食スト一、二月頃ハ容易ニ採集セラル。

25 *Charadrius mongolicus* Pallas

めだいちぎり

極メテ普通ノ種類ナリ。

26 *Charadrius caucasiensis* Latham.

しろちぎり

秋期渡來シ渚ニ小群ヲナスヲ見ル可ナリ多シ。

27 *Numenius arquatus lineatus* (Cuvier)

だいしやくしぎ

早春渚ニ小群ヲ見ルモ多カラズ三月採集ス。

28 *Numenius phaeopus variegatus* (Scopoli)

ちうしやくしぎ

早秋渚ニ小群ヲ見ル晩天ニ雁行ス常ニ鳴キツ、遠ク飛ブ九月採集ス。

29 *Totanus incanus brevipes* (Vieillot) きあししぎ

夏秋期渚ニ大群ヲ見ルハ、九月頃容易ニ採集セラル鷸科中ノ最も普通ニシテ多キ種ナリ。

附記、小川氏日本鳥類目録、内田氏日本鳥類圖說等ニハ本亞種ニめりけんきあししぎナル和名ヲ用ユレド誤リナル由ニツキ訂正セル名ヲ用ヒタリ(動物學雜誌第三百二十八號六九頁參照)

30 *Totanus hypoleucus* (L.) いそしぎ

夏秋期渚ニ多ク渡來ス常ニ小群ヲナス九月採集ス。

31 *Scelopax rusticola* L. やましぎ

冬期田圃ニ多ク之レヲ見ル十二月採集、可ナリ居ル種ナリ。

32 *Rostratula capensis* (L.) たましぎ

秋期渡來田圃ノ間ニ散棲ス十二月採集ス。

8 *Laridae* 鷗 科33 *Larus ridibundus* (L.) ゆりかもめ

秋期海上ニ稀ニ見レドモ冬春ノ二期ニハ大群ヲ見ルコトアリ十二月採集ス。

34 *Larus saundersi* (Swinhoe) づぐろかもめ

渚ニ極メテ稀ニ見ル種ニシテ十二月採集。

9 *Alcidae* 海雀 科35 *Synthliboramphus wumizusume* (Temm.) かむぐりうみすぐめ

冬期渚ニ小群ヲ見ルコトアルモ多カラズ二月採集。

10 *Columbidae* 鳩 鴿 科

36 *Turtur orientalis* (Latham)

きじばし

山地ニ繁殖ス常ニ小群ヲナシテ棲息ス冬期十二月頃マデ好ク採集セラル當地方ニテハ好獵鳥ナリ。

37 *Sphenocercus sieboldi* (Temminck)

あをばし

晩冬山中ニテ良ク採集セラル、モ極メテ稀ナリ一月採集セリ、深山ニ繁殖スルモノ、如シ。

38 *Sphenocercus pernagrus* (Stejneger)

りうきうあをばし

晩冬二月頃多ク山中ニテ小群ヲ見ル可ナリ多ク好獵鳥ナリ。

VIII Cuculiformes

杜鵑目

11 Cuculidae

杜鵑科

39 *Cuculus canorus* (L.)

くわくこう

春夏ノ候多ク見ル普通ナル種ナリ十一月幼鳥ヲ採集セリ。

40 *Cuculus poliocephalus* Latham.

ほここぎす

三月末渡來シ八月上旬マデ多ク見ル種ニシテ五月採集ス六月幼鳥ヲ營巢中ニ見シコトアリ、前種ニ比甚ダ多シ。

IX Coraciiformes

佛法僧目

12 Alcedinidae

翡翠科

41 *Haleyon coromanda* (Lath)

あかせうびん

夏期深山ノ溪谷ニ之レヲ見ルモ極メテ稀ナリ九月採集ス。

42 *Alcedo bengalensis* Gm.

かはせみ

年ヲ通ジテ水邊ニ見ラル春期林中ノ岩岨中ニ水草類ヲ集メテ營巢育雛ス到ル處ニ容易ニ採集セラル。

13 Strigidae

梟鴞科

43 *Scops semitorques* (T. & S.)

おほこのはづく

年ヲ通ジテ林中ニ採集スルヲ得、繁殖ス。

44 *Syrnium uralensis fuscescens* (T. & S.)

きうしうふくろう

年ヲ通ジテ其鳴聲ヲ聞ク春期樹洞ニ營巢育雛ス通常一巢二羽ヲ生ム。

14 *Caprimulgidae*

蚊母鳥科

45 *Caprimulgus jotaka* (T. & S.)

よたか

年ヲ通ジテ見ラルレド多カラズ十一月採集ス。

15 *Picidae*

啄木鳥科

46 *Dryobates leucotos namiyai* Stejneger.

なみえけら

深山ニ稀ニ見ル種ナリ一月採集ス。

47 *Yungipicus kizuki nigrescens* Seeb.

りうきうけら

深山ニ常ニ見ル種ナリ十二月可ナリ採集セラル。

48 *Gecinus awokera* (Temm.)

あをけら

深山ニ常ニ見ル種ナリ一月採集ス。

49 *Iynx torquilla* L.

ありする

冬期稀ニ見ル種ナリ十二月採集。

X *Passeriformes*

燕雀目

16 *Alaudidae*

雲雀科

50 *Alauda arvensis japonica* T. & S.

ひばり

年ヲ通ジテ見ル種ニシテ春田圃ノ間ニ繁殖ス四月採集。

17 Motacillidae

鵲 鴿 科

51 Motacilla boarula melanope Pall. きせきれい

九月頃渡來シ一三月マデ水邊ニ容易ニ見ル種ナリ常ニ數羽ノ群ヲナス冬期容易ニ採集セラル。

52 Motacilla alba lugens Kirtl. はくせきれい

十一月頃渡來シ一三月頃マデ水邊又ハ田圃ニ小群ヲ見ル冬期ハ容易ニ採集セラル。

53 Anthus maculatus Hodgs. びんずる

冬期田圃ニ多く散棲ス一月採集。

18 Pycnonotidae

鶇 科

54 Hypsipetes amaurotis (Temn.) ひよどり

年ヲ通ジテ林中ニ見ルモ冬期ハ大群ヲナシテ飛來ス甚ダ多く採集セラル。

19 Muscicapidae

鶇 科

55 Tersiphone principis atrocaudata (Eyton.) しきうしうさんくわうてう

四月渡來シ高キ樹枝ニ皿巢ヲ懸垂育雛ス、稍々多く見ル鳥ナルモ八月ニハ見ルコトヲ得ズ。

20 Turdidae

鶇 科

55 Turdus dauma aureus Hol. ころつぐみ

57 Turdus chrysolaus Temn. あかはら

58 Turdus pallidus Gm. しろはら

深山ニ冬期多く大群ヲナシテ飛翔ス容易ニ多く採集セラル。

59 *Monticola solitarius* (Müll.)

いそひよごり

秋冬期海岸ニ多ク單獨ニ散棲スルヲ見ル稍々普通ナリ冬期多ク採集セラル。

60 *Ruticilla aurea* (Gm.)

じやうびたき

十二月頃渡來シ到處ニ是モ普通ニ見ラル常ニ散棲ス冬期容易ニ採集セラル。

61 *Tarsiger cyanurus* (Pall.)

るりびたき

深山ノ林間ニ普通ニ見ラル一月採集。

21 *Sylviae*.

鶯 科

62 *Horeites cantans* (L. & S.)

うぐゐす

到處ノ林間ニ年ヲ通ジテ之レヲ見ル春期多ク採集セラル。

63 *Regulus regulus japonensis* Blak.

きくいたゞき

冬期深林ニ多クノ群ヲナスヲ見ル十二月採集。

22 *Cinclidae*

河 鳥 科

64 *Cinclus pallasi* Temminck

かはがらす

冬期深山ノ溪流ニ散棲スルヲ見ル十二月採集ス。

23 *Hirundinidae*

燕 科

65 *Hirundo javanica namiyai* (Stejneger)

りうちうつばめ

春夏ヲ通シテ田圃又ハ丘等ニ飛ブラ見ルモ多カラズ六月採集、年二回育雛ス。

24 *Ampelidae*

連 雀 科

66 *Ampelis japonicus* (Sieb.)

ひれんじやく

冬期殊ニ二月末大群ヲ見ルコトアリ林間ニ多シ。

25 *Laniidae*

鴟 科

67 *Lanius bucephalus* T. & S.

も す

年ヲ通ジテ採集セラル四五月頃樹木ノ屈穴ニ營巢育雛ス。

2) *Paridae*

四十雀科

68 *Parus major minor* T. & S.

しじうがら

年ヲ通ジテ丘上ノ林間ニ容易ニ採集セラル、四月頃繁殖ス常ニ群棲スルモノヲ見ルコトアリ。

69 *Parus varius* T. & S.

やまがら

多ク冬期深林ニ見ル常ニ散棲ス、十二月採集、前種ニ比シ極メテ稀ナル種ナリ。

70 *Aorectula caudata trivirgata* (T. & S.)

え なが

冬期林間ニ散棲スルモ多カラズ二月採集セリ。

27 *Corvidae*

鴉 科

71 *Corvus corone orientalis* Evers.

はしほそがらす

年ヲ通ジテ極メテ普通ナルモ主トシテ耕地近クノ林間ニ多シ四月頃樹上ニ營巢育雛ス。

72 *Garrulus japonicus* T. & S.

か け す

冬期深山ニ多ク見ル種ニシテ多クハ散棲ス稍々普通ナリ。

28 *Sturnidae*

棕 鳥 科

73 *Spodiopar cinereus* Temm.

むくじり

秋冬期大群ヲナシテ飛ブヲ見ル十月採集セルモ山地ニテ繁殖スルナランカ。

39 Zosteropidae

繡眼兒科

74 *Zosterops palpebrosa japonicus* T. & S.

めじろ

春期大群ヲナシ人家近クニ飛來スルモ夏秋ノ二期ニハ山間ニ營巢育雛ス春採集ス。

30 Fringillidae

雀科

75 *Eophona personata* (T. & S.)

いかる

冬期山間ニ多ク見ル種ニシテ稍々多シ、一月採集ス。

76 *Chloris sinica kawarabiae* Temm.

おほかはらひわ

年ヲ通ジテ林間ニ見ルモ夏期ハ單獨營巢育雛シ冬期ハ群棲ス。

77 *Iasser montana* (L.)

すゞめ

常ニ大群ヲナシテ作物ヲ荒スコトアリ。

78 *Emberiza cioides ciopsis* Bp.

ほくじろ

年ヲ通ジテ見ル甚ダ普通ノモノニシテ營巢育雛ス、常ニ小群ヲナセドモ大群ヲナサズ。

79 *Emberiza spodocephala personata* Temm.

あをじ

冬期多ク見ル容易ニ採集セラル、種ナリ常ニ小群ヲナシ到處ニ散棲ス。

80 *Emberiza rustica* Pall.

かしらだか

冬期山地ニ稀ニ見ル種ナリ十二月採集ス。

講話

野外鳥學ノ一資料(其一)

理學士 石 井 重 美

内田兄カラ何カ『鳥』ノ原稿ヲ送レトノ仰ナノデ、手許ニアル *ERICHRIEDRICH DAHL* ノ “*Kurze Anleitung zum wissenschaftlichen Sammeln und zum Konservieren von Tieren*,” (一九〇八年版)ノ『鳥』ノ部ヲ翻譯シテ此ノ一篇ヲ草シタ。此ノ書ハ素ヨリ餘リ詳細ナモノデモ亦完全ナモノデモナク、從テ其ノ道ノ専門家ニハ、大シテ興味ヲ惹起サセル程ノモノデモアルマイガ、ソレデモ、主ニ動物ノ食物、棲息所、習性等ヲ基礎トシテ、野外動物學ノ爲ニ提供シタ特異ノ分類法ニ、餘程面白イ所ガアルト思フ。原著ニアル挿畫ハ省略シタ。

鳥類

I、水面或ハ水中ヲ游泳シツ、若クハ水上ヲ飛翔シツ、食物ヲ搜索ス。多クハ趾間ニ蹼アリ。

A、水面(或ハ水中)ヲ游泳シツ、食物ヲ搜索す。飛翔ハ唯攝餌ノ場所ニ到達スル爲ニノミ役立ツ。

AA、飛翔シ得ザル鳥。南極ニ棲ム。——ペンギン(*Apelodytes*)。

BB、飛翔シ得ザルニアラザル者。

(a)、純粹ナル海鳥。海岸ノ岩礁上ニテ産卵シ、其他ハ常ニ(夜間モ)海上ニアリ。翼ヲ多少伸張シテ潜水ス。——うみばこ屬(*Uria*)、うみがらこ屬(*Alea*)、*Larventauher (Mormon)*、*Kraubentaucher (Alc)*。

(b)、游泳鳥類。少クトモ生殖時期ニハ淡水ノアル處ニ至ル。尙ホ或者ハ、夜間休息ノ爲メ陸上ニ上ル。

(aa)、水深キ處ニテ、食物ヲ游泳シツ、搜索ス。其ノ場合、食物ヲ捕フル爲ニ、體全部ヲ水中ニ没ス。第四趾ハ皮膚ノ膜狀附屬物ヲ有ス。時トシテハ其他ノ趾ニモ蹼ノ代リニ皮膚ノ緣狀附屬物或ハ膜狀附屬物アルコトアリ。

(α)、貝類及ビ植物等ヲ捕食スル爲メ、殆ド垂直ニ水底ニ潛入ス。ソレ故、浮上ル場合ニハ、最初居タル場所ト殆ド同一ノ場所ニ浮上ル―すがも屬(*Euligia*)、けわたがも屬(*Sondertia*)、こぼりがも屬(*Harclia*)。

(β)、水中ニ在リテ所々食餌ヲ追蹕搜索ス。ソレ故、再ビ前ト同一ノ場所ニ浮上ル事ナシ。

(αx)、甚ダ潛水ニ巧妙ナリ。特ニ魚類ヲ捕食ス。―かいつぶり屬(*Polydora*)、う屬(*Carlo*)、あいさがも屬(*Mergus*)。

(ββ)、前者程潛水ニ巧ミナラズ。特ニ無脊椎動物及ビ植物ヲ食トス。趾ニ圓味ヲ帶ビタル皮膚ノ緣狀附屬物アリ―おぼはん屬(*Pulica*)。

(bb)、食物ヲ水ノ表面ニテ搜索ス。潛水スルハ身ニ危険ノ近ケル時ニ限ル。

(α)、大ナル咽喉嚢ヲ備ヘタル大形ノ鳥。全ク魚類ノミヲ食トス。―ペリかん屬(*Pelecanus*)。

(β)、下等動物及ビ植物ヲ食トス。―はくてう屬(*Cygnus*)、まがも屬(*Anas*)。

B、水上ヲ飛翔シツ、食物ヲ搜索ス。

AA、遠海ノ洋上、或ハ懸崖ヲナセル海岸ノ附近ニ棲ミ、巖礁ノ間ニ産卵ス。一個ノ鼻孔ハ、管狀ヲナシテ嚙上ニ開口ス。

(a)、大形ノ鳥。時ニ游泳ス。―みずなぎつり屬(*Puffinus*)、ふるまかもめ屬(*Fulmarus*) (北方の洋上ニテ屢々船ヲ追蹕シ來ルモノ)、*Kaptauhe* (*Diapton*)、あはつちり屬(*Dromedea*) (南半球ノ洋上ニテ屢々船ヲ追蹕シ來ルモノ)。

(b)、小形ノ鳥。未ダソノ游泳セルヲ認メタル者ナシ。晝夜共ニ、洋上ヲ航行中ノ船舶ノ周圍ヲ飛翔スルコトハ、屢々觀察セラル、トコロナリ。―*Sturmschwalben* (*Procellaria*)。

BB、淡水若クハ海岸ノ附近ニ棲ミ洋上ニ出ヅルコト稀ナリ。

(a)、屢々游泳ニ。好ンデ死セル動物ノ遺骸ヲ食フ。―かもめ屬(*Larus*)、みゆびかもめ屬(*Rissa*) (北海ニテ屢々船ヲ追蹕シ來

ル)

シラズカモメ屬 (*Stercorarius*).

(b)、游泳セズ、一般ニ生活セル動物ノミヲ食フ。

(aa)、大形ノ猛禽、彎曲セル嘴ト、強大ナル爪トヲ有ス。大ナル魚ヲ捕ヘ、附近ノ巖礁上ニ持行キテ食フヲ常トス。

—みぎし屬 (*Puffin*)、おぼわし屬 (*Halibut*).

(bb)、小形ノ魚類及ビ其他ノ動物ヲ食トス。

(a)、非常ニ飛翔ニ巧ミナル大形ノ鳥。熱帶地方ノ嶋嶼ノ附近ニテ、特ニ、飛翔シツ、飛魚ヲ捕フ。—はんかてう屬 (*Fregata*).

(β)、小形ノ鳥。飛魚ヲ捕ヘザルカ、或ハ唯稀ニ之ヲ捕フルノミ。

(αα)、夜間飛翔シツ、食物ヲ搜索スル爲メ、熱帶地方ノ河川ニ湖ル。—Scherinschnabel (*Rhinchops*).

(ββ)、晝間ニ食物ヲ搜索ス。海中ノ杭、或ハ海面上ニ浮流セル木材其他ノ上ニ止リテ休息スル習性アリ。—あじさし屬 (*Sterna*)、くろあじさし屬 (*Anous*) (遠ク海洋ニ出デ、疲勞シ、船舶ノ上ニ來リ止ルコトアリ)、ねつたいてう屬

(*Phaethon*).

一、陸上若クハ水中ニテ、步行シツ、食物ヲ搜索ス。時ノ大部分ヲ陸上ニテ生活ス。多クノ者ハ比較的大形ノ卵ヲ産ミ、之ヲ地上ニテ孵化ス而シテカ、ル場合ニハ卵ヨリ孵化シ出デタル雛ハ、發育ノ度進ミテ、所謂避巢性ヲ有ス (*Nestle-leaver*)。

A、非常ニ大形ナル飛翔不能ノ鳥。危険ノ近ケル時ハ迅速ニ駛走シテ遁ル。—だてう屬 (*Syrnium*)、ひくひちり屬 (*Cassirius*).

B、危険ノ場合ニハ、飛翔シテ之ヲ遁レントスルカ、或ハ (飛翔シ得ザル者ハ) 樹木雜草ノ間ニ隠ル。

AA、水中ヲ渡涉シツ、或ハ、河岸、湖畔、若クハ沼澤等水邊ノ樹草ノ間ニ、食物ヲ索ム。脚ハ跗骨關節ノ上方迄羽毛ナクシテ裸出セリ。

(a)、長脚長喙ノ大形ナル鳥。巢ヲ容易ニ到達シ得ラザル場所(屢々樹上)ニ營ミ、發育不十分ナル雛ヲ生ズ。

(aa)、主トシテ植物性ノ食物ヲ攝ル。屢々乾燥セル地上ニ於テモ食物ヲ搜索ス―つる屬 (*Grus*)、Franziskanich (*Balearica*)、Wehrvogel (*Palmicola*)、

(bb)、特ニ脊推動物ヲ捕食ス。鷺及ビ鶴ノ類。―ざぎ屬 (*Ardea*)、へらざぎ屬 (*Platela*)、うづのり屬 (*Ciconia*)、Marabu

(*Leptoptilus*)、Kahnschnabel (*Canroma*)、Schulschnabel (*Pelecanus*)、Flamingo (*Phoenicopterus*)、Kaffischabel (*Anas*)、Nimmersatt (*Tantalus*)、

(b)、小形ナル涉禽。小動物(多クハ無脊推動物)ヲ捕食ス。雛ハ發育十分ニシテ雛巢性ナリ。

(aa)、樹草ノ密生セル處ニテ食物ヲ搜索ス。―くひな屬 (*Pallus*)、Sumpfhühner (*Ortygometra*)、ざしぎ屬 (*Gallinago*)、

(bb)、植物全クナキカ或ハ僅カニ生ゼル處ニ棲息ス。

(α)、屢々、其ノ長キ脚ヲ以テ、體ヲ没スル位迄、深ク水中ニ入ルコトアリ。―つぎ屬 (*Ibis*)、せいたかしぎ屬 (*Himantopus*)、そりはしせいたかしぎ屬 (*Pelecanus*)、つるしぎ屬 (*Totanus*)、

(β)、植物ナキ岸邊、或ハ僅カニ雜草ノ生ゼル沼澤地方ニアリテ、走行シツ、食物ヲ搜索ス。いそしぎ屬 (*Actitis*)、けり屬

(*Tantalus*)、ゑりちかしぎ屬 (*Baronetta*)、はましぎ屬 (*Tringa*)、おほそりはししぎ屬 (*Limosa*)、しやくしぎ屬 (*Nemontus*)、みやのり屬 (*Himantopus*)、

BB、走行スル鳥。丈高キ雜草ノ中、或ハ灌木ノ繁ミ、森林ノ中、若クハ乾燥セル(殊ニ地面ノ裸出セル)場所ナドニテ、地上

ニ有リテ食物ヲ搜索ス。

(a)、灌木ノ繁ミ、森林ナドノ中ニ棲息ス。

(aa)、特ニ昆蟲ヲ捕食ス。やいろてう屬 (*Pitta*)、うづのり屬 (*Merula*)、やましぎ屬 (*Sceloporus*)、

(bb)、特ニ植物ノ種子或ハ其他ノ植物性食物ヲ攝ル。―つかつくり屬 (*Megapodius*)、おほらいてう屬 (*Tyrro*)、Nachpapa-gei

(*Stringops*), やうる屬 (*Aplenyx*).

(b) 植物ナキ平地、すてつぶ。或ハ乾燥セル(殊ニ地面ノ裸出セル)場所ナドニテ、食物ヲ搜索ス。—Rennvogel(*Cursor's*) Trier

(*Oelicens*), ひなぐる屬 (*Charadrius*) のがん屬 (*Ous*), Sekretär (*Scopularius*), Erdpapagei (*Psittacus*), せかれこ屬 (*Motacilla*)

ひばり屬 (*Alauda*).

(c), 丈高キ雜草ノ中、或ハ穀物畑ナドノ中ニ隠レテ食物ヲ搜索ス。—みふうづら類 (*Turnicidae*), やちへんら類 (*Perdix* ek.)

ひめくひな類 (*Oreos* ek.).

(未完)

江戸時代將軍家の狩獵(其一)

永井 碌

將軍家野遊狩獵ノ事

今モ尙人口ニ膾炙スル鶴御成トイフノ將軍家ノ狩獵中ニモ最モ重イコトニ扱ハレテ起源ハ放鷹^{たかかり}ノ野遊ナレ

ド後ハ大切ノ行事トナツタ夫ハ禁中ヘ進獻トイフ處ヨリ非常ニヤカマシイモノト成ツタノデアル古篋ノ底ヨリ出現シタ舊記ニ就イテ鶴御成其ノ他將軍家ノ野外出遊ト狩獵ノ事實ヲ拾ヒ出シタ記シテ見ヤウ。

御成リ トイフハ將軍家が營外ヘ出デマシノ謂^{いひ}ニシテ紅葉山ヤ吹上ノ内苑ニ出ラル、ノモマタ御成ナルガ五代將軍ガ柳澤家御

成ノ朝ハ特別ノコトニシテ將軍家が城外ヘ出ラル、ノハ遊獵ト上野芝兩山ノ參拜クラキニテ夫モ江戸ノ末ニハ稀ナリシモ鶴御成丈

ガ私事ニシテ私事ニアラズ必ズ毎年執行セラレ將軍自ラ出ラレナイ事ノ有ル時ハ老中ヲ名代タラシメタノデ有ル故ニ御成ノ中デモ

最モ重イ事ニ扱ハレテ慶應二年ニ廢止セラル、マデハ引續イテ來タ夫ハ畢竟獲物ノ鶴ヲ宮中ヘ進獻セラレタイ爲メデ申サバ將軍家

ノ事ヨリモ進獻ノ爲メノ事デ將軍手ヅカラ鷹^{おこ}ヲ合セル例ニナツテキルモガ爲メ鷹モマタ大切ニサレテ將軍家が拳^{こぶし}ニ据^すエテ鶴ニ掛合

セルトイフ所ヨリ將軍御拳^{おこぶし}ノ鷹^{たか}ト稱ヘラレ講釋師ヤ落語家が威張ツタモノ、例ニ引クナド威張ルヤウニモナツタノデ有ル尤モ將軍

家ニモ放鷹ニ馴レナイトキヤ又御名代ノ時ナドモシ進獻ノ鶴ガ捉レナイヤウデハナラヌト先ヅ最初ニ一羽ダケ鷹匠ニ提ラセルコトモ有ツタノデ有ル。

放鷹ノ由來 放鷹ノ遊ビハ家康公三河傳來ノ遊ビデ有ルコトハ諸書ニモ見エテ知ラル、カ後世ニ到リテハ郊外散策ノ保養事ト相

兼ネテ民情視察即チ將軍家ヲシテ親シク農民ノ狀態ヲモ視セテ下情ニ通ゼシメントノ理由モ加ハツタモノ、ヤウデアル元祿以後太平遊惰ノ時代ニ鹿狩追鳥狩ナド八代將軍吉宗公ノ如キハ之ヲ以テ士氣獎勵武事練習トナサシメタ事モアルガ内外多事ノ江戸末期ニ至リテハ鶴御成リノ外ハ餘リ狩ガ行ハレナカツタ。

鶴進獻ノ事 家康公以後二三代頃ハ今ノ四ツ谷邊ガ専ラ放鷹地ノヤウデ有ツタガ禁中ヘ鶴進ノ事ハ三代將軍家光公ガ寛永八年

ノ二月放鷹ニ出テ獲ラレタ鶴ヲ時ノ上皇（後上尾帝ノ御事ナルベク中宮ハ二代將軍秀忠公ノ息女和子姫ニテ後年東福門院ト申サル名コソ中宮ナレ事ハノ皇后ニテ在シケル）ニ進獻セラレ是リ永ク例トナリシモノニテ家康公ノ時ヨリ御鳥時役アリテ専ラ鳥類ノ監

視遊獵ノ事ヲ掌ラシメ三代公ヨリ更ニ御鳥見役ノ職掌モ改マリ鳥類ヲ保護セシメタガ鶴進獻ノ例トナリタルガ爲メト鶴ハ勿論鴨雁

皆ナ渡リ鳥ニテ追々土地開ケ遊獵盛ンナルニ到リ自然鳥類ノ減失センコトヲ慮リテノコトナルベシ然ルニ例ノ五代將軍家綱公ニ到

リテ犬ノ愛護ハ鳥類ニ及ビ遂ニ殺生禁斷ノ主義トナツテ獵事一切禁廢サレ御鳥見役モ廢絶シテ鶴ノ愛育モ絶エタカ八代將軍吉宗公

ノ代ニ及ビ武事獎勵ノ意ハ含テ野外狩獵ノ事ヲ行ハント鶴御成ノ復興ハ勿論御鳥見役ヲ再興シテ狩獵ノ事ヲ獎勵サレタ之ヨリ

他ノ行政ト連ナツテ狩獵ニ關スル種々ノ施設制度モ定マリ江戸ヲ周廻シテ數里ノ間ニ狩獵區域ヲ制定スル等大イニ重要ノ事トナリ

慶應二年諸事ノ革新時代ニ至ルマデ嚴重ニ行ハレテ來タ斯ナ譯合カラ鶴御成トイフコトガ一番重大ニナツテ一般ノ耳ニモ能ク響

イテヤカマシイモノ、例ニサレルヤウニ成ツタノデ有ラウ。

將軍代々ノ中ニ字郊外出遊ナ好マレシト好マレザリシト有リシハ勿論ナレド郊外出遊ナ好ミテ御成リノ多カリシハ八代將軍吉宗公

ニシテ五代將軍綱吉公世ニ云フ犬公ノ様ガ廢絶サレタ狩獵ノ諸事ヲ復興サレシホドアリテ是ヨリ鶴ハ勿論雁鴨鵲等ノ飼ヒ附ケヨリ

一般鴨鳥ノ保護河川ノ禁獵等ニ就イテ取締ヲ立テ御場即チ狩獵ヲ定ムル等他ノ行政ト同ジャウニ追々諸種ノ制度ヲ定メラレタノデ

アル。

狩獵區域

將軍家ノ狩獵地（即チ御鷹場略シテ御場又ハ御鷹場トイフ其ノ意味ハ將軍親シク其ノ拳ニ鷹ヲスエテ狩セラル、故ナリマタ紀尾水ノ三家ニモ將軍狩獵地ニ續イテ其ノ外部ニ於テ狩獵區域ヲ定メ何家御鷹場ト稱セリ）五里四方ト稱シ江戸市部ヲ周廻包圍セシメ惣村數五百九十四ヶ町村（此ノ中ニハ何町ト稱シテ江戸場末ノ町ヲモ含ム）二十三萬八千八百十四石九斗四升四合（地租制度ノ制定以前ハ地價ナク物成ヲ以テ定メタレハ此ノ約六百ノ町村ハ是ホドノ物成即チ一ヶ年ノ收納アル土地デアル）ノ地ニシテ是ハ享保年代ノ調ナレド江戸ノ末マデ大シタ變リハナク行政トシテハ代官所ノ所轄アレド凡ソ少シデモ狩獵上ニ關スルコトハ大小トナク御鳥見ニ監視セ將メ鳥類ノ飼付ケ料ハ勿論之ニ關係スル役向ノ者ヘノ扶持手當等年々尠カラザル費用ヲ支出セリ將軍狩獵ノ爲メトハ云ヘ彼ノ禁中ヘ鶴進獻ノ事ヲ重シジ之ヨリ自ヅト他ノ事ニマデ重要視セラレ尤モ鶴ノ飼ヒ馴ラシニハ鶴ヲ安心セシメテ引寄セル前提手段トシテ先ヅ雁鴨ヲ引寄セルノガ必要デ有ツタノデアル。

將軍家ノ重ニ出獵セラレタ土地ハ葛西領當今ノ龜有。小松川邊又ハ橋場筋トテ今ノ橋場。今戸。千住。三輪邊ナリカ此ノ鶴ノ飼付ケ地ニシテ進獻ノ鶴ヲ獲ルノ最重ノ趣意ナリシヨリ此ノ方面ヘ多ク出遊セラレ雉子。鶺鴒ノ類ハ駒場邊カ四ヶ原邊ニシテ時ニハ目黒方面ヘモ出遊セラレタノデ有ル。

或ル時代ニハ鶴以外ノ出獵ノ序ニハ新堀（今ノ日暮里）谷中或ハ龜井戸ヨリ請地。寺島。須崎邊ナド逍遙シ或ル時ハ本所五百羅漢或ハ小菅。又ハ巢鴨。染井邊ナド全ク野外散策トシテ出遊セラレタ例モアレドイツモ必ズ鷹ヲ持タセタヤウデ有ツタガ鶴御成ノ時ハ途中ニ立寄ラル、例ハ殆ンド無カツタ。

當今ノ市内（江戸ノ時代カラ市中デハ有ツタレド）デモ關口水道町。小日向水道町。大塚町。音羽町。戸崎町。白山前町（尤モ維新マデ小石川ノ中ニ小石川村トイフカ在ツタ位）麻布櫻田町。龍土町。市兵衛町。谷町。今井町。飯倉町。三田町。高輪町。白金臺町。又ハ橋場町。今戸町。山ノ宿町。山谷町。通新町。淺草諏訪町。駒形町。並木町。茶屋町。三間町。仲町。田原町。聖天町。瓦町。田町。材木町。花川戸町。淺草町。馬道町。ナド現今ハ勿論江戸ノ頃既ニ殷賑ノ町モ狩獵地域ニ屬シ御鳥見役ノ監視線内ニ

在ツテ淺草奥山ノ觀世物小屋ノ高サヤ囃子ノ音ヤ吉原遊廓ノ二階ヤ騒ギノ音ナド皆ナ御鳥見ノ監視線中ニ在ツテモノ御鳥見カラ鶴ノ飼付ケノ障リニ成ルト言立テレバ奥山ノ囃子モヨシ原ノ燈明あかりヤ騒ギモ止メラレネバナラヌ併シ實際ニハ然シテ故障ノ出タ例ハ無カツタヤウダ。

尙マタ神田橋外一ツ橋外明地（元ノ護持院カ原今ノ錦町）ハ享保頃鷹場（地ニ屬シ三十餘年後ノ安永三年十月三十日附ヲ以テ神田橋外一番明地向後御鷹場ト相成ルニ付キニ番。三番。四番。五番。田同様心得ヘシトイフ令達アリシ位ニテ八代將軍ノ狩獵復興ノ時代ニハ前記ノ場所モ江戸ノ場末ニシテ今日ニ比スレバ郡部トイフ姿デ在ツタモノガラウ現ニ西ケ原ニ猪ガ棲ンデ居ルノヲ狩ラシタコト別項ノ西ケ原御殿ノ項中ニ記シタ通りデアル位デアルカラ。

寫軍家出獵ノ繁カリシハ享保元文時代即チ八代九代將軍ノ頃ニシテ川狩リモアレド多クハ鶴其他ノ鳥類ニシテ猪狩リノコトモ數回アリ今ニシテ思ヘバ西ケ原邊ニ猪ノ居ヤウトハ信ジ難イクラキナレド其ノ頃ノ記錄中ニ千住せんじゆ宣野ノ鹿狩トイフコトモ載ヒテ有レハ兎ニ角猪鹿ナド居タニハ相違ナイ鳥類ノ御成ハ數次ニシテ其ノ外玉川ノ鮎漁。目黒邊ノ草狩摘草。品川沖ノ潮干狩遊覽ナドモアレド餘リクダノシケレバ略ス。

猪鹿御成ノ事 八代將軍吉宗公ノ時代享保八年九月二十八日西ケ原筋猪御成△同九年九月十八日西ケ原御殿山猪狩△同十年三月十三日黒筋猪雉△同年三月二十七日小金筋鹿狩△同十五年二月十二日西ケ原猪△同年同月二十三日染井邊猪△同年三月四日青山筋猪△同十六年三月六日及ビ同月十八日ねずみ鼠山（今ハ北豐島郡長崎村ノ内）猪△元文二年三月二十五日鼠山下落合邊猪△同三年四月十三日目黒筋猪△同四年四月二十三日雜司ヶ谷ヨリ落合邊猪△同五年二月三日落合邊兎雉子。

右ハ八代公丈ノ事ニテ九代公ニモ野外出遊ハ每度ナレド猪鹿狩リハ見エズ兎ハ維新頃マデ居タレド猪鹿ハ此ノ界限ニ棲息シタコト今カラ思ヘバ甚ダ不審ケレド實際西ケ原御殿山ニ棲息シタカラ鼠山邊ニモ居タカモ知レナイガ或ハ猪鹿狩ニ擬シテ一種ノ訓練ヲシタカ又ハ猪鹿ヲ前以テ圍ヒオキ武技練習ノ爲メ狩ラシメタモノナラントイフ説モアリ或ハソウカモ知レナイガ記錄ノ上ニテハ眞面目ニ狩リ立テタモノヤウデアル尤モ享保六年四月十八日附ヲ以テ猪鹿狼等多ク出テ田畑ヲ荒シタル節ハ日限りニテ鐵砲ヲ打タセ

タルモ自今御拳場^{ごこばば}（將軍家ノ狩獵地）ノ外ハ四月朔日ヨリ七月晦日マデハ構ヒ無ク打タセ申ベク云々トイフ布令ニ據ツテ見レバ當時江戶附近ノ地ニ是等ノ被害多カリシモノナラン兎ニ角八代將軍ノ近郊ニ出遊サレタ事ノ多キハ三代公以後其ノ例ナク又八代公以後ニモ其ノ例ガナイ殊ニ出入トモ隨時^{ずるじ}其外トモニ極メテ簡素ナリシコトモ亦前後ニ例ノナイコトデ有ツタ其ノ他寛政三年（十一代將軍家齊公世ニ謂フ大御所様ノ時）ニハ駒場ノ原ニ追鹿狩アリ同七年三月ニハ小金ガ原ニ猪狩リヲ催シ嘉永二年（十二代將軍家慶公ノ時）ニモ小金ガ原ニ猪狩リノ催シアリタルガ其ノ後ニ鶴ノ外ハ雁。鴨。鶉ノ狩クラキデ有ツタ。

△猪狩ト追鳥狩　小金ノ猪狩リト云ヒ傳ヘテモ今明カニ知ラル、ハ前項ニ記シタ家齊公ノ寛政七年三月ト家慶公ノ嘉永二年三月トノ兩度デアル追鳥狩^{おとりかり}ハ雉子獵ニシテ安政頃マデ折々行ハレタガ是ハ單ニ遊獵トノミイフデハ無ク士氣ノ鼓舞ト練武ノ獎勵ヲ兼ねタルモノデ嘉永二年ノ小金ケ原ノ猪狩ノ如キハ方ニ時勢ニ鑒ミテ演武獎勵ノ意旨ニ出テタモノデアル。（未完）

臺灣屬島の鳥類、本年十一月臺灣ヨリ上京セラレシ本會々員菊池米太郎比ノ談ニヨレバ同島附屬ノ四小島ニ於テ同氏ノ採集セラレタルモノハ左ノ如キ種類ナリト云フ。

紅頭嶼（周回十三里、三千尺ノ山最高）、——をながばこ（留鳥、少シ）、たいわんづあかをばこ（留鳥）、かのこばこ（同上）きじばこ（同上）、ばんけん（同上）、きくちめじろ（同上、多シ）、たいわんせつか（留鳥）、いしがきひよざり（同上、多シ）、はうちわざり、まみはうちわざり、じやうびたき（少）、くろさんくわうてう（同上）、きせきれい、ほじろせきれい、いそひよざり、つばめちざり、しろちざり、ちうしやくしぎ、たしぎ、こあじさし、たかさごくろさぎ、こさぎ、あまさぎ、（以上廿三種類）。

火烧島（周回四里、二千尺以内ノ山最高）、——たいわんあをばこ、かのこばこ、こあじさし、しろちざり、たかさごくろさぎ、いそひよざり、きくちめじろ、いしがきひよざり、さんくわうてう類（雌ノミ採集種名不明）、（以上九種類）。

龜山島（周回一里、千尺以内ノ山最高）、——かのこばこ、こがも（島内ノ池ニ來ル）、めじろ類（きくちめじろ？）、いしがきひよざり、りうきうはしぶこがらす（以上五種類）。

小琉球島（周回三里、平坦）、——かのこばこ、きじばこ、しろちざり、こさぎ、あまさぎ、いそひよざり、めじろ類（きくちめじろ？）（以上七種類）。



二三ノ鳥類ノ食物

靱山徳太郎

埼玉縣人間郡産鳥類數種ノ胃内容調査（自大正六年四月上旬至同年六月中旬）

(1) *Aegialitis alucida* (Gray) いかさぎの

一、雌成鳥 高麗村新堀高麗川 四月十日採集

胃内容。じむし(?) 幼蟲一、小甲蟲ノ鞘翅六、田螺ノ類方

言かはにら幼貝三、小砂礫極メテ多シ、

二、雌成鳥 高麗村新堀高麗川 五月十九日採集

胃内容。じむし(?) 幼蟲一、小型甲殻類一、鞘翅目胸部

一、他ハ非常ニ微細ナル昆蟲(?) 多數ニシテ後者

テ以テ胃中ヲ充滿セリ。

三、雄成鳥 高麗村新堀高麗川 六月十一日採集

胃内容。極メテ小ナル禾本科種實三、直翅目卵一、小砂礫

(2) *Cuculus canorus* L. くわくろう

一、雄成鳥 高麗村新堀原五月二十一日採集

胃内容。けむし非常ニ多シ。

附記 胃ノ内壁ニハけむしノ刺毛列立シ其疎密ノ度合ハ

鳥類ノ羽域ノ如クニ縦ニ從フ、恐ラク胃ノ運動作

用ニ依リ此ノ如クニ刺立セルモノナラン、刺立セ

ル毛ノ長サハ平均四耗半アリタリ。

(3) *Ninox scutulata* (Raffles) あをばく

一、雌成鳥 高麗村新堀大宮 五月二十日採集

胃内容。蝶ノ頭二、だいめうばつた肢數個、鞘翅目ノ翅最

多(小形及中形ノモノ)、鞘翅目ノ肢、小哺乳類頭骨

ノ細片一、其他混合物多ケレド消化サレ居ル爲判

明セズ。

(4) *Caprimulgus jotaka* W. & S. よたか

一、雄成鳥 高麗村新堀大宮 六月九日採集

胃内容。けむしノ毛塊三、小甲蟲ノ頭及翅(共ニ多)小甲蟲

ノ胸部一、淡黃色ナル蟲卵?(徑一耗程ノモノ)

多シ、寄生蟲若干

二、雌成鳥 高麗村新堀大宮 六月十二日採集

胃内容。けむしノ毛塊二、小甲蟲(多)、淡黃色ナル蟲卵十數個、小砂礫(小ナルモノ數個、小豆大ノモノ一個)、寄生蟲少數。

三、雄成鳥 晴明村宮澤 六月十二日採集

胃内容、小甲蟲三種(多)、淡黃色ナル蟲卵、數個、小砂礫少量

(5) *Alauda arvensis japonica* T. & S. ひほり

一、雄成鳥 高麗村新堀野口 六月十一日採集

胃内容。みくず非常ニ多、小砂礫少量

(6) *Motacilla boarula melanocephala* Pall. きせぎれい

一、雄成鳥 高麗村新堀高麗川 五月二十一日採集

胃内容。蠅非常ニ多。

(7) *Terpisiphone princeps princeps* (Temm.) さんくわうてう

一、雄成鳥 高麗村新堀大宮 五月二十四日採集

胃内容。蜂類(?)三、赤褐色透明ナル小甲蟲ノ翅二、他ハ

不明。

二、雄成鳥 高麗村新堀大宮 六月二日採集

胃内容。蜘蛛(中型及小型ノモノ)最多、昆蟲一。

(8) *Xanthopygia narcisina n. roissina* (Temm.) きむたき

一、雄成鳥 高麗村新堀大宮 五月十二日採集

胃内容。小甲蟲極メテ多。

二、雄成鳥 高麗村新堀大宮 五月十五日採集

胃内容。大蚊科多。

(9) *Cyan pila cyanomelana* (Temm.) おほり

一、雄成鳥 高麗村新堀大宮 五月二十日採集

胃内容。小甲蟲極メテ多。

二、雄成鳥 高麗村新堀大宮 六月六日採集

胃内容。小甲蟲ノ翅多、鱗翅目(?)幼蟲二。

(10) *Phylloscopus coronatus* (Temm.) せんたいむしくひ

一、雄成鳥 高麗村新堀大宮 五月十六日採集

胃内容。鞘翅鳥幼蟲二、昆蟲幼蟲數止。

二、雄成鳥 高麗村栗坪暗見澤 六月十二日採集

胃内容。膜翅目及小甲蟲共ニ少數。

(11) *Hirundo rustica gutturalis* (Scop.) つばめ

一、雄幼鳥 高麗村栗坪新明山 六月十二日採集

胃内容。蠅極メテ多、小甲蟲少數

附記 上記ノ外ニ雄幼鳥ニ羽アレド同一ノ親鳥ニ哺育サ

(12)

レ居リタル故ニ胃内容モ全ク同ジケレバ省略セリ。
Lanius bucephalus T. & S. もす

一、雄成鳥 高麗村梅原 四月九日採集

胃内容。けら一、こほろぎ二、小甲蟲ノ翅數枚、大型蟻類

蠅蟲一、蜘蛛一、草根ニ附着セル蟲卵塊一、小鳥

ノ小羽一枚(僅少ナルモノ口邊ノモノナランカ)

二、雌幼鳥 高麗村^村堀新堀 五月二十二日採集

胃内容。けらノ肢、小甲蟲多。

(13)

Corvus corone orientalis Evers はしほそがらす

一、雄成鳥 高麗村新堀大宮 五月十二日採集

胃内容。小鳥ノ翼骨、鳥肉(?)多、糲少量。

二、雄幼鳥 高麗村新堀大宮 五月十二日採集

胃内容。小鳥ノ翼骨、鳥肉(?)多。

附記 前記ノ雄成鳥ニ哺育セラレシモノ故胃内容ハ殆ン

ド同ジキモノナリ。

(14)

Eophona personata personata (T. & S.) いかこ

一、雄成鳥 高麗村新堀大宮 五月十四日採集

胃内容。雜木ノ若芽極メテ多、白色透明ナル小砂礫少量

(15)

Passer montanus montanus (L.) ずんめ

一、雄成鳥 高麗村新堀大宮 六月十二日採集

胃内容。蛹(種名不詳長サ約五耗)一、禾本科種類(極メ、

小型ナルモノ)一、小砂礫少量

(16)

Emberiza citoides citopsis Bonaple ほくじろ

一、雄成鳥 高麗村栗坪暗見澤 六月十二日採集

胃内容。小甲蟲多、其他不明。

二、雄幼鳥 精明村宮澤 六月十二日採集

胃内容。蜂ノ類三、じむし幼蟲三(約四十耗淡紅色ナルモ

ノ一、三十耗黃色ナルモノ一、淡黃色ニシテ約五
 耗ノモノ一)赤褐色ナル長サ三耗^三形ナル種實

(?)二。

神奈川縣足柄上郡共和村彦鳥類二種胃内容調査(大正六年六月)

(1) *Cuculus poliocephalus* Lath. はくみぎす

一、雄幼鳥 六月二十二日採集。

胃内容。けむし極メテ多、小甲蟲ノ胸部一、同頭部數個

(2) *Terpsiphone princeps princeps* (Temm.) んくわうてう

一、雌成鳥 六月十三日採集

胃内容。蝶ノ頭一、種名不詳昆蟲ノ胸腹部一、同肢非常ニ

多シ、淡藍色徑一耗ナル蟲卵(?)少量。

淡紅色經二耗ナル蟲卵(?)少量。

二、雌成鳥 六月十三日採集

胃内容、種名不詳昆蟲ノ肢及腹部多シ、寄生蜂ノ一種多シ

淡紅色ナル蟲卵(?)少量。

こちどりノ巢ト卵

仁部富之助

秋田地方ニハこちどりノ棲息可ナリ普通ナリ。左ニ大正六年ノ夏ニ仙北郡花館村御物川及ビ同村玉川沿岸ニ於テ觀察セル本種ノ繁殖例ヲ報ゼントス。但シ其結果ハ海岸地方ノ場合ト若干ノ異ナル點ナキヲ保シ難ケレバ豫メコレヲ御斷リシ置キタシ。

繁殖期 本種ノ繁殖期ハ未ダ精確ナラズ然レドモ從來拂ヒタル注意ト、繁殖地附近ニ周年作業スル漁師及ビ船守等ノ談ヲ綜合考察スル時ハ、其卵期ヲ五月乃至七月ト見做シテ大過ナカラシ。

構巢地 河岸砂礫地ニシテ浸水ノ憂ナキ相當ノ高サト幅員ア



卵四ビ及巢ノりどちこ

ル場所ハ殆ンド到ル處ニ構巢ス。然レドモ尙ホ少シク精細ニイフトキハ次ギノ條件ヲ要スルモノ、如シ。

(イ) 粗大ナル礫塊ノ堆積スル處ヲ避ケ、多クハ一方ハ砂地ニ

部ヲ選ム。

(ハ) 巢ヨリ若干ノ距離内ニ草叢アルコトヲ忌ム、但シ點々灌

一方ハ
礫地ニ
接スル
小礫上
ヲ選ム
(ロ) 水流
又ハ風
ノタメ
畦リヲ
形成ス
ル場所
ニアリ
テハ其
畦ノ上

木ノ生ズルハ關セザルガ如シ。

(ニ) 人馬ノ往來滋キ道路ノ附近ト雖モ特ニ避クルトイフコト

ナキガ如シ。

巢・ こちぎりノ巢ハ。寫眞ニ示ス如ク地面ヨリ深サ約二寸

(中心部ニ於テ)徑約三寸五分ノ穴ヲ掘リテ造ラレ其狀恰モ蟻地獄ノわなニ彷彿タリ。而シテ其内壁ニハ氷結ニヨリ破碎セルラシキ岩屑ヲ綺麗ニ並列スルノミニシテ、他ノ材料ヲ用フルコトヲ見ズ。又巢ハもず、ほゞじろ、ひばり等ノ如ク親鳥ノ體ヲ收容スルモノニ非ズ單ニ卵子ヲ存置スルニ止マル。從ツテ抱卵ノ際ハ親鳥ハ其巢ノ上ニ坐スルニ過ギズ。

巢中ニ於ケル卵ノ位置ハ寫眞ノ如ク各卵正シク、其尖端ヲ巢ノ中心ニ向ケ密ニ並列シ、決シテ亂ルハコトナシコレ本種ノ卵ハ其一端甚ダシク尖レルガダメナリ。又巢ノ大サハ卵子四顆以上ヲ容ル、餘裕ヲ存セズ、恐ラクこちぎりノ一巢卵數ハ四顆が最多限度ナルベシ。而シテ(日本百科大辭典)VI(三省堂發行)所載内田獸醫學士ニヨレバ、コレ等ノ現象ハしぎ、こちぎりノ類ニ共通ノモノナリト、今參考トシテ其一節ヲ摘録スベシ。

『又(しぎ)(ちぎり)等ノ卵ノ如ク一端極メテ尖レルモノアリカクノ如キ卵ハ此尖レル端ヲ中心ニ向ケテ數箇圓形ニ排列スル

ヲ常トス以テ排列セル卵全體ノ面積ヲ節約シ抱卵ニ際シ便益多シ故ニ親鳥ガ自己ノ體ノ割合ニ大ナル卵ヲ産スル種類ニハ此種ノ形狀ノ卵ヲ産スルモノ多シ。

卵・ こちぎりノ卵ノ色彩及ビ斑紋ハ砂礫則チ構巢地ノ色トヨク調和シ、タメニ容易ニ其所在ヲ發見シ難ク加之一旦見出シタル後ニモ目標ヲ付シ置カザレバ再ビコレヲ尋ネ當ルニ苦シムコトアリ。本種ノ巢卵發見例及ビ卵ノ重量寸法ハ次ギノ如シ。

第一例 五月十一日 御物川口原ニテ發見、卵ハ少シク抱卵セルモノナリ。

卵ノ個體	一	二	三	四
卵ノ重量(瓦)	六・八	六・五	七・〇	六・八
卵ノ長徑(耗)	三・〇・五	三・〇・四	三・四	二・九・八
卵ノ短徑(耗)	二・一・八	二・一・四	二・一・六	二・一・七
卵ノ形狀	一・六・八	一・四・一	一・四・五	一・三・七

備考 卵形ハ短徑ヲ以テ長徑ヲ除シタル指數ヲ以テ顯ハス以下同斷。又寫眞ハ第一例ヲ撮影セルモノトス。

第二例 同月同日 同所、卵ハ新鮮

卵ノ個體	一	二	卵ノ短徑	卵ノ形狀
卵ノ重量	七・〇	七・三	三・三	三・六
卵ノ長徑	二・九・五	二・九・〇	一・三	二・六

第三例 同月同日 同所、當時新鮮卵一顆ヲ藏ス其後廢巢

トナル。

第四例 五月二十七日 同所、新鮮卵四顆。

卵ノ個體	一	二	三	四
卵ノ長徑	三一・一	三一・六	三〇・二	三一・〇
卵ノ短徑	二二・〇	二一・八	二一・五	二一・七
卵ノ形狀	一・四四	一・四五	一・四〇	一・四三

第五例 同月同日 玉川々原ニテ孵化ニ近キ一卵ヲ存スル

ノミニシテ其他ノ卵ハ馬蹄ニ踏ミ潰サレアリ。

長徑 二九・六 短徑 二二・四 卵形 一・二二

コレニヨリこちざりノ卵ノ形狀、大サヲ知り得ベシ次ギニ參考トシテ一二ノ鳥類ノ體重ト卵重トノ割合ノ比較ヲ試ミルニ次ギノ如シ。

鳥名	性	體重	卵重	體重ニ對スル卵重ノ割合
こちどり	♂	三九・二 _五	七・三	一・八六
あかもず	♂	三一・八	三・五	一・一〇
せうびん	♀	三四・七	四・二	一・二一
ほとじろ	♂	二三・三	三・二	一・三八

右鳥類ハ予ノ調査セル數箇體中體重及ビ卵重共ニ其最大ノモ

ヲトリテ供用セルセノナリ。而シテコレニヨレバ四種ノ比較ニ於テこちざりノ割合最モ大ナルコトヲ知り得ベシ。

雛 予ハ大正六年六月十九日及ビ同月二十七日ニ各一羽宛ノ雛ヲ入手セリ。今雛ノ羽毛ノ色彩ニツキ全體的二最毛類似ノモノヲ求ムレバ、恐ラク何人モ家鷄褐色レグホーン種ノ雛ナリトスベシ、こちざりノ雛ノ習性ニツキ予ハ未ダ經驗ナキモ、某漁師ノ話ニ據レバ、雛ハ孵化後須臾ニシテ歩行スルモノニシテ若シ危險ニ遭遇スレバ忽チ石礫ノ間ニ蟄伏シ、其羽色ヲ利用シテ巧ミニ敵ノ目ヲ魅マスト又數日ヲ經タル雛ハ歩行頗ル迅速ニシテ容易ニ捕ヘ難ク、若シコレヲ捕ヘタル場合ニ陸地ニテ小魚ヲ以テ飼養スレバ、比較的長ク生育スルモ、一旦船中ニ入レ置クトキハ一二時ニシテ斃死スト云フ。

附記 こちざりの繁殖期ニ際シ、砂礫ノ間ニ隨所無數ニ徑四寸バカリ深サ約二寸ノ巢ニ似タル窪地ヲ發見セラル、コレハこちざりノ造リタルコトハ確カニシテ且ツ其大サモ鳥體ヲ容ル、ニ殆適當ノモノナレドモ、然ラバこちざりハ果シテ何ノ目的ヲ以テ斯ク多クヲ造リシカ、コレニ關シ友人及ビ予自身ニ下セル想像ハ次ギノ如シ。

(イ) 夜間ノ休息所ニ充ツルタメ歟。

(ロ) 砂浴セル跡ナル歟。

(ハ) 將來仔鳥ノ避難所トシテ歟。

(ニ) 徒然々々ヲ慰ムルタメ歟。

而シテ(イ)ニツキテハ早朝検査セルモ夜間ニ排泄セル糞ノ存在ヲ認メザリシ。(ロ)ノ目的ナラバ殊更ニ石礫地ニ行フ必要ナカル可ク、又(ハ)ハ將來偶然ニ然ル場合ナキニ非ザル可シト雖モ(ニ)ト共ニ稍々穿チ過ギタル感アリ要スルニコレハ後日ノ研究問題タル可シ。

かはせみノ巢内ノ魚骨ニツキ

法學士 川口孫治郎

嘗テ紀伊ノ北部デかはせみノ巢ヲ掘リ崩シテ、孵化後間モナイ程度デ居ル五雛ヲ見出シタコトガアツタ。從來人々ノ説ヲ聞クト、かはせみノ巢ニハ魚骨ヲ敷イテ居ルトイハル、ニ拘ラズ此實例ニハ魚骨ハ勿論他ノ何物ヲモ敷イテ居ナカツタ。此事ハ三年前黒田理學士ニ書信ノ序ニ報告シテオイタ(三巢ノ實見地(1) 肥前作賀舊城趾、(2) 紀伊有田川岸、(3) 山城上加茂山際ニアリテ何等材料ヲ用ヒズ)。其ノ後ノ實驗例デハ從來ノ通説ノ如ク魚骨ガ敷カレテ居タ。但シ其巢内ノ雛ハ前例トハ異ツテ著

シク成育シテ殆ンド巢立セントスル程度ニ達シテ居ツタ。

最近「鳥」第四號熊谷三郎氏ノ報告ニヨレバ、かはせみ雛ハ之ヲ飼養スルト食後ソノ餌食中ノ不消化物ヲ一塊トナシ吐出スル習性ガアルトノコトナルガ、此習性カラ推測スルヲ許スナラバ前例中、魚骨ノ敷カレテ居ナカツタノハ、確ニ雛ノ孵化後間ノナカリシ爲、即チ未ダ魚骨ヲ吐出スル程度ニ達シテ居ナカツタ爲デアツテ、又魚骨ヲ敷カレタ例ノハ、確ニ雛ガ十分成育シテ居ツタ爲、即チ多ク魚骨ヲ吐出スル程度ニ達シテ居ツタ爲デアラウ、ト考ヘラル。

若シかはせみノ卵時代ニト下ニ魚骨ガ敷カレテ居ル實例ガ發見セラレ居ルカ又ハ發見セラル、ノデアラウナラバ、ソレハ雛ノ吐出シタ魚骨デナイカラ、別ノ研究ヲ要スル。

棕鳥ノ營巢及ビ育雛觀察

鶉ノ家

觀察地ハ東京市本郷區内ナリ、四月十六日ニ棕鳥ガ隣ノ塹ノ木ノ地上三十尺許リノ處ニアル穴ノ中ハ巢ヲ造ル材料ヲ運ビ居ルヲ始メテ見タリ。同月二十三・四日頃迄巢ヲ造リイタルモノ如クニシテ二十五日頃ヨリ一羽ヅ、一時間前後ヲチキテ交代

シテ穴ノ巢ノ中ニ入ルモノノ如ク見受ケタリ。代ルベキ鳥遅キトキニハ巢ヨリ出デテ近キ枝ニ移リ又巢ニ入レリ。五月五日迄ハ同様ニテアリシモノノ如ク、六日ニハ稀レニ交代スルヲ見受タリ、七日ニ雛ノ孵化セシモノカ二羽ノ親鳥共出入スルヲ見タリ。十日、十一日ハ觀察セズ。十二日からすニ知ラレテ出入ニ苦心スルモノノ如ク雛ノ聲ヲ始メテ聞ケリ。一羽ノ雛ヲからすノ捕ヘ行クヲ見タリ。二羽ノ親鳥非常ニ鳴ケリ。十三日午前中幾度モからすニ襲ハレタリ。午後觀察セズ。夕刻ヨリ雛ノ聲減少セリ。十四日親鳥ノ出入遅延シテ雛ノ聲減ズ。十五日前日ノ如ク親鳥出入ス。巢ヨリ出ヅルトキニ白キ細長キモノヲクハヘテ出ヅルコトアリ。十六日午前九時頃ヨリからす五ノ六十羽バカリ森ノ中ニ立騒ギ、夕刻ニ至リテ去レリ。午前中ハ絶エズ見張シテからすノ近寄ラヌ様セシカド、午後ハ外出シテ保護セズ。十七日二羽バカリノ雛ノ聲ヲ聞ケリ。十八日、十九日前日ニ同ジ。二十日親鳥二羽ニテ巢ノ入口ニ行キ赤キ櫻實又ハ蟲ノ如キモノヲ雛ニ見スル様ニシテ與ヘズ屢々近キ枝ニ雛ヲ誘ヒ出サントスルモノノ如シ。二十一日親鳥一羽ハ近キ枝ニ見張セリ。他ノ一羽ニテ餌ヲ運ビ居レリ。二十二日時々からすニ襲ハレ雛ノ聲減ズ。二十三日午前一羽ノ雛庭上ニ落チテ鳴キイタリ。捕リテ雲雀籠

ニ入レ軒ニ掛ケ置キシニ親鳥來リテ二―三回餌ヲ與ヘ行ケリ。尙ホ二―三回摺餌ヲ與フ。親鳥ノ來リテ與フルモノト摺餌トニテ養ヘリ。籠ノ近キ處ヲからすノ飛ブトキハ何ゾレヨリカ親鳥ノ來リテ喧シキ迄鳴ク。又籠ノ下ノ邊リヲ猫ノ通ルトキニモ鳴ケリ。籠ノ中ニ餌ヲ運ビ來ルハ親鳥一羽ノ如シ。二十九日、三十日共親鳥ガ餌ヲ與ヘニ來ラズシテ樹上ニ鳴ケリ呼ブモノノ如ク思ヒシカバ三十日ニ放チヤリタリ。彼ノ巢ヲ營ミタル穴ハ昨年蛇ノ出デタル穴ニシテ本年雛ノ庭ニ落チタル二日後ニ穴三尺許リノ蛇ガ又出入シイタル故蛇ニ追ハレテ落チタルカ又ハからすニ追ハレテ落チタルカハ不明ナリ。

雌雄兩性ノかなりや

榑山徳太郎

本年四月二日、一小鳥商店ヨリ同日未明ニ死シタルモノナリトイフかなりや (*Serinus canarius* L.) 一羽未成熟鳥ヲ持チ來レリ、翌々四日剥皮セシ上、雌雄鑑別ノ爲メ之ヲ解剖ニ附シタルニ右側ニハ卵凡一個、左側ニハ卵巢一個ト有シタリ、幼鳥ナルガ故ニ共ニアマリ發達セザルモノナリシガ卵丸ノ方卵巢ヨリ僅ニ發達ノ程度勝レルモノ、如ク見受ケタリ。淡黄色ナル普通

僅ニ發達ノ程度勝レルモノ、如ク見受ケタリ。淡黄色ナル普通

ノかなりやト比較セシニ外見ニ於テハ瞳色ノ葡萄色ヲナセル
 (ノクノある)ニ於ケル如ク)點以外ニハ著シキ差異ヲ認メズ
 サレド此ノ異常ナル瞳色ト兩性ヲ有シル事トハ果シテ關係ア
 ルベキモノナルヤ否ヤニ就テハ知ルヲ得ザリケレバ記シテ識者
 ノ御高教ヲ乞フ。因ニ此鳥ヲ飼養シ居タリシ小島商人ハ左ノ如
 ク語レリ(此ハ昨年ノ秋子ニシテ雌ナリ)ト。

東京郊外ノ白鷺ノ群

鶺鴒ノ家

本年七月二十二日午前三ノ輪ヨリ王子電車ニテ飛鳥山下迄赴
 ク途中青田ノ中ニ白鷺五―六十羽ノ群ヲ見タリ。電車ノ音ニ驚
 キテ一同ニ立ち舞フ様實ニ美シカリキ。其土地ノモノニ聞ケバ
 毎朝ノコトナリト云ヘリ。近來東京ノ郊外ニ少クナリタルニカ
 、ル群ヲ見ルハ珍ラシキコトナルベシ。

阿久根ノ鶴ノ懷舊

脇山三彌

前回ノ本誌ニ阿久根ノ鶴ノ口繪アリ阿久根ハ予ノ青年
 時代曾遊ノ地ナリ懷舊ノ情禁ズル能ハズ茲ニ當時ノ記
 憶ノマヽヲ述ブ

薩摩國出水郡阿久根町ハ西海岸ニ濱スル佳景ノ地ナリ。之ヨ
 リ南方約一里ニシテ西目ト稱スル漁村アリ。熊本ヨリ鹿兒島ニ
 達スル國道之ニ逼ズ、明治二十一年ノ頃予故アリテ阿久根町ニ
 寓シ屢々西目村ニ來往セリ。此道路ノ兩側ニ鹽田アリ。稻田中
 ヲリ鹽ヲ浸出ス。稻ヲ作ラズシテ鹽ヲ製ス。此附近ハ秋冬ノ間常
 ニ多數ノ群鶴ヲ見ル。鶴ハ敢テ人ヲ恐レズ。礫ヲ投ジ棒ヲ振フ
 テ威セドモ鶴ハ殆ンド知ラザルガ如キ態ヲ爲セリ。

畦路ヲ踏ミテ鶴ニ近ヅキ相距ルコト數十歩ニ及ベバ、鶴ハ僅
 カニ飛ビテ他ニ移ル、而シテ附近ノ群鶴ハ頸ヲ伸バシ頭ヲ舉ゲ
 テ予ヲ環視スルモノ、如シ。當時予ノ身長五尺ニ滿タズ。而シ
 テ鶴ノ高ハ肩ニ及ベリ。戯レテ農夫ニ問フテ曰ク。鶴若シ嘴ヲ
 以テ人ニ逼ラバ如何ニシテ之ヲ防ガンカ。農夫曰ク。鶴堂ニ人
 ヲ害センヤ、然レドモ人若シ鶴ヲ殺傷シ或ハ之ヲ捕獲スレバ災
 禍必其家ニ來ラント、言辭甚嚴然タリ。

惜ムベシ當時鳥ニツキテ何等ノ趣味ヲ有セズ。從テ觀察ハ甚
 不確實ナリシモ、今ニシテ思ヘバ主トシテなべづるトまなづる
 ナリシガ如シ、丹鶴モ或ハ之レアリシカ記憶ニ存セズ。一群ノ
 數ハ往々百羽以上ナリシコトモアリシカ如シ。皆稻田ニ落チタ
 ル稻穗ヲ求メ、又ハ鹽田中ノ小動物ヲ啄ミシモノ、如シ。又路

上ニ遺棄セルさつまいもノ皮（農夫ハ茹デタルさつまいもヲ食ヒナガラ歩ム俗風アリ）ヲ喙ミシコトヲ目撃セリ。鴨族ノ群ノ如キ雜然タル鳴聲ハ聞キシコト無シ

當時一二ノ人ノ譚ニヨレバ、某家ノ家政不如意、某老爺ノ眼病等ハ鶴ヲ殺シテ食ヒタル崇リナリト。當時警察上ノ取締特別ニ嚴ナルコトモナカリシモ、人民ノ朴直ナルコトハ克ク不言ノ間ニ禁獵ノ實現サレテアリシモ



大豆ノ害虫ノ被害ヲ示ス

ノ、如クナリシ。其後二十餘年ヲ經テ滿洲ニ客居スルニ當リ、偶然ニモ營口ノ滿洲新報ニ阿久根ノ鶴ノ記事ヲ掲ゲタリシヲ切り抜キテ保存セルモノアリ。左ノ如シ。

阿久根ノ群鶴 鹿兒島縣ノ阿久根ニハ古來冬期ヨリ春ニカケ鶴ノ群ノ來ルコトガ例デアツタガ中頃狩獵家ノ爲ニ荒ラサレ近年ハ二三羽位シカ來ナカツタガ保護鳥トサレタ以來漸ク其數ガ殖ヘ、昨年ハ十數羽、本年ハ昨今四十餘羽トイフヲ數ヘイト悠長ニ遊ンデヤルサウダ。

すづめノ害虫驅除例

仁部富之助

『鳥』四號ニ（稻作上ニ於ケル雀ノ被害）ヲ報ジタルガ一面ニ於テ彼等ニ本例ノ如キ有益方面モアル。寫眞ハ大豆ノ害虫（はまぐりむし）ノ被害慘狀デ、コノ蟲ハ寫眞ニ見ル

公主嶺附近ノ大降雹雀群ヲ殫ス

脇山 三 彌

通り大豆葉ヲ捲リ其内ニ蟄伏シ、コレヲ喰害スルノデアルガ、作物ニトリテハ喰ハル、葉量ノ損失ヨリモ却テ葉身ヲ捲クリ縮メラルル爲メ同化面積ヲ減ズルコトが大ナル損害トナルノデアル。

はまぐりむしノ發生期ハ大底七月下旬ヨリ八月中旬迄デ、同下旬ニハ大半蛹化スルガ、コノ時期ニハ毎日數羽乃至數十羽ノ雀ガ大豆畑ニ群リ下ルヲ見ルノデアルコレ彼等ハ被害葉ノ内部ニ居ル蟲ヲ啄ミ喰フタメデ、今爰ニ其効果ヲ幾何ト數字ヲ以テ示シ得ヌガ、寫真中ニ見ル捲リ葉ノ一部ガ破レ居ルノニ注意スレバ恐ラク其程度ヲ想像シ得ルデアラウ。尙ホコレト略ボ同様ノ事實ガ稻ノ小青蟲ニツキテモ見ラル、。然ルニ以上ノ實際ヲ知ラヌ人ハ何等ノ辨ヘモナク、唯々追拂フコトノミニ専心スルノハ誠ニ心ナキ事ト云ハナケレバナラヌ。

右ノ如クニ雀ハ一方ニ稻穗ヲ咬害シツ、有ルト同時期ニ一方ニ於テ害蟲ノ驅除ヲスル。雀ノ効果ノ評價ハ存外簡單ニハ行カヌト思フ。而シテ稻ヲ害スル方ハ主ニ春産レノ幼鳥トにうない雀ゾ有益ナル働キヲスル方ハ巢立後ノ仔雀デアルガ前者モ矢張り之ニ參加スル。

去九月六日ノ當地滿洲日日新聞ニ左ノ記事アリシヲ以テ本誌ノ餘白ニ掲ゲ報告ス。

三十日(八月)午後七時三十分公主嶺附近ニ大雷雨ト共ニ大雹降下シ凄愴タル態言語ニ絶ヘ(中略)降雹ハ二分間許リニテ收マリタルガ此不意ノ降雹ニ公園ノ森或ハ附近ノ立樹ニ巢棲シタル雀群ハ瞬ク間ニ叩キ落サレ地上ニ堆高ク積リタリ。公主嶺全體ニテ其數萬ヲ以テ數フベク三十一日ノ公主嶺デハ何處モ此處モ雀ノ御馳走ニテ持ち切りトイフ有様叩キ落サレタルハ何レモ本年ノ春雛ナリ三十一日ニハ俺ノ家ハ筈ニ一杯、己レノ處デハ四斗樽ニ一杯乃公ン所デハ叭一杯ナド、雀ノ話ニテ持ち切りタルハ近頃ノ椿事ナリシ。氣ノ早キ飲食店ニテハ手ヲ廻ハシテ之レヲ寄セ集メルナンド機敏ナルモノアリシモ滑稽。

東京飼鳥組合小賣相場 (大正六年八月)

榊山 徳太郎

秋期捕獲セラル、新鳥ハ十月以後相場異動アレバ本篇中ヨリ除外セリ。

かなりや 並一番 1.00—1.50 卷毛 一番 2.00 (冬期五割上リ)

ぶんでう	外國産(野生鳥)	一番	〇・八〇〇
同日本産(籠生鳥)	(さくらぶんでう)	同	一・〇〇〇
同(はくぶんでう)	同	同	二・〇〇〇
じうしまつ	大班一番	〇・六〇〇	
同	小班及白	赤目一番	一・〇〇〇
同	白	黒目一番	二・〇〇〇
あみめじうし又じやがたら	一	番	〇・七〇〇
きんばら			〇・八〇〇
へきてう			二・〇〇〇
きんくわてう	子	一番	一・二〇〇
同	親	一番	一・五〇〇
おほきんくわてう	一	番	七・〇〇〇
同	一	番	八・〇〇〇
こきんてう	外國産(野生鳥)	黒一番	一・〇〇〇
同	赤	一番	二・五〇〇
同	日本産(籠生鳥)	黒一番	一・五〇〇
同	同赤	一番	四・〇〇〇
べにすゞめ	一	番	一・五〇〇
せきせいこんこ	外國産(野生鳥)	青一番	四・五〇〇

せきせいいんこ	極黄	一番	七・〇〇〇
同	日本産(籠生鳥)	同	六・〇〇〇
同	同	同	一・〇〇〇
なぐくさいんこ又きぐさいんこ	一	番	二・五〇〇
さめくさいんこ	同	同	二・〇〇〇
かるかやいんこ	外國産(野生鳥)	同	八・〇〇〇
同	日本産(籠生鳥)	同	一・〇〇〇
だらまいんこ	同	同	六・〇〇〇
こせいこんこ	同	同	八・〇〇〇
わけほんせいこんこ	同	同	五・〇〇〇
おほこんせいこんこ	同	同	六・〇〇〇
をかめいんこ	外國産(野生鳥)	同	八・〇〇〇
同	日本産(籠生鳥)	同	一・〇〇〇
きほうしいんこ	新鳥	一羽	三・〇〇〇
同	飼込物	一羽	五・〇〇〇以上
こきほうし又こほうしいんこ	新鳥	一羽	一・五〇〇
めきしこいんこ	新鳥	一羽	五・〇〇〇
同	飼込物	一羽	一・〇〇〇
こはく(きばたん、こばたん)	新鳥	一羽	八・〇〇〇

こはく	飼込物一羽	一〇・〇〇〇	てうせんみふうづら	親一番	三・〇〇〇
たいはく(おほばたん)	新鳥一羽	一〇・〇〇〇	(まんしうづら)	同	三・〇〇〇
同	飼込物一羽	三・五〇〇	ぢけいてう(しやく)	新鳥一羽	五・〇〇〇
ばたん(むじあふむ・ふひりぴんあふむ・てんじくばたん等)	新鳥一羽	二・五〇〇	きじ	子飼一羽	一〇・〇〇〇
もゝいろいんこ	一羽	二・五〇〇	やまぎり	新鳥一羽	五・〇〇〇
ひぐさいんこ	同	三・〇〇〇—三・〇〇〇 ^円	同	子飼一羽	一〇・〇〇〇
づぐろいんこ	同	三・〇〇〇	きんけい	外國産(野生鳥)同	二〇・〇〇〇
ひいんこ(せうぜういんこ)	同	二・五〇〇	同	日本産(籠生鳥)同	二・五〇〇
こむらさきいんこ	同	三・五〇〇	くじやく	(まくじやく)	同
ぎんば	兒孵シ保證付親一番	二・五〇〇	ほうわうじやく	同	八・〇〇〇
同	雛一番	一・五〇〇	同	(しろくじやく)	同
しらこば	又じゆすかけば	一・五〇〇	をしぎり	兒飼一番	一五・〇〇〇
同	雛一番	一・〇〇〇	こがも	一羽	一・五〇〇
ちようせうば	一羽	三・〇〇〇	こもゑがも	同	七・〇〇〇
うづら	卵用鶉産卵中親	一〇・〇〇〇 以上	あかゞしら	(ひぎりがも)同	二〇・〇〇〇
同	鶉	五・〇〇〇	ば	ん(こばん)	兒飼一番
同	野鶉	一・〇〇〇	おほばん	一羽	二・五〇〇
同	鳴鶉	三・〇〇〇 以上限無し	くひな類	價格一定セザレバ玆ニハ除ク事トセリ	
みふうづら(ひめうづら)	同	一〇・〇〇〇	くろつぐみ	一羽	一・〇〇〇

こまざり
てうせんごま (あかひけ) 黒子

同 新鳥 一五〇〇
飼込 二五〇〇

こるり 飼込物一羽 五〇〇〇

るりびたき 同 二〇〇〇

じやうびたき 同 〇・五〇〇

おほさざい (かやくざり) 一羽 五〇〇〇

同 不良(鳴ノ悪キモノ) 〇・五〇〇

おほるり 一羽 一・五〇〇

きびたき 同 二五〇〇

うぐひす 同 一〇〇〇

同 春獲數一羽 一〇〇〇

きくいたざき 子飼物不良 三〇〇〇其他以上

みそざざい 新鳥一羽 三〇〇〇

ごじうから 新鳥及兒飼共二一羽 五〇〇〇—一〇・〇〇〇

しづうから 新鳥一羽 二〇〇〇

やまがら 新鳥一羽 一・五〇〇

こがら 一羽 一・五〇〇

えなが 同 〇・三〇〇

きせきれい 當年兒一番 三〇〇〇

せぐろせきれい 同 二〇〇〇

はくせきれい(すみれせきれい) 同 一・五〇〇以上

ひばり 兒飼物一羽 三〇〇〇

こうてんし 一羽 三〇〇〇

めじろ 新鳥一羽 〇・三〇〇

同 春子一羽 一・〇〇〇以上

さうしてう 雄一羽 一・五〇〇

同 雌一羽 〇・五〇〇

こうらうん 一羽 二五〇〇

わうてう(かうらいうぐひす) 一羽 一〇〇〇

はつかてう 新鳥一羽(眞似無) 二〇〇〇

同 飼込物一羽(人語付) 三〇〇〇

きうくわんてう 新鳥一羽(眞似無) 二〇〇〇

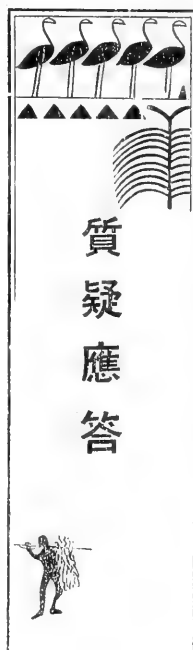
同 (飛ツ子) 三〇〇〇

同 子飼物一羽(眞似無) 二五〇〇〇

同 (眞似付) 以上及以下 以下ナルモノハ人語及其

おほみきうくわん 新鳥一羽 二〇〇〇

他不良ナルモノニシテ惡キ眞似等ヲナスモノ



質疑應答

質疑者 朝鮮京城高等普通學校 森 爲 三

一、問 通俗ニ鷹ト鷺トヲ區別スベキ點ハ何レニ候ヤ

答 兩者ノ區別ヲ簡單ニ書キ表ハスハ中々困難ニテ寧ロ不可能ナリ。或者ニハ適スルモ他ノ者ニハ適セザル場合ヲ生ズサレド左ノ如ク考フレバ大ナル誤リハナカルベシ。(但シ本邦産ノ種類ノ場合)。

鷹類 a 體ハ中形ニシテ翼長一尺七寸五分以下ナルカ或ハナ

ホ小形ナリ。

b 上嘴緣ノ左右ニ尖リタル一齒アル(はやぶさ類)カ或

ハ之レナシ(おほたか類及ビミビ類)。

c 跗蹠ガ全部羽毛ヲ被ル(けあしのすり)カ或ハ下部裸

出ス(はやぶさ、おほたか及ビミビノ類)。

鷺類 a 體ハ大形ニシテ翼長一尺七寸五分以上、若シ然ラザ

レバ頭ニ羽冠アリ(かむむりわし、くまたか)。

b 上嘴緣ニハ尖リタル齒ナシ、

c 跗蹠ハ全部羽毛ヲ被ル(いぬわし類)カ或ハ下部裸出ス(おほわし類)。

即チ一言ニテ書キ表ハセバ、勿論不完全ナルモ、鷹類ハ中形ナルカ小形ニシテ嘴ニ齒アルモノトナキモノトアリ。跗蹠ハ一般ニ全部羽毛ヲ被ラズ(但シけあしのすりヲ除ク)鷺類ハ大形ニシテ嘴ニ齒ナク、跗蹠ハ全部羽毛ヲ被ルモノト然ラザルモノトアリ。

元來鷺亞科ノモノト隼亞科ノモノトハ正確ニ上記ノ如ク區別セラルルモ鷺亞科ノ種類ハ鷺ニ近ク(けあしのすりノ如キ特ニ然リ)、又蒼鷹亞科ノ種類ハ一見隼ニ近似ス即チ蒼鷹ノ類トハ鷺亞科ト隼亞科トノ中間ノモノナリト云フヲ得ベシ。

(回答者 黒田 長調)

質疑者 東京 榊山 徳太郎

二、問 本年一月九州産しろくろさぎヲ入手致シ最近六月二日埼玉産ナルさんくわうてうヲ入手致シ候處前者ハ體一面ニ褐色點斑ヲ雜ヘ居ルモノニテ後者ハ雄成鳥ニテ色彩形狀共雌ト候ヘド此ノ如キ事ハ稀ナラズ候ヤ御教示ノ程願度ト存ジ候。

答 しろくろさぎノ體ニ褐色斑アルハくろさぎトノ交雜ニヨ

リ生ジタルモノナリ。サレド兩者ノ純然タル區別ハ無クしろくろさぎハくろさぎノ白色變型ナリト見ルヲ正當トス。南洋産ノモノニモ屢々白羽ニ石板灰色ノ斑又ハ縱線ヲ有スルモノアリ兎ニ角稍稀レナルモノナリ。

さんくわうてう雄成鳥ニテ外見雖ト同様ナルハ體內ノ雄性器ノミ發達シテ外部ノ羽毛ハ未ダ生殖羽ヲ示サザリシモノカ又ハ生殖ヲ終リ夏羽トナリシモノナルベシ。因ニ成鳥ニテモ中央ノ長キ尾羽ハ秋季ヨリ五六月頃迄存シソレヨリ落ツルモノトス。體色モ雌ニ近ヅク(回答者 黒田長禮)

三、四、質疑者 東京 藤 原 勝

三、問左記名稱ノ内ニハ全ク架空的ノモノモ有之ベク又往時生存セシ鳥類モアルベク又現存セルモ其名稱ヲ異ニセルモノモ有之ベクト存ジ候此ノ邊ノ點委細御教示被下度候。

鳳凰、鸞、鳩、比翼鳥、鵠、鵠鵠、姑獲鳥、鵠鵠、治鳥、鳳五郎、木容鳥、命令鳥、仙遊鳥、蚊母鳥、嗽金鳥、白雉ト白鵬トノ差異、鵠鵠、鵠鵠、練鵠、練雀、山鵠、大和鵠、尾長鳥、山鳥、鳥鳳、山雀、小蕭鳥、^{アマノシヤク}天魔雄、青鵠、吐綬鵠答、一、鳳凰ハ架空的ノモノナリサレド鳳凰ナル名ヲ附スル鳥類渺ナカラズ例ヘバ鳳凰雀、姫鳳凰(天人鳥ノ異名)瑠璃鳳凰

(大瑠璃ノ異名)ノ如シ、二、比翼鳥モ無論架空的ノモノナレドモ其元ハ風鳥 *Paralisa apoda* ヨリ起リシモノト思ハル、節アリ三、鵠無詮架空的動物ナリ。四、鵠鵠ハ八哥鳥ノ事ナリ。五、鳳五郎ハほうご即チ和蘭語ノ(鳥)ヨリ轉セシ語ナレドモ主トシテ駝鳥ヲ意味セシモノ、如シ其他古書ニころをんほうごろ(*Crown bird*の意ナラン)。やあるほうごろ等アリ尙泉ヲ方言ニテほうごろト稱スル地方アリ。六、蚊母鳥ハよたか(*Caprimulgus jotsuka* (L. G.))ナリ、七、白雉ハ普通ノ雉ノ白變種ニテ現今ニテモ屢々見ル白鵬ハ支那産ノ雉 *Euploceus nychemeri* ノコトナリ八、練鵠ハをなが *Cyanopica cyanus* 九、練雀ハ連雀 *Amphispiza* 及をながノ兩種ニ混用セラル、モ後者ノ方當レリ。但シ盛京通志(本誌第二號參照)ニ依レバ練鵠ハ支那産ノ三光鳥ナルガ如シ十、山鵠ハ支那産ノ *Uroisus sinensis* ナリ本邦ニテ下記ノ稱ト區別スル爲メニ唐山鵠トモ稱ス又さんくわうてう及をながヲ山鵠ト稱スルコトアリ。十一、鳥鳳ハ三光鳥ナルベシ。十二、大和鵠ハをなが。十三、尾長鳥ハをなが。十四、山鳥ハたけがらす又ハみやまがらす。十五、姑獲鳥モ架空的ノモノナレドモ諸種ノ記載ヲ總合スルニごるさぎ、みごごる等ノ類ヲ元トシテ造リ上ゲラレタルモノナランカ。十六、吐綬鵠ハ

我國ニテハしちめんでうニ當テラル、モ之ニ就テハ動物學雜誌ニ鷹司學士ノ說アリ、以上説明セル以外ノ鳥名ニ就テハ出所ヲ示シ再度質問アリ度シ尙此種ノ名稱ハ同一名ニテモ場合ニヨリ種々ノ意義ニ用キラル、コトアルヲ以テ以後可成名稱ノ記載シアル出所ヲ附記セラレタシ。

(回答者 内田清之助 初山徳太郎)

四、問あふむトいんこノ區別御教示被下度候。

答 兩者ノ區別ヲ簡單ニ記セバあふむ類ハ概シテ短尾大形ニシテ羽毛白色ノモノ多ク(但シもいろいろいんこハあふむ類ナレドモ白色ナラズ其他黒色ノモノモアリ)頭ニハ常ニ羽冠ヲ有シ舌ハ先端圓滑ナリ俗ニ稱スルいんこ類中ニモ學術上ハあふむ科ニ入ルモノトひいんこ科ニ入ルモノトアレドモ後者ハ概シテ中形小形ニテ長尾ノモノト短尾ノモノトアリ色彩ハ主トシテ綠、青、赤、黃等美麗ナルモノ多ク又頭ニ羽冠ナキモノ多シ所謂いんこニシテあふむ科ニ入ルモノ、舌ハ先端圓滑ナレドモひいんこ科ニ入ルモノニアリテハ先端刷毛狀ヲ呈ス尙詳細ハ鷹司理學士著(飼ひ鳥)一五八一—一五九頁參照アリタシ

(回答者 黒田長禮)

五、六、七、八、九 質疑者 岐阜縣 柳原 要二

五、問 先日御教示下サレシ半製標本棚ノ引出ニ就キテ中央ニ界ノ在ルハ大形ノ鳥及きじノ如キ長尾ノモノニテハ如何ニ整理致スベキヤ。

答 抽出ノ中央ニアル棧ハ硝子ノ蓋ヲ支持スルダケノモノニシテ抽出ヲ二部ニ仕切ルニアラズ故ニ抽出ノ中ハ全部ヲ通ジテ使用シ得ラル併シ小形鳥類ヲ入ル、ニハ全ク仕切り抽出ヲ二分スル方整理上宜シトス(回答者 黒田長禮)

六、問 圓尾、凸尾、楔狀尾、角尾、凹尾、燕尾、缺尾、尖尾

等ノ尾羽ヲ有スル最普通ナル、鳥類ノ名稱ヲ問フ。

答 圓尾(こらつぐみ) 凸尾(もす) 楔狀尾(きつつき)

角尾(かもめ) 凹尾(ほくろ) 燕尾(つばめ) 缺尾

(あじさし) 尖尾(きじ) (回答者 内田清之助)

七、問 胸骨前ノ杷柄突起ハ龍骨突起ト同一ナルヤ。

答 然ラズ日本鳥類圖說上卷十四頁及ビ第七圖トヲ參照セラルレバ明瞭スベシ杷柄突起ハ龍骨突起ヨリ前上方ニ位シ種類ニヨリテ發達ノ程度形狀等一樣ナラズ(回答者 内田清之助)

八、問 鳥ノ肋骨ニ就キテ肋骨頭、結節、頸部、脊部、腹部ノ

名稱ハ何所ヲ云フヤ。

答 肋骨頭ハ椎骨ノ體部ニ關接スル部分結節ハ椎骨ノ橫突起

ニ附着スル部分ニシテ頸部ハ肋骨頭ニ續ク部分ヲ云ヒ肋骨ハ其以下ヲ二部ニ區別シ其上方ノ部ヲ脊部ト云ヒ下方胸骨ニ向フ部分ヲ腹部ト稱ス。(回答者 内田清之助)

九、問 日本鳥類圖説上卷七頁ノ插畫第三圖ノ翼羽ノ名稱中quナル附號ヲ有セル部ハ何ト云フ羽ナルヤ。

答 同部ハ著者ノ不注意ニヨリテ附號ノミアリテ説明ヲ脱漏セリ即同圖下方ノ説明中にqu 偽風切羽ヲ加フ。

(回答者 内田清之助)

にふなひといふ雀

尾張の國人のいはく尾張、美濃などに、秋のころ、田面へ二、三十ばかりづゝ、幾群もむれ來つゝ、稻をはむにふなひといふ小鳥あり。雀の一種にて、よのつれの雀よりは、少し小くて嘴の下に、些か白き毛あり、百姓これをいたく憎みて、又にふなひ奴が來つるとて、見附くれば、追ひ遣るなり。此の雀春夏のほどは、葦原に在りて、葭原雀とも云ふといへり。宣長これを聞きて思ふに、入内雀といふ名、實方中將の故事をいへる(中昔の書に見えたり。されどそれは附會説にて、「にふなひ」は新嘗といふことなるべし。新稻を、人より先にまづ食むをもて、然か名附けたるなるべし。萬葉の東歌にも、新嘗に「にふなみ」といへり。又思ふに、稻負鳥といふも、もし此にふなひの事にはあらざるにや。古き歌どもに詠める、稻負鳥の^{いなまきどり}様、よくこれに適ひて開ゆる事多し。雀はかしがましく鳴くものなり。庭なきは適へりとも聞えず——本居宣長著王かつま——



雜報

□本會第八回總會 十月十四日午後一時ヨリ秋期總會ヲ赤坂區福吉町黒田侯爵邸内ニ開會セリ出席者次ノ如シ。(來會順)

黒田長禮 内田清之助 藪篤鷹 森田淳一 杉山徳太郎 丘

淺次郎 小野安堯 小林友三 飯塚啓 波江元吉 岡田信利

吉澤寛夫 鷹司信輔 吉田双之助 飯島魁 外ニ日々通信社

員及東京毎日新聞社員

當日開會ニ先チ内田清之助氏ヨリ本年度會計報告アリ會場ニハ黒田理學士朝鮮滿洲採集鳥類標本全部ヲ供覽シ同氏ノ説明ト(詳細ハ臨時刊行物第七編及本誌卷末同氏記事參照)内田清之助氏出品ノ舊幕府御留場(御鷹場)主子繪圖及埼玉縣下ノ鷺山寫生繪卷物(永井録氏所藏)ノ供覽アリ尚今回ヨリ毎總回ニ各國產鳥類各一科宛ヲ蒐集スルコト、シ今回ハ其第一回トシテ雉科鳥類ヲ供覽セリ。午後四時ヨリ黒田家水禽飼養室ヲ參觀シ午後五時散會セリ出品目錄次ノ如シ

朝鮮産鳥類 百五種類二百八十餘點（本號ニ發表セシカむむりつくしがも新屬新種ヲ含ム）

滿洲産鳥類 六十八種 百四十餘點

維科鳥類 こくじやく（印度支那産）がらす、ばんきば（佛領

東京産）きんけい（東京産）ぎんけい（雲南産）かうらいきじ

（朝鮮産）たいわんきじ（臺灣産）うんなんきじ（雲南産）きじ

（九州及本州産）やまざり（本州産）あかやまざり（九州及本州

産）あかやまざりトやまざり中間型（四國産）こしじろやまざ

り（九州産）をながきじ（支那産）みかぎきじ（臺灣産）みのきじ

（支那産）はつかん（南支那産）さんけい（臺灣産）くわけい（蒙

古産）せんちくけい（南支那産）てつけい（臺灣産）みやまてつ

けい（臺灣産）*Francoelinus chinensis*（廣東産）*Coccyzus struthio*

chukar（北京市場）やまうづら（滿洲）うづら（本邦産）うづら

（英國産）

□臨時刊行物第七編ノ發行 本會ハ臨時刊行物第七編トシテ黒

田理學士著鮮滿鳥類一斑ヲ刊行セリ、本書ハ最近黒田理學士ノ

鮮滿地方鳥類調査ノ結果ニシテ同地方ノ鳥類ニ關スル著書トシ

テハ最完備セルモノト云テ得ベシ。四六二倍二百八十余頁三色

版口繪一葉（新種ヲ掲載ス）寫眞挿畫十數個内容目次次ノ如シ。

三 朝鮮ヨリ新ニ報告セラル、鳥類
四 南滿洲ヨリ新ニ報告セラル、鳥類

五 鮮滿鳥類ノ習性 六 採集鳥類ノ體重比較

附 錄 一 朝鮮鳥類目錄 二 朝鮮鳥類分布表

三 滿洲鳥類目錄 四 滿洲鳥類分布表

五 朝鮮鳥類ニ關スル文献 六 滿洲鳥類ニ關スル文献

□飼鳥共進會 日本禽會ニテハ本年十二月六日ヨリ一週間、

中央畜産會ニテハ明年一月十二日ヨリ十六日マデ共ニ上野公園

付之台陳列館内ニ家禽共進會ヲ開催ノ由ニテ兩會共其小禽部ノ

審査ハ應司信輔、内田清之助、黒田長禮^ニ氏擔任セラルベシ本會

在京會員諸君ニハ追テ特待券ヲ送呈スベシ。

□鳥類ノ渡リ及蕃殖期 内田清之助、仁部富之助兩氏著本書ハ

本年四月動物學會ヨリ出版ノ上本會會員諸君ニ配布ノ豫定ナリ

シ所同會編輯委員病氣ノ爲メ非常ニ遅延シ未ダ印刷ノ運ニ至ラ

ザルモ來春頃迄ニハ出來ノ豫定ニ付乙種會員ニシテ同書ヲ申込

レシ諸君ハ今暫ク御猶豫ヲ乞フ。

□本誌定價値上ゲ 本誌定價ハ從來二十五錢ノ所印刷費暴騰ノ

爲メ本號ヨリ三十五錢ニ値上ゲニ決定セリ但シ右ハ一部賣ノ値

段ニ付會員諸君ニハ關係ナク會費ハ従前ノ通り

□鳥類論文配布 黒田長禮氏著左記ノ論文別刷著者ノ手元ニ尙
少數ノ殘部アル由ニテ會員中希望者ハ同氏迄申込ルレバ配布ヲ
受クベシ(三部以下二錢三部以上四錢六部以上六錢郵税ヲ要ス)

一 英國ノ鴨獵(さいゐんす所載)

二 臺灣産二珍鳥ニ就テ(史蹟名勝天然紀念物所載)

三 羽田及鶴見附近産鳥類目錄(著者出版)

四 珍鳥をがわこまごり(動物學雜誌所載)

五 第一回採集新占領南洋諸島産鳥類(同上)

六 第二回採集新占領南洋諸島産鳥類(同上)

七 南洋諸島産鳥類追加(同上)

八 臺灣産鳥類ノ珍種並ニ一新種(同上)

九 臺北博物館所藏鳥類目錄(同上)

十 旅順附近産鳥類數種ニ就テ(同上)

十一 本邦及ビ歐洲産うづら類ノ比較研究(同上)

十二 北見産鳥類數種ニ就テ(同上)

□書籍割引 本誌廣告欄ニ掲載ノ内田清之助氏著『鳥類講話』ハ

本會々員ニ限り定價ノ一割五分引ニテ販賣ノ旨出版書店ヨリ申

込アリタルニ付キ該書入用ノ會員諸君ハ割引値段ニ小包料十六

錢(東京市内ハ郵税不要)添へ本會宛申込マレタシ

□『鳥』六號原稿ノ切 期日大正七年二月末日限り)

□御斷リ 本號ニハ原稿非常ニ輻輳セル爲メ本誌豫定頁數ヲ増

加セシモ尙數編ヲ次號迄割愛スルノ止ムナキニ至レリ寄稿及讀

者ノ寛容ヲ乞フ

□編輯ニ關スル一切ノ用件ハ赤坂區福吉町黒田長禮氏宛ノ事。

□入會

大連市出雲町十八號

朝鮮大邱高等普通學校

同 京城中學校

臺灣南投廳埔里社街

關東州關東都督府中學校

朝鮮新義州守備隊

大分縣速見郡八坂

東京京橋區南傳馬町

小石川區西原町二ノ四〇

朝鮮京城本町二丁目

□會員轉居

東京市外日暮里七六一

京都市木屋町島津製作所標本部

東京府下瀧谷一九二九

吉倉 汪 聖

中野 與右衛門

小管 昌 三

朝倉 喜代松

伊東 育太郎

大場 四 平

上 泰 治

田村 彦兵衛

田子 勝 彌

樽元 龜太郎

吉田 双之助

小川 弘太郎

藤 原 勝

日本鳥學會規則

第一條

本會ハ日本鳥學會ト稱ス

第二條

本會ノ事務所ハ東京帝國大學理科大學動物學教室ニ置ク

第三條

本會ノ目的左ノ如シ

一鳥類ニ趣味ヲ有スルモノ、懇親ヲ計ルコト

一鳥類ニ關スル學術ノ進步ヲ促スコト

一鳥類愛護ノ思想ヲ普及セシメ鳥類ノ保護増殖ヲ計ルコト

第四條

本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ評議會ノ決議ヲ經テ隨時種々ノ事業ヲナス

一當分一年ニ二回雜誌『鳥』ヲ出版スルコト

一臨時刊行物ヲ出版スルコト

一毎年春秋二回會合シ鳥類ニ關スル講演談話ヲナシ同時ニ鳥類ニ關スル圖書標本其他ノ展覽會ヲ催ス

一鳥學の探檢ヲ舉行スルコト

第五條

本會々員ヲ分チテ甲種會員ト乙種會員ノ二トス

一甲種會員ハ會費トシテ一ケ年金貳圓四拾錢ヲ納ムルコト

一乙種會員ハ會費トシテ一ケ年金壹圓貳拾錢ヲ納ムルコト

第六條

甲種會員ニハ雜誌『鳥』、臨時刊行物及ビ動物學雜誌ニ

掲載セル鳥類ニ關スル論文ノ別刷ヲ配布ス

乙種會員ニハ雜誌『鳥』及ビ動物學雜誌ニ掲載セル鳥類ニ關スル論文ノ別刷ヲ配布ス、臨時出版物ハ定價一圓ヲ限り無代配布ス其他ハ定價ノ三割引ヲ以テ講讀スルヲ得

第七條

本會ニ入會セント欲スルモノハ住所氏名職業ヲ記載シ本會ニ申込ムヘシ但甲種會員ノ入、退會ハ評議會ノ決議ニヨル

第八條

本會ニ會頭壹名幹事壹名ヲ置ク

第九條

本會評議會ハ會頭幹事及ビ會員ノ互撰ニヨル評議員若干名(甲種會員)ヲ以テ組織ス

東京理科大学動物學教室内

日本鳥學會

役員

會頭	幹事	評議員
飯島魁	内田清之助	理學博士 塚飯啓
		理學博士 丘淺次郎
		理學博士 應司信輔
		波江元吉
		黒田長禮
		子爵 松平頼孝

The single male example from Kanrasan shows rufous patches on head, nape, back and lower rump very much as in Ogawa's *insularis* (see Pl. VI, fig. 3). The same rufous patches I find also in a specimen of *P. palpebrosa loochooensis* from Amamiōshima. But the new form from Tsushima and Corea is distinctly larger than either of the two just referred to. As in *insularis* the colour of chin and throat is bright yellow in the male, paler in the female.

It seems that this new subspecies is restricted in distribution to the southern part of Corea (Fusan, Mok-po, etc), extending over to Quelpart Island and Tsushima.

Differential measurements of the six known Japanese and Korean forms of *Z. palpebrosa* may be tabulated as follows :—

Subspecies	Exp. culm.	Wing	Tail	Tar.	Loc.
<i>Z. p. stejnegeri</i> ↓	14—15 ^{mm.} "	59—65 ^{mm.} "	42—47 ^{mm.} "	18—21 ^{mm.} "	Seven Is. and Bonin Is.
<i>Z. p. alani</i> ↓	12—13 "	60—62 "	45—47 "	18—20 "	Minami-iwōjima, Sulphur Is.
<i>Z. p. iijima</i> ↓	12.5—13 "	59—62 "	44—46 "	18—19 "	Tsushima, South Corea and Quelpart Is.
<i>Z. p. insularis</i> ↓	11—13 "	56—62 "	42—44.5 "	17.5—18 "	Tanegashima and Yakushima
<i>Z. p. japonicus</i> ↓	10—12 "	56—62 "	38—43 "	16.5—18 "	Hokkaidō, Hondō, Shikoku and Kiusiu
<i>Z. p. loochooensis</i>	10—10.5 "	52—53.5 "	39—41 "	17—17.5 "	Loochoo Is.

The type specimen is from Izuhara, Tsushima; it was collected February 19, 1891, by Messrs. Namiye and Tsuchida, and is preserved in the Zoological Institute, Science College, Tokyo (sp. no. 1749).

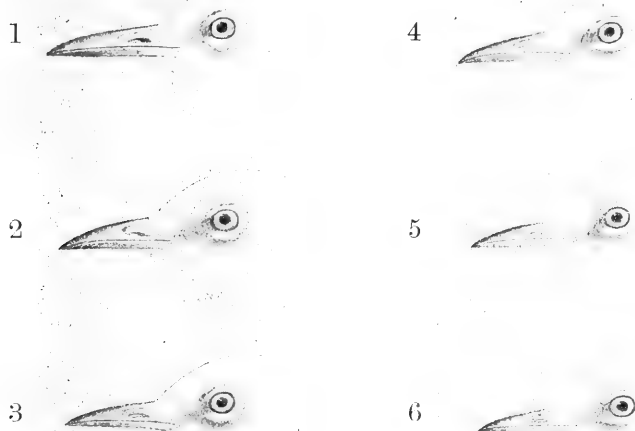


Fig. 2. Heads of Japanese and Corean forms of *Zosterops*. Nat. size.

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 1. <i>Z. p. stejnegeri</i> Seeb. | 2. <i>Z. p. alani</i> Hart. |
| 3. <i>Z. p. ijima</i> , n. sp. | 4. <i>Z. p. insularis</i> Ogawa. |
| 5. <i>Z. p. japonicus</i> T. & S. | 6. <i>Z. p. tochooenensis</i> Trist. |

Five other specimens of the subspecies examined measure :—

No.	Preserved in :	Loc.	Date	T. l.	Exp. culm.	Bill. from gape	Wing	Tail	Tar.	Sex
1750	Zool. Inst., Sci. Coll.	Kutamura, Tsushima.	Feb. 21, 1891	mm. ...	mm. 12.5	mm. 16	mm. 61	mm.	mm. 18	♂ ad.
1376	Seoul Mus.	Kanrasan, Quelpart Is.	Jan. 11, 1915	124	12.5	17	62	45	19	♂ ad.
1376	"	"	"	119.5	13	17	61.5	46	18	♀ ad.
1464	"	Kōtō, Quelpart Is.	Feb. 6, 1915	124	12.5	16	62	45	18	♀ ad.
2462	N. Kuroda's Coll.	Near Mok-po, South Corea.	Apr. 14, 1917	...	12.5	16	59	44	19	♂ ad.

shorter; and moreover, the olive green of mantle extends farther backward, even to the rump; the white band on wing not pure white but somewhat tinged with pale olive; entire lower parts, except the median black patch, tinged with pale greyish olive, this being not limited to the flanks only; outer margin of secondaries and tertiaries also tinged with olivaceous as in *P. major minor*. Total length 143 mm., culmen 11 mm., wing 68 mm., tail 63 mm., tarsus 18 mm.

The type specimen is from Kanrasan, Quelpart Island. It was collected by Mr. N. Toda, January 11, 1915. It is preserved in the Seoul Museum (sp. no. 1470).

Two other specimens from the same island and preserved in the same museum measured:—

No.	Loc.	Date	T. l.	Culm.	Wing	Tail	Tar.	Sex
1382	Seikiho, Quelpart Is.	Jan. 12, 1915	135mm.	11 mm.	64.5mm.	58 mm.	18 mm.	♀ ad.
1469	Kōtō, Quelpart Is.	Feb. 6, 1915	137 "	11 "	65 "	58.5 "	17 "	♀ ad.

Variations in colouration among the three specimens examined were observed to the following extent: the colour of lower parts varies from greyish cream to greyish olive; the whitish wing band in the two females are more deeply greyish than in the male.

ZOSTEROPS PALPEBROSA IJIMA, *n. subsp.*

Ijima's White-eye

いゝじまめじろ(臨時刊行物第七編 53 頁參照)

(Pl. VI, fig. 3; fig. 2)

Zosterops japonica (nec T. & S.), Ijima, Journ. Coll. Sci. Imp. Univ., Vol. V., Part I, 1891, p. 109 (Tsushima); Seebohm, Ibis, 1892, p. 90 (Tsu-sima); *Z. stejnegeri* (nec Seeb.), Clark, Proc. U. S. Nat. Mus., Vol. 38, p. 165 (Tsushima, Fusan and Oshima) (pt.).

♂ ad (type of subspecies). Similar to *Z. japonica insularis* Ogawa (Annot. Zool. Japon., Vol. V., Part 4, 1905, pp. 186-190), but on the average longer in bill, wing, tail and tarsus. Exposed culmen 13 mm., bill from gape 17 mm., wing 59.5 mm., tail 45 mm., tarsus 18mm.

of some secondaries very narrowly edged with whitish; tertiaries greyish brown, with inner web greyish and outer web chestnut in most parts, except in apical part; first tertiary black in basal parts and also very narrowly along its outer margin; rump brown, finely vermiculated with greyish white; under tail-coverts pale orange brown vermiculated with brown, the longer under tail-coverts white with some small brown spots.

In the dried state: bill horny brown; basal half of culmen, edge of upper mandible and the whole lower mandible paler and yellowish; nail of upper mandible also horny brown; tarsus yellowish horny colour; toes and webs somewhat darker; claws horny blackish brown. Scales in front of lower tarsus forming transverse rows of plates.

Tail feathers 14 in number, graduated, the longest central and the lateralmost showing a difference of 22 mm. in length; the two central pairs somewhat pointed at apex.

Total length about 535 mm., exposed culmen 41.5 mm., bill from gape 66 mm., wing 310 mm., tail 115 mm., tarsus 47 mm., middle toe with claw 54 mm. long.

The type and the only specimen as yet obtained is probably an adult male. It was obtained on the Naktung River (or Rakutōkō) near Fusan, December (3 ?), 1916. It is preserved in the collection of the author (sp. no. 2650).

Two allied species of the sheldrake have been known from Corea, viz., *Tadorna cornuta* (S. G. Gmelin) and *Casarca rutila* (Pall.), from both which the above described species is manifestly distinct.

PARUS MAJOR QUELPARTENSIS, *n. subsp.* †

Quelpart Island Tit

しましじうから(臨時刊行物第七編 80 頁参照)

(Pl. VI, fig. 1 and 2)

♂ ad. (type of subspecies). Similar to *P. major minor* T. & S. or *P. major commixtus* Sw., but wing, tail and tarsus somewhat

patch of white, shortly prolonged to side of occiput ; under this patch, a blackish brown band continued alongside the black of head and nape ; forehead, base of bill, chin and upper throat pure white ; sides of neck and upper fore-neck white, sparsely and indistinctly barred

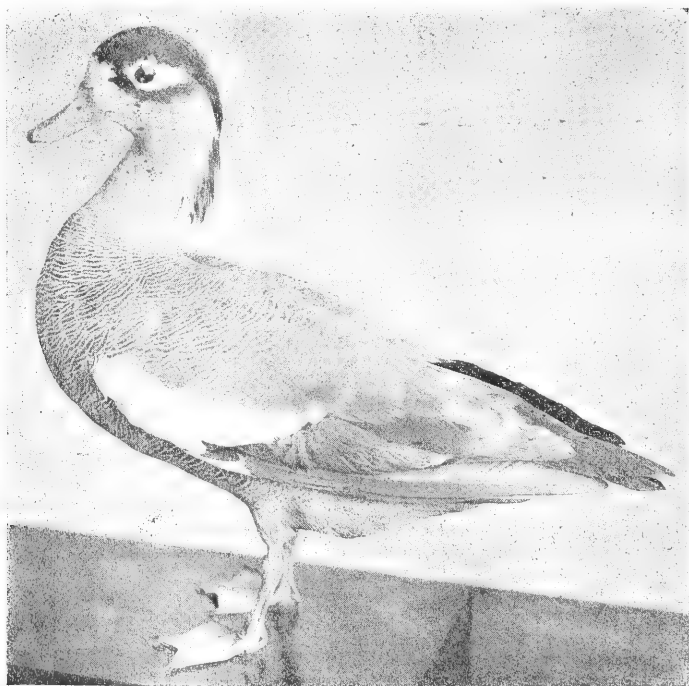


Fig. 1. *I. pseudotadorna cristata*, n. g., n. sp. $\frac{1}{4}$ nat. size.

and spotted with dusky brown, but more distinctly near cheek ; lower fore-neck greyish with whitish wavy lines ; mantle, back, chest, breast, sides of body and abdomen dark brown vermiculated with narrow but distinct white lines ; the brown on mantle and back darker than that of under parts, palest on abdomen and vent ; most of the longer scapulars rusty on outer web and vermiculated with indistinct brown lines ; upper and under wing-coverts as well as axillaries white, somewhat tinged with creamy on under wing-coverts ; bastard wing and primary-coverts black with greenish lustre like quills ; speculum on secondaries glossed with green and more or less purplish lustre, anteriorly and posteriorly bordered by two velvety black bands ; tip

朝鮮及ビ對馬産鳥類ノ一新屬三新種ニ就テ

理 學 士 黒 田 長 禮

On one new Genus and three new Species of Birds from Corea and Tsushima.

BY

Nagamichi Kuroda, *Rigakushi*.

以下ニ報告スル鳥類ハ李王職博物館及ビ理科大学動物學教室所藏ノ標本並ビニ余が今春朝鮮ニテ入手セルモノニ就テ一新屬三新種ト認メタルモノ、記載ナリトス。邦文ニテ書キシモノハ本會發行臨時刊行物第七編「鮮滿鳥類一斑」中ニアルヲ以テ茲ニハ略ス。

PSEUDOTADORNA, *n. gen.* +

かんむりつくしがも屬(臨時刊行物第七編 44 頁參照)

Description.—Edges of upper mandible with moderately prominent lamellæ; indentations of upper mandible inconspicuous; colour of bill and feet pale; culmen not concave, almost straight; anterior border of loreal feathering at base of bill convex; outer web of tertiaries chestnut; tail somewhat graduated.

PSEUDOTADORNA CRISTATA, *n. sp.* / -

Crested She'drake

かんむりつくしがも(臨時刊行物第七編 45 頁參照)

(Fig. 1)

Ad. (type of species). Crown of head, nape, a broad longitudinal band on hind neck, upper tail-coverts, tail and primaries black with some greenish lustre; nuchal feathers considerably elongated, forming a pendent crest or tuft; in ocular region a conspicuous spectacled

鳥

第一卷

自第一號
至第五號

日本鳥學會

『鳥』第一卷（自第一號至第五號）總目錄

口 繪

第一圖版	れんかく(アトタイプ原色版)	子爵	松平頼孝氏原圖	一號
第二圖版	黒田家鴨場冬ノ溜池(寫眞銅版)	理學士	黒田長禮氏原圖	一號
第三圖版	南洋産鳥類ノ二新亞種(原色版)	理學士	黒田長禮氏原圖	二號
第四圖版	本質第六回例会記念撮影(アトタイプ版)	獸醫學士	内田清之助氏原圖	三號
第五圖版	鹿兒島縣出水郡阿久根村ノ鶴(アトタイプ版)	理學士	黒田長禮氏原圖	四號
第六圖版	しましじうからといゝまめじろ(原色版)	理學士	黒田長禮氏原圖	五號

論 說

本邦鳥類ノ研究ニ就イテ	理學博士	飯島魁	一號
羽田鴨場ニテ獲タル鴨ノ總數ト各種「渡リ」ノ統計	理學士	黒田長禮	一號
本會採集南洋諸島産鳥類目錄	理學士	鷹司信長	四號
南洋諸島産鳥類ノ二新亞種ニ就テ	理學士	黒田長禮	二號
新占領南洋諸島産鳥類目錄及分布表	理學士	鷹司信長	二號
信濃ニ於テ捕獲セル稀ナル三種ノ鳥類ニ就テ	子爵	松平頼孝	二號
からすノ水浴ニ就テ	子爵	丹波富之助	二號
神奈川縣ノ鳥類採集	子爵	松平頼孝	二號
東北地方ニ於ケル夏期ノ鳥界	理學士	黒田長禮	三號

鴛ノ蕃殖.....法學士 川口孫治郎.....一〇

九州産なみえけらノ標本ニ就テ.....獸醫學士 内田清之助.....四一

鶯及ビ雲雀ノ初鳴期ニ關スル調査.....理學士 仁部富之助.....四六

福岡縣下ニ於ケル初冬ノ鳥類.....理學士 黒田長禮.....四九

相模中郡産鳥類目錄.....理學士 榊山徳太郎.....四九

白玉山表中塔ニ衝突スル鳥類ニ就キテ.....脇山三彌.....五九

郭公ノ繁殖トおほしきリトノ關係.....仁部富之助.....五九

平安南北・黄海三道沿岸採集鳥類目錄.....森爲三.....五九

高野山ニテ獲タルおほみづなぎどり.....榎本佳樹.....五九

鹿兒島地方ノ鳥類ニ就テ.....堀井榮吉.....五九

朝鮮及ビ對馬産鳥類ノ一新屬・三新種(英文).....理學士 黒田長禮(後附).....五九

講 話

「鳥ノ記念日」ニ就テ.....理學博士 渡瀬庄三郎.....三

雉ニ關スル諺ト説話.....文學士 橘純.....一二

いかもの飼(其一).....理學士 鷹司信輔.....一六

音樂ノ無イ野原.....理學士 石井重美.....二〇

尾羽ノ如ク思ハル、羽.....理學士 黒田長禮.....二三

野外鳥學ノ一資料(其一).....理學士 石井重美.....二九

江戸時代將軍家ノ狩獵(其一).....永井碌.....五九

ゑびむしくゐノ新產地ニ就テ(子爵松平頼孝)	二八
鳥ノ羽毛ノ用途(獸醫學士内田清之助)	二九
雀ト鳥(波江元吉)	三一
相思鳥ノ營巢(理學士鷹司信輔)	三三
秋田ニ於ケル鳥類ノ方言(仁部富之助)	三三
雌雄兩性ノ鶏(理學士黒田長禮)	三六
滿洲雁信(脇山三彌)	三七
印度ノ白鶯飼(理學士鷹司信輔)	三六
東京附近ニテ繁殖スル鳥類(理學士黒田長禮)	三九
二三鳥類ノ習性觀察(仁部富之助)	四一
錦鶏ノ飼育(理學博士飯塚啓)	八一
鳥卵ノ斑紋異常ノ三例(理學士黒田長禮)	八八
鳥ノ飛翔高度(理學士寺尾新)	八九
鴉ノ事トモ(理學士秋山重美)	九〇
盛京通志所載萬名(脇山三彌)	九一
歐洲戰亂ト鳥(理學士鷹司信輔)	九四
神奈川縣ニ於ケル鳥類ノ方言(榎山徳太郎)	九四
むくどりノ聲色(波江元吉)	一三
數種ノ鳥卵ノ孵化日數(理學士黒田長禮)	一三
二個ノ黄卵ヲ有スル鶏卵ニ就テ(仁部富之助)	一五
鴨類ノ體溫(理學士黒田長禮)	一八
海燕及水風鳥ノ夜遊(理學士鷹司信輔)	二一
太平洋東北沿岸ノ海燕類數種ニ就テ(理學士黒田長禮)	二一

軍艦鳥ノ新分類法(理學士鷹司信輔)	二四
山鶴ノ新亞種(理學士鷹司信輔)	二五
鶉ノ飼育(鶉ノ家)	二六
鳥類ノ方言(榎山徳太郎)	二七
雷鳥ノ食餌(獸醫學士内田清之助)	三〇
蛇ト鳥ノ爭(鶉ノ家)	三一
しろふくろうノ新產地(小川弘太郎)	三三
みかどきじノ新產地(獸醫學士内田清之助)	三三
獵犬ト龜(理學博士飯塚啓)	三七
稻作上ニ於ケル雀ノ被害(仁部富之助)	三七
高野山ニテ見タル冬季ノ鳥類(榎本佳樹)	四〇
夏期ニ於ケル須川岳ノ鳥類(熊谷三郎)	四〇
本邦ニテ始メテ獲ラレシしぎノ一種(理學士黒田長禮)	四〇
ひげわしノ新產地(森爲三)	四一
長崎縣下ニテ獲ラレシのがん(理學士黒田長禮)	四二
朝鮮ニテ獲ラレシ珍ラシキ鶴ノ一種(森爲三)	四三
こほりがもノ新產地(榎山徳太郎)	四四
こほりがもノ新分布地(理學士黒田長禮)	四四
かはせみノ習性(熊谷三郎)	四四
上總縣長生郡地方ノ鳥類方名(林壽祐)	四五
若柳地方ニ於ケル鳥類ノ方言(熊谷三郎)	四六
長尾鶉ノ雌ノ尾羽(理學博士飯塚啓)	四七
まがんノ頭部變リ(理學士黒田長禮)	四八

美濃ニテかうらいきじ獲ラル(柳原要治)	四四八
二三鳥類ノ食物(靱山徳太郎)	五九八
ちどりノ巢ト卵(仁部富助)	五一〇一
かはせみノ巢内ノ魚骨ニツキ(法學士川口孫治郎)	五一〇四
椋鳥ノ營巢及ビ育雛觀察(鶉ノ家)	五一〇四
雌雄兩性ノかなりや(靱山徳太郎)	五一〇五

質疑應答

狩獵法中ニ列記セル保護鳥類保護ノ理由(答内田)	二九六
岩燕ヲ保護セザル理由(答内田)	二九七
放鷹ニテ鳥類ヲ捕獲スル期間ニ就キテ(答内田)	二九七
岩鳥ノ食餌ニ就キテ(答内田)	二九七
啄木鳥ノ保護ニ就キテ(答内田)	三三三
麥蒔ノ習性(答内田)	三三三
鳩ヲ保護鳥中ヨリ除外セル理由(答内田)	三三三
鵲ノ保護ニ就キテ(答内田)	三三三
あびノ夏期ノ棲息ニ就キテ(答黒田)	三三三
ひわノ二形ニ就キテ(答内田)	三三四
ざしぎノ尾羽ノ數(答内田)	三三四
うそノ色彩ニ就キテ(答内田)	三三四
海鳥糞ヲ生産スル鳥類ニ就キテ(答黒田)	四四九
H. lader me. Gruneti ニ就キテ(答黒田)	四四九
Phalacrocorax bougainvillii ニ就キテ(答黒田)	四四九
Pelecanus thagus + P. crispus 二ニ就キテ(答黒田)	四四九
ばりけんノ原種ニ就キテ(答黒田)	四五〇

東京郊外ノ白鷺ノ群(鶉ノ家)	五一〇六
阿久根ノ鶴ノ懷舊(脇山三彌)	五一〇六
雀ノ害蟲驅除例(仁部富之助)	五一〇七
雀群ヲ殪ス公主嶺附近ノ大降雪(脇山三彌)	五一〇八
東京飼鳥組合小賣相場(靱山徳太郎)	五一〇八
鳥類研究ニ必要ナル圖書(答黒田)	四五〇
半製標本ノ保存法(答黒田)	四五〇
鳥類標本販賣店(答黒田)	四五〇
「日本鳥類圖説」中ノむらさきしぎニ就キテ(答黒田)	四五一
「日本鳥類圖説」中ノ疑點ニ就キテ(答黒田)	四五一
「世界ノ雁ト鵠」中ノ疑點ニ就キテ(答黒田)	四五一
信州産鳥類ノ名稱ニ就キテ(答黒田)	四五一
うそ及あかうそノ雌ノ鑑別法(答黒田)	四五一
學名ニ就キテ(答黒田)	四五一
山口縣産あかやまどりニ就キテ(答黒田)	四五一
鷹ト鷲トノ區別(答黒田)	四五一
九州産しろくろざぎニ就テ(答黒田)	四五一
鳥類ノ古名ニ就キテ(答内田、靱山)	四五一
あうむといんノ區別(答黒田)	四五一
鳥類標本箱ニ就キテ(答黒田)	四五一
尾ノ形狀ニ就キテ(答内田)	四五一
胸骨ノ把柄突起ニ就キテ(答内田)	四五一

雜

報

本會第一回鳥學的探檢	一四六
會則第六條	一四七
南洋諸島採集結了	一九六
南洋鳥類ノ天覽	一九八
第五回例會	一九八
世界ノ鷗ト千鳥	二九六
基本金寄附	二一〇〇
評議員新任	二一〇〇
黑田長禮氏ノ臺灣島採集	三三五
南洋産鳥類ノ天覽	三三五
臺灣鳥類ノ獻上	三三五
第六回例會	三三六
「杜鵑研究」	三三七

會員計報	三三七
會員名簿	三三八
第七回例會	四四五
松平家鳥類標本室	四五六
黑田理學士ノ朝鮮採集	四五六
「鳥類ノ渡リ並ニ蕃殖期」	四五六
内田氏論文別刷配布	四五七
「飼ひ鳥」	四五七
第八回總會	五一五
臨時刊行物第七編	五一六
「鳥類ノ渡リ並ニ蕃殖期」	五一六
黑田氏論文別刷配布	五一七
入會者	五一七

投稿及質問規定

(一) 鳥類ノ習性、渡リ、方言等ニ關シ廣ク各地方會員ノ投稿ヲ歡迎ス

(二) 既掲原稿ハ返戻セズ、但シ挿畫ニ使用セル寫眞及ビ圖畫ハ希望ニヨリ返戻スベシ

(三) 原稿ハ紙ノ表丈ヲ使用シ一行、二十五字詰ニ認メラレタシ、

假字ハ片假字ヲ用キ動物名及外國語ハ平假字トス

(四) 挿畫ハ寫眞以外ノモノハ墨汁ニテ認メラレタシ

(五) 原稿ハ東京赤坂區福吉町黒田長禮氏宛郵送セラレタシ

(六) 本會ハ鳥類ニ關スル質疑ニ應答ス、質問ノ事項ハ返信料封

入日本鳥學會宛郵送セラレタシ

(七) 質問解答ハ一般讀者ニ有益ナリト認ムルモノハ本誌ニ掲載

スルモ其他ハ質疑者ニ直接解答スルモノトス

大正六年十二月五日印刷

大正六年十二月七日發行

定價金參拾五錢

禁轉載

編輯兼
發行者
木下憲
東京市日本橋區兜町二番地

印刷人
神谷岩次郎
東京市日本橋區兜町二番地

印刷所
東京印刷株式會社
東京市日本橋區兜町二番地

發行所

東京理科大学
動物學教室内

日本鳥學會
振替口座東京六五九九番

發賣所

東京日本橋區
十軒店町

裳華房
振替口座東京一〇七番

内田清之助
仁部富之助 著

鳥類の渡り及繁殖期

本邦産鳥類の「渡り」並に繁殖期に就ては、其利害の關する所廣く、夙に調査せられざるべからずして、而も未だ信賴すべき報告の公表せられたるあるを聞かず。これ吾人の甚しく遺憾とせる所なり。今や著者等の尠からざる努力の結果、此一篇成る。材料は精選せられたり、調査は鄭重を極む。敢て斯學の同好者並に江湖の實務家に薦めんとする所以なり。

資料 (一)中央氣象臺が全國より蒐集せる未刊行報告(二)農商務省が全國地方廳及大林區署より蒐集せる未刊行報告(三)故小川三紀氏の觀察手記(四)著者等の觀察手記(五)既刊信賴するに足るべき總ての記錄

内容 (一)緒言、觀測規約、『渡り』の期節と經路(二)各種鳥類『渡り』の期節の統計的研究並に其生態的氣象學的考察(三)各種鳥類繁殖期の總括的調査及氣象との關係。以上三章、頂を分つ事四十一、數十個の詳細なる表を附して説明す。特に鳥學專攻者以外の便を計りては、主要鳥類約三十種の寫生圖を挿入す。

體裁及定價 菊判光澤紙約百二十頁、附表十一枚、挿畫三十二個、假綴。定價郵稅共一圓

發賣豫定 四月下旬發行豫定の所編輯員病氣差支の爲め延引來春早々發賣の豫定

會員諸氏に告ぐ 臨時刊行物なるを以て會員一般には頒布せず。便宜書肆より購入せられ度し。

東京動物學會

日本鳥學會會員諸氏に告ぐ

前記東京動物學會發行『鳥類の渡り及繁殖期』は本會に於て動物學會より若干部を譲受くるの約あるを以て發行の上は左の規定により會員諸氏に頒布す

一、甲種會員には無料にて頒布す

一、乙種會員には定價の半額(五十錢、郵稅不要)にて頒布す。入用の方は代金を添え(二錢郵券代用不苦)本會宛請求せられたき事

一、右特權は會員一名に付一部に限る事

一、本會會員外及會員にして前記の一部以外の注文は金一圓(郵稅不要)のこと

日本鳥學會臨時刊行物第七編

理學士 黑田長禮 著

十一月下旬發行

鮮滿鳥類一班

四六二倍洋裝全一冊
 原色版一葉
 挿畫十數箇
 紙數二百八十餘頁
 金一圓五十錢稅八錢

本邦諸領土中、鳥學的調査の最不完全なるを、朝鮮及び滿洲地方となす。著者茲に見るところあり、今春親しく該地方を踏破し、鳥學的視察並に採集に従事すること三超月、其採品四百數十點を算し、該地方の博物館並に諸學校の藏品は委く調査して残す所なし。

本篇は右著者の鮮滿旅行に依つて得たる鳥學上の收獲と、從來文獻上に顯れたる諸學者の業績とを集成せるものにして、記述の様式略同著者の『臺灣島の鳥界』に同じく、一新屬三新種の圖版並に記載を含む。詳細の内容目次次の如し。

一 鮮滿鳥類觀察日記

二 鮮滿鳥類の採集に就て

三 朝鮮より新に報告せらるる鳥類

四 南滿洲より新に報告せらるる鳥類

五 鮮滿鳥類の習性

六 採集鳥類の體重比較

附錄

一 朝鮮鳥類目錄

二 朝鮮鳥類分布表

三 滿洲鳥類目錄

四 滿洲鳥類分布表

五 朝鮮鳥類に關する文獻

六 滿洲鳥類に關する文獻

賣捌所 裳華房書店

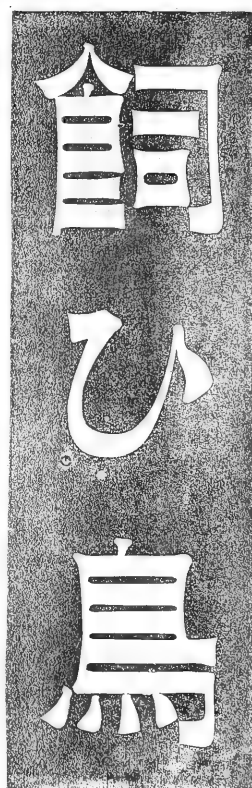
東京日本橋區
 十軒店

電話本局一千七
 振替東京七百七

本邦斯道唯一の成書

理學士鷹司信輔君著

最新刊



菊判特製美本全一冊
着色口繪三葉入
精巧圖版八十餘個
正價金貳圓五拾錢
小包料金拾八錢

鳥の鳴音を聞き、又其容姿を愛するは娛樂として最も興趣多き事のみならず、動物學上又最も緊要なる研究事項なりとす。然るに本邦未だ斯學に關する成書なく、爲に斯道の士其指針を得るに苦しむ。著者學理に實地に斯道を極むる事歳あり。今や其蘊蓄を披瀝して本書を上梓す。筆を總說に起し、飼鳥に關する一般管理食養法より餌・換羽・病氣等を説き、各論に至りては各飼養鳥百八十餘を科目に分類し。所屬を定め、一々其の記載・體型・產地・飼養事項等を詳述せり。所說創新・行文平易通俗にして一讀直に實地飼鳥上に活用するを得べく、圖版又精麗豊多にして机上の美觀たるに足る。斯道の士一般家庭並に動物學上の參考書として各種學校必須の寶典也。

裳華房發兌

十軒店 電話本局一千壹

東京日本橋 振替東京七百七

獸醫學士 內田清之助先生著

鳥類講話

菊判洋裝全壹冊
精巧圖百八十餘個
正價貳圓參拾錢
小包料金拾八錢

斯界

稀の有の新著

鳥類に關する智識は獨り純正動物學上の研究事項たるに止らず、農業・林業上又至大の關係を有す。然るに本、未だ之に關する成書に乏しく、殊に其根本に溯りて鳥類一斑の汎論より説けるものゝ如きは本書に於て始めて之を見る。蓋し著者の斯學上に於ける研究は世既に定評あり、而して本書は其多年の蘊蓄を可及的平易に力説せるものにして、一般鳥類の蕃殖・習性・形態・分布・保護・分類・種類・各論等より、人類との關係並に實際的利用の方法に至る迄、最も斬新なる研究を詳述せり。圖版又清麗にして豊富、内容興趣湧が如し。斯道の士は勿論、農業・林業家・銃獵家・並に家禽業者等にも最も緊要なる唯一の新著なり。

内容目次

- 第一章 鳥類の蕃殖 (一)蕃殖季 (二)營業 (三)産卵 (四)育雛 第二章 鳥類の渡り (一)渡り鳥の類別 (二)渡りの起原 (三)本邦に於ける渡りの經路 (四)渡りの時日 (五)渡りの距離と速力 第三章 鳥類の分布 (一)世界に於ける鳥類の分布 (二)本邦に於ける鳥類の分布 第四章 鳥類と人生 (一)鳥類と農業との關係 (二)鳥類と水産業との關係 (三)鳥類の利用 第五章 鳥類の保護 (一)文明の進歩に伴ふ鳥類の減少 (二)維新前に於ける鳥類保護 (三)現代の鳥類保護 第六章 鳥類の形態 (一)色彩 (二)羽毛 (三)形態 第七章 鳥類の分布と種類 (一)鳥類の分類 (二)鳥類の種類

電話 本局 千七百七
代 替 本局 千七百七

裳華房發兌

東京日本橋區 十軒店

□ 錄目物行刊時臨會學鳥本日 □

獸醫學士 內田清之助著
第一篇 鸛類圖說

絶版

獸醫學士 內田清之助著

第二篇 海產保護鳥類圖說

原定色版三枚附
郵稅價四十四錢

理學士 黑田長禮著

第三篇 世界の鳴

原定色版一枚寫真版五枚附
郵稅價四十七錢

理學士 黑田長禮著

第四篇 世界の雁と鵠

原定色版四枚寫真版五枚附
郵稅價金八圓

仁部富之助著

第五篇 郭公の蕃殖に關する研究

コロタイプ版一枚地圖一枚
寫真版一枚插畫數個
定價金卅五錢 郵稅四錢

理學士 黑田長禮著

第六篇 臺灣島の鳥界

附 菊池米太郎述 臺灣鳥類の習性

原定色版口繪一枚
寫真版口繪數個
定價四拾錢 郵稅四錢

理學士 黑田長禮著

第七篇 鮮滿鳥類一斑

原定色版口繪一枚
寫真版口繪數個
定價金 郵稅四錢

房 華 裳 區町 橋店 本軒 日十 所 捌 賣

4

15628.
Smith

28

M-9



